

徳島の剣道

特報

1. 復活 徳島県三者対抗剣道大会
2. 連覇 四国高齢者剣道大会
3. 国際社会人大会
4. ふるさとトーク

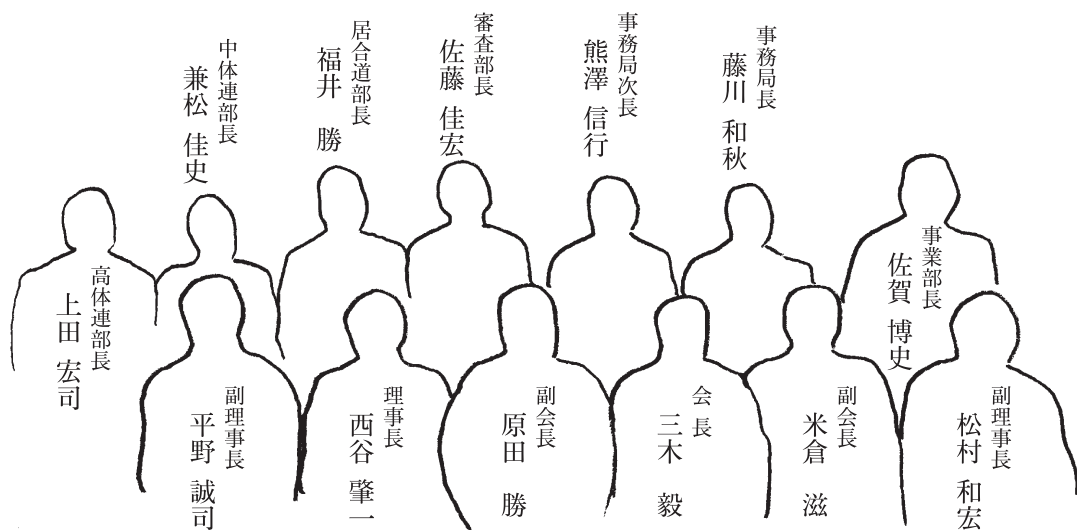
第32号



復活 徳島県三者対抗剣道大会 優勝 警察チーム

徳島県剣道連盟

平成28年度 徳島県剣道連盟執行部



撮影時不在

会計 土川 資雄
 女子部長 竹内佳代子
 広報・大学連部長 木原 資裕

巻頭言

心技力一致を求めて

徳島県剣道連盟 会長

三 木 毅



平成二十七年を回顧し、三つを挙げる
と、先ず日本武道館での剣道世界大会で
あり、次いで和歌山国民体育大会におい
て本県成年男子が第五位という快挙を成
し遂げられたこと、次いで、徳島県で、
はじめて全剣連主催の中四国稽古会が開催されたことであります。
これらの試合や稽古会から、何が大事なのかについて、考えて
みました。

恩師や先人が示してくれた中で、「一致」しなければならない
ことに「気剣体一致」「事理一致」「懸待一致」「心技力一致」が
あります。この全てが完全に身につけていることを求められるの
が剣道の修練なのだと思います。恩師との稽古の場で納
得の一本を打ったり、試合で一本とるという場面で、「一致」す
べきものの中でどれが難しく、また、どれが重要なのかについて
思いを傾けてみますと、私なりに「心技力一致」が最も重要でな

いかという思いに到りました。

堀籠敬蔵先生の「剣道の法則」の著書には次のように解説され
ています。

「心」というものは、我々人間の精神活動の根源である。知
覚し、判断し、思慮分別するのは全て心である。

「気」とは、心から出る波長であると考えられる。心は未だ
形に現れないものであり、気は心より出る活力で、心の判断
によって意志が決定され、外部への動作として現れたもので
ある。

「力」というものは、身体力であり、これが発動して、は
じめて技術となる。

心・気・力の一致とは、この心気力の総合的な一致のことを
いう。

子供たちに剣道を指導している場面で、前述のような定義的な
表現で指導することは叶わないのは当然でありますから、私なり
には「気を抜くな」「気合・気迫をゆるめるな」と指導していま
す。

大人のには、気迫の形成時期を知り、瞬時に気迫を形成し、形
成できたその気迫をいかに維持・継続をするか、その中で相手の
動きに呼応した剣捌きができるか否かが最も重要であると思ひ、
ただただ修練によって、自然にわが身に定着させることを、念頭
に一拍子で打突できる修練に努めたいと思っています。

『徳島の剣道 第三十二号』目次

巻頭言……………三木 毅 1

新役員抱負……………三木 毅 4

会長就任ごあいさつ……………西谷 肇 5

理事長に就任して……………藤川 和秋 0

事務局長就任に当たって……………高島 稔之 7

《特報Ⅰ 復活 三者対抗剣道大会》
新第一回徳島県三者対抗剣道大会に乾杯！……………中尾 正輝 10

復活 二者対抗剣道大会……………中村 稔裕 13

三者対抗剣道大会に参加して……………美馬 勝行 16

《特報Ⅱ 連覇 四国高齢者剣道大会》
第二回四国高齢者剣道交流大会徳島県連覇……………米倉 滋 20

《特報Ⅲ 国際社会人大会》
NPO 法人国際社会人剣道クラブ……………内田さくら 22

《特報Ⅳ ふるさとトーク》
静岡よりのメッセージ……………大石 洋史 25

徳島から山口へそして徳島へ……………川田 武志 30

顕彰一覽……………篠原 誠一 33

卒寿の御祝い……………高島 稔之 35

剣道有功賞……………白木 洋一 37

少年剣道有功賞……………山室 和士 39

少年剣道教育奨励賞……………近藤 夏子 40

体育功労賞……………山室 和士 39

体育功労賞を受賞して……………高島 稔之 35

優秀指導者賞……………白木 洋一 37

優秀指導者賞を受賞して……………山室 和士 39

第四十五回全国中学校剣道大会に参加して……………近藤 夏子 40

女子都道府県対抗優秀選手……………近藤 夏子 40

都道府県対抗女子優勝大会に出場して……………近藤 夏子 40

お通杯入賞……………富永ますみ 43

三度目のお通杯……………平野 悦子 45

宮本武蔵顕彰女子剣道大会「お通杯」に出場して……………平野 悦子 45

平成二十七年徳島県中学校剣道優秀選手……………平野 悦子 45

平成二十七年徳島県高等学校剣道優秀選手……………平野 悦子 45

先生を偲ぶ……………三木 毅 49

居合道 岸田光博先生を偲んで……………原田 勝 50

岸田先生を偲んで……………吉岡 修一 51

岸田光博先生を偲ぶ……………中尾 正輝 54

高田豊先生を偲ぶ……………松田三千子 56

高田豊先生を偲んで……………兵頭 新平 58

高田豊先生を偲ぶ……………北條 憲治 59

濱田逸郎先生を偲んで……………平 正明 60

濱田逸郎先生を偲んで……………柴田 宗忠 62

全国講習会報告……………森 将夫 64

第四十九回剣道中央講習会(西日本)報告……………二反田和則 67

居合道中央講習会に参加して……………玉田 真理 74

第五十三回剣道中堅剣士講習会に参加して……………吉田 茂生 77

第二十回女子剣道審判講習会……………西山 拓志 79

日本剣道形講習会実施報告……………別府 優香 81

全国中高部活指導者研修会に参加して……………湯城 豊勝 86

徳島の剣道史……………別府 優香 81

鋸付き片切刃造りの海部刀……………湯城 豊勝 86

大会・行事所感……………湯城 豊勝 86

各種大会に参加して……………青木 博志 88

第三十七回全国スポーツ少年団剣道交流大会に出場して……………白木 崇 92

第六十三回全日本都道府県対抗剣道優勝大会出場が決まって……………大石 正志 93

全国高等学校剣道選抜大会に出場して……………大石 正志 93

大舞台へ……………深見 桃子 95

大舞台へ……………深見 桃子 95

インターハイに出場して……………	田中 皓己……………	97
感謝……………	清水 真優……………	99
全国中学校剣道大会で学んだこと……………	村田 竜祐……………	101
全国中学校剣道大会に参加して……………	大城明裕奈……………	103
平成二十七年第五十七回全国教職員剣道大会に出場して……………	福多 雅英……………	105
第十回都道府県対抗少年剣道大会に参加して……………	齋 浩市……………	106
第六十一回全日本東西対抗剣道大会に出場して……………	吉田 茂生……………	108
全日本居合道大会……………	吉岡 修一……………	109
全日本剣道選手権大会……………	白木恒二郎……………	111
第五十八回全日本実業団剣道大会に出場して……………	園田 慎吾……………	113
四国四県剣道大会結果報告……………	中村 稔裕……………	114
第六十二回全国警察剣道大会に参加して……………	山室 雅幹……………	117
中四国学連剣友剣道大会を終えて……………	藤本 辰夫……………	118
全国健康福祉祭山口大会に参加して……………	中村 稔裕……………	119

随 想

一高齡剣士の病後雑……………	出葉 成一……………	121
生涯剣道……………	西堀 和文……………	123
剣道に出会って……………	野村 幸大……………	124
剣豪の墓参り……………	徳山 豊……………	126
ぼくは負けれん……………	沖野 友哉……………	128

称号・段位合格者

剣道七段に合格して……………	須藤 恭宏……………	129
京都に於ける七段審査……………	武田 修典……………	130
偶然と必然……………	長崎 秀信……………	132
剣道七段審査に臨んで……………	松田 久司……………	134
剣道六段昇段審査に合格して……………	松島 一成……………	136
六段審査に合格して……………	大石 真也……………	138
六段審査立ち合い師匠に報告できた……………	日野 利之……………	139
剣道六段に合格して……………	富永ますみ……………	141
剣道六段に昇段して……………	吉田 一之……………	142

六段審査に合格して……………	松本 慎二……………	143
剣道六段に合格して……………	江口 大祐……………	145
居合道六段となって……………	満壽 良史……………	146
教士称号審査に合格して……………	片山 尊史……………	148
錬士号合格に思うこと……………	岩木 淳子……………	149
称号・段位合格者一覧……………		150
がんばろう徳島		
専門部報告……………		
事業部……………	佐賀 博史……………	155
審査部……………	佐藤 佳宏……………	156
強化部……………	平野 誠司……………	157
少年部……………	松村 和宏……………	159
女子部……………	竹内佳代子……………	160
居合道部……………	福井 勝……………	162
中体連……………	兼松 佳史……………	164
高体連専門部より……………	上田 宏司……………	166
大学連……………	木原 資裕……………	170
部活だより……………		
城ノ内中学・高等学校……………	大石 哲生……………	171
少年部よりの作文集……………		173
平成二十七年 大会記録……………		183
徳島新聞に見る戦いの跡……………		216
平成二十八年 昇段審査学科試験問題・解答例……………		246
平成二十八年 徳島県剣道連盟行事予定表……………		254
平成二十八年 審査実施計画表……………		256
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……………		257
剣連事務局について……………	熊澤 信行……………	258
徳島県剣道稽古場所一覧……………		261
居合道 道場案内……………		264

編集後記

会長就任ごあいさつ

徳島県剣道連盟 会長 三木 毅



平成二十七年三月八日の徳島県剣道連盟総会におきまして、多くの会員諸氏のご推挙をいただき、昭和二十五年十月の徳島県剣道連盟発足後十一人目の会長に就任することになりました。

私にとってこの上ない光栄なことでありまして、ご推挙していただきました諸氏に心から感謝とお礼を申し上げます。

会長就任にあたりまして改めて剣道連盟の目的について会則に目を向けました。先人諸先生が英知を傾けて残していただいた第一三条には、「連盟は、剣道の奨励発展をはかり、剣道理念を広く普及させるとともに、会員相互の親睦・融和を図ることを目的とする」とされており、短文で明確な記述ではありませんが、幅と深みのある理想像が描かれているとの思いを痛烈に感じ、これまで会長に就任されてきた十人の先生方がこの目的成就に邁進され、剣道連盟の姿や剣道そのものを現在の私どもに伝えていただいているということに深い思いを感じ、改めて責任の重さを噛みしめているところであります。

剣道界を取り巻く環境は良好とは言えず、危惧すべき諸々の事

柄が存在しております。私どもは、伝統と歴史ある剣道の奨励発展をはかることが、いつの時代でも最重要課題ではなかったかと思っております。それ故に県下各地で剣道の修練や指導に情熱をもって取り組んでおられる剣士諸氏は剣道を後世に傳承し、更には社会的認知度を高めることを寸時も念頭から離れたことがないと思っております。

剣道の傳承や奨励には常に課題が存在している現実を真摯に受け止め、課題の解消に前進するのみと思っております。今後におきましては、会員諸氏の絶大なご協力とご支援ご鞭撻をいただきながら、微力ではありますがその任を果たして参る所存でありますのでどうぞよろしくお願い申し上げます、就任のご挨拶といたします。

理事長に就任して



平成二十六年年度の総会と理事会の役員選挙で二十七・二十八年度の理事長の任にあたることになりました。私はこれまで主に高体連の仕事をやってきておりまして、全剣連や県剣連の運営についてはあまり理解できておりませんでした。理事長を引き受けてから、仕事内容の多さと深さに大変なことを引き受けてしまったと後悔しましたが、後悔先に立たずでした。しかし、会長・事務局長・事務局次長のご配慮とご協力をいただき、何とか、今日を迎えております。

二十七年度は四月当初、会長と二人で関係機関への就任の挨拶回りから始まりました。その後は年間行事計画に従って、各行事の準備と遂行、さらに反省（効果や内容を検証し、次年度に活かす）を行いました。行事を遂行する中で大切なことは関係者が行事の意義を理解し、目標を持つことであり、また、それを達成するための準備であり、反省であります。

このことを実践し、効果を上げているのが、強化部であります。普段の稽古場所の確保、関係者すべてへの声かけ、合同稽古の意

徳島県剣道連盟 理事長 西谷肇一

義の啓発と連続性、大会予選までにどれだけ稽古を積んで臨むことができたか、大会本番に最高の状態で臨めたか、課題を見つけ、向上しようとする姿勢があります。

各専門部においても、その取り組みや意義が会員に理解され、共感と協同を得るよう努力、実践することが必要であり、そのことが連盟発展の為に大切な影響を与えるものと思われま

私自身、会員の皆様により一層剣道が好きになり、剣道を求めていく勇氣を持てるよう取り組んでいきたいと決意しております。今後とも、ご支援・ご協力の程、よろしく申し上げます。

事務局長就任に当たって

徳島県剣道連盟 事務局長 藤川和秋



平成二十七年三月八日、剣道連盟総会において三木毅副会長が新たに会長に選出されました。翌日、三木会長の自宅において、会長から延々と事務局長就任への要請を受けました。私は「そのような大任はできません。」と拒絶にも等しいお断りを申し上げましたが、最後に「みんなのお世話役じゃ」の一言で見事陥落、事務局長をお受けすることとなりました。

私は、これまで連盟の理事、審議員の役を頂いておりましたが、ただ自分の立場さえ務めていけばいいとの感覚で過ごしてきました。しかし、事務局長としてスタートしてみると、聞く事・なす事全て新しい事ばかりで何も分からず精神的にもなかなか前に進むことができない状況でした。今は新しい環境にも少し慣れ、周りの先生方から「事務局長大変やな」との激励やいろんな助言を頂きながら事務局の役割に当たっています。

私の事務局長としての原動力は会長からいただいた「みんなの世話役じゃ」という思いです。この思いを忘れずに剣道連盟運営の一役を担っていければと思っています。無力な事務局長ではあ

りますが、剣道連盟会員の皆様には今後ともご支援、ご指導の程よろしくお願い致します。

実は事務局長就任の時期にもう一つ大きな出来事がありました。それは鴨島少年剣道教室の第四代目道場長に就任したことです。これは前任の三木会長から引き継いだもので、これも私にとっては大任でした。以前小松島少剣クラブで代表指導者として十年間、子供達を指導させてもらいましたが、その時は年齢も五十歳代と今より元気で子供達との稽古にも熱中できました。しかし、今はずでに六十歳を超え、体力・気力も衰え、口先だけの指導になりがちです。そうならないよう自分を戒めながら老体にムチ打って、子供達や保護者の期待に応えられるよう頑張って行きたいと思っています。

最後に、剣道連盟事務局長と鴨島少年剣道教室道場長という両輪を、皆さんのご支援、ご指導を頂きながら、藤川号というポンコツ車のエンジンをフル回転させ、目標に向かって頑張って走って行きたいと思えます。

特報Ⅰ 復活 徳島県三者対抗剣道大会

新 第一回徳島県三者対抗 剣道大会に乾杯!

審判長 高 島 稔 之



表記の大会は、平成二十七年十一月二十八日(土)午後一時から、県立中央武道館に於いて開催されました。

私は、表題名を、あえて「新 第一回 徳島県三者対抗剣道大会」と表記しました。

た。(通算では、第七回目の大会)

開会式は、三木毅県剣道連盟会長からの「大会会長挨拶」に続いて、坂下彦之県剣道連盟名誉会長から「大会趣旨説明」がありました。「本大会は、警察・教員・実業団の三者がコミュニケーションや親睦の機会を持つと共に、徳島県剣道連盟の活性化と発展を目指して、過去に第一回から第六回(昭和五十八年〜六十三年)まで実施されましたが、毎回、警察が優勝する大会となってしまう、そのことが、本大会を中止する要因の一つになったように思う。」と言う趣旨の説明がありました。

(「注」中尾正輝先生の今回の記事の中に、過去の戦績、選手構成等の記載があります。ご参照ください。)

そこで、私は、「審判長説示」の中で、試合規定、試合方法、試合順等を述べると共に、「過去の反省の上に立って、三者がベストを尽くして、共々に納得のいく試合結果となることを期待する」旨の話をさせていただきました。

続いて、実業団チーム大将の中村稔裕選手から力強い「選手代表宣誓」があり、二十七年ぶりの試合が開始されました。

試合は、三者対抗の十五人制のリーグ戦として、次の試合順で展開されました。

- 「第一試合」実業団チーム 対 警察チーム
 - 「第二試合」教員チーム 対 警察チーム
 - 「第三試合」教員チーム 対 実業団チーム
- 各チームの監督・出場選手

	実業団	警察	教員
監督	米倉 滋	平野 誠司	西谷 肇一
先鋒	山口 あずさ	平野 千尋	前田 奈々枝
次鋒	福田 沙也	林 里沙	伊藤 奈津子
十三将	玉井 翔	山本 義征	白木 恒二郎
十二将	片山 将志	玉田 赳大	林 義真
十一将	花房 祐希	六條 勝仁	山本 義裕
十将	善家 純一	六條 洋二	大石 真也

[試 合 結 果 表]

	実業団	警察	教員	勝数	勝者数	取得本数	順位
実業団		$\frac{8}{5}$	$\frac{10}{5}$	0	10	18	3
警察	$\frac{8}{5}$		$\frac{14}{6}$	1	11	22	1
教員	$\frac{10}{6}$	$\frac{10}{4}$		1	10	20	2

優勝 警察 チーム
 準優勝 教員 チーム
 第3位 実業団 チーム

三者対抗の試合結果は、次の表の通りです。

大将	副将	三将	四将	五将	六将	七将	八将	九将
中村 稔裕	長崎 秀信	森 直行	久保 隆司	熊澤 信行	生田 浩章	前田 秀一	金野 卓司	原 智永
中尾 正輝	美馬 勝行	大貝 美治	乾 清孝	竹岡 勝美	平尾 満紀	富田 圭介	山室 雅幹	松本 慎二
沢井 勝之	立川 信彦	富田 正	木原 資裕	福多 雅英	白木 洋一	兼松 佳史	磯部 健治	佐藤 浩

〔注〕本大会の試合結果の詳細は中村稔裕先生が記載されています。

開会式で、「三者がベストを尽くし、共々に納得のいく試合結果となることを期待する」旨の話をさせていただきましたが、「試合結果表」が示す通り、まさに手に汗握る大接戦の末、三者の順位が決まったという素晴らしい試合展開となりました。私自身は勿論のこと、多くの参加者が、口々に互いの健闘をたたえ合う大会となりました。開会式での審判長講評でも、そのことを褒め称えたことは言うまでもありません。

そして、三木毅会長及び大会事務局から、最優秀試合を選考するよう依頼されていきましたので、五将戦「福多雅英選手（教員）対熊澤信行選手（実業団）」の試合を「最優秀試合」に選ばせていただきました。

福多選手は得意の左上段の構え、熊澤選手は右小手を防御すべく中段を少し右斜め上にした構えで、共に十分な気迫を込めた闘ぎ合い。上段からの小手・面。それに対する中段からの種々の応じ技。双方が有効打に近い打突を繰り返し、非常に見応えのある引き分け試合を展開されました。

大会後の懇親会は、午後六時から、ホテル徳島グランドパレスで行われました。進行係から、「審判長は、『最優秀試合』の該当者を発表してから、乾杯の音頭を採って欲しい。」との要望があり、発表後に乾杯の発声を行いました。事務局から『最優秀試合』の発表はしていただきますが、『最優秀試合賞』としての賞



開会式に整列した選手

品はありません。」と聞いていたので、私が、「賞品は無いそうですので、福多・熊澤両選手の席の近くの方は、お酒をしっかりと注いで上げてください！」と言うと、「エーッ！」と言う声と共に、大爆笑が起きました。臨席していた松紀屋の松村和宏先生から、



準優勝の教員チーム

「私が、お二人に竹刀を寄贈します！」との声があり、参会者の大きな拍手。拮抗し・盛り上がった三者対抗試合の歓談は、懇親会を更に楽しいものにしてくれました。そして、思い出に残る充実した一日となりました。

復活 三者対抗剣道大会

警察チーム 大将 中尾正輝



平成二十七年十一月二十八日(土) 中央武道館において、三者(警察・教員・実業団)対抗剣道大会が開催された。昭和五十八年から六十三年まで行われた三者対抗剣道大会が時を経て二十七年振りに復活したことになる。

過去の大会は、十七名の選手編成で行われたが、この大会は十五名の選手で、先鋒、次鋒女子二名(年齢問わず、十三将から十将は三十五歳まで、九将から六将は五十五歳まで五将から副将は六十九歳、大将は七十歳以上)の年齢別構成で行われた。剣道連盟設立目的の三本柱の中に「会員相互の親睦・融和をはかる」と謳われている。

まさに、剣道に励む我々は、互いにコミュニケーションや親睦を図りながら本県剣道連盟活性化の為に、この大会を末永く継続して行かなければならない。

他の大会にはない「交流・交剣」の場として発展することを願ひ、この大会を企画していただいた関係者に心からお礼と感謝を表す。

懇親会は大変な盛り上がりで所期の目的を達成した。

私は、この記念すべき大会に大将で出場させて頂いた。一昨年の暮れから、腰痛に悩まされ稽古不足のため、平野誠司監督から選手として指名され、不安であったが、チーム選手諸君の健闘により、何とか優勝できたことをうれしく思う次第である。

後日の参考の為、第一回から六回までの試合結果及び本大会の試合結果と警察チームの選手を記して置く。

第一回大会(中央武道館)優勝 警察

昭和五十八年七月十七日(日)

警察 一―五 教員

教員 九―八 実業団

警察 一〇―七 実業団

第二回大会(中央武道館)優勝 警察

昭和五十九年七月二十九日(日)

警察 一四―三 実業団

実業団 一一―五 教員

警察 九―八 教員

第三回大会(中央武道館)優勝 警察

昭和六十年七月二十八日(日)

警察 一五―二 実業団

教員 一一―五 実業団

警察 一一―五 教員

第四回大会（中央武道館）優勝 警察

昭和六十一年七月二十七日（日）

実業団 九一七 教員

警察 一四一三 実業団

警察 一五一二 教員

第五回大会（中央武道館）優勝 警察

昭和六十二年八月二日（日）

警察 一三一二 実業団

実業団 八一六 教員

警察 九一六 教員

第六回大会（中央武道館）優勝 警察

昭和六十三年七月三十一日（日）

警察二勝・教員一勝一敗・実業団二敗

第七回大会（中央武道館）優勝 警察

平成二十七年十一月二十八日（土）

警察 五一五 実業団

警察 六一四 教員

教員 六一五 実業団

予想していたとおり拮抗した戦いであった。

最優秀試合は、福多雅英選手（教員）対 熊沢信行選手（実業団）であった。

警察チームの出場選手

監督	平野誠司
先鋒	平野千尋
次鋒	林里沙
一三将	山本義征
一二将	玉田起大
一一将	六條勝仁
一〇将	六條洋二
九将	松本慎二
八将	山室雅幹
七将	富田圭介
六将	平尾満紀
五将	武岡勝美
四将	乾清孝
三将	大貝美治
副将	美馬勝行
大将	中尾正輝



優勝の警察チーム



優勝トロフィー

三者対抗剣道大会に参加して

実業団チーム 大将 中村 稔 裕



る。そもそもこの大会には歴史がある。昭和五十八年、当時の県

剣道連盟理事長堀江幸夫氏・同事務局長坂下彦之氏の発案により、同年七月十七日第一回徳島県教員・警察・実業団対抗剣道大会として開催されているが、諸般の事情により昭和六十三年の第六回大会を最後に中断されてきた。当時の選手編成は男子のみで二十歳から六十歳まで十七名で編成されている。いづれの大会も各団体の主力選手が熱戦を繰り広げ、格調高い大会であったことがうかがえる。筆者も四十歳代に第一回・第三回大会に出場している。

この様な大きな大会の灯を永遠に消し去るのはいかがなものかと思索していたところ、関係者から大会再会に対する気運が高まり、今回改めて第一回三者対抗剣道大会として開催されたことは誠に喜ばしい事である。成績については別表のとおりであるが、今大会の優秀試合賞に選ばれた福多雅英選手（教員）対熊澤信行選手（実業団）の試合が選ばれた。福多選手の上段からの厳しい

気攻めに熊澤選手の手元がピクピクと動くも懸命にしのぎ切り、引き分けとなった。場内から期せずして拍手がわき上がった。全試合を通じて緊張感があり、また試合終了後、選手間にもすっきりとしたさわやかな感が漂っていた。

今大会のチーム編成は十五名（女子二名・男子十三名）であったが、二十歳から七十歳までと幅広く選出されており、今後どの選手にも出場機会があることを信ずる。

大会終了後大会役員・選手一同で懇親会がもたれ、それぞれの剣道談義に話はずみ実に和やかな内に終了した。今後、この大会が未永く開催されることを望むばかりである。

〔 試 合 結 果 表 〕

	実業団	警察	教員	勝数	勝者数	取得本数	順位
実業団		8/5	10/5	0	10	18	3
警察	8/5		14/6	1	11	22	1
教員	10/6	10/4		1	10	20	2

優勝 警察 一 ム
 準優勝 教員 一 ム
 第3位 実業団 一 ム

	先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
実業団	山口	福田	玉井	片山	花房	善家	原	金野	前田	生田	熊澤	久保	森	長崎	中村	5	8
		⊗一本勝	⊗一本勝	⊗			⊗ ⊗				⊖一本勝		⊖一本勝	⊗			
警察				⊗		一本勝 ⊗		⊗ ⊗	一本勝 ⊖	一本勝 ⊗		▲		⊗ ⊖		5	8
	平野	林	山本	玉田	六條勝	六條洋	松本	山室	富田	平尾	武岡	乾	大貝	美馬	中尾		

	先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
教員	前田	伊藤	白木恒	林	山本	大石	佐藤	磯部	兼松	白木洋	福多	木原	富田	立川	沢井	4	10
		⊗ ⊗		⊗						⊗ ⊖	⊖ ⊖	⊖ ⊖	⊗				
警察				⊗	⊖ ⊗	⊖ ⊗	⊗ ⊖	一本勝 ⊗	⊖ ⊗	⊗			⊗	⊗ ⊖		6	14
	平野	林	山本	玉田	六條勝	六條洋	松本	山室	富田	平尾	武岡	乾	大貝	美馬	中尾		

	先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
教員	前田	伊藤	白木恒	林	山本	大石	佐藤	磯部	兼松	白木洋	福多	木原	富田	立川	沢井	6	10
	⊗一本勝	⊖一本勝	⊖一本勝				⊗			⊗ ⊗		⊖ ⊖		⊖ ⊖			
実業団					一本勝 ⊗	⊖ ⊗	⊗	⊖ ⊖	⊗ ⊗	⊖			一本勝 ⊗			5	10
	山口	福田	玉井	片山	花房	善家	原	金野	前田	生田	熊澤	久保	森	長崎	中村		



開会式で選手宣誓をする筆者



第三位の実業団チーム

特報Ⅱ 連覇 四国高齢者剣道大会

第二回四国高齢者剣道交流大会

徳島県連覇

徳島県高齢剣友会理事長 美馬勝行

四月二十九日（土）昨年四月本県で開催された第一回大会に続き、第二回大会が高知県立武道館において、全日本高齢剣友会から高崎慶男名誉会長、岩立三郎会長、岩尾征夫副会長、支倉真人専務理事の御参列のもと、四国四県の高齢剣士が友好の剣技を繰り広げた。

大会は、日本剣道形の演武のあと、各県代表選手十名による団体戦が展開された。第一回徳島大会では個人戦も行われたが、高知大会は団体戦のみで、出場チームは、開催県が二チーム出場し五チームによるリーグ戦方式で実施された。

徳島県チームは

先鋒 藤本辰夫、乾 清孝

次鋒 松村和宏、栗野佳明、大貝美治

八将 東 徳美、六條一博、兵頭新平 七将 松浦政昭

六将 西堀和文 五将 美馬勝行 四将 三木毅、笠井勝

三将 中村稔裕 副将 高島稔之 大将 東内勉
の一六名体制で臨み、接戦を制して、見事連続優勝を果たすことができた。

勝因は、各選手がそれぞれのポジションでの役割をよく自覚し、引分けへの持ち込み、あるいは粘りの一本勝ちと、連携よく役目を果たした結果であった。

特に、土佐B戦における高島会長の、離れ際の担ぎ面、なんと連続六回に及んだ「執念の面一本」は、会場内の目線を一点に集め、本大会をおおいに盛り上げた印象深い一戦であった。

試合結果

- ① 徳島 (勝点三)
- ② 香川 (勝点二)
- ③ 土佐A (勝点二)
- ④ 愛媛 (勝点二)
- ⑤ 土佐B (勝点一)

勝点二の香川、土佐A、愛媛の順位は、勝者数による。

戦評

一 第一試合 土佐A戦 三勝(五本)二敗(四本)

初戦で優勝候補の土佐Aチーム戦とあって、「第一戦が今日の行方」と全員を引き締めて戦いに臨んだ。

先鋒・乾選手が軽快な剣捌きで一本勝ち、幸先の良い立ち上がり見せたが、このあと、六将戦までで二対一とリードを許し、後半戦へ。

五将・美馬が同点とし、三将・中村選手が一本も許さず、二本勝ちを収めて一步リードとする。

続く副将・高島選手は、全国高齢者武道大会で二度の優勝経歴を持つ土佐きっての勝負師、岡本選手との対戦、立ち上がりには面一本を許したものの、持ち前の勝負強さを發揮、反撃を仕掛ける。

守りへと転じた岡本選手を間断なく攻め、時間終了間際、見事、面一本を取り返して、「執念の引き分け」に持ち込み、勝負の行方を大将・東内選手に引き継いだ。

三対二を受けた大将は、最悪一本負けを良しと、持ち前のしなやかな剣風で、余裕の闘いを展開、予定通りの「引き分け」に持ち込み、大将の責任を果たした。

優勝への起爆剤となった初戦の勝利であった。

二 第二試合 香川戦 四勝（七本）三敗（五本）

第一戦を制した我がチームは好調と思えたが、この香川戦、先方から六将までの前半戦で、三対〇とリードを許し、いやいなムードの漂う中、後半戦へと持ち込まれた。

ところが、勝敗を捨てなかった続く五将・美馬、四将・笠井、三将・中村、副将・高島の各選手が、捨て身の試合を展開し、見事に四連取、四対三と一步リードにまで持ち込んだ。

ここで大将・東内選手は、心得たとばかり、余裕の引き分けに持ち込み、香川戦を制して第二戦もものにした。

第三戦への弾みとなった、逆転劇であった。

三 第三試合 土佐B戦 四勝（八本）一敗（三本）

先鋒・藤本、次鋒・大貝選手が、無傷の二本勝ちを収め、前半戦で二―〇と順調な立ち上がり。

波に乗った後半戦も引き分けを挟んで、五将・美馬、副将・高島の両選手が勝ち名乗りを上げ、四勝一敗と順調な勝利を収めた。

前述のとおり、高島選手の「執念の面」は、この土佐B副将の常光選手との戦いであった。

この第三試合の勝利によって、我がチームは勝点3を収め、同時に第二試合場で行われた、香川―愛媛戦で、二勝一敗と順調な試合を展開していた香川県チームが星を落としたことから、我がチームの連覇が決まった。

四 第四試合 愛媛戦 二勝（六本）三敗（五本）

前半戦の六将までに〇対二とリードを許した後半戦へ。

五将・美馬、副将・高島選手で二対三にまで追い上げたが、最終戦を勝利で飾ることはできなかった。

一敗を期したことは心残りのところもあるが、交流試合の趣旨からして、一步ゆずって良しとした。

最後に、月二回の稽古日にご指導をいただいた先生方、また在県応援していただいた会員の先生方に感謝とお礼を申し上げます。高知大会の報告といたします。



第一試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
土佐 A	濱田	土居	小松	渡邊	山本	中野	岩井	門田	岡本	鮫島	2	4	×
		X	コ	メ	X		X		メ	X			
徳島	コ				X	コ	X	メ	コ	メ	3	5	○
	乾	松村	六條	松浦	西堀	美馬	三木	中村	高島	東内			

第二試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
香川	六車	小泉	伊賀	北隅	宇賀	吉久	伊藤	修理	福浦	小出	3	5	×
	メ	メ	ト	メ	X					X			
徳島					X	メ	コ	メ	メ	メ	4	7	○
	乾	菜野	兵頭	松浦	西堀	美馬	笠井	中村	高島	東内			

第三試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
土佐B	若江	戸梶	梅原	野中	栗尾	川村	濱田	戸田	常光	大石	1	3	×
			X	メ	X		X	X		コ			
徳島	ド	コ	X	メ	X	コ	X	X	メ	メ	4	8	○
	藤本	大貝	東	松浦	西堀	美馬	三木	中村	高島	東内			

第四試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
愛媛	向井	大久保	宇田	森	織田	古谷	川村	近藤	竹内	藤田	3	6	○
	メ	メ	X	X	メ	メ	メ	メ	メ	X			
徳島			X	メ	X	コ	コ	コ	メ	メ	2	5	×
	藤本	大貝	東	松浦	西堀	美馬	三木	中村	高島	東内			

リーグ戦結果

チーム名	徳島	香川	土佐A	愛媛	土佐B	勝点	勝者数	得本数	順位
徳島	/	4(7)	3(5)	2(5)	4(8)	3	13	25	1
香川	3(4)	/	4(6)	0(2)	7(12)	2	14	24	2
土佐A	2(4)	4(6)	/	4(10)	3(7)	2	13	27	3
愛媛	3(6)	4(11)	1(3)	/	3(4)	2	11	24	4
土佐B	1(3)	1(2)	2(4)	5(6)	/	1	9	15	5

特報Ⅲ 国際社会人大会

NPO法人国際社会人剣道クラブ

徳島大会を開催して

NPO法人国際社会人剣道クラブ近畿地区クラブ

会長 米 倉 滋



先人は、将来を見る確かな目を持っていた。国際化という国際交流の時代を五十年前に見通し、そして、寛容と奉仕という高邁な精神を、剣道を通じて実現しようとしていた。今、私達は先人の残してくれたところの財産を、剣道をもって大切に育てていきたい。

わが、「国際社会人剣道クラブ」は昭和四十年九月、近畿地区の社会人剣道家の要望により故・和崎嘉之先生が提唱者となって結成されました。今日でこそ剣道が広く海外に普及し、三年ごとに行われる世界剣道選手権大会も五十五の国と地域が参加し、平成二十七年五月の東京大会で十六回目を数えるに至りましたが、戦後日本の復興が進む昭和四十年、剣道を通じて国際親善を目指された先輩方の先見の明と努力には頭の下がる思いがします。そ

して、結成後まもない昭和四十年十一月、中華人民国（現・台湾）台北市内において、日本、沖縄、米国、中華民国が参加し、第一回国際社会人剣道世界大会を開催し、国内外にその存在を示しました。その後、毎年、国内及び海外での大会の実施及び各地区クラブでの月例稽古会等を通じて親睦交流を重ねてまいりました。そして、平成十一年九月には特定非営利活動法人（NPO法人）の承認を受け新発し、現在に至っています。

当クラブは今年で創立五十周年を迎えましたが、クラブの目的である「剣道を通じて寛容と奉仕の精神により国際親善に寄与する。」という高邁な精神は創立当初から変わることなく、会員はその目的を達成するため日々努力してまいりました。

この度は、近畿地区クラブ主管のもと、平成二十七年十月三十日から十一月一日までの三日間、クラブとして初めて四国・徳島市において、国内はもとより台湾剣道連盟、韓国社会人剣道連盟及びドイツニードーザクセン州剣道連盟の選手、監督、関係者総員一四四名が参加して全国例会及び国際親善剣道大会が開催されました。

国際親善剣道大会の結果は

女子個人試合（八名出場）

優 勝 金 賢淑（韓国）

準優勝 朴 昭容（韓国）

三 位 畑中 章子（近畿地区クラブ）

三位 岩崎 佳世（関東地区クラブ）

男子個人試合（九七名出場）

優勝 塚本 林巧（九州地区クラブ）

準優勝 田頭 敬史（関東地区クラブ）

三位 金 相仁（韓国）

三位 石田 明久（近畿地区クラブ）

国際親善地区対抗試合（二〇チーム出場）

優勝 近畿地区クラブ徳島

（敦賀晋平、磯部健治、山本泰史、山田浩司、

米倉滋）

準優勝 関東地区クラブA

三位 近畿地区クラブA

三位 関東地区クラブB

となりました。

本大会の特徴の一つに、大会開催中、大会場において選手、監督、関係者が一堂に会して合同稽古を行うことです。会場いっばい各地区や各国の剣士が入り交ったの剣を交える様子は壮観であり、そこは勝負を超えた交流まさに国際交流の場となっています。

よく「楽しければ一生懸命できる」と言われますが、当クラブは剣道を楽しみながら修行するという独特の雰囲気をもっています。私自身これに共鳴して入会し、多くの剣友を得ました。クラ



ブの皆様は、国際社会人の名に恥じない立派な方々ばかりです。これからも、クラブの会員と共に力を合わせて日本の伝統文化である剣道を通して、国際親善を図りたいと思っています。

特報Ⅳ ふるさとトリーク

静岡よりのメッセージ

内 田 さくら

(旧姓坪井・富岡東高校出身)

剣道を始めて三十年が経ちました。徳島で二十年、静岡で十年、その間多くの先生方にご指導いただいたおかげで今の自分があります。今回、このような機会をいただきましたので私が剣道を始めたころから高校時代までを振り返ってみたいと思います。

天狗になるな

私は保育園の友達の影響を受け六歳から剣道を始めました。地元の道場「那賀川少年剣道クラブ」で「大きく正しくまっすぐ」とご指導いただきました。

一年生のころ、ある大会で入賞することができ、ルンリンできました。すると、入賞した選手を集ませ磯部茂治先生から一言、「天狗になるな」とご指導いただきました。その瞬間は意味が理解できませんでしたが、幼いなりに強烈に頭に残りました。六年間ご指導いただいた中で最も印象に残っている言葉となりました。

三十年間、この言葉を胸に続けてきました。これからも一生大

事にしていきたいです。

全 国

中学時代の稽古は「厳しい」としか表現しようのないものでした。道場の空気はピンと張り詰め、一瞬でも気を抜くことが許されない世界でした。私が入学したときはすでに「全国」を目標とし、斎浩市先生、生徒、保護者が一体となり一心不乱に進んでいました。必死になって先生、先輩についていった結果、一年生のとき男女アベックで全国大会出場、女子は全国大会準優勝という成績を残すことができました。これが私の全国デビューでした。日本は広く、強い人は山ほどいて…この経験が「とにかく強くになりたい!」と思うようになったきっかけとなりました。

遠征も中学時代に初めて経験しました。何時間も車に乗って県外へ行き、数えきれないほどの練習試合を行いました。心身ともに鍛えられました。練成会会場では厳しく辛い時間が多かったですが、それ以外の場所で仲間と過ごす時間はいつも笑いが絶えず最高に楽しかった記憶があります。全国各地のコンビニ巡りは欠かせませんでした(笑)。

また、遠征、大会を通して剣道仲間がたくさんできました。県外にも友達ができたことは私にとって遠征の楽しみの一つとなりました。

全国を知ることでの私の剣道に対する意識は大きく変わりました。剣道のおかげで得たものが飛躍的に増えた時代でした。

地

「地を練る」「地力をつける」とはどういうことなのか…その答えは高校時代の稽古にあったのだと今になって思います。

その当時の富岡東の稽古といえば、基本稽古と地稽古。これがすべてと言っても過言ではないものでした。部員の多くは県内のトップレベルの選手でした。それでも基本ができてないと、できないようになるまで何度もやり直しをすることが常でした。妥協なき基本稽古でした。

河田清実先生は当時の私のなかで最強の先生でした。高校時代の隠れた目標は地稽古で河田先生に勝つこと！本気でそう思って毎回稽古をお願いしていました。三年間かかり続けましたが、その夢は叶わぬまま卒業となりました。

しかし、三年間の基本、地稽古の成果は大学以降の剣道においてははっきりと現れました。私の今の剣道スタイルが確立された時代でした。

今

静岡に来て十一年目を迎えます。今も多くのの方々に支えられ元気に稽古しています。また、主人とともに中学生、高校生の指導もしています。大きく正しくまっすぐ、基本を大切にしながら徳島で教えていただいたことを静岡の子供たちに伝えていきます。

今回はこのような形で「徳島の剣道」に関わらせていただきあ

りがとうございました。まだまだ修行の身です。今後もご指導のほどよろしくお願いいたします。

過去の戦績

中学一年	県総体	団体優勝	個人二位
	四国総体	団体優勝	個人出場
	全国総体	団体二位	個人出場
中学二年	県総体	団体優勝	個人優勝
	四国総体	団体優勝	個人優勝
	全国総体	団体優勝	個人出場
中学三年	県総体	団体優勝	個人優勝
	四国総体	団体二位	個人優勝
	全国総体	団体ベスト八	個人出場
高校一年	県総体	団体優勝	個人ベスト一六
	四国総体	団体優勝	
	全国総体	団体ベスト八	
	全国選抜	ベスト一六	
	国体	三位	
	全日本女子選手権	出場	

高校二年 県総体 団体優勝 個人優勝

四国総体 団体優勝 個人優勝

全国総体 団体三位 個人出場

全国選抜 ベスト一六

玉竜旗 ベスト一六

高校三年 県総体 団体優勝 個人優勝

四国総体 団体優勝 個人優勝

全国総体 団体三位 個人出場

全日本女子選手権 出場

大学一年 関東学生 団体優勝 個人三位

全日本学生 団体三位 個人ベスト八

大学二年 関東学生 団体二位 個人二位

全日本学生 団体二位 個人出場

全日本女子選手権 出場

大学三年 関東学生 団体優勝 個人優勝

全日本学生 団体出場 個人二位

大学四年 関東学生 団体優勝 個人ベスト一六

全日本学生 団体二位 個人二位

全日本女子選手権 ベスト八

二三歳 全日本女子選手権 出場

二四歳 全日本女子選手権 出場

二五歳 全日本女子選手権 出場

全国教職員大会 女子個人優勝

二六歳 全日本女子選手権 出場

二七歳 都道府県対抗剣道選手権大会 二位(静岡県代表)

二八歳 東西対抗 出場(東軍)

世界剣道選手権大会 団体 優勝

全日本女子選手権 三位(静岡県代表)

全日本女子選手権 二位(静岡県代表)

東西対抗 出場(東軍)

全日本女子選手権 出場(静岡県代表)

三三歳 全日本女子選手権 出場(静岡県代表)

三五歳 東西対抗 出場(東軍)

三七歳 全日本女子選手権 出場(静岡県代表)



第13回世界剣道選手権大会(台北)団体優勝
チームメイトの馬場選手(大阪府警)とともに

徳島から山口へ そして徳島へ

山口県立鴻城高等学校 教諭 大石 洋 史

(富岡西高校出身)



私は昭和六十一年十月二十四日に阿南市桑野町で生まれました。父が高校教員の傍ら、剣道教室の指導をしていたこともあり、気づいた時には剣道場の方に足を運び、稽古に向かっていました。四人兄弟共によく稽古に励んでいたことを記憶しています。

小中高と全国大会にも何度か出場させていただきましたが、もっと専門的に剣道を学びたいという気持ちで、大阪体育大学に進学しました。そこで作道正夫先生、神崎浩先生をはじめ、多くの先生先輩方からのご指導を受けることができました。大学は今までの甘い環境とは違い、様々な事に衝撃を受け、本当に苦労もしましたが、自分を高めることが出来たと思います。また、応援してくれる親の為に選手に入り、活躍して恩返し出来ればという思いで必死に努力しました。初めて手応えを感じたのは大学三回生の時の全日本学生個人戦です。ベスト十六まで進み、延長の末敗れました。この時に初めて全国は遠くないのだと実感しました。その一年後、同大会で決勝まで進み、国士館大学の畠中選手（現警視庁）に敗れました。

大学卒業後は教員をしつつ、競技者としてもできる環境に身を置きたいということで、国体を控えた山口県へと行くことになりました。国体では先鋒として出場し、全勝でチームの優勝に貢献することができました。全県あげての取り組みに中枢として参加出来たことは非常に良い経験となりました。また、第十六回世界剣道大会の日本代表候補生として合宿にも参加させて頂きました。最終選考には残りませんでした。そこでの経験や仲間は宝物となっています。また、十七回大会の候補生としても現在参加させて頂いています。

指導者としては、女子の部でのインターハイ三年連続出場、全国選抜二年連続出場と、師弟同行の精神で精進しております。自分が選手として実績を残すことが出来たこと、全日本合宿に参加出来たことなどは、幼少から徳島の先生方に指導して頂いたお陰です。「強く、正しく、美しく」常に目先の事ではなく、剣道のあるべき姿を示し続け、指導して下さっていた事に感謝しています。

この原稿依頼があり、今までの人生を振り返ったとき、いくつもの分岐点があったのだと思います。そこでは常に沢山の人の繋がりがや、支えて今の幸せな自分があるのだと気づかされました。

最後に私事ですが、平成二十八年四月より郷里に帰り徳島文理中学高等学校に奉職させて頂くことが決まりました。これも人との繋がりがや、剣道のお陰だと思えます。これからは指導者、競技

者としても活躍し、徳島県の剣道界の発展の為に尽力していきま
す。今後もご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

戦績

・高校時代

平成十六年 県総体団体・個人優勝、インターハイ出場
平成十五年～十六年 全国選抜予選二連覇、全国選拔出場

・大学時代

平成十九年 全日本学生優勝大会準優勝、国体出場
平成二十年 全日本学生選手権大会準優勝
平成十七年～二十年 西日本大会二位、三位 各二回
平成十八年～二十年 関西学生、三連覇

・社会人

平成二十一年 全国教職員大会三位、国体出場
平成二十二年 都道府県対抗出場、国体出場、西日本大会優勝
平成二十三年 都道府県対抗三位、国民体育大会優勝、
全日本強化選手
平成二十四年 都道府県対抗出場、全日本強化選手
平成二十五年 全日本強化選手



平成20年 全日本学生選手権大会準優勝（前列左）
前列右は同級生の野本（東西対抗優秀選手・現愛媛県警）

平成二十六年 都道府県対抗出場、全日本強化選手
平成二十七年 都道府県対抗出場、国体出場、全日本強化選手

平成二十七年 顕彰一覽

卒寿の御祝い (全日本剣道連盟)

- 遠藤 一美
- 高田 豊 (十一月八日ご逝去)
- 糸谷 文雄
- 糸田川 美千男

全剣連から九十歳となる剣道高段者(七段以上)に、これまでの剣道発展・振興に尽力された功績に対し記念品が贈呈された。

剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

- 川田 武志 (徳島県剣道連盟審議員)

昭和三十三年に徳島県警察官を拝命し、四十二年間にわたり警察官の剣道指導・育成に努め県民の信頼を高めたほか、昭和三十七年から松茂町少年剣道教室を開設し、少年の剣道指導にも情熱を注ぎ、地域社会に大きく貢献をしている。

また、昭和六十二年から本県剣道連盟理事となり、その後、板野東支部長を経て、平成二十三年から審議員に就任し、本県連盟の発展に大きく寄与している。

少年剣道教育奨励賞 (全日本剣道連盟)

- 和田島少年剣道クラブ

昭和四十五年に設立され、現在まで四十五年間の長きにわたり、基本に忠実で将来につながる剣道を目指して少年の指導・育成に尽力し、地域の剣道発展に大きく寄与している。

- 脇町少年剣道教室

昭和四十九年に設立され、四十一年間にわたり青少年の剣道育成に尽力してきた。指導も基本に徹しており、周辺の剣道教室とも連携して合同錬成会を行う等、周辺地域との交流も重視し、その活動は県西部の中核として他の教室の模範となっている。

体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

- 高島 稔之 (徳島県剣道連盟審議委員長)

永年に亘り、剣道連盟常任理事、審議員、審議委員長を務めるとともに、会員、選手等の指導育成に尽力し、現在は高齢者剣道の普及発展にも多大な貢献をしている。

スポーツ指導者表彰（徳島県体育協会）

○ 白 木 洋 一（石井中学校教諭）

全国中学校体育大会第四十五回全国中学校剣道大会個人の部に
おいて第五位に入賞した「山室和士選手」を指導した。

○ 山 室 和 士（石井中学校）

全国中学校体育大会第四十五回全国中学校剣道大会個人の部に
おいて第五位に入賞した。

スポーツ優秀者表彰（徳島県体育協会）

○ 福 多 雅 英（城北高校教諭）

○ 平 野 誠 司（徳島県警察）

○ 山 室 雅 幹（徳島県警察）

○ 大 石 真 也（鳴門高校教諭）

○ 白 木 恒二郎（吉野川高校講師）

国民体育大会剣道競技（成年男子の部）において第五位に入賞
した。

全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会優秀選手

○ 近 藤 夏 子

第七回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会において徳島県チー
ムはベスト八となった。

お通杯入賞（個人戦五十歳代の部）

○ 富 永 ますみ（名西支部） 準優勝

○ 平 野 悦 子（鳴門支部） 第三位

感謝状（徳島県剣道連盟）

○ 奥 本 友 幸（徳島市中前川町三丁目在住・八十八歳）

奥本友幸氏は、昭和二十年度に県立阿波中学校（現阿波高校）
を卒業、在学中は戦前剣道と言われる激しく又厳しい修練を重ね
ている。自己の修練にと剣道具一式を新調されていたものをこの
度、剣道連盟に寄贈していただいた。

この崇高な心遣いは、現在修練中の剣士への絶大な激励そのも
のと認識し、感謝の意を表することとし、九月二十二日に感謝状
を贈呈した。

全剣連卒寿のお祝い

全日本剣道連盟の張富士夫会長より次のような手紙と記念品を
遠藤一美・高田豊・糸谷文雄・糸田川美千男の各先生に送られて
います。

ご挨拶

謹啓 爽秋の候 先生におかれまして
はご健勝にお過しのことと推察し心か
らお慶び申し上げます

扱て、

このたび、全日本剣道連盟では斯道
の発展・振興にご尽力下さり、本年卒
寿を迎えられた高段位（七段以上）の
方に祝意を表させていただきます

皆様は、戦前から剣道に取り組み、
先の大戦の嵐の中を生き抜き、戦後の
剣道と国民生活の受難期を耐えて来ら
れました

日本の独立回復後は、経済の復興に
尽力され剣道の発展・後進の指導に努
力され、今日の国運の盛況に大きな役
割を果たされました

敬老の日に際し、御長寿をお慶び申
し上げると共に、これまでのご功績に
お礼を申し上げ、ささやかではありま
すが、記念の品をお届けいたします
今後とも、ご壮健にてご活躍されま
すことを祈念申し上げます 謹 白

平成二十七年九月二十一日

全日本剣道連盟
会長 張 富士夫



剣道有功賞

剣道有功賞を受賞して

川 田 武 志



この度、図らずもして全日本剣道連盟から平成二十七年剣道有功賞という身に余る賞をいただき、光栄至極であります。これひとえに、徳島県剣道連盟会長三木毅様をはじめ、関係役員の先生方が推挙していただいたお陰であり、各先生方に深謝致します。

又、剣道を習い始めて六十年になり、その間、恩師を始め先輩先生方並びに皆様よりいただいた心温かいご指導とご鞭撻の賜物と思い、深く感謝し、心から厚く御礼申し上げます。

私が、剣道を始めたのは、昭和二十九年四月、城西高等学校の一年生からです。当時、城西高校には、剣道部の部活がなく本校校舎隣りの、旧陸軍の兵舎を改造した木造二階建て定時制校舎二階の教室で、授業が終わると机を後方に片付け、定時制の生徒六七名位が、下村富夫先生と山田仁先生の指揮の下で練習に励んでいました。

本校（全日制）の生徒も剣道をしたいと言う者が七名位おりま

した。その内、中学校で剣道を始めた者が一名いましたが、他の者は父兄の勧めとか、家の近くに剣道場や剣道をしている体育館に遊びがてらに見に行き興味を持ったと言う者ばかりであり、私もその一人でした。戦死した父が、昔旧制中学時代に剣道を尾形郷一先生から指導をうけて強かったと人から聞いておりました。小学・中学の時、学校近くに初代徳島県剣道連盟会長の尾形郷一先生が剣道と居合を教えている貫心館道場がありましたので、下校時よく覗いており、それで興味を持ちました。

新入生みんな、やる気充分であり、下村富夫先生にご指導をお願いしましたところ心良く引き受けて頂きました。本校に、剣道部がなく新入生だけの剣道愛好会として発足し、定時制の生徒と合同練習という形で始めました。稽古場所は先述した定時制校舎の教室で、授業が終わると机を後方に片付け金槌を持ち込み、床に浮き出た釘を打ち込みながら稽古に励みました。教室が使用出来ないときは、校舎前に設置されていた足洗い場のコンクリート張り上で運動靴を履き、稽古に精を出したこともあります。強くなるよりも、武士としての心身の躰を基としたことを指導されました。構え方を初めとし、礼法所作・足さばき・素振り・切り返し・基本打突の空間打ち等を厳しく鍛えられました。防具を着けて間もなく夏の合宿練習となり、切り返し・基本打突・打ち込み・掛かり稽古・地稽古がさらに厳しく指導されました。

先生は、すべての構えの基礎となる中段の構え方について、油断なく構え、気迫を剣先にこめて、構えに凄味を出すことを心掛

けるよう指導されていきました。

厳しい練習にも耐え、試合も一年生でありながら、各地域大会に上位入賞するようになったため、下村先生より学校側に剣道部設立を申請して頂いたところ、他の部活指導の先生方からのご援助もあり、本校の剣道部が設立できたのです。

年間六回位の合宿練習とは別に、試合前は七日から十日位の合宿練習をし、そのまま試合に赴くなどし、年中無休に近い猛練習でありました。

その結果、一年目は、生徒全員一年生でありながら出場した大会は全て上位入賞する勢いでありました。

二年目は、県下高校剣道大会は準優勝、全国高校しない競技大会でベスト八に入るなどし、県下のあらゆる大会に優勝するようになり無敵に近い状態になっていきました。

三年目の昭和三十一年四月より、城西高等学校を徳島農業高等学校に改名、県下高校剣道大会は全て優勝し、全国高等学校剣道大会でも準々決勝で惜敗しました。また、国民体育大会のブロック予選を第一位で通過し、兵庫国体に出場となりました。決勝リーグに勝ち上がり、中京商業高（愛知）鏡野高（岡山）徳島農高（徳島）の三チームで争い、優勝は鏡野高校で、私は、無欲でたたかい全勝しましたが、チーム全体は全て一本差で惜敗し、第三位に甘んじました。

昭和三十三年、徳島県警察に奉職し、警察学校を卒業後、徳島東警察署に配置転換になりました。

当時の県警剣道師範は、剣道教士七段魚沢清太郎先生でありました。特別講師として高島永吉先生が剣道指導して下さいました。

剣警察剣道部は、若手に切り替えのため、新任である私達を剣道特別訓練生要員として指定されました。特練生といっても剣道ばかりを練習しているのではなく、警察業務が本務であり、その合間を見て剣道に精進しなければなりませんでした。

一線勤務二年目の初夏、東京都小平市の関東管区警察学校に入校を命じられ、警察剣道中堅指導者養成専科生として、三週間の厳しい訓練でありましたが、有意義でありました。

警察庁主催で講師先生は、警察大学教授の小沢丘先生、同大学教授の滝沢光三先生、関東管区警察学校剣道師範の本間先生、外部講師として、長嶋末吉先生（警視庁）、小笠原三郎先生（栃木県警）、谷籙吉郎先生（愛知県警）、堀籠敬蔵先生（宮城県警）、大森玄伯先生（広島県警）、外に佐藤顕先生（埼玉大学教授）、中野八十二先生（東京教育大学教授）が見えられ、ご指導を賜りました。

又、次の年も、関東管区警察学校での剣道中堅指導者養成専科に入校を命じられ、前回と引き続き有意義な講習を受けました。

昭和三十六年から県警察本部警備部機動隊勤務になり、機動隊本務の厳しい訓練に休憩する間もなく、連日武道館へ向かっていました。

同年四月から県警剣道師範には、魚沢清太郎先生から堀江幸夫先生が就任されました。又、県警柔道師範は、山下末勝先生から

湊庄市先生に引き継がれました。県警柔道は、湊先生を初め横田和孝六段、村田利之五段とそうそうたるメンバーで四国大会はもとより、全国大会の上位入賞争いをする全国上位の位置にあり強豪の存在でした。低迷していた県警剣道は、その刺激により奮起発奮し、その後、あらゆる大会において、他の一般チームに引けを取らず、常に上位を重ね、県内において無敵の存在になりました。

堀江先生が県警剣道師範になられて、四国四県は元より全国の警察剣道に互角に太刀打ちできるように、さらに上位入賞を念頭に置き、必死の訓練が行われました。又、強化訓練として、大阪府警・京都府警において、合宿訓練を実施し、各府警の特別訓練生と合同稽古を実施しました、この際、関東・北陸・近畿・中国・四国から七県位の県警察の特練生が合同合宿に参加し、まるで、全国講習会をしているようで、みんな強くなりたく真剣に取り組んでおり、有意義な合宿訓練でありました。さらに、近畿地区・北陸地区・中国地区・九州地区遠征を行い強化を計られました。これらのお陰をもって、昇段は、昭和四十一年五月に剣道六段、昭和四十九年五月に剣道教士、平成四年五月に剣道七段に合格授与されました。国民体育大会にも四回（内第三位一回）出場しました。

六十になると直ぐ、当時の高齢剣友会会長の範士勝浦守先生の勧めで本県高齢剣友会および全日本高齢剣友会に入会し、さらに徳島県スポーツ振興財団に属する城の内高齢剣道教室（練習場所

は徳島中央武道館（週一回木曜日の十時から十一時）通称は城内剣道クラブ）に加入し、剣を通じて人の輪と心の輪を広げ、剣道の美しさ・強さ・巧さを求め、生涯に渡り情熱を燃やし、自らの体力の維持と健康を目的として頑張っています。

剣道有功賞受賞を汚さないよう、技と心を限りなく修練し、老いてもなお強い年輪の美を熟くし出すよう励みたいと思います。

今後も、皆様方の心温まるご指導とご支援・ご鞭撻の程、お願い申し上げます。



少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞を受賞して

和田島少年剣道クラブ 篠原 誠 一

この度、和田島少年剣道クラブが、全日本剣道連盟より「少年剣道教育奨励賞」を頂きました。指導者をはじめ部員・保護者一同、名誉ある賞に驚き、大変喜んでおります。これまで四十年以上にわたって継続してこられたのも、徳島県剣道連盟の諸先生方をはじめ、小松島支部の先生方のお力添えがあればこそだと感謝の念でいっぱいです。

私たち和田島少年剣道クラブは、昭和四十六年、和田島小学校に赴任された秦野先生（当時教頭）により発足しました。「前任の新開小学校で盛んであった剣道を、ぜひ和田島小学校にも」と、熱くPTAに働きかけて下さったことがきっかけとなり、その秋、和田島小学校体育館で始動しました。

発足当時、指導には、故笹倉太郎先生、故蝦名久作先生、故田村直一先生、故早川一也先生、村崎光男先生、加林恵裕先生、加林敏央先生（後育英館館長）と、新開剣道クラブで指導されていた先生方全員が来て下さいました。地元からは田村嘉男先生、藤崎広治先生（富西剣道部OB）、故加美先生（和田島駐在所）、自

衛隊員の方々も稽古に参加して下さいました。故本田秀一氏とともに私も子どもたちに混ざり、その頃より竹刀を振り始めました。

現在は加林恵裕先生をはじめ、田村義弘先生（小松島中学校教諭）、園田慎吾先生（日垂化学）、上田祥平先生（和田島小学校教諭）、太田貴義先生（富西剣道部OB）、保護者の榎原勝志先生と松浦悠紀先生、そして私が指導に当たっています。

稽古は週二回、火・金曜日の午後七時より九時まで、和田島小学校の体育館で中学生三名、小学生十四名が汗を流しています。また、月一回の市内の合同稽古会へも参加しており子どもたちにとって大変貴重な経験となっています。加入しているスポーツ少年団のイベント等では、他の道場やクラブとの交流も行っています。

和田島少年剣道クラブでは年に数回お楽しみ会も開催しています。夏はバーベキュー大会で宝探しやスイカ割りを楽しみ、冬のクリスマス会では室内ゲームで盛り上がり、春には六年生を送る会で友情を誓い合うなどそれぞれ、子どもたちにとって心に残る特別な日となっています。毎回、指導者と子どもたちの交流の場を設けてくださる保護者の方々には、本当に感謝しています。

指導方針は、「礼と和」「文武両道」「生涯剣道」の三つです。和田島少年剣道クラブの卒業生が剣道を続けること、そして子どもにも剣道をさせたいと思ってくれることは指導者冥利につきます。何年か前には、和田島少年剣道クラブの卒業生の子どもも入部してくれました。これは、ひとつの夢として心に描いていたことで、

とても嬉しく思いました。次は、誰かが孫を連れて来てくれるのを楽しみにしています。その時まで、私も現役で指導者を続けていたいと思っています。

この受賞は、当クラブ四十四年の歴史を振り返る機会を与えて下さいました。熟考を重ね、より良いクラブへと精進してまいります。そして県剣道連盟と小松島支部のため、少しでもお役に立てればと考えております。

最後になりましたが、この度の受賞にあたりご推薦いただいた徳島県剣道連盟会長をはじめ、諸先生方には心より厚く御礼申し上げます。これからも和田島少年剣道クラブに変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。この度は、本当にありがとうございました。



体育功労賞

体育功労賞を受賞して

高島 稔 之

「平成二十七年年度 徳島県体育協会表彰式」が、平成二十八年二月十一日、徳島グランビリオホテルにおいて行われ、県体育協会会長（飯泉嘉門 県知事）より、体育功労賞をいただきました。

賞をいただくことができたのは、徳島県剣道連盟三木毅会長、同藤川和秋事務局長始め関係の先生方の御推挙・御支援のお陰であると、心より有り難く感謝いたしております。

当初、お声掛けを頂いた時、中体連や教育委員会からずっと以前に、表彰して頂いた賞と混同して、「以前に、頂いているように思います。」と申し上げてしまいました。

藤川事務局長は、親切にも、「先生もご自身でお確かめください。私も再確認します。」とのことで、何日かが経ちました。私自身も確かめてみましたが、いろんな賞状等の中に、該当するものは見当たりませんでした。そうこうする内に、藤川先生からお電話があり、「調べてみましたが、賞を受けていませんので、該当者として申請させていただきます。」とのことで、この度の受賞となりました。



三木毅会長撮影

振り返ってみますと、昭和四十年に、沢谷小・中学校川成分校の教員として赴任し剣道部を創設して、六名の小学生に剣道の手ほどきをしたのが、私の剣道指導の原点です。（約五十一年前）

その時の教え子の一人が、富田正 氏（教士・七段・審議員）です。その後、二校の勤務を経て、徳島中学校へ赴任し、七年間勤務しました。

初年度の剣道部員は六名でしたが、翌年は十数名の部員となり、市中学校総体で優勝し、以後五回、計六回の優勝をしました。不思議なもので、部が強くなると、部員数もどんどん増え、県中学校総体で優勝（二連覇）した頃には、在籍部員数は六十余名となりました。その頃からは、県剣道連盟の常任理事、学校剣道連盟の事務局（後に副会長）もさせて頂きました。その後、長い

期間の教育委員会勤務が始まり、学校現場での指導からは遠ざかることになりました。その間も、自分自身の剣道の稽古は続けていましたので、剣道六段を取り、教士の称号を頂き、昭和六十二年五月（二十九年）に七段に合格し、県剣連の昇級・昇段審査の審査員もさせて頂くようになりました。退職後は、徳島県高齢剣友会（会員数・百余名）の事務局長・理事長、そして現在は会長として、生涯剣道を剣友と共に続けさせていただいています。そして、県剣道連盟の審議員・審議委員長として、県剣連の全般的な仕事にも携さわる機会を与えて頂いています。全日本剣道連盟は、剣道の理念を「剣の理法の修練による人間形成の道である」。剣道修練の心構えを「剣道を正しく真剣に学び：（中略）：常に自己の修養に努め、以って国家社会を愛して、広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである」と唱っています。後段の部分は、言い方を変えれば、『世のため、人のために尽くす』と言うことであると思います。近年、私は、そのことを強く意識するようになっていきます。

今回の受賞を契機に、生涯剣道を通して、更に尽力しなければいけないと決意を新たに致しております。この度は、本当にありがとうございました。



優秀指導者賞

優秀指導者賞を受賞して

石井中学校教諭 白 木 洋 一



平成二十八年二月十一日に徳島県体育協会より、平成二十七年優秀指導者賞を受賞させて頂きました。これは、平成二十七年の各種全国大会に於いて、優秀な結果を収めた選手の育成にあたった指導者に贈られる賞と認識しております。本校の山室和士君が、本年度秋田県に於いて開催された全国中学校総体で個人戦ベスト八（敢闘賞）という素晴らしい結果を出したおかげだと思います。

私自身、石井中学校に勤務して九年目になります。山川中学校勤務三年間の前にも、九年間石井中学校に勤務していましたので、通算十八年目となります。これまでも、全国中学校総体に個人戦のみですが、三回出場することができました。昨年度は、西條賢太君が個人戦に於いてベスト一六に進出したので、今年はそのを上回る結果が出せたことを本当にうれしく思います。優秀指導者賞は、これまでの生徒からのプレゼントだと思っています。

私は、これまでの指導経験では、初心者者の指導が多かったと思

います。もちろん現在もそうなのですが、初心者を指導することが、自分自身の指導力を高める（いや工夫する）原動力になっていると思います。【基本をいかに大切にわかりやすく生徒達に伝えるか】また【指導した内容が事実として生徒が体感できるか】、そのことに時間を費やしてきたように思います。思い返せばまだ教師として駆け出しの頃、当時阿波中学校剣道部を指導されていた故中尾誠先生に声をかけていただき、よく練成会に参加させて頂きました。あるとき中尾先生から、「白木、指導はよく子供を見てなくてはならんぞ。指導者が子供を試合で勝つ道具にしてはならん。勝ちたいばかりに本当に指導しなければならぬ癖や悪いところをほったらかしにしてはいかん。そのままにしておく、その子がずっと剣道を続けた時にその癖が直ってなかったら、『どうしてあの時に直してあげなかったか』と一生後悔する。」という指導を頂きました。試合に勝ちたい、結果を出したいと思っていた私には、頭をガツンと殴られた感じがしました。また、私の高校時代の恩師である、福井軍二先生も「お前達には十年後に伸びる剣道を教えている。」とよく話されていました。当時の私は、「こんなにしんどい剣道を十年後までするはずがない。」と思っていたのですが、自分が指導する立場になると、先生の言葉をそのまま話している自分があります。

基本に忠実に、正しい剣道を指導していく過程において、「自己満足ではないのか？」「子供達に自身の剣道観を押しつけているだけではないのか？」と自問自答する時があります。そんな

時に思い出すのが、元中体連専門部長だった富田正先生の「長い間、白木の指導を見てきたが、先生が伝えたい剣道がぶれていない。」という言葉です。指導に悩んだときにどれほど勇気づけられたかわかりません。

優秀指導者賞は、これまでの先輩方・生徒・保護者のおかげで頂いたと思っています。現状に満足せず、変わらずぶれずに指導をしていきたいと思っています。



第四十五回全国中学校剣道大会に参加して

石井中学校 山 室 和 士



平成二十七年八月二十二日～二十四日に、第四十五回全国中学校剣道大会が秋田県立武道館で開催されました。僕は、この日のために死にもの狂いで稽古に打ち込んできました。「やるべきことはやった」という気持ちに繋がるので、日々全力で取り組む！と心に決めていました。そして、この大会は、僕にとって、最初で最後の大舞台だったので、悔いの残らないよう全力で臨むことを目標にしていました。

僕が出場する男子個人戦は、午後四時頃開始で、いつもなら大会が終了するくらいの時間帯に始まります。いつもと試合開始時間が違うので、集中力だけは絶対に切らさないようにしようと考えていました。

いよいよ試合が始まり、僕の試合が近づいてくるにつれて心臓の鼓動が大きくなっていくのがわかりました。

「はじめ！」の合図とともに一回戦が始まりました。前半は、緊張のせいか慎重になりすぎていましたが、だんだんいつも通りの動きができるようになり、相手をよく見て判断し、勝ちに繋ぐことができました。その後も、慌てず平常心を保ち、一本を大切

にすることを心掛け、順調に自分のペースで試合をすることができました。

四回戦の相手は、身長が高く、独特な動きをしていたので、相手のペースにならないよう気を付けました。試合が始まり、開始一分くらいでメンを先取することができました。しかし、試合終了間際にメンを打たれてしまいました。ここで焦ってはいけない、自分がやってきたことを信じてやるだけだ！と思い、開始線に戻るまでに平常心を取り戻しました。そして勝負は延長戦まで続き、最後は自分を信じて相面で勝負し、勝つことができました。ここで、ひとつの目標であったベスト八に入ることができました。

準々決勝からは、三日目になります。相手は、地元秋田の選手でした。名前を呼ばれ入場し、緊張は頂点に達していました。試合が始まり、じっくり勝負していこうと思い、慎重になりすぎてしまったのか勝負は延長戦までもつれました。なかなか自分のペースにもっていかず、結果、メンを打たれてしまいました。結果は五位の敢闘賞でした。悔しさもありますが、まさかここまでいけるとは思っていなかったので、指導してくださいました先生方や、支えてくれた保護者の方々、共に汗を流した仲間感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当にありがとうございます。

また、この結果に満足することなく、これからも努力し、このような大舞台に立つことがあれば優勝を目指して頑張っていきたいです。これからもますます精進していきますので、御指導よろしくお願ひします。

女子都道府県対抗 優秀選手

都道府県対抗女子優勝大会に出場して

近藤 夏子



七月十五日、台風が近づいていました。予定通り十七日に出発できるのかどうか、もうすでにここから戦いは始まっているようでした。この日は、監督、審判の先生方など、多くの方が寝る間も惜しんで天気予報と出発便をチェックしてくださっていました。そのおかげで、一日早い十六日の朝の便に奇跡的に搭乗でき、余裕を持って無事東京に到着することができました。これで試合に出場できる、そう思いほっとしました。

徳島のみならず、各選手団も今回の台風には大変悩まされたように、遠回りをして何とかがたどり着いたチームも多くありました。そんな中、集中できる環境を整えていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

十八日大会当日、一番に感動したのは、会場にすべてのチームが集まっていたことでした。台風にも負けず、各チームが当たり前前に集まったわけですが、全部が揃うのは、大変だったと思います。

す。その思いを想像すると、ここにいる全員が仲間のように思えました。

いよいよ試合が始まりました。徳島は、
一回戦 シード

二回戦 二対〇 秋田

三回戦 二対一 滋賀

準々決勝 〇対二 広島

結果はベスト八でした。

みなそれぞれの持ち味を生かして、役割を果たそうと精一杯戦いました。徳島らしく正々堂々と、一つ一つの小さな力を合わせて、束になって掛かっていったという感じでした。すばらしいチームだったと思います。

平野監督は、その年代や課題に応じてご指導下さいました。結果よりも内容を重視し、あきらめず選手を信じて下さいました。

先鋒玉田真子選手は、大舞台でも自分を見失わず、堂々と戦っていました。そのがんばりは、チームに勇気を与えてくれました。

高校の監督、保護者のサポートもすばしかったです。この大会は、高校生からベテランまでの五名で編成されます。それゆえに、どうしても精神面で高校生への負担が大きくなると考えられます。

そこを監督の玉田先生、保護者が当日まで支え、また当日も会場でアドバイスをされる姿から、生徒への思いが伝わってきました。自分の高校生の時のことを思い出し、いつの時代も先生は一生懸命に思っ下さるのだなとあたたかい気持ちになりました。

次鋒西袖衣選手は、中学・高校で培った強い精神力と攻撃力を生かして、大学生ながらもチームを引っばってくれました。また前日には稽古場所を準備して下さり、頼もしい限りでした。

中堅平野千尋選手は、精神面で若手とベテランをつなぐということが言わずともわかる選手で、相手の思いに気づくことができるので、それを今大会でも表現されていました。秋田戦で引き分けが続く中、まず一本を先取し、突破口を開いて徳島を波に乗せてくれたのが平野選手でした。その波に乗って、みんなが準々決勝まで勝ち進むことができました。

副将の私は、自分の課題を持ちながら、試合では前三人の気持ちを大将につなぐ、ただそのことだけを考えていました。どのポジションもそれぞれ役割はありますが、やはり一番苦しいのは大将だと思います。大将に勝負をつなぐ、大将の負担を少しでも軽く、その思いだけで戦いましたが、力及ばず最後広島戦では残念ながら大将につなぐことはできませんでした。

大将平野悦子選手は、見ている全国の皆さんが感じたことと思われませんが、全国のどの大将の方よりも、体の動きにキレがありました。それはやはり誰よりも稽古を重ねられているからだと思います。練習試合の時から炸裂していた返し面に、みんなが何度のけぞったことかわかりません。気持ちを出していくことで、技が決まり出すことを教えていただきました。またアップや待機中も、自分のペースでするようにとやって下さり、何も気負うことなく力いっぱい戦えたのも、平野キャプテンがいてくださった

おかげです。

今後の課題とともに、思い出多き大会となりました。

応援席でみて下さっていた石田利也先生からも、「徳島、粘り強くて良かったよ」と言っていたいただき、嬉しく思いました。

このたび、優秀選手賞をいただいたのも、チームの方々、剣道を教えて下さる先生方、関わっていただいているすべての方々のおかげです。ありがとうございます。

剣道は奥深く、先生方からはもちろんのこと、少年剣士からも学ぶことがたくさんあります。

教えていただきたいことがたくさんあり、これからも剣道を楽しんでいきたいと思えます。今後ともご指導の程よろしく願っています。



第7回全日本都道府県対抗

女子剣道 優勝大会



とき _____
平成27年 7月18日 日
午前9時20分 開会
午前9時50分 試合開始

ところ _____
日本武道館

主催 全日本剣道連盟／読売新聞社 主管 東京都剣道連盟
後援 文部科学省／東京都／公益財団法人 日本武道館／日本武道協議会／日本テレビ放送網／朝日新聞社 協賛 読売アパレル



スポーツ振興基金助成事業
独立行政法人日本スポーツ振興センター



お通杯入賞

三度目のお通杯

名西支部 富 永 ますみ



十月二十五日岡山県で開催されましたお通杯に行って来ました。この大会はご存知かと思いますが、女性だけの大会で、団体戦（三人制）と個人戦があります。

個人戦に関しては、年齢別に組まれているので、けっして二十歳代と五十歳代の選手が対戦することはありません。大会前日には、網笠屋根の武蔵武道館で、短時間ではありますが、普段では中々稽古出来ない八段の先生方や、県の方々と交流を兼ねての稽古会があり、これも大会の一つの目玉になっています。私も毎年、誘って頂いていましたが、行事等が重なり中々参加する事が出来ず、今回、久しぶりで三回目の参加となりました。

私は団体戦のみ出場で、個人戦は考えていなかったのですが、「団体と、個人両方出ても参加費いっしょやけん出よ〜申し込んでくじょ〜」と主婦のお得感に押されての参加でした。

前日、徳島からは六名、真理ちゃん（玉田さん）の運転する車

に乗り込み出発しました。車中では、真理ちゃんお手製の大学芋をほおばりながら、昔話に花が咲き楽しい時間を過ごしました。これも一つの楽しみです。夕方、武蔵武道館に到着。悦ちゃん（平野さん）と合流し、武道館へ向い稽古会開始。約五百名ほどの選手で会場はごったがえし、中に入りきれない選手は廊下で面を着け、会場へ向いました。私も急いで面を着け、先生に稽古を付けて頂きました。人数が人数だけに、三人の先生にお願いするのが精一杯でしたが、色々と指導頂き、いい汗を流す事が出来ました。私が一回目に参加させて頂いた頃に比べると選手の数はかなり増えていきますので年々徐々に参加者が増えていったんです。

当日、試合は個人戦から始まり、私は五十歳代以上の部に出場しました。出場選手は八十九名。今回、この大会は私にとって、ただの「お通杯」ではなく、十一月十五日に名古屋で行われる六段審査会に向けて、試してみる大事な大会でもありました。それは、ある先生と話している中で、「私は、八段をいつでも受審出来るように、緊張した中で勝負し、勘が衰えないようにする為、試合に出ている」という話からでした。

「審査に望んでいる気持ちで試合をしよう。打たれてもかまわない、自分は打ち切ろう！」一回戦、剣先を外さない、引かない、打ち切る。二回戦、攻めて攻めて相手に打たせて、技を出す。三回戦、四回戦、五回戦と続いたび呪文の様に念じていました。気が付くと決勝まで進んでいました。隣の試合場では、悦ちゃんが

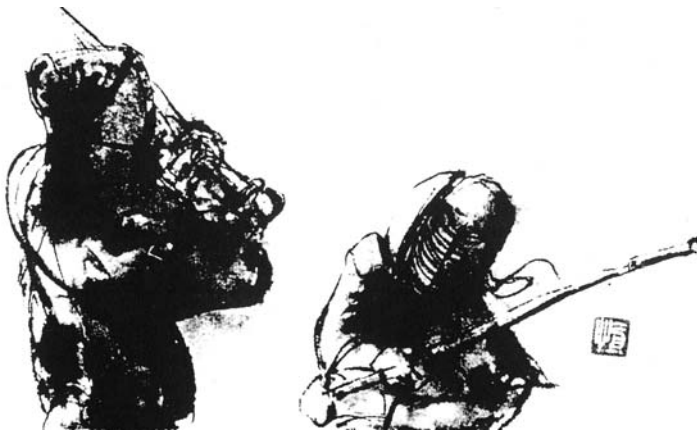
コート決勝戦を行っていました。そして、体力も気力も限界の中むかえた決勝戦。相手は井上選手（三重県）「始め！」の合図から数秒後「メーン」私は反応も出来ないまま、打たれて初めて気が付きました。井上選手は私の動きがよく見えていたんでしょ。その後打ち合いになりましたが、場外二回の「反則」負け。後で聞いた話なのですが、現役ぱりぱりで、大会ではよく上位入賞される方のようなのでした。

個人戦が終わると団体戦がすぐ始まり、徳島からは三チーム出場していましたが、健闘むなしく二回戦敗退。私も体力切れで、立っているのがやっと、年齢は嘘をつかないと実感しました。試合を終え、控え室に戻ると、あちらこちらで、他県同士「久しぶり。剣道上達しますね。」「元気でしたか?」「ご家族はお元気?」「ちょっと太ったんじゃない?」などと、お互いを讃え合ったり、近況報告をしたり、最後には「また来年、ここで元気に会いましょう。」「が合言葉になっていました。

今回試合を振り返り、準優勝出来た事、とても嬉しく思います。けれど、それ以上に自分自身「打たれたくない」「負けたくない」と言う気持ちに先に立ち、勝負にこだわった今までの剣道を見直すことも出来ましたし、自分が思っているほど若くない、歳相応の剣道をしなれば、体を壊してしまう事も十分わかりました。これからはじっくり構え、動じない、基本に忠実な重みのある剣道を心掛け、稽古に精進したいと思います。今回参加した徳島県女子剣道部の皆さんお世話になりました。そしてありがとうございます

いました。最後に、「来年もまた行こうね。」と約束して私の大会全日程報告を終わります。

追伸、かよちゃん（竹内先生）やっぱり入賞賞品のお米、我が家でも喜ばれました。



宮本武蔵顕彰女子剣道大会 「お通杯」に出場して

鳴門支部 平野悦子

十月二十五日、岡山県大原町の武蔵武道館で開催されました宮本武蔵顕彰女子剣道大会、通称「お通杯」に今年も参加してきました。私の郷里であることも含めて、一年間の稽古を確認する大会として毎年参加させていただいています。

私がエントリーした五〇歳から五九歳の部（個人戦）には八二人の参加がありましたが、各年齢別に出場する選手は、出産子育て期の三〇歳代は別にして、年齢を重ねる毎にだんだんと少なくなくなっていきます。

今年の大会も、

- 一八歳から二九歳までの部 二二名
- 三〇歳から三九歳までの部 九六名
- 四〇歳から四九歳までの部 一五一名
- 五〇歳から五九歳までの部 八二名
- 六〇歳以上の部 二四名

と、総勢五六五名の女性剣士が集結しました。私自身も大学を卒業後、結婚、出産、子育てと約一〇年間剣道から離れることになりましたが、長女（千尋）が一〇歳で剣道を始める機会に自分の剣道も再開することができました。

やはり女性は、年齢と共に体力的にも剣道を継続することが困難になっていきます。家庭の事情や健康面も考えると、剣道をこうして続けられていることに本当に感謝しなければなりません。また、それと同時に自分は一体何のために剣道が続けているのだろうか、じっくり考えてみることも必要ではないかと思えます。

剣道が一番のおもしろさは、竹刀を通して一本を競い合うことです。そのやりとりにあるといってもいいでしょう。稽古の中で打っても打たれても、また試合で勝っても負けても、この二人の間には無我夢中のやりとり、不思議な時間と空間があるのです。私はこの無心になって打ち込むことの爽快さを大切にしています。それともう一つ、女性の習い事（芸道）に見る「凜とした姿」に憧れています。ここを目指すことで、生活の中で自分の心が豊かになることを剣道に求めていければ本当に幸せであると思っています。

こうした思いで参加した大会でした。結果は第三位でした。準決勝で優勝された三重県の井上さんに見事に二本打たれましたが、自分の思いを全て表現できての敗退でしたのでスッキリと終えることができました。また、準優勝に徳島県から富永ますみさんがなられました。

来年もできることなら参加したいと思っていますので、日々の生活と健康に気をつけながら稽古に励みたいと思っています。ご指導をいただきました先生方に御礼を申し上げ、ご報告いたします。ありがとうございました。

個人戦(五〇歳～五九歳の部)

優勝 井上美奈子(三重県・三重県)

準優勝 富永ますみ(徳島剣友会・徳島県)

第三位 矢田利香子(滋賀県女子剣友会・滋賀県)

第三位 平野 悦子(徳島大体大OB・徳島県)



平成27年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	小 島 拓 也	徳 島
2	村 田 竜 祐	〃
3	山 室 和 士	石 井
4	森 本 直 希	〃
5	富 永 康 生	〃
6	中 山 真	〃
7	矢 野 郁	鳴 門 一
8	富 田 孔 明	〃
9	柳 田 有 作	〃
10	岩 本 隆 紀	那 賀 川
11	坂 野 修 造	北 島
12	吉 本 嵐 丸	〃
13	山 下 隼	〃
14	甲 谷 知 大	〃
15	榎 丸 翔 太	阿 波
16	前 田 龍 志	鷺 敷
17	大 城 尚 己	木 頭
18	葛 籠 徳 人	貞 光
19	安 部 匠	徳島文理
20	井 内 駿 也	小 松 島
21	矢 代 涼	城 東

No.	女 子	学 校 名
1	濱 本 芽 俊	那 賀 川
2	大 城 明 裕 奈	〃
3	橋 本 ころろ	〃
4	川 田 実 央	〃
5	吉 原 莉 菜	坂 野
6	松 下 愛 実	藍 住
7	蔭 山 真 由	〃
8	藤 岡 真 奈	〃
9	一 宮 琴 音	石 井
10	吉 岡 未 歩	〃
11	杉 山 夏 海	北 島
12	明 口 なぎさ	〃
13	玉 岡 真 由 子	〃
14	堺 麗 美	小 松 島
15	古 川 こまき	〃
16	鳥 井 優 花	〃
17	東 條 優 果	鳴 門 一
18	森 悠 花	〃
19	堀 出 瞳	鷺 敷
20	西 渕 光	阿 波
21	大 山 詩 織	阿 南 一
22	山 本 裕 規 奈	城 東

平成27年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	田 中 皓 己	阿 南 工
2	古 川 秀 也	〃
3	坪 井 貴 裕	〃
4	福 田 睦	富 岡 西
5	住 友 海 斗	〃
6	庄 野 智	〃
7	福 田 峻 斗	〃
8	松 本 高 史	〃
9	濱 田 諒	〃
10	熊 橋 和 真	城 北
11	吉 田 和 晃	〃
12	南 谷 飛 鳥	〃
13	森 隆 一 郎	徳 島 文 理
14	佐 古 龍 哉	〃
15	東 知 勇	鳴 門
16	早 岡 凜 太 郎	徳 島 北
17	石 川 貴 大	〃
18	荒 瀬 友 佑	〃

No.	女 子	学 校 名
1	清 水 真 優	富 東
2	深 見 桃 子	〃
3	津 田 実 穂	〃
4	野 村 愛 里	〃
5	谷 美 緒	〃
6	上 田 真 奈	川 島
7	竹 原 桃 香	〃
8	森 永 祐 奈	〃
9	民 采 加	〃
10	玉 田 真 子	徳 島 文 理
11	桑 村 美 月	〃
12	阿 部 美 優	徳 島 北
13	米 木 彩	〃

先生を偲ぶ

居合道 岸田光博先生を偲んで

剣道連盟会長 三木 毅



居合道教士七段・徳島県剣道連盟常任理事・徳島県剣道連盟居合道部々長岸田光博先生の訃報に接し、信じたい思いが全身を駆け巡りました。時間と共に事情を知ることになり、やっと現実を認識

した次第でした。

先生とは、居合道という武道を通じてお付き合いを始めさせていただきました。先生と接する時間を重ねるうちに先生の豪快なお人柄を知ることになりました。先生は齢六十七歳という余りにも短い生涯でありましたが、私を感じておりますことは、『人生って楽しいものですね』という言葉が似合う人であったと思います。一つ一つを思い浮かべますと、先生のこれまでの生涯は『強い信念』『初心貫徹』『やると決めたらやり遂げる』というようなことば通りの生涯であったと思います。

仕事面では、岸田工業をこれまで成長させ、時代の先端を駆け進み、揺るぎない立ち位置を確保されております。これは将来を見る力と決断、実行の精神が成就したものであると思います。

多忙な仕事をこなされ、寸暇を惜しみ、居合道という武道に身を置き、教士七段という高段位を取得され、さらに、上位の八段へ挑戦する最中でありました。その上お人様のお世話役という、徳島県剣道連盟の常任理事として、また、徳島県剣道連盟居合道部々長として多くの同志を束ねて見事な運営に携ってこられました。先生の先見性と明快な決断力と語り口から先生の精神を強く感じることができました。

仕事や居合道のことは、真剣勝負の面がイメージされますが、他面、人として余裕の面も持ち合わせておられ、ゴルフにしても一流の腕前でありますし、また、歌を歌えばどんなジャンルでもいとも簡単に名人芸をご披露していただき、常にムードメーカーとしてのお役を務められました。

歌にも歌われる鳴門の鯛釣りでも一流でありまして、多くの同志に振る舞っていただきました。

このような先生の振る舞いは、羨ましい、真似してみたいと思う人は多いと思いますが、先生の人生信念が築き上げた集約が先生の姿そのもので先生しか成し得ないことなのです。

先生は昨年三月に最愛の奥様に先立たれ痛惜の思いを体験されました。奥様は今極楽路の入り口付近でおられることと思います。天に召された今、奥様と再会され、もう一度羨ましいご夫婦像を見せつけていただきたいと思えます。先生が生前、示して頂いた、豪快でいつも笑顔を絶やさず、いつも前進姿勢を貫かれたお人柄を思い浮かべながら、私どもがお世話になったことへのお礼の誠をささげます。

ありがとうございます。

岸田先生を偲んで

剣道連盟副会長 原 田 勝

平成二十七年十月二十七日、突然に岸田先生の訃報を知らされ驚愕致しました。前日の二十六日には小松島の拙宅に来られて徳島県の居合道人口をいかに増やしてゆくか、来年の全日本大会の選手並びに監督の選考について相談され、本題の後は趣味の話となり、今年の鳴門海峡は気候のせいかわよりも太刀魚が余り釣れない等々、釣り談義に花を咲かせました。

その岸田先生が、数時間後帰らぬ人になられたのです。聞くところによりますと椅子に座り足を組み、頬杖をついたまま、苦しんだご様子もなく極めて穏やかなお顔で亡くなられていたそうです。豪快な人生を歩まれた岸田先生らしい最後かなとは思いましたが、痛切に人の世の儂^{はかな}さを思い知らされました。

思えば岸田先生との出会いは昭和五十三年の四月二日でした。第一回の県下居合道段別選手権大会が旧武道館で開催された時で、岸田先生は初段で出場され、以後会話を交わすようになりました。

岸田先生は同門の諸氏とともに故平尾範士に随行し、近県各地の大会に参加され、錬士六段になられてからは京都大会も欠かした事がなかったと思います。武道界の常識も良く理解されており、居合道に関しては非常に良い取り組み方をしてくられた方でした。

私とは釣りの趣味が良く合い、釣れない魚をいかにして釣るか、

時がたつのを忘れて釣り談義を交わしたものです。また、外国旅行ではタイ国を気に入り、その話をよく聞かされ、帰国すると必ずおみやげをもって来てくれました。岸田先生曰く、タイへよく行くから私の釣船にはタイ国旗を掲げているのだとも言っておられました。

ご家族の方が携帯の発信記録を調べますと最後の記録が私であったそうです。お亡くなりになる前日、私の所へ来られた時に一瞬間がやつれているように見受けられました。その時は鳴門海峡での頻繁な鯛釣りのための日焼けと、潮焼けぐらいにしか思いませんでした。今思えばあの時、私に最後の別れを言いに来られたのではと思えてなりません。岸田先生は、徳島県の居合道発展の為に部長としてまだまだ活躍してほしい方でした。若くしてこの世を去られたことが実に悔やまれます。

岸田先生は黄泉の国に行かれても居合をされ、余暇には釣船にタイ国旗を掲げて鯛釣りをすることでしょう。謹んでご冥福をお祈り致します。

合掌

岸田光博先生を偲ぶ

徹心道場 吉 岡 修 一

岸田光博先生（全日本剣道連盟居合道教士七段、徳島県剣道連盟居合道部長）の訃報に接したのは、平成二十七年十月二十八日午後八時でした。あまりにも突然のことで、にわかには信じられませんでした。亡くなられたのは二十七日の夜で自宅でくつろいでいた時に急に病魔におそわれ、一瞬にして亡くなられたようでありませぬ。

二十六日（月）夜は稽古日で道場に來られて、いろいろ指導していただきました。二十七日午前は釣りに行かれ、午後は小松島の原田範士の家に行かれ、二時間ぐらい話をされたそうで、いつもと変わらなかったとのことでありませぬ。一昨年は師匠の平尾先生、昨年は徹心道場トップの岸田先生を亡くし、大切な二人の先生を相ついで失い、悲しみにくれております。

岸田先生が徹心道場へ入門された半年後に私も入門しました。それから約四十年ともに師匠平尾先生に指導していただき、修業に励みました。岸田先生と私は平尾師匠につれられて県外の岩清水八幡宮奉納演武会・金比羅宮奉納演武・北九州居合道大会・宇和島居合道大会・京都大会・西日本地区講習会・香川居合道大会・全日本居合道大会・高知居合道大会・大阪居合道大会等々に参加しました。県内では居合道部長として、居合道講習会・昇級昇段

審査会に出席し、会の運営に尽力されました。

先生は十年ぐらい前に、くも膜下出血で頭を開けて出血したところをグリップで止めるなどの大手術をされましたが、後遺症もなく、以前より元気になりました。その時に会社の社長を娘さんに継がせて会長になられ、一線から退かれました。先生と同じ時期に手術された人で後遺症もなく、生きているのは私だけで今生きているのは「オマケ」の人生であるといつも言われておられました。

先生は異才・奇才・天才・多才と呼ばれるにふさわしい才能をもたれた人でありませぬ。大病をする数年ぐらい前に漁船を購入されて鳴門へ泊め、鳴門大橋の下のところまで釣れたようです。つれた鯛を持って行ってあげるのが大変ですが「おいしかった」と言ってくれるのが、うれしいと遠くの人のところへもあげていたようです。私も度々おいしくいただきました。すべて「タダ」でした。また、中国大陸より労働力を入れる組合のお世話をされ、雇い入れのため瀋陽（旧満州奉天）へたびたび行かれ、マイナス二十度も体験されたようです。中国の工芸用の剣を持って帰るのも大変でしたと言う話をされておられました。

若い時勤めていた会社へタイ国より研修に來ていた人と気安くなり、色々お世話をしあげたそうです。その人が帰国され手広く事業をされて成功されたので、度々タイを訪問していました。タイのプーケットで大津波があった時も、先生はタイへ行かれていたので心配をしました。タイ国のお土産はいつも薄い布で象柄

のズボンで夏の暑い時には最適で八本程いただいております。いつも二十日ぐらい行っておりましたので明日にも稽古に来られるような気がしてなりません。

葬儀に際しましては剣連の先生方にお世話になり、特に葬儀委員長を心よくお引受けしてくれました三木会長にお世話になり、誠にありがとうございました。お通夜に徳島県知事の飯泉さんがこられましたこと、先生の幅広におつきあいがうかがわれました。六十七歳という若さで、十五年か二十年早いと思われるが、これもしかたありません。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



宇和島居合道大会で最高賞の伊達賞のカップと副賞の掛軸



第50回全日本居合道大会
出場した監督、選手と（亡くなる10日前）



岸田先生が居合道七段に昇段された時の祝賀会



高田豊先生を偲ぶ

徳島支部 中尾正輝



平成二十七年十一月九日高田豊先生のご逝去の報に接し、言い知れぬ喪失感が心を駆け抜けた。先生が残された功績を偲び衷心より哀悼の意を捧げる次第であります。

先生は、昭和二十四年に本県警察官を拝命され、昭和五十五年
に退官されるまでの三十一年間、警察署長、県警察本部の捜査第一課長等を歴任され、本県の治安維持に、また、四国管区内警察
剣道大会の選手として活躍される一方、警察署長時代には、署の
道場を解放し、少年剣道等の発展に尽くされました。

教養課長時代には、警察剣道部会を立て直し部会の発展にもご
尽力されました。先生は退官して本格的に剣道に取り組まれて、
武道館での朝稽古、夕稽古、連盟の稽古会等々参加されていまし
た。

こよなくお酒を愛され、稽古の後で寿司屋さん等でご馳走になっ
た頃が懐かしく思い出されます。

昭和六十年の三月、「中尾君、京都へ行こうや。」「何しに行く
んですか。」「七段の審査を受けに行くので私の車に君も同乗して
行こう。」とのことで、私も五月に行なわれる七段審査をともに

京都で受審することになりました。

審査での先生の立会いは、素晴らしいものでした。初太刀は、
得意の「突き」が決まり、相手が横転、一瞬静粛が走りました。
もちろん、高田先生は合格、私も合格したため、二人とも気分爽
快、剣道談義で帰宅したのが、ついこの間のようです。

先生は、副会長等歴任された本県剣道連盟の重鎮でした。
平成十年体育功労賞、平成十九年剣道有効賞を受賞され、益々
意気盛んでしたが、七十八歳にして胃癌におかされ、剣道から離
れられていました。

持ち前の、根性と気力で再び竹刀を握られ、稽古されるお姿は
矍鑠かくしゃくそのものでした。

先生をお送り出来なかったことが、残念でなりません。ごゆっ
くりとお休みください。思い出は、沢山ありますが、高田豊先生
のありし日を偲んで筆を置くこととします。

合掌

高田豊先生

大正十四年二月二十一日生（享年九十一歳）



昭和45年 1月 警察剣道部会
前列左端 高田豊先生



平成12年 警察学校体育館で
前列右端 高田豊先生

高田豊先生を偲んで

出会いと別れ思い出すままに

板野西支部 松 田 三千子

平成二十七年十一月九日高田豊先生の御逝去のお知らせをいただきました。驚きと悲しみで目の前が暗くなってしまいました。先生の存在が精神的に大きな支えになっていたことを改めて知らされました。藍住剣道スポーツ少年団、私個人にとりましても非常に残念でございます。

一昨年の秋頃だったでしょうか。療養中とのことで御自宅へお見舞いに寄せて頂きました。先生の大好きな日本酒を持参したところ大変喜んでくださり「お酒は毎日飲んでいりし、嘸まなくてもいいからな。」とユーモアいっぱい。その日は体調も良く剣道への情熱も衰えることなく話題も尽きませんでした。

高田豊先生は大正十四年二月二十一日生れ、今年で九十一才になられます。同じ藍住町に在住し、私と先生との出会いは昭和五十二年四月でした。藍住剣道スポーツ少年団結成と同時に我が家の子供達三人も第一期生として入団させて頂きました。当時の入団者は一二〇名余りで発足致しました。毎回稽古を見ていました所、先生より「素振りだけでもされたらどうですか。」とお声を掛けて下さいましたのが、私が剣道を始めたきっかけとなりました。一、親子で共通の話題ができる。

二、家庭教育の一貫になる。
三、女性として美容と健康になる。

この三点をキャッチフレーズにして輪が広がり始めました。当時のママさん剣道の走りだったのでしょうか。

昭和五十六年四月、高田豊先生との出会いから三年後、藍住町全域の署名運動、有志の活動と努力の結果、待望の藍住町立武道館が開館致しました。落成記念行事（こけらおとし）として（故）堀江先生、手塚先生、諸先生方の絶大なるご支援ご協力を頂き、県下女子剣道大会を開催する運びとなりました。大勢の女性剣士が竹刀を交え熱戦を繰り広げ親睦も深まり意義のある大会となりました。大会運営にあたっては高田豊先生を筆頭に指導者の先生方、各関係者の方々のお力添えがあったからこそと今も深く感謝をしております。

「先生はこよなくお酒を愛していましたね。」

長年の月日の中で何度か県内外へ交流稽古や試合に御同行させて頂きました。ご当地の美味しいお料理に舌づつみ一献お酒が入りますと饒舌になられる先生の剣道談話に耳を傾けました。あの日あの時はとても楽しい時間でした。

その中でも、最も嬉しいお酒は、昭和六十年五月に、先生が七段位を取得された時のことです。盛大に祝賀会が開催され祝杯を交わす若き日の先生の笑顔が忘れられません。宴の席で「何事においても自身が求める気・肝があると道は開ける。求道心だな。」とアドバイスを頂きまして当時三段を目指していた私には勇気

付けられるお言葉でありました。

また、ある日の稽古後、さりげなく「この竹刀バランスがいいよ。」と一本の竹刀を手渡して下さいました。「頑張れよっ！」と先生の思いが伝わり胸が熱くなったことは、つい昨日のことのように思い出します。今となりましては唯一の形見となってしまいました。

平成十二年の稽古始めに先生より「剣道日誌を付けていかれては！」とアドバイス頂き、さっそくノートに注意ポイントを書き込んでいきました。本当に反省ばかりで、改めて読み返しながら更に先生の教えを守り今後も精進を重ねてまいります。

今、私の脳裡には厳格さの中に慈愛にあふれた先生の思い出が去来致します。威風堂々とした竹刀を構えた立ち姿が目に残っていて離れません。

先生 お別れですね…。

長きに渡り、ご指導を賜わりまして本当にありがとうございます。ありがとうございました。

我が胸に剣道理念抱きしめて…

小川忠太郎範士のお言葉より

天国へ旅立たれたことでしょうか。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

感謝の気持ちを込めて

合掌



高田豊先生を偲ぶ

藍住の剣道と知友会

板野西支部 兵頭新平



藍住剣道スポーツ少年団が（故高田亮先生、原多三夫先生）により結成され、少年剣道の指導が始まる。その数年後には少年の団員数が多い年には百二十名を超え、非常に盛んになり、多くの指導者

が集まるようになった。

また、婦人剣道部が故多田義弘先生により結成され、部員は少年剣道の父兄等の初心者ほか一般の剣道再開者などが集まり稽古会を行うようになった。数年後には、第一回藍住婦人剣道大会（参加者は女子高生、一般女子）が開かれ、年々盛んになり大会も回を重ねて行った。（この婦人大会はその後、徳島県剣道連盟主催の女子剣道大会という行事名で組み込まれることになり、ちなみに平成二十七年の大会で第三十六回目を迎えた。）

そのころ、藍住武道館では少年団の指導者、婦人剣道部のほか、藍住近隣の一般の剣道愛好家が多数集まり道場いっぱいになって盛んに稽古をしていました。稽古仲間の昇段者、高段位合格者も数多く輩出するようになり、自然と飲み会等も多くなりました。

ある飲み会の時、高田豊先生より提案があり、これだけ多く

（交酒、交剣）の人達が集まるようになっていたからグループ名を付けて活動してはどうかと言うことで、出席者が意見（名称）を出し合い、酒友会（チュウユウ会）という名称になった。しかし剣道の垂ネームには具合悪いということで（酒）を（知）に変えて「知友会」ということに決まり、会員を募って活動することになりました。

その後も高田豊先生をはじめ、剣道連盟の先生方ほか多数の先生方が稽古、ご指導に来ていただき知友会は益々盛んになり、お蔭様で会員の剣道技量も世間と同等のレベルになれたように思います。そうしている中、高田豊先生が大病を患い、入院を繰り返し闘病生活を強いられるようになるとともに、知友会もだんだん活気がなくなってきたのが現状です。

あれから四十年残念ながら高田豊先生が昨年（平成二十七年十一月）に亡くなられました。高田豊先生からはたくさんのことを教えていただきました。

私も、もう六十七歳、今では高齢剣友会に入会し、若手ではありますが、高田先生に教わった一部であります。「交酒、交剣」を楽しんでいるところであり、私はそのような先生に出会えたことを心から感謝しております。

高田豊先生どうもありがとうございました。

合掌

濱田逸郎先生を偲んで

阿南支部 北 條 憲 治

「ダンディで豪剣、そして、穏やかな人柄」

私が先生と初めてお会いしたのは、昭和四十八年、阿南少年剣道教室が阿南警察署の三階で練習をしていた頃であったと記憶している。大きい体から、気迫のこもった大きい声―一瞬の一撃―。

その昔、羽ノ浦町古庄に浅川道場が在りました。現在の浅川酒店で、鑄形智也剣士の母方の実家でもあり、鑄形剣士の曾祖父が道場主でした。その道場に、剣道好きの若人が、多く集って剣道をし、汗を流し、交流を深めていたそうです。そのメンバーは、遠藤一美先生、故株木芳夫先生、濱田逸郎先生、共に大正十四年生まれと同級生、一級年下で故尾崎行男先生（活躍中の菱本剣士の母方の祖父）又、一級年上の川野先生たちでした。阿南支部の新年互礼会や忘年会、昇段祝賀会等の酒席では、昔話「若き日の武勇伝」をよく聞かされました。今に思うと戦前の男子血気盛んで意欲旺盛なよき時代であったのでしょう。

濱田先生は羽ノ浦少年剣道教室でご指導に当たられ、多くの少年剣士、又中堅指導者の育成にも長年にわたりご尽力なされました。故芝原功一先生、森真一先生、平正明先生、又、加藤貴子先生、加藤真吾先生達が、濱田先生の教えを今に引き継いでいます。

「剣道とは何か」今後一層の精進と、剣の理法の修練を重ね、

資質を高め、同じ志を持つ剣士と共に後輩に先生の教えを伝える事が、一番のご恩返しだと思っております。最後になりましたが、先生のご遺徳を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌



濱田逸郎先生を偲んで

阿南支部 平 正 明

平成二十七年十二月九日午後四時頃、濱田先生がお亡くなりになりましたとの連絡を受け、すぐには信じ難く、ご自宅に伺うと孫娘の千秋さんが在宅で、先生の様子を聞くことができました。

先生は当日の朝、胸がせこいとのことで病院にて検査を受けたところ、肺に少し水がたまっているとの診断だったそうで、病室では午後一時頃までは普通に話されていたそうです。ところがその後、容体が急変し十分後に息を引きとられたとのことでした。

濱田逸郎先生は徳島県剣道連盟の役員、徳島県高齢者剣友会の会長も務められ、羽ノ浦少年剣道教室の指導と長く徳島県剣道の発展に尽くされ、平成二十二年には全日本剣道連盟より剣道有功賞を受賞されております。

羽ノ浦での水曜、土曜日の朝稽古は、濱田先生が昭和六十二年四月より櫛淵小学校体育館から始められ、羽ノ浦中学校武道館に稽古場所を移してからは、南は（故）平岡先生、張西先生、西は糸谷先生、阿南支部の遠藤一美先生と、多くの先生方と共に汗を流されていました。平成二十年に濱田先生が悪くされていた膝の悪化のため竹刀を置かれてからは、中山啓男先生、福井軍二先生の指導を得ております。現在は私と剣友と共に、濱田先生の遺志を継ぎ、土曜日の朝稽古を続けて行かなければと考えています。

私と先生との出会いは昭和六十二年四月、子供二人と共に羽ノ浦少年剣道教室に入室したときです。当時、濱田先生は六十一歳で、体が大きく見るからに怖そうな先生でしたが、指導はやさしく、子供の良いところがあれば大きな丸をつくり褒めて育てる指導でした。ただし、礼儀には厳しく稽古場所が体育館であっても、剣道の稽古中は道場であるとの教えを厳しく指導されていました。私は当時二段ではありましたが、指導員の一人に加えていただき、子供達と共に稽古した後や、土曜日の朝稽古で先生に稽古をつけていただきました。先生に掛るとすぐに息が上がり、苦しいままに打ち掛るとすりあげられ、動きが止まるとスーッと間合いをつめられ先に打たれる、この繰り返しですぐに掛り稽古となるのが常でしたが、この稽古のおかげで、三、四、五段と昇段することができたのだと思っております。

六段受審においては「すり上げ技を打て、特に面すり上げ面が打てれば受かる。」との指導で濱田先生に面すり上げ面の稽古をつけていただきました。先生の面すり上げ面は、すり上げられた時点で負けを認めなければいけないほど、素晴らしい技であったと思っております。私も先生の指導と稽古に励み六段審査の際、面すり上げ面に臨みましたが、ことごとく失敗。審査後報告すると、また稽古しようと思いましたが、ことごとく失敗。審査後報告すると、面すり上げ面（面返し面に近い）が打てたのは七段合格の時、先生に報告すると電話の前で待っていたよと、大変喜んでいただきました。濱田先生の御存命中に七段合格の報告ができ、少しは御

恩返しができたのかなと思っ
ております。

濱田先生は人に迷惑をかけ
る事のお嫌いな先生で、高齢
剣の南部地区稽古会では、お
顔だけでもだされてはいかが
ですかとお誘いしても、皆さ
んに迷惑をかけたらいけんと
遠慮されるような、相手の心
を思いやる優しい先生でした。
最後までご家族のお世話にな
ることなく、九十歳の天寿を
全うされ、本当に濱田先生ら
しいご最後ではなかったかな
と、今しみじみと思い返して
おります。ここにこれまでの
ご指導に感謝申し上げますと
共に心からご冥福をお祈り申
し上げます。ありがとうございます
이었습니다。



羽ノ浦朝稽古 羽ノ浦中学校武道館



徳島県高齢剣友会（南部地区）稽古会 阿南スポーツ総合センター 平成17年7月16日

全国講習会報告

平成二十七年

第五十回剣道中央講習会報告

柴田宗忠

今年度の剣道講習会は平成二十七年四月四日土曜日、五日日曜日の両日、教士七段三十四名、教士八段二十三名、合計五十七名の受講生の参加で神戸市立中央体育館にて行われました。本県からは、藤川和秋先生と私二名が参加させていただきました。

四日九時三十分から開校式及び趣旨説明が行われ、福本修二副会長兼専務理事より挨拶がありました。また、講師の先生方の紹介も行われました。千葉県から、加藤浩一範士、大阪府から、太田友康 範士、東京都から、梯正治 範士らそうそうたるメンバーであります。

まず、十時よりJADA（ジャパン アンチ ドーピング アソシエーション）の新井谷正代 先生より約五十分間お話を伺いました。スポーツ界は厳しい世界でドーピングが氾濫している。しかし、剣道界はまだ汚染されていない。将来、安心してはいけませんという講義でありました。不謹慎ではありますがすばらしい面が打てる食べ物や飲み物があれば知りたいものです。

十一時からは、加藤範士による指導法の講義でした。「剣道を通じて人間形成を行う道である」、茶道や柔道等〇〇道と言われるものはすべて人間形成の道である。相手を尊重する心が最も大切である。非常に耳の痛い言葉であります。相手を尊重することもあります。年とともに批判したりともすれば悪口に及ぶこともしばしば、反省しきりでありました。また、剣の理法についてもお話がありました。これは、剣道指導要領にも記してありますが、「理にかなった打ち」であり強引な打ちや、フェイント、または、当てるだけの打ちは理にかなっていない。相手の心を打つのが肝心であるとのことでした。「無理無し」「無駄無し」「無心」をもって打ち切る。極めるとはこの三つをもって技を出すことを話していただきました。一方、実技の指導法では基本に忠実である「一足一刀の間合いから、一拍子で打ち切る」これが最も大切である事を力説されていきました。まさに同感であります。午後十二時四十五分からは、加藤範士による「木刀による剣道基本技稽古法」の講義が一時間、十四時より全講師による剣道指導法の講義を約一時間十五分。さらに、救急法ではAEDの使用法等三十分間、盛りだくさんの内容であります。

さて、いよいよ本日最後のプログラム待ちに待った稽古会です。まずは受講生同士の周り稽古、途中より講師の先生方も参加しての稽古、あつという間の約六十分間でした。

翌日、五日は九時から十一時三十分まで二時間半、太田範士による日本剣道形をみっちり講義していただきました。特筆すべき

は、四本目の切り結びの位置について、これまでより低い位置で行うこと、また、小太刀の三本目は正しく半身の構えをとると言うことでした。

十二時十分からは、梯範士を中心に全講師による審判法の講義でした。受講生が実際に審判旗を持つての実技講習でしたが、梯範士から厳しい指導や励ましの言葉が有り、緊張の連続でありました。二時間半の講習が非常に長く感じられました。

以上二日間に渡る講義の内容や感想を簡単に書かせていただきました。詳しい講義内容については、昨年五月十日に行われました、平成二十七年剣道伝達（春季）講習会で配布された、藤川和秋先生が作成された講習会資料に記載されております。



居合道中央講習会に参加して

居合道部 森 将 夫



平成二十七年九月五日（土）と九月六日（日）に京都市武道センターにおいて、全日本剣道連盟主催の第四十二回居合道中央講習会に原田勝先生と私が参加させていただきますました。

この講習会は各都道府県で指導的立場の者を対象に全剣連居合と審判実技の講習を行って技能の向上を図ることを目的としたもので講習内容を正しく伝達する為の伝達講習会を実施することが義務付けられています。受講人員は東京四名、埼玉・千葉・神奈川・愛知・大阪・福岡三名、その他の道府県二名の計一〇二名です。併せて第五〇回全日本居合道大会（福岡剣連主管）の審判員候補者を含むものです。

講習一日目（九月五日）は午前九時より全剣連松永副会長をはじめ役員・講師が参列し、開講式が行われました。居合道委員長河口範士から日程と講師の役割分担が説明され講習に移りました。まず全剣連居合について解説を小倉範士が担当し、技の一本一本について、要義、着眼点、指導要点が解説され、草間範士の演武で範が示されました。懇切丁寧な説明のあと質疑応答に移り六本目の中段の質疑も詳細に解説されました。全剣連居合は解説書の

通りで何も変わったところはありませんと事です。続いて、受講生を六班に分け、各講師による個別指導が行われました。私は五班で草間範士の指導を受けました。実技講習で全剣連居合が正しく伝達できるようにと、講師の先生から熱心な指導を受け、受講生も真剣に稽古を繰返し行い、又最後にはその成果を見るべく八段以上と七段以下の二班に分けて全体の演武を行い第一日目の講習が終わりました。

講習二日目（九月六日）は午前および午後前半を迫野範士、三谷範士の担当で審判講習が行なわれ、直ちに実技指導に移りました。その中で主審の発声は大きく、旗の上げ下げの判定は三審判員同時に行ない、又旗の上げた手の方向角度等の細かい指導がありました。

実技指導は受講生が選手役となり、第五〇回全日本居合道大会の審判員候補者全員が主審、副審と立場を替えながら、旗の上げ下げから立ち居振る舞いの基本動作の指導、しかも判定理由を問いただされる等、厳しい訓練が繰返されました。又、試合中の負傷に関する確認も実技指導がありました。審判員候補者以外の受講生全員の審判実技講習もありました。

その後、各流派に分かれての古流の研究の講習が行われ、無双直伝英信流は三谷範士が指導し、原田範士が号令をかけ、八段の先生と七段以下の先生が向かい合う形式で正座の部、立膝の部の交互抜きを行いました。「道場によって多少異なるところがあっても大差がないので教わったとおり稽古してください」とのこと



でありました。
閉講式は午後四時にあり河口委員長より二日間の成果が充分にあっ
た。受講生は全日本居合道を正しく伝達して欲しいとの事でした。
その後散会となりました。



受講内容は九月二十日(日) 松茂第二体育館において原田勝先生
の解説、私が実技を担当し、伝達講習会を実施いたしました。



平成27年度(第42回)居合道中央講習会 日程表

平成27年9月5日(土)～6日(日)

(於・京都市武道センター)

全日本剣道連盟

	9月5日(土)	9月6日(日)	
9:00	開 講 式		9:00
9:30	全剣連居合	審判実技	
			11:30
12:00		質疑応答	12:00
13:00	昼 食	昼 食	13:00
	全剣連居合	古流の研究	
			16:00
17:00		閉 講 式	

第五十三回剣道中堅剣士講習会に参加して

阿南支部 二反田 和 則



初夏の平成二十七年六月十七日（水）から二十一日（日）五日間、奈良市中央武道館に於いて上記講習会（柳生の会）が行われ、参加させていただきました。

講習生は原則として、剣道教士七段で五十歳以下の者で、全国から六十三名が集まりました。その中でも警察官・刑務官・教員が大半を占めておりました。

以前から機会あれば参加を望んでいましたので、未知の世界で自分自身を鍛えてみる絶好の機会でありました。初日、会場に到着し、早速開講式があり、全剣連の講師先生から「自分の限界を越え、最終日には新たな自分を見つけ下さい」と叱咤激励をいただき、即講習開始です。本講習会は、三グループに分かれ講師先生の身の回りのお世話・道場の清掃（雑巾け）・食事の準備、とローテーションで行います。

防具を着け、素振り・すり足・打ち込みを徹底的に行い、特に素振りには、百本素振りを一セットとし、何セットか繰り返して緊張と疲れで初日から筋肉痛でしたが、「歳を忘れる！」と激が飛ぶ中で真剣に取り組みました。休憩中、顔見知りの講習生見つけ、境地を語り合い、暫しリラククスできました。時間が経つにつれ、

各県の講習生とも剣友になりました。今回八段の講習生も参加しており、立ち姿、所作等色々と学ばせていただきました。宿に着くと五人一部屋で五日間お世話になりました。束の間の休息は風呂場と部屋での飲み会で心地良い一時でした。翌日は五時起床で六時には会場到着で、規則正しい時間が続き梅雨で剣道着、防具は乾かずでしたが身に着け、気持ちを切り替えて即稽古の日々でした。

指導法・稽古の繰り返しで最難関は四日目に行われた千本素振りでした。百本一セットは常時でしたが、いざ休憩無しの稽古、百本までは意識できましたが徐々に意識が薄れ無の境地に陥り、背中に汗が流れ、足元は汗が溜り必死で振り続け振り終えた時、爽快感、達成感のみでした。手の平は皮が大きく剥げ、所々水膨れ状態でまさに、先輩たちが言っていた講習会でなく強化合宿の意味が解ってきました。全ての事を忘れなくては、自分が鍛えたものが出てこない心境になりました。日々新しい発見がありました。道場内は新鮮な雰囲気常在に漂っていました。

最後になりましたが、本講習会の機会を与えていただきました、県剣道連盟の先生方、五日間お世話になりました、講師先生、講習生、皆様に感謝いたします。これからも、ご指導、ご鞭撻の程よろしく願います。これからも感謝の気持ちを忘れず精進してまいります。ありがとうございました。



平成27年度（第53回）剣道中堅剣士講習会
平成27年6月17日（水）～21日（日） 於：奈良市中央武道場



平成27年度（第53回）剣道中堅剣士講習会日程表

平成27年6月17日（水）～21日（日）於：奈良市中央武道場

全日本剣道連盟

	6月17日(水)	6月18日(木)	6月19日(金)	6月20日(土)	6月21日(日)
起床 6:00					
6:30					
7:30		稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師
9:00		朝食	朝食	朝食	朝食
9:30					
10:30		審判法 梯講師 大嶽講師 他全講師	指導法 浅野講師 他全講師	指導法 石塚講師 他全講師	スポーツ医学 佐本講師
10:45					質疑応答
11:00					閉講式
12:00					
13:00	講師打合せ会議				
13:30	講習生集合 講習生事務連絡	昼食	昼食	昼食	
14:00	開講式				
14:30		指導法 作道講師 他全講師	木刀による 剣道基本技稽古法 上垣講師 千葉講師 他全講師	日本剣道形 中田講師 松田講師 他全講師	
15:30	講話 松永副会長		指導法 亀井講師 他全講師 (区分稽古)		
16:30	指導法 石塚講師				
17:30	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	
18:30	入浴 夕食	入浴 夕食	入浴 夕食	入浴 懇親会	
19:30					
消灯 22:00					

◎講師の都合により変更の場合もあります。

平成 27 年 6 月 17 日～21 日
奈良市中央武道場

第 53 回剣道中堅剣士講習会

作道 正夫 指導委員会

指導法を考える — 「剣道指導要領」「剣道講習会資料」

①俯瞰的剣道史<中世（実用文化、武術）— 近世（芸道文化、武芸）— 近・現代（競技文化、武道）>

「創造なき継承は形骸化をもたらし、継承なき創造は稚拙の域を出ない」

（森政弘、ロボット工学博士）

- ・「剣道指導要領」P 5～10 2章 剣道の在り方（理念、修練の心構え、指導の心構え）
3章 剣道指導の在り方 第1節 指導者 第2節 指導のねらい 第3節 指導の展開 第4節 技術の修習と稽古に対する指導 第5節 指導上の留意点
- ・「剣道講習会資料」P 4 指導法講習における基本的事項【講義】指導者の在り方・指導の在り方【実技】打突の基本的理解・具体的指導要領
指導法講習における〔重点事項〕（7項目）

②「老若男女、三世代共習共導」という素晴らしい文化性 — 今日的情報文化社会にあって、極めて大切な人と人の直接的な関係性の場の確立 — 情報に振り回されがちな今日社会（学生のペーパー、論文） — 新生人類一万年の歴史 —

③「瞬間々々の自己の創造」（剣道の本質的特殊性）— 今のこの、自己の精一杯の働きの開発（自分で自分を自分する）

④「双拳剣の理（攻防一如）を体解していく道」— 攻撃と防御が2つにならない剣捌きが求められる — 剣<刀—木刀—竹刀>道 — <点（剣先）と線（刃筋）と面（鍔）>の継承と「本體は體の事理なり」という師弟同行の体解が求められる。

⑤「意味のある相互作用」— 常に指導者に求められているもの — 指導者にとっては修練者の<打つ、突く、かわす>という一挙手一投足、そのどの行為をも人間としての自己存在の意味や価値を開示している現象であるものとして捉える姿勢が求められる — 指導者にとって、この観点こそが大切である。

見取り稽古の低迷化⇄大会会場の巨大化（現象的レベルでの観戦）

技の工夫（南郷理論①技の形を覚え込む②覚え込んだ形を自分のものにする③自分のも

のとしたものを使いこなせるようにする。㊦㊧創出 ㊨使用)に至る取り組みを醸成していくことの大事。

<剣道の対人的、運動的、技術性>(技の使い方を考える)

剣道という運動は<移動>をするという運動と<打突>をするという運動の結合運動である。そしてこの結合運動をつぶさに観察してみると、2つの典型があることに気付く。その1つは「すり足」によるスムーズで素速い小さな重心運動による「打突」であり、もう1つは「踏み込み足」によるダイナミックで瞬発的な大きな重心運動による「打突」である。両者共、体軸の前後、左右のブレ、上下動等の少ない安定移動によって上肢での正確な打突が保障されていることにその特徴がある。前者を<いつでも打突ができる>内容として<待—できる>、後者を<いつでも打突にゆける>内容として<懸—ゆける>として捉え、その<対人的・運動的・技術性>の洗練深化が求められる。そもそも剣道という運動は個人の最高運動能力の発揮を課題とする個人運動レベルと、刻々と変化する相対関係において、<いつ、どこで、どのようにして>効果的に先の個人的レベルの運動を発揮するのかという対人的運動レベルとが二重構造になっている運動である。

攻め=A、打突=B、残心=Cという3つの局面から構成される技の対人運動としての局面構造図は、以下の様な図式となる。

$$A + B (a \cdot b \cdot c) + C$$

Bの(a・b・c)は、技の個人運動レベルにおける準備=a、主要=b、終末=cの局面である。

Aは相手との「構え」と「間合」の攻防であり、<いつ、どこで、どのようにして>、B(a・b・c)を効果的に発現するかを決定していく重要な局面なでもある。そこでは、「よみ・予測」を伴いながらも常にいつでも打突にゆける(懸)状態を維持しつつ、もしも打突してくれば、それに応じていつでも打突できる(待)内容を兼備している「構え」内容が要求されてくる。Cの残心は、技の決めおよび技後の処理の事である。具体的には、Aの技を打ち出すまでの攻めの充実を受けたB(a・b・c)の打ち切りの厳しさとして学習されるものであるが、失敗時には、すぐさまAと連結して循環的な運動となるべく、次のBへの導きをスムーズなものとして技を連続させるものである。

(1)技学習の場面設定

形は約9歩の間合と打突攻防の間合とをいったりきたりする様式を持っている。これを竹刀・防具剣道に移行させるならば、触刃と交刃の間合での技前の構えと間合いの攻防<A>に<5秒>くらいが必要である。この間に ①両者共に自らの元気のポンプアップをは

かり（集中力を向上させ、構えの充実をはかり、構えの3点ポイント〈左膝・ハセの拍子・左肩の巻き落とし〉をチェックする）、②見て〈観察—観見二つの目付け〉③触って〈触手—剣先はセンサー〉④捌いて〈対応—構えと間合の攻防〉によって、よみ予測を立てる。次にこのよみ予測に基づく間詰めで、技前の主導的な攻めを構成する〈作り—Aとaの攻めと打ち出し〉を前付けするのに〈3秒〉、そこではじめて技が発現される〈1秒〉。このような場面の設定によって、1本1本の技を丁寧かつ大事に習得していく。（技前の5秒、3秒のすすめ）

（2）「体中剣」の習得

柳生新陰流では「内と外、上と下、心身足と懸待、動静をたがいにすべし一方にかたまりたるはあし」として初歩的段階では、構えにおける二律背半的意識作用の大事を説いている。ここでは構えの「懸待一致」の第一を「足を懸、手を待」とし、これを基本中の基本（体中剣）として捉え「正面打ち」と「小手打ち」とを学習する。

- ① ハセの拍子をとって、体軸の縦の線（正中線）と横の線（肩の線）の十字架を崩さ（動かさ）ない。
- ② 踏み込み足に入っても若干、手が遅れて出ていくような体感
（下懸上待の二律背半的な意識作用を持つ）
- ③ 剣先が大きく、又小さくても相手の正中線を鋭く割り込む
（自分の体中正中線上に剣先と右拳とを待機させたまま打ち出す）
- ④ 相手の剣先が表裏へ小さく外れる瞬間（面と小手と同じ打ち出しとなる）
- ⑤ 少し近間の一足一刀から、段々と遠間の一足一刀へ。足使いの3様〈ジリジリと間詰める・右左と一歩、サッと入る・左足のみで間を盗み入る〉（構えと入りと打ち出しが三つにならないように）
- ⑥ しっかりと打ち切り、打ち抜けてから正対して構える。

審査を受ける心構え

範士八段 浅野 修

- (1) 立会の前に大事なことは、着装、礼法所作、これも審査の対象となります。
- (2) 左^{ひだりこぶし}拳、左足（審査員は横から見る）
所謂^{いわゆる}正しい正眼の構えが出来ているか
頭上満々、脚下満々で寸分の隙も無い構え
堀口清先生（構えの隙を心で補い、心の隙を構えで守る）
- (3) 気位、風格^{にじ}が滲み出ているか
- (4) 一足一刀の間合いでの攻防一致、捨て身の業を出し切っているか
「打って勝つな、勝って打て」
- (5) 手の内の冴え
- (6) 一足一刀の間から積極的に、攻めの心が剣先^{けんせん}に兆^{きざ}しているか（剣先から炎が出るか、剣先に目が点いていなければ駄目）
剣先で攻め、気で攻める
観察（攻防、読み）から決断（技を出す）残心
- (7) 起こりを捉^{とら}え、一拍子で打ち切っているか
- (8) 古流、形により姿勢、足の運法、退捌き、間合、機会、手の内、呼吸等を学ぶ
- (9) 手で打つな足で打て
足で打つな腰で打て
腰で打つな心で打て
- (10) 隙がなければ 打たない
隙があれば^{のが} 逃さず打つ
隙がなければ作って打つ
- (11) 竹刀は手で振らないで心で振る剣道を心がける
身心学道（正しい心をもって学ぶ）
冷暖自知（自分の身体で自得する）
審査員全員が合格の丸を付ける稽古を日頃から心がける。そして審査を平常心で、受審すること。

宮本武蔵 五輪書

「何事もよくよく吟味、工夫、鍛錬、分別し稽古をしなさい」

第二十回女子剣道審判講習会

徳島支部 玉 田 真 理

平成二十七年五月九日から十日の日程で、兵庫県立武道館に於いて、第二十回女子審判講習会があり、徳島県から今年は岩木淳子先生と二人で出席させていただきました。

審判法講習における【重要事項】

審判員は、剣道試合・審判規則の理解のもとに、以下の事項に留意して、適正な試合運営に努め、試合の活性化を図る。

記

- 一、試合内容を正しく判定する。
- 二、有効打突を正しく見極める能力を養う。
 - ①有効打突の条件と諸要素の理解
 - ②技の違いと錬度に応じた打突の見極め
- 三、禁止行為の厳正な判断と処置をする。
 - ①行為の原因と結果の正しい見極め
 - ②禁止行為に対する的確な処置

以上

ご指導を頂けた役員・講師の方々は以下の先生方でした。
役員

全日本剣道連盟 会長	張 富士夫
副会長	松永 政美
副会長兼専務理事	福本 修二
試合・審判委員長	梯 正治
講師	
剣道範士	島野 泰山
剣道範士	大嶽 將文

試合・審判委員	笠村 浩二
試合・審判委員	中島 博昭
試合・審判委員	林 信雄

講習生 全国より 七十三名

受講生名は剣窓六月号に記載あり

* 鏢競り合いの解消について

最近の審判は、有効打突や禁止事項の見極め等が、可なり良くなっていますが、現場では諸々の難問、疑問を抱えながら審判をしているのが現状であります。その一つが主審の専決事項であるところの、鏢競り合いの解消で有ります。

審判は、客観的に見て、試合者・審判員・観衆の誰が見ても納

得する、適正・公平な審判が求められていることが、規則第一条の目的でもあります。それを主審の専決事項として、現行規則では、副審から「止め」を宣告することが出来ません。

現行の規則で行けば、主審の独断と偏見により客観性を欠き、適正・公平な審判が危ぶまれることとなります。

鏢競り合いの問題が解決すれば、審判が良くなり、審判が良くなれば、試合が良くなる。試合が良くなれば、剣道が良くなるということになります。

主審の専決権の範囲を拡大解釈しないで、あくまでも三審制の原則で、適正・公平な審判が望まれるのであります。

そこで、運営要領の手引き（9頁）

2 つば（鏢）競り合いについて

鏢競り合いは、鏢と鏢が競り合って互いが最も接近して緊迫した間合いである。鏢競り合いは攻防や打突行動の中から発生した相対関係である。

鏢競り合いになった場合は、試合者は積極的に技を出すか、積極的に解消するように努めなければならないのである。しかし、鏢競り合いが長く続くようであれば、基本的には次の観点から判断する。

①正しい鏢競り合いをしているか。

②打突の意志が有るか。

③分かれる意志が有るか。

目的と現象を見極めて段階的に基準によって判断・処置は概ね次のように集約される。

○一般的にみて異常な行為であれば、不当な鏢競り合いとなる。「一般に見て異常な行為」という判断は、第一条の目的に帰結することになる。こうしたことに加えて、「時間的な経過」「姿勢」なども踏まえて、総合的かつ客観的に考慮し、さらに合議によって判断処理する。

○判定に関する権限は審判員三人が同等であるが、膠着や不当な鏢競り合いにかんする処置は、試合の運営にかかわる主審の専決権限の事項である。したがって、副審「止め」を宣告することができない。

《事例八》二十七頁 鏢競り合いが解消したと判断するのはどのような時か。

〈解説〉①鏢競り合いから打突の行動に移った時、または何らかの行動を起こした時が鏢競り合い解消の端緒となる。

『鏢競り合いは、主審の専決事項であるが、《事例八》の解説のように、鏢競り合いが解消したと判断した後は、単なる「競り合い」であり、副審にも同等の権限が生じ、不当な行為を認めた場合は、「止め」を宣告出来るものとする。』

（例）規則第十七条六 不当な中止要請をする。

規則第十六条六 故意に時間の空費をする。

規則第十六条七 不当な（顰）競り合いおよび打突をする。
以上の講習資料をもとに、座学講習と実技講習をしっかりと学ぶことが出来ました。資料に有るように何らかの不安を多少なりとも持ちながらの審判経験が、私も有ったことは事実です。

今回の講習で厳しく、言われたことは

・顰競り合い等で主審から見えにくい状況での反則の疑いを副審が的確に判断し「止め」をかけ、合議の機会を持ち的確な判断より、公正な試合運営を行う努力をする。副審は「止め」をかける勇気を持つことも必要性が有る。

・審判員三人の連携（動作・所作も合わす）

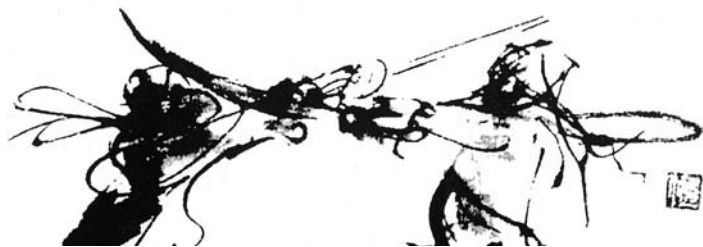
・位置の先取り

・発声（選手回りの人の耳にとどくよう）

また、選手席での不適切な行為などは、厳正に注意・指導をする。

【剣道は相手を思いやる心、選手を尊重する気持ちを重んじる】との、講師の言葉を重く感じました。

初めての講習会参加で、始まりから終了までとても緊張しましたが良い経験になりました。また、今回の講習に参加させていただき、感謝すると同時に審判技術の向上に努めて行きたいと思えます。以上で報告にさせていただきます。



日本剣道形講習会実施報告

警察支部 吉 田 茂 生

平成二十七年八月一日・二日の二日間、県立武道館において受講者一九名が参加して、平成二十七年日本剣道形講習会」を実施しました。一昨年までは初心者を対象としてこの講習を行っていましたが、昨年からは初心者から熟練者までを対象として実施しており、今回の講習では、七段を受審する先生（一ヶ月後の福岡審査で合格）も受審するなど、猛暑にもかかわらず、皆さん集中力を切らさず、真摯な態度で受講されました。

講習内容は、作法、礼法、五つの構え、太刀（師の位）と仕太刀（弟子の位）の関係、理合等、「日本剣道形講習会資料」に基づき行いました。また、三段以上の受講生には、二日目の後半に小太刀三本を実施しました。受講生それぞれに事前の稽古ができており、スムーズに進行することができました。

日本剣道形は奥が深く、一朝一夕に習得することは困難であり、初心者にあつては、立合前後の作法、礼法、太刀七本の一連の流れ、大きな掛け声、間合を体得すること。段が上がるにつれ、理合を習得し、呼吸法、緩急を意識した稽古を行うことが肝要です。

さて、剣道を修練するにあたり、剣道形の重要性をどれだけの方が認識して常日頃から剣道形の稽古ができていのでしょうか。おそらく、ほとんどの方が剣道具を着けての稽古に重点を置いて

いるのが現状であると思います。

多くの剣道家にとって剣道形の稽古が疎かになりがちなのは、竹刀による打ち込み稽古と木刀による形稽古との具体的な共通点が見いだせないからだと思います。

木刀稽古では、竹刀では意識することのない反りや鎬を意識して打突を行うことで刃筋正しい打ちを習得できるほか、自然と手の内が鍛えられます。また、目附、摺り足が身に付き、呼吸の取り方、間合を研究でき、合気を意識した稽古ができることも竹刀剣道に生かされる点です。

日本剣道形は、旧大日本武徳会が大正元年十月に制定したものを昭和五十六年十二月に全日本剣道連盟が表現を改め制定した解説書「日本剣道形解説書」によつています。

剣道形を繰り返し修練することによつて、先に挙げた技術、理合を習得できるほか、内面的な気の動きや気位といった剣道の原理原則をも会得できます。

剣道を修練されている皆様方には、日本剣道形の重要性を再認識し、形稽古に励んでいただくとともに、特に、少年指導等にあたる先生方におかれましては、是非、日本剣道形解説書を熟読理解し、修練を積み重ねた上で自らが範を示し、初心者らに対する指導を行っていただきたいと思ひます。

県剣道連盟では、本講習のほか、年間行事として、「剣道中央講習会の伝達講習会」、「秋季講習会（全剣連後援）」を実施しております。これらの講習会への積極的参加により、正しい日本剣

道形の習得や新しい情報の収集に努めていただくことを切にお願い申し上げます。

終わりになりますが、時間の都合上、受講生の方々が満足する内容とならなかったことをご容赦願います。また、本講習のサポートをしていただきました審査部の先生方にお礼を申し上げ、実施報告といたします。



全国中高部活動指導者研修会に参加して

西山 拓志



昨年の末に専門部長の先生から、「全国中高部活動指導者研修会に参加してみないか」という旨の電話をいただいた。

本研修のことは電話をいただくよりも前に聞いたことがあり、特別講師の佐藤成

明先生をはじめ、多くの有名な先生方からの指導を受けられるということもあって参加希望の返事をさせていただきました。私自身、全国規模の研修に参加をしたことがなかったので、どんなことをするのだろうと楽しみにしていた。

本研修は千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで一月四日から一月六日の三日間開催され、教養講座、実技指導法、日本剣道形、木刀による剣道基本技稽古法、審判法そして実技研修（指導稽古）と幅広い形式で研修を行った。

一月四日の早朝に宿泊荷物、剣道防具そして竹刀を抱えて徳島を出発した。勤務を始めてから長い距離を防具を自分で持って移動することはほとんどなかったため、自分自身の中・高生のときを思い出しながら千葉へ向かった。平年より気温が高く、会場に着いたときには汗をかいていたのを覚えている。

私は、本研修に二つの目的を持って臨んだ。一つは剣道（部活

動）の知識的なことから身を身につけることである。木刀による剣道基本技稽古法は、私が昇級審査を受審していた頃にはまだ取り入れられておらず、「いつか研修を受けなければならぬ」と思っていた。指導の際に、動きのひとつひとつの意味を理解することで理にかなった説明をすることができ、説得力も生まれる。日本剣道形の研修では、より細かい動きのことや、ひとつひとつの動きの意味を深く学ぶことができ、まだまだ知らないことが多くあることを痛感した。

もう一つは自分自身の鍛錬である。一足一刀の大切さや正しい切り返しの動きなど、今までも幾度となく指導されてきたことであるが、改めて基本をじっくりと学ぶことができた。また三日間で指導稽古が五回あり、高段者の先生方に掛かることのできる機会が多くあった。自分自身の技や動きを磨くために指導していただくとうと無我夢中で掛かっていった。三日目の朝稽古で佐藤成明先生に並んでいたとき、指導稽古終了の太鼓が鳴ったにも関わらず稽古をつけてくださったことが強く印象に残っている。佐藤先生が「時間が短かったから、またやろう」と声を掛けてくださり、その日の午後の指導稽古でも佐藤先生に稽古をつけていただいた。毎日多くの先生方に指導していただき、充実したものとなった。三日目最後の切り返しでは力強くのびのびと体が動いていたことを覚えている。

本研修を終えて、部活動指導に対するモチベーションが上がるのと同時に学んだ事を生徒に伝えていかなければいけないという

責任感も生まれた。研修の中で、「生徒の剣道を磨くためには指導者自身が修練を積み、口だけではなく剣を交えて指導していくことが必要不可欠である」ということを学ぶことができた。このような研修の機会を与えてくださり、お世話をさせていただいた先生方、研修で指導していただいた先生方には感謝の気持ちでいっぱいである。研修で学んだ事をこれからの日々の部活動で生徒達に還元していく所存である。



徳島の剣道史

鋸付き片切刃造りの海部刀

鳴門教育大学大学院 芸術系コース（美術）

別府 優香

はじめに

海部刀とは南北朝時代後期から、県南の海部川流域に起こった刀工群によって作られた刀剣である。時代別に見ると、古刀期（慶長以前のもの）は、鑄造りや平造りが多く、姿も均整が取れ、地鉄も精美で、刃文の働きもすこぶるあり、秀逸なものは相州や大和、山城物の上作と見紛うものがある。新刀期になると、通常の刀や脇指、短刀に加えて、片切刃造りの脇指が多く作られるようになり、田舎風の作風が目立つようになる。新々刀期になると、幕末を風靡する長寸の力強い作域が見られるようになるが、特にこの時代の片切刃造りの脇指には、棟に鋸刃が付く特異な形状の海部刀が出現する。

ここでは、この鋸付き片切刃造りの海部刀について述べる。



古刀期の
海部刀
岩切海部

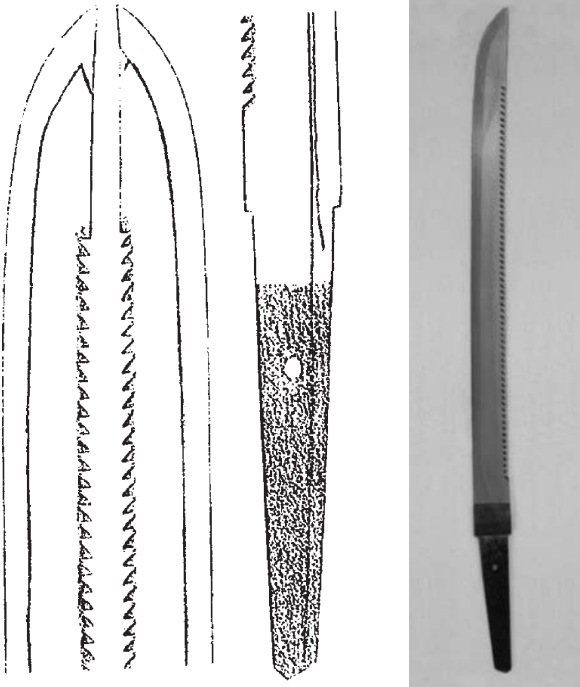
一 鋸付き片切刃造りの脇指

現在では、刀の種類を太刀、打刀、脇指、短刀に分ける。これらは、基本的に刀身の長さによって分類されている。太刀と打刀は六〇センチ以上、脇指は六〇センチ以下三〇センチ以上、短刀は三〇センチ以下のものとされている。また、太刀と打刀は指し方が異なり、太刀は刃を下に向けて佩く。打刀は刃を上に向けて指す。ここで取り上げる海部刀はこの分類のうち脇指に属する。

押形の脇指は、刃長五一・六センチ、反りは〇・四センチ、元幅三・七センチ、先幅は三・二センチ。元重〇・六センチ、先重は〇・四センチ。茎の長さは一六・三センチ。造り込みは片切刃造りで、身幅が広く、比較的反りは浅く、重ねは薄く作られている。刀身の棟は丸く、いわゆる「丸棟」となっている。そして棟の部分に鋸刃が付く。棟の鋸刃の高さは四ミリ、鋸刃の傾斜角は平均五〇度となっている。手に持った際にはバランスが良く、重量は感じられない。鍛えは板目肌流れ肌が交じり、よく詰み、地鉄は丁寧鍛えられており、海部刀によく見られる欠点である肌荒れはない。全体に鍛えがやや白けごろである。刃文は幅の広い直刃で、匂口は沈みごろである。刃縁には小沸がよくつく。帽子は指表が尖って突き上げごろに返り、指裏は焼詰めごろとなる。茎は生ぶ、ヤスリ目は筋違い、茎尻は入山型となっている。棟方は小肉がつき、刃方は平仕立てとなる。目釘孔は一個、銘はない。

本刀は、無銘であるが、各部位の特徴から紛れも無く海部刀と見ることができ、また、地鉄が極めて詰んでいる点などから、入念な仕立てとなっている。こうした観点から、斯界の鑑定では、新々刀期の九代海部益平氏吉の作と鑑せられている。

本刀における特記すべき特徴は、棟の部分に鋸状の刃が付けられていることである。通常の脇指としても鋸としても使用でき、鋸は棟の重ね幅の内側にアサリを収めている。これにより、納刀や抜刀する際に鞘を傷つけることがなく、携帯にも便利である。さらに、切断の際にもおがくずを内側に取り込むことから、切断面との摩擦を少なくする。



鋸付き片切刃造りの脇指の押形（左）と写真（右）

鋸付の海部刀は脇指が大半で、長寸のものはほとんど見られない。このため、人を殺傷するためではなく、馬防柵などを建てたり壊したりすることを目的に作られた工兵用としての要素が強い。江戸の町火消の火事場刀が、片切刃造りの海部刀であったことが知れる。

二 海部拵概要

刀身を抜身で持つことは危険を伴う。そこで考えられたのは、外装、すなわち「拵（こしらえ）」である。拵の目的は、鋭利な刀身を安全かつ実用できる状態に保つことにある。長い武士の世には様々な拵が作られるようになる。平安、鎌倉、南北朝期においては、各種の太刀拵が出現し、鉄砲伝来に伴い、長い太刀拵に加え、刃を上に向けて指すいわゆる打刀拵が現れる。江戸時代になると、太刀は甲冑をつけた時以外は使用せず、打刀拵が常用されるようになる。そして剣術が発達すると、流派に起因する拵が出現し、また、地方色豊かな拵も現れてくる。その、典型的な拵が、本件の海部刀につけられた拵、すなわち海部拵、正確には海部樺巻鞘拵である。

海部拵は、山桜の皮を巧みに加飾した野趣味豊かな造り込みで、縦縞模様やトンボ、蝶などの図柄を表現しているのが特徴である。海部拵には実用に特化したものと、上級武士の指料や数奇者好みに応じたものの二種類がある。上級武士の指料として贈呈品として使われた海部刀には相応の拵が付けられる。樺巻の細工が巧妙

になるだけでなく、阿波金工などの特注金具を用いることや、動物の角や銘木を巧みに加工しており、美術的にも優れたものである。以上のような特徴を持つ海部拵は、大刀は少なく脇指や短刀の拵である事例が大半をしめている。



海部拵

海部拵は制作者も特徴的である。海部派の代表的な人物である氏吉や氏次などの刀工では、海部刀の刀身そのものの作刀に加えて、拵の制作を家伝していたことが伺われ、刀工が拵まで作っていたと考えられる。拵は鞘師、金工師、柄巻師などそれぞれの部位に応じた職人が作る分業制であることが一般的であるが、海部拵の場合刀工が刀身から拵まで全て作り上げてしまうところに大きな特徴がある。

幕末期になるとこれらの制作上の掟を踏まえながら、異種の海部変わり拵という拵も作られるようになる。その一つとして「大工拵」と呼ばれる拵を紹介したい。しかしながらこの拵は、常時数多く作られたものではなく、制作依頼者の特徴が、活かされた特別な拵であるということを付言しておく。

三 海部変わり拵（大工拵）

本拵は、「大工拵」と呼ばれるほど、大工道具が全面に押し出された意匠の拵である。全体的に見ると、江戸時代の打刀拵の形状に属していることがわかる。

この拵は、鋸がついた刀身とよく調和しており、武士の指料としてよりも、職人衆の指料と思われる。装飾は、細かい部分にこだわりが見られるにもかかわらず、のびやかな印象を受ける。美しさや上品さなどは感じられないが、素朴な風合いの中でも徹底した色合いの統一や、装飾内容を大工道具でまとめているところが、一風変わっているだけではなく、作品としての面白さを感じさせる。



大工拵

柄木は鮫皮を用いず、拭き漆仕立ての下地で、その上に柄巻を施している。柄糸は黒で諸つまみ巻である。柄巻には長年の手垢がつき、長い歴史を感じさせる。目貫には大きなコウモリの意匠が見られ、表裏共およそ一〇センチの大振りな寸法となっている。縁金具を取り外すと「阿波國□□□□」と墨書銘がある。

鐔は天地八センチの楕円形、厚さは四ミリである。鉄地で耳を軽く打ち返した土手耳造りで、クギとカスガイ、クギヌキの意匠が高彫色絵仕上げにされている。

下げ緒を通す栗形はなく、鯉口から通常の栗形部分の位置に、あぐらをかき背伸びをしながら大あくびをする剽軽な図柄の飾り金具が付けられている。その相貌から、羅漢の中の探手羅漢像をあしらったものである。



飾り金具

鞘はベンガラ色の下地に、大工道具各種の意匠が高蒔絵で施されている。描かれている大工道具とその大きさは、鋸：約一二センチ、斧：約七・五センチ、玄翁：約四センチ、鑿：約七センチ、かけあい：約一四センチとなっている。鋸の装飾は特に細部まで凝っており、「中や久作」と刻まれた銘が確認できる。

鞘の小柄櫃には通常は小刀が収納されるが、この拵では小さい鋸が入っている。小さい鋸の刃の部分は一三センチと非常に小さい。刃は小さい胴付き刃である。「中や半兵衛作」の銘も確認できる。

結び

ここでは、特異な海部拵「大工拵」を取り上げてみたが、この拵から所持者を考察してみたい。総合的にみると、数々描かれた大工道具の内、蒔絵として施された「鋸」と、小柄に付けられた小さな鋸がキーワードと考えられる。何故、施された鋸に「中や久作」の銘を入れたか。何故、小柄につけられた小刀代わりの鋸に「中や半兵衛作」の銘があるのかである。



中や久作の銘(右)
中や半兵衛の銘(左)

まず、蒔絵の鋸の刻銘「中や久作」については、現在の東京都京橋区北横町の中や久作が浮かび上がる。この中や久作は天正年間から続く鋸鍛冶の名門「中や家」の後代すなわち幕末期の人物である。

ここで、本拵の注文主について考察してみたい。まず、徳島で藩工の九代目海部氏吉が刀身を制作、後に江戸の鋸職人の棟梁「中や久作」がこの脇指を入手。そして自分の指料とするため鋸鍛冶の棟梁に相応しい拵、すなわち鋸職人を彷彿とさせるため、その意匠の一つに「鋸」の図柄を描かせ、なおかつ持ち主の証と

して描いた鋸に己の銘を刻ませたのである。そして、後に二番目の持ち主となった人物が、中や一門の「中や半兵衛」の制作した鋸を手に入れ、鞘に描かれている鋸の銘になぞらえ同鋸を補填したと考えることはできないだろうか。

以上のことから、本拵は関東における鋸鍛冶と密接な関係を持っており、職人の指料として大事にされてきたことがわかる。現在の持ち主に至る経緯は定かではないため、今後の研究課題に委ねたい。

本稿は筆者の鳴門教育大学での修士論文を要約記述したものである。刀剣史研究の一助となれば幸いである。



大会・行事所感

四国高専大会を振り返って

湯城 豊勝



第五十二回四国
地区高等専門学校
体育大会剣道競技
が、七月十一日
(土) 〆十二日

(日) に地元徳島の中央武道館で開催されました。現在の男子の実力は一強五弱、高知高専が圧倒的に他を引き離しています。高知は四国大会で六連覇、全国大会でも四連覇中の状態で、全盛時と比較するならばや戦力が落ちたと思われませんが、やはり今年も優勝候補筆頭でした。ただし、今年も全国大会が五十回目ということで記念大会になり、四国代表枠が二校になり本校にとっては十二年ぶりの全国大会出場には絶好のチャンスとなったのです。

さて男子団体戦、初戦が最も大事な新居浜戦。実力は全くの互角、ここで勝って波に乗りたいたところですが、試合はまさかの連続でした。次鋒までにイーブンでという目論見は見事に消えて連敗、ところがここで良い方へのまさかで中堅と副将が頑張って二本勝ちが続いて一本リードで大将戦へ。

チームとしては何とか勝ちか引き分けと思いましたが、大将がまさかの二本負け。次は香川高専高松キャンパス。一進一退ながらこの試合も一本リードで大将戦へ。ここでもまさかの二本負けでチームも二連敗。

三戦目の弓削商船戦は副将でチームの負けが決まるという展開になりました。午後の試合は一方的な試合が続き、香川高専詫間キャンパスに圧勝、高知高専に完敗という結果になりました。

そして団体戦の結果は優勝が予想通り高知。二位から五位までが団子状態、六位が少し離れる状態で、弓削、新居浜、香川高松、阿南、香川詫間となりました。本大会は六校によるリーグ戦のためチームの勝ちがもちろん最優先になります。ところが勝

者数では、三位が二位より三人も多く、五位が四位より四人も多く、二位と五位の勝者数の差はわずか一人という極めて珍しい現象になりました。チームとしては残念な結果になりましたが、荒木・魁生などの健闘により来年に向けてチーム力がアップしたと手応えを感じました。

今大会を振り返ってみると、オーダー編成や指示における私の迷いが選手たちに伝染してしまったのではと反省しています。来年は現四年生の戦力が充実しているので、最後に何とかして欲しい、何とかさせてやりたいです。

さて、女子団体戦は今年から正式種目になりました。数年前まで阿南は全国大会準優勝を続けていたのですが、今は部員不足(一名)によってこの記念すべき大会に阿南だけが出場できなかったのは非常に残念でした。また、個人戦においても男女とも全国への出場資格は叶いませんでした。

さて、このスペースをお借りして私事のお話をさせていただきます。昨年三月に阿南高専を定年退職し、現在は嘱託教員とし

て週四日の勤務をしています。そのため正
 式の顧問ではありませんが、あとしばらく
 は微力ながらも阿南高専剣道部、さらには
 丹生谷支部のお世話もさせていただきます
 のでよろしく願います。最後に、四国
 高専大会でお世話になりました徳島県剣道
 連盟、審判の労を取っていただきました先
 生方に厚く御礼申し上げます。

男子団体戦 成績表

7月11日(土)

学校名	弓 削	高 松	高 知	新居浜	詫 間	阿 南	勝者数	総本数	順 位
弓 削		$\frac{3}{2}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{5}{2}$	$\frac{8}{4}$	$\frac{5}{3}$	4	11	2
高 松	$\frac{0}{0}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{5}{3}$	$\frac{5}{3}$	2	6	4
高 知	$\frac{6}{4}$	$\frac{8}{5}$		$\frac{4}{2}$	$\frac{9}{5}$	$\frac{8}{4}$	4	20	1
新居浜	$\frac{4}{2}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{4}{2}$		$\frac{6}{4}$	$\frac{5}{3}$	3	14	3
詫 間	$\frac{2}{0}$	$\frac{3}{1}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$		$\frac{2}{1}$	0	3	6
阿 南	$\frac{4}{2}$	$\frac{5}{2}$	$\frac{2}{0}$	$\frac{4}{2}$	$\frac{7}{4}$		1	10	5

各種大会に参加して

第三十七回全国スポーツ少年団

剣道交流大会に出場して

徳島県選手団監督

青木博志

平成二十七年三月二十七日から同月二十九日までの三日間にわたり、東日本大震災復興支援「とどけようスポーツの力を東北へ！」を合い言葉に、みだし大会が、埼玉県上尾市にある埼玉県立武道館において開催されました。

スポーツ少年団剣道交流大会は、各都道府県の、小学生団体一チーム、中学生個人男女各一人がエントリーし、予選リーグ、決勝トーナメントにより優勝を目指します。

本県代表として
団体戦

先鋒 岩谷愛夢（和田島少年剣道クラブ）

次鋒 松山若樹（小松島少剣クラブ）

中堅 松田匠輝（小松島少剣クラブ）
副将 岩原千佳（小松島少剣クラブ）
大将 岩原潤哉（小松島少剣クラブ）
個人戦

男子 山室和士（徳島少年剣道教室）
女子 田村真尋（和田島少年剣道クラブ）
の七名が出場しました。

この大会の特徴は、各都市ごとに団体チームを編成して県予選から全国大会までを戦うのですが、先鋒は四年生、次鋒、副将は女子、中堅、大将は男子と指定されていて、勝つためには、バランスの取れた選手構成が必要とされるところにあります。

大会六ヶ月前の平成二十六年九月に、小松島市内の選手選考会を行い、前記の五人が団体戦の選手に選ばれ、その後は、県外遠征を行うなどして計画的に強化し、十二月の県予選を何とか勝ち抜き、二年連続で全国大会の切符を手にすることができました。出るからには、前年の成績（ベスト八）を上回る成績を目指すというのが選手たちの思いでした。

大会に備えて、和歌山県や高知県での強

化錬成会に参加したほか、徳島県剣道連盟少年部の強化練習や、長期育成強化に特別に参加させていただき、試合稽古のほか、多くの先生方にご指導いただき、選手たちは、チーム結成時に比べて、精神的、技術的に格段の成長を見せ、チームワークも向上し、全国大会への手応えを感じたのでした。

平成二十七年三月二十七日、三日間にわたる大会が開幕しました。初日の開会式では、三十六番目に堂々と入場行進をし、子ども達が興奮と感激を体感したことは言うまでもありません。

第二日目、団体戦予選リーグ組は、徳島県、岩手県、京都府の組合せとなりました。

午前九時からの第一試合での対岩手戦。幸先良く、先鋒が一本勝ちしたものの、次鋒引き分け、中堅一本負け、副将一本負けで追う展開で大将に引継ぎました。ここで大将が二本勝ちしたら逆転勝ちという状況でしたが、一本を先取し、もう一本を果敢に取りに行き、打った小手が不十分のと

ころ、後打ちの面を取られ、この時点でチームの勝ちが無くなりました。何としても負けるわけにはいかない。必死に攻め立て、小手を奪って、二対二の引き分けに持ち込んだのでした。

予選リーグ第二戦の対京都戦。

このとき既に、京都と岩手は、勝人数二対二、得本数四対六で岩手が本数勝ちしており、徳島は京都に三人以上の勝ちか、二人勝ちの場合は七本以上取る必要があります。何としても予選を勝ち上がりたいという思いがあり、選手は、全身全霊を注いで京都戦に臨みました。先鋒は、体格のいい相手に当たり負けして一本負け、次鋒は巧みに引き面、小手を連取して二本勝ち、流れがこちらに傾いてきました。中堅が引き分け、副将が一本ずつ取り合い、あと少しのところ引き分け、大将は優位に試合を進めるも引き分けとなり、勝人数一対一、得本数三対二で、京都に辛勝したのでした。

結局、予選リーグは一勝一分で二位となり、残念ながら、決勝トーナメントには進めませんでした。

個人戦女子の田村選手は、山梨県、大阪府の選手との対戦でした。

初戦の対山梨戦では、見事な面の二本勝ちで早々に試合を決めて波に乗りました。

二戦目の対大阪戦では、初太刀で面を取られ、追う展開になりましたが、慌てずじっくりと攻めて、相手が面に来たところを冷静に返し胴で取り返し、さらにもう一本返し胴を決めて逆転勝ちし、あっさりと予選リーグ突破を決めたのでした。決して下がらず、前に出て勝負することに徹し、中学一年生ながら、二人の中学三年生を倒した見事な試合でした。

個人戦男子の山室選手は、北海道、和歌山県の選手との対戦でした。

初戦の対北海道戦では、双方技の応酬を繰り返すも決定的な打突が無く時間切れで引き分け。二戦目の対和歌山戦では、実力のある相手に一瞬の隙を突かれて引き面を奪われるも、果敢に攻めて面を取り返し、勝負に持ち込みましたが、思い切りのよい面を決められて惜敗。予選リーグの突破は成りませんでした。厳しい攻めから思い切

りのいい技を繰り出すことを課題に、次回は上位進出を目指して下さい。(その後、彼は、全中個人でベスト八に入賞しました。)

第三日目、決勝トーナメント。

個人女子の決勝トーナメントに進んだ田村選手。相手は岐阜県の選手。予選リーグと同様に戦い、一戦一戦しぶとく勝ち上がってほしいという思いでした。開始早々、相手の面を擦り上げての引き面が見事に決まり先制。その後小手を取り返され、続いて下がったところを面に乘られて逆転負け。いかにも惜しい展開でした。面、小手に対する応じ技を狙いすぎ、自分から打って出る技がほとんど見られず、予選リーグ初戦のような捨て切った技が影を潜めていました。勝つためには、厳しい攻めと、積極的な仕掛けが必要であることを反省し、今後の稽古に生かしてほしいと思います。

第二日目の夜、ホテルに戻り、アイスクリームを食べながら反省会をしました。その中で、それぞれの感想を忌憚なく発表し合い、試合の流れや自分自身の試合の内容を見つめ直し、これから何が必要か、どん

なことを心がけるか等を整理し、大会を通して感じたことをここで終わらせず、次に生かすことが重要であることを私から子ども達に伝えました。

開会式前に、各県の指導者を対象に行われた研修において、大会審判長の遠藤正明先生から講話を頂きましたが、その中で、「目的」と「目標」について、「剣道は何のためにするのか」というのが目的で、例えば「試合に勝つ」という目標は、目的を達成するための手段であるということを東京都の寛仁親王杯剣道八段選抜大会での寛仁親王殿下のおことばを引き合いに出されてお話しがありました。

選手選考から県予選、本大会までの半年間で、子ども達は、全国大会に出ることを目標に頑張り、そして、全国大会で勝つことを目標に更に頑張り、達成感、チームワーク、勝負の厳しさ、悔しさ、反省、努力、感謝など、多くのことを学んだと思います。この度の大会を目標にして、子ども達も純粋に稽古に励む中で、正に、真綿に水が染み込むように、日々成長する姿を見て、

私は無限の可能性を感じ、これからも数多くの経験を積み重ね、心技とも、さらに成長してくれると信じています。

終わりにになりましたが、全国大会出場に際し、ご指導、ご鞭撻を頂きました先生方、関係各位に対し心から感謝を申し上げます。

団体予選リーグ

〈第1回戦〉

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
小松島	岩谷	松山	松田	岩原千	岩原	3 2
	⊗一本勝				⊗コ	
岩手			一本勝⊗	一本勝Ⓛ	メ	3 2
	桐野	姉帯	伊藤	継枝	牛崎	

〈第2回戦〉

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
小松島	岩谷	松山	松田	岩原千	岩原	3 2
		⊗コ		メ		
京都	一本勝⊗			⊗		3 2
	内藤	早野	中野	今村	奥田	



〈予選リーグ戦績表〉

	チーム名	徳島県	岩手県	京都府	合計点	勝者数	本数	順位
I	徳島県		$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{1}$	1.5	3	6	2
	岩手県	$\frac{3}{2}$		$\frac{6}{2}$	1.5	4	9	1
	京都府	$\frac{2}{1}$	$\frac{4}{2}$		0	3	6	3

〈男子個人予選リーグ〉

		大浦 勸斗	山室 和士	小田 宗治	合計点	勝者数	本数	順位
N	大浦 勸斗	北海道B			1	0	0	2
	山室 和士	徳島		\triangle	0.5	0	1	3
	小田 宗治	和歌山		\circ	1.5	1	2	1

〈女子個人予選リーグ〉

		駒井 凜音	田村 眞尋	齋藤萌々子	合計点	勝者数	本数	順位
I	駒井 凜音	山梨			0.5	0	0	3
	田村 眞尋	徳島	\circ	\circ	2	2	4	1
	齋藤萌々子	大阪		\triangle	0.5	0	1	2

〈女子個人決勝トーナメント〉

1回戦

田村（徳島） \circ - \circ 平野（岐阜）

第六十三回全日本都道府県対抗 剣道優勝大会出場が決まって

大将 白木 崇



(平成二十七年四月二十九日祝、大阪中央体育館)

平成二十六年十二月に行われた徳島県選手により、県代表選手が決まりました。

その日からは仕事の合間を縫って個人練習と連盟強化の合同練習、中四国地区の合同稽古会への遠征等と、県代表として選手一同、努力を重ねてきました。

普段の稽古量を大幅に超えた練習に、大会前に疲れのピークが来ないように計画を立て、ケガ予防にも気遣いながら調整をしまいいりました。

合同稽古等で選手と会うたびに、苦手を克服しようがんばっていたり、ポジションの役割を考えた地稽古だったり、それぞ

れの工夫と努力が見られ、大将である私の方が奮起させられる場面が増えていきました。

お互いに励ましあいながら強化稽古をこなし、調子も順調に上がってきました。自分の中でも、悪くても引き分けられる自信もついてきました。

しかしながら、大会地大坂への出発二日前、徳島最後の稽古で胸部骨折という最悪のアクシデント？ミス？を犯してしまいました。

大会前日の稽古でもチームメイトが意識を集中させる中、呼吸するにも自分の思いどおりに動けない焦りと苛立ちを感じながら、みんなにはすまない思いでいっぱいした。当日のアップでも周りに気を遣ってもらいながらの練習となり、大将として他の選手を引っ張りきれなかったことを反省しています。

試合は、対兵庫県。相手チームに先を取られた流れを止めることができず、敗退してしまいました。代表選手として共に稽古を積んできた四ヶ月の間、多くの先生方

との稽古、チームメイトとの稽古、その他応援していただいた方々のご支援は、今後の剣道修行にかけがえのないものとなりました。成績としては期待に応えることができずでしたが、この経験を今後の自分達の糧とし、徳島県の剣道の発展に寄与できるよう恩返しして参りたいと思っております。

第六十三回全日本都道府県対抗優勝大会

《参考資料》

監督 平野誠司 教士八段

選手名

先鋒	松本高史	一七歳	三段
次鋒	久保公緒	二〇歳	三段
五将	片山将志	二六歳	四段
中堅	大石真也	二九歳	五段
三将	仁科文宏	三一歳	五段
副将	原知永	三七歳	五段
大将	白木崇	五〇歳	教士七段

第63回全日本都道府県対抗優勝大会戦績

	先鋒	次鋒	五将	中堅	三将	副将	大将	本数	勝ち数
徳 島	松本	久保	片山	大石	仁科	原	白木		
						メ		1	0
兵 庫		メ		コメ	コメ	ココ	メ	8	5
	笹山	植林	中谷	門田	西村	水野	小笹		

全国高等学校剣道

選抜大会に出場して

富岡西高校

監督 大石 正 志



富岡西高校にとつ

ては第一八回大会以来、六年ぶりの全国大会に出場となりました。

これで、あと一歩及ばずの惜敗が続きました。

チームの勝敗は監督の指導力が大きく左右します。指導力不足を反省させられました。負けるには理由があるということです。強豪チームは、精神面も技術面も高いレベルにあり粘り強い試合ができ、競った試合で最終的には勝利を修めることができている。

新チームになってから、部員の全国大会に行きたいという強い思いが感じられるようになりまし。自分達の剣道部を自己評価する機会を多くとるように努めました。

不足しているところに気づき、自分たちの強いところ弱点を知ること、部員一人一人の意識が高まり、学校生活や学業・剣道に対する取り組みが変わったことが、今回の全国選抜大会出場に繋がったと思います。

富西剣道部、今後の取り組み

- 一 常に礼法を重んじる。
- 二 気迫が前に出なければ持てる力を発揮できない。

「絶対に負けない」「絶対に勝つ」

試合に臨む時に心の準備はできていたのか？ 勝負に「たら」はない。

- 三 しかけが遅い。つくりが遅い。(縁が切れている)

これらを相手より早く、長く、準備すること。

- 四 地稽古で気持ちの入っていない剣道をしていては強くなれない。

- 五 最高の努力・互いに高めあう集団になろう。日々、必要な基本練習や体力づくりを疎かにしないことで力を養う。

- 六 健康管理、休む勇気を持つ。

全国選抜大会県予選会では努力してきた

ことに自信をもち、強気で試合の主導権を握ること、それぞれのポジションで責任を果たすことを確認し試合に臨んだ。どのチームも力があり予測していた通り厳しい戦いになったが、一人も負けることなく勝利することができた。

〈徳島県予選〉

準々決勝

三 対 ○ 科学技術高校

準決勝

二 対 ○ 徳島北高校

決勝

二 対 ○ 阿南工業高校

〈全国選抜大会予選リーグ〉

一回戦

○ 対 ○ 鹿児島実業高校 引き分け

二回戦

一 対 一 甲府商業高校 本数勝ち

一勝一分 本数差で予選リーグ敗退

県予選会から全国大会まで、選手は各ポジションで責任を果たし粘り強い試合を展開してくれました。最後の最後まで本当によく頑張ってくれました。しかし、力及ば

ず予選リーグ敗退という結果に終わりましたが、新チームとなり全国大会を経験し大きく成長した姿を見せてくれました。キャプテン松本高史を中心に濱田諒・庄野智・住友海斗・福田睦・福田峻斗の2年生が高い意識を持ち、互いにライバルとして認め合い切磋琢磨できたことで、技術面・精神面において力をつけることができたと思います。本大会を通して、多くの気づきがあり良い経験をすることができました。高校生活は短いものですが、一つの事に徹底的に取り組むことで、大きな財産を得ることが出来ます。今後さらに高い意識を持ち目標に向かい邁進して欲しいと願っています。五年〜十年後には、さらに逞しく成長した姿を見せてくれると信じています。

監督として、「選手にどんな言葉をかけて試合に送り出すか」何十年もやってきたことですが、難しく課題であると改めて強く感じました。私にとっても、全国大会が多くを事を学ぶことができた良い機会であったと感謝しています。

常に献身的に支えていただいた保護者の

皆様に心から感謝しますとともに、木曜稽古会で御指導いただいた先生方にお礼を申し上げます。今後とも富岡西高校剣道部の御指導よろしくお願いいたします。



大舞台へ

富岡東高校 深見 桃子



平成二十七年三月二十七日から二日間、愛知県春日井市で開催された第二十四回全国選抜剣道大会に参加することができました。

私は、中学生の時に個人で全国大会に出場しましたが、団体では惜しくも出場を逃してしまいました。それからずっと団体で全国大会に出場したいという気持ちがあり、富岡東高校に入学しました。日々の稽古は厳しいものでしたが、仲間と支え合い一生懸命取り組むことができました。

私たちは今回の選抜大会に出場することに強い思いがありました。それは二年連続で選抜大会出場を逃していたことです。私たちは「絶対に全国大会に出場する」を胸にきざみ戦い、そして県予選で優勝を手にすることができました。私たちは学年関係

なく仲が良く、チームワークではどの学校にも負けていないと思います。長井先生の「レッツエンジョイ剣道」をモットーに互いに信頼し合う気持ちがあったからこそこの優勝だと思います。

そして、迎えた選抜大会。私たちは、予選リーグ突破、入賞を目標にできました。全国大会の会場は独特の雰囲気緊張しましたが、徳島県代表として全力で戦い悔いの残らない試合をしようと皆で声を掛け合い試合に臨みました。予選リーグ一回戦は、岩手県盛岡南高校。先鋒が二本勝ちをし、チームに流れを引き寄せてくれました。続く次鋒は引き分け、中堅で一本勝ち。これで試合は俄然楽になり副将、大将と引き分けて勝利しました。二回戦は、東京都淑徳巣鴨高校。この試合は誰か一人が勝つか全員引き分けで勝利という私たちに有利な展開でした。ですが、守りに入らず果敢に攻めていきました。結果は全員引き分けとなりましたが、目標としていた予選リーグ突破をすることができました。そして、二日目に行われた決勝トーナメントの相手は熊

本県八代百合高校。力強く、素早い動きもやはり九州の強豪といえるチームでした。先鋒が一本負けをしてしまい、取り返さなければいけない気持ちで勝ち、逆に焦ってしまい反則二回をし、相手に一本を与えてしまいました。続く中堅、副将が引き分けて勝負がついてしまいましたが、大将は最後の最後まで戦ってくれました。相手の隙をついて二本勝ち。そこで試合終了となりました。結果はベスト十六でしたが、この負けが私たちを強くし、これからの稽古、そしてインターハイと繋がったのだと思います。

高校三年間の剣道生活はあっという間でしたが、先生や仲間と夢に向かって剣道に励み続けたことは一生の思い出です。嬉しいときも悲しいときも、一緒に乗り越え、支え合ってきた仲間はこれからも大切な存在です。三年間を通して、技術面だけでなく精神面でも強くなったと思います。この経験は私の今後の生きる糧になっていくはず。長井先生をはじめ、熱心にご指導してくださった先生方、どんなときも味方

できてくれた両親、仲間には本当に感謝しています。本当にありがとうございました。



インターハイに出場して

阿南工業高校剣道部

主将 田中 皓 己



平成二十七年六月六日、七日に徳島県高等学校総合体育大会が那賀川スポーツセンター

で行われ、私たち阿南工業高校剣道部は団体戦で優勝を勝ち取ることができました。また、私自身も個人戦で優勝することができました。

私は、小学校二年生から剣道を始め、小学校、中学校と学年が進むにつれ、もっと強くなりたいと思いい阿南工業高校への入学を決めました。しかし、高校では同級生が私と坪井君・古川君の三人でした。でも、やるからには必ず全国へ行こうと三人共が強く決意していました。

稽古は、ほぼ毎日あり休日には県外への遠征に行き、数え切れないほどの練習試合

をさせてもらいました。辛い思いもたくさんしましたが、遠征先までバスを運転してくださいだったり、熱く指導してくださいる先生方の期待に応えたいと思いい必死で稽古や練習試合に取り組みました。そして、先輩方が引退し、新チームになり私は主将を任せられることになりました。その時は正直、これから本当にやっていけるのか、主将として部員たちを引っ張っていけるのか不安でした。しかし、そんな時に励ましてくれたのが同級生の二人でした。そんな二人の支えもありこれまで頑張ってきたらと感謝しています。

三年生になり、更に厳しい稽古に取り組んできました。昨年の県総体は団体三位という結果に終わった悔しい思いを振り返り、今年は何が何でも優勝するという強い気持ちで努力しました。そして、総体当日、試合に臨みました。その日は、何となく全員がリラックスしており、とても明るく良い雰囲気でした。そして、決勝戦では代表戦の末、勝利し優勝することができました。この優勝は部員全員が最後まで

諦めず一丸となって戦った結果だと思えます。そして、目標であったインターハイに出場することができ本当に嬉しかったです。

インターハイは八月三日〜六日に、「風になれ 今青春が走りだす」のスローガンのもと、和歌山県で開催されました。全国大会の独特の雰囲気と緊張感で戸惑いもありましたが、この大舞台に立てたことに大変感動しました。

インターハイ一日目は開会式、二日目は個人戦でした。私は鹿児島県代表の安村選手と対戦しました。緊張もあり自分の思うように体が動かず、力を出し切れないまま負けてしまいました。自分の力の無さを実感しましたが、明日の団体戦に向け気持ちを切り替えました。三日目の団体戦は三校による予選リーグが行われ、阿南工業は和歌山県代表の和歌山東高校、千葉県代表の安房高校と対戦しました。両校とも全国屈指の強豪校でしたが、自分たちの力を試す良い機会だと思いい全力で試合に臨みました。しかし、予選リーグ敗退という結果に終わ

り決勝トーナメントには進むことができませんでした。チームは一勝もできず悔しい思いもしましたが、素晴らしい経験させていただいたと感じています。

私がここまで剣道を続けてこられたのも、阿南工業高校の佐々木先生・岩原先生・谷先生、そして、阿南第一中学校の福多先生、徳島至誠館の中山先生のご指導と保護者の方々の支えがあったからこそだと思います。特に、阿南工業高校の先生方からは「生活即剣道 剣道即生活」という言葉のもと、日頃の生活が自分の剣道に結びついていることを身をもって教えていただくことができました。そして、三年間、助け合い、競い合ってきた仲間は私の宝物です。

私は四月から社会人となりますが、剣道や高校生活で学んだことを活かして精一杯に頑張っていきたいと思います。今までお世話になった先生方やすべての方々に感謝いたします。本当にありがとうございます。

試合結果

平成二十七年全国高等学校総合体育大会

平成二十七年八月四日～六日

和歌山ビッグホエール

団体 予選リーグ

第一試合

阿南工 一―四 和歌山東（和歌山一位）

第二試合

阿南工 二―三 安房（千葉）

第三試合

和歌山 一―一 安房

勝者数により和歌山東高校が決勝トーナメントに進出

個人 一回戦

田中 一メ 安村（鹿児島工業）



感謝

富岡東高校 清水 真優



小学校一年生から始めた剣道。姿勢を正して心を正して竹刀を握る。毎日繰り返し続けた「休まず、遅刻せず」をやり切った小学生時代。剣道が私の生活の強さでした。「強くなりたい。」そう思い那賀川中学校へ入学しました。初めて仲間の存在の大きさを実感しました。高校は高い志を持ち、富岡東高校へ進学し、そこでまた新たに出会った先生方や先輩方、さらに今まで敵として戦ってきた同期と仲間となり、「ここで戦っていくんだ。」という希望と不安とが入り混じっていました。同期で一年生の頃から、自分たちの目指す剣道部や、富岡東剣道部としての目標を話し合い、「一人でも辛くなったら残りでカバーする。」決して個々の力が強かったわけでもない私たちだから

こそ、常にこの気持ちが一番にありました。一番のライバルは他校にいるわけではなく、常に稽古してきて、得意も弱点も知る仲間たちでした。一番の仲間だからこそ「負けたくない」「勝ちたい」という気持ちが大きかったのだと思います。最高学年となり、たくさんの先輩ができ、先生方や保護者の方々や、その他にもたくさんの方に応援していただき、私たちが創る剣道部としてスタートし始めました。十三人全員で競い合い、全員が同じ目標を持ち、一直線に走り出しました。県総体当日は、緊張と重圧とに何度も押しつぶされそうになりましたが、その分チームの会話も増え、いつしか、わくわく感に変わっていました。「自分で決める。」お互いに言い合い、そして、自分たちで手に入れた全国への切符。さらに団結力を増し、部員全員で汗を流し、一所懸命に取り組み迎えた全国大会です。

平成二十七年八月三日〜六日、和歌山県和歌山市ビッグホールで、第六十二回全国高等学校総合体育大会が行われました。このチームで戦う最後の大会でした。自

分たちの力を出し切ることがそれぞれのやるべきことだと強く唱えました。初戦の埼玉県の本庄第一高校では、相手の勢いに押され、相手の先鋒からの勢いづいた流れを最後まで止めることができず、〇ー一という結果に終わってしまいました。「まだ終わりたくない。」心の底からそう思い、臨んだ二戦目岩手県の盛岡南高校、「負けてしまふんじゃないか。」そう思った心の隙につけ入るかのように、相手の「勝ちたい」という剣道に飲み込まれていくようでした。「絶対一本！絶対一本！」自分に言い聞かせながら、無我夢中で竹刀を振りましました。大将の丸岡も最後まで必死に戦ってくれました。しかし、〇ー一という結果に終わり、富岡東は予選敗退が決定しました。自分の剣道をする事の難しさを痛感しました。私の剣道人生は、この大会で終わりました。

信じることは、一番難しい技だと思えます。主将として力不足の私を信じて歩いてくれた仲間が好きです。ありがとう。剣道を通して私が誇れるものは、剣道が根っこ

から大好き”だということだけです。

富岡東高校で恵まれた環境の中、長井先生の厳しくて、楽しい力いっぱいのご指導に感謝します。思いやり、優しくして強い心、反省する心、人としての深みができました。志を持ってインターハイへ向かった原動力はやはり長井先生でした。ありがとうございました。吉田先生、伊藤先生、OB・OGの方々、見守り、支え続けてくれた保護者の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



全国中学校剣道大会で

学んだこと

徳島中学校 村 田 竜 祐



私たちは、平成二十七年八月二十三日～二十四日「咲き誇れ！北で夢見し絆の華よ」

のスローガンのもと行われた、第四十五回全国中学校剣道大会に出場することができました。

自分にとってここまでの道のりは、とても険しく厳しいものでした。小学校時代、特に打ち込んだスポーツの経験がなかった私は、中学校に入学し、先輩たちが剣道をする姿や活躍する姿にあこがれ、徳島中学校剣道部に入部することを決めました。剣道経験者の友達がいるような稽古をしている隣で、豊田先生に剣道に対する心構え、礼の仕方や足さばきをていねいに教えていただきました。スタートが遅かった分、人

の何倍も努力しなければいけないという気持ちで毎日の稽古に取り組みました。学校の稽古を終えて家に帰ってからもタイヤ打ちなどを行いました。「スタートが遅くても努力すれば必ずレギュラーになって活躍することができる」という豊田先生の言葉を信じて、がんばりました。そして、一年生の秋頃には、レギュラーになることが目標になりました。

二年生の夏、先輩たちが総体を終えると、私は、主将に指名されました。経験がない自分が徳島中学校剣道部の主将を務めることができるのかとても不安でした。しかし、先生のサポートやチームの仲間の協力があり、最期までやりきることができました。自分の目標も、レギュラーをとることから全中に出場することへとステップアップさせ、チーム一丸となって厳しい稽古に打ち込みました。

こうしてつかんだ全国大会出場の切符は、私にとって何物にもかえることのできない喜びとなりました。全国大会に向けて、徳島県代表として正々堂々と戦うこと、二年

前に先輩方が成し得なかった予選リーグを突破することを目標としてチームをまとめ、集中して稽古に取り組みました。

大会初戦は、長崎県島原第一中学校との対戦でした。二対一で勝利することができました。予選リーグ突破まであと一勝とせまり、気持ちをさらに引き締めて次の広島県黒瀬中学校との戦いに臨みました。結果は敗退に終わり、あと一步で目標に手が届きませんでした。全国の舞台の厳しさを痛感することになりましたが、たいへんよい経験をすることができました。この大会で見えてきた自分たちの課題を一つ一つ克服していきます。

中学校から剣道を始めた私が主将を務め、全国大会に出場するまでに成長できたのは、一から教えてくださった豊田先生、協力してくれたチームの仲間たち、いろいろな面で支えてくださった保護者の皆さんや家族のおかげだと思います。本当に感謝しています。

全国大会出場という経験から「努力に勝る才能は、なし」「やればできる」という

第45回全国中学校剣道大会

平成27年 8月23日 於：秋田県立武道館

	島原一中 (長崎)	徳島中 (徳島)	黒瀬中 (広島)	得点	勝者数	勝本数	順位
島原一中 (長崎)		$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	0.5	1	1	3
徳島中 (徳島)	$\frac{2}{2}$		$\frac{1}{0}$	1	2	3	2
黒瀬中 (広島)	$\frac{0}{0}$	$\frac{6}{3}$		1.5	3	6	1

ことを学びました。このことをこれからの生活に生かしていきます。



第45回全国中学校剣道大会 平成27年 8月22日～24日 於：秋田県立武道館

全国中学校剣道大会に参加して

那賀川中学校 大 城 明裕奈

「咲き誇れ！北で夢見し絆の華よ」のスローガンの元、平成二十七年八月二十二日から二十四日に秋田市の秋田県立武道館において第四十五回全国中学校剣道大会が開催されました。過去二回の全国制覇を成し遂げた那賀川中学校に入学して以来「全国制覇」は私の最大の目標でした。頼りになる先輩方のおかげで一年生の時から全国大会に参加させていただき、私にとって三度目の全国大会出場となりました。

この三年間、数々の遠征や日々の稽古によって自信と経験を積み重ね、いよいよ全国制覇も夢ではないと信じ大会に臨みました。予選リーグでは湖東中学校（島根県）と近畿大会で準優勝の甲子園学院中学校（兵庫県）との対戦になりました。甲子園とは何度も試合や練習試合で対戦したこともあり、勝ったり、負けたり、接戦を繰り返していただけに、今日は絶対に負けられ

ないという強い気持ちで戦いました。結果は湖東中学校に三〇で勝ち、甲子園学院中学校にも四一〇で勝つことができ、三年目にしてようやく予選リーグを抜けることが出来ました。決勝トーナメントでは、広島県の安浦中学校とベスト八をかけて対戦しました。試合では代表戦にもつれこみ惜しくも敗れてしまいました。一本の重みを感じるとも悔しい試合となりました。しかし、仲間と全力で戦った最後の試合は私にとって最高の思い出となりました。

私たちがここまで成長できたのも、顧問の齋先生、長地先生をはじめ、副顧問の郡先生、講師の山田先生、そしてご指導くださった全ての先生方のおかげです。また、いつも応援し支えていただいた保護者の皆様には心から感謝しています。また、剣道部の仲間には本当に感謝しています。キャプテンとして至らないことも多くあったのに最後まで仲良く協力し合い一緒に頑張ったことに感謝の気持ちでいっぱいです。

中学校のこの三年間は、長いようであっという間に終わってしまいました。しかし、

私にとっては一生の宝物といえるかけがえない時間でした。苦しい時も楽しい時も仲間とともに過ごし、支え合い、全国大会という大きな舞台に立つことが出来ました。素晴らしい環境の元で三年間を過ごすことができたにもかかわらず。最大の目標であった「全国制覇」を成し遂げることが出来なかったのは残念ですが、その思いを胸に私はこれからも剣道を続け、支えてくださっている多くの方々への感謝の気持ちを忘れず日々努力を続けたいと決意しています。





[予選リーグ結果]

D組	甲子園学院中 (兵庫)	松江湖東中 (島根)	那賀川中 (徳島)	得点	勝者数	勝本数	順位
甲子園学院中 (兵庫)		$\frac{4}{2}$	$\frac{0}{0}$	1	2	4	2
松江湖東中 (島根)	$\frac{0}{0}$		$\frac{1}{0}$	0	0	1	3
那賀川中 (徳島)	$\frac{4}{4}$	$\frac{5}{3}$		2	7	9	1

[決勝トーナメント1回戦]

那賀川中(徳島) 1(3) - 1(3)代 安浦中(広島)

平成二十七年 度

第五十七回全国教職員

剣道大会に出場して

福 多 雅 英

八月九日に京都市総合運動公園内ハンナリーズアリーナに於いて、平成二十七年 度第五十七回全国教職員剣道大会が開催されました。

試合は女子個人戦、幼稚園・義務教育の部個人戦、高校・大学・教育委員会の部の個人戦と団体戦があり、本県からも全ての部にエントリーし、試合をしました。団体戦は、先鋒・次鋒・中堅は年齢制限はありませんが、副将は四十五歳以上・大将は十五歳以上で、チームには必ず幼稚園・義務教育の教員を含むこととなっています。

本大会は、日頃学校教育に携わる者が、「師弟同行」の精神で生徒達と共に汗を流して剣道の修練に励んでいる成果を試す機会であります。

昨年の大会では団体戦で久しぶりにベス

ト一六に進出しており、「今年こそは入賞するぞ」の思いで参加しました。

試合は、団体戦、一回戦で当年度団体開催県の和歌山県と対戦、先鋒の白木先生は引き分け、次鋒の林先生は終了間際に一本取られ一本負け、続く大石先生も一本負けし、副将の玉田先生と大将の福多は引き分けで〇対二で敗退しました。和歌山県チームは選手全員が団体強化選手で、三年前から地道に強化に取り組んできたとのことで、そのまま順調に勝ち上がり優勝しました。全国都道府県大会や国体で優勝を果たしており、県をあげての強化の成果だと思いましたが、一回戦での敗退という結果に終わってしまいました。試合内容としては、選手それぞれが白熱した攻防を展開し、「あと一步」という内容でした。

本県チームは、未だ過去において団体戦でベスト四以上の入賞をしたことがありません。団体戦での優勝が本県学校剣道連盟の悲願であります。その為には、多忙な職務の中でも時間をつくり、稽古に励み、「あと一步」をうめて行く取り組みをした

いと考えています。その取り組みによって本県学校剣道のレベルアップが図られるのではないかと思います。

個人戦は、女子の部に前田先生が出場、幼・義務教育の部に兼松先生が出場、高・大・教育委員会の部には、山田先生が出場しましたが初戦で敗退しました。

団体戦出場者

先鋒 白木恒二郎（吉野川高校）
次鋒 林 義真（木頭中学校）
中堅 大石 真也（鳴門高校）
副将 玉田 晋作（文理高校）
大将 福多 雅英（城北高校）

個人戦出場者

女子の部
前田奈々枝（種野小学校）
幼・義務教育の部
兼松 佳史（阿波中学校）
高・大・教育委員会の部
山田 浩史（鳴門渦潮高校）

第十回都道府県対抗 少年剣道大会に参加して

監督 齋 浩 市

平成二十七年九月十九日(土)から二十日(日)の日程で標記大会の中学校監督としてコーチである驚敷中学校の松本先生と一緒に参加させていただきました。以前平成二十年の第三回大会にも参加させていただきました二度目の参加になります。

前回は大分県と大将戦で惜敗し、予選突破ができて悔しい思いをした経験があり、今度こそという決意で臨みました。今回は石井中学校の山室君や森本君を中心に那賀川の濱本、檜田、飯田といったメンバーでした。全国中学校総体で個人ベスト八に入った全国でも十分通じる大将である山室君に「どうつなぐか」が課題となりました。

試合は北海道に副将・大将の活躍で二一〇で競り勝ち、岐阜に先鋒が一本勝ちするものの二一で惜敗する結果となりました。残念にも予選リーグを勝ち抜けることがで

きませんでした。北海道も岐阜もこちらのポイントゲッターには無理をせず引き分けを狙うなど、徳島のメンバーを研究していたように感じました。

今回、監督を体験させていただいて、選手個人への指導の際のアドバイスの大切さを感じました。選手それぞれには個性があり、そのパフォーマンスを引き出すためには監督としての配慮が必要です。今回は石井中学校の白木先生に度々お願いし、アドバイスをいただき指導の際に大変参考になりました。コーチの労をとっていただいた松本先生とその情報を共有できたことがチームとしての収穫になったように思いました。選手には悔しい思いをさせて監督の力不足を痛感しますが、前向きに来年以降に繋がる点もあったように思います。

審判については「変形の構え」指導等、様々な場面で中体連の大会との違和感を感じましたが、それはどの県にも「平等な条件」だと考えます。上位に残るチームは道場連盟その他の大会など、様々な種類の大会を経験している生徒が多く、大会や審判

を「よく知っている(経験値が高い)」印象を受けました。今後、徳島県のチームが上位を狙うためには「どんな場面でも動かない」心構えと、「チームとして戦う」戦略が必要だと感じました。

小学生の部の指導の先生方や松村先生、熱心に応援いただいた保護者の皆さんにはチームとしても、私個人としても大変お世話になりました。最後になりましたが、徳島県剣道連盟のご指導やご援助にも心より感謝いたしながら御報告にかえさせていたきたいと思います。ありがとうございます。



全国都道府県対抗少年剣道大会の結果

[中学生の部]

予選リーグ 第一試合

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	
徳島	濱本	檜田	森本	飯田	山室		2
	X			メ	コ		
北海道	X						0
	亀谷	濱田	濱田	菊地	松尾		

予選リーグ 第二試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	
徳島	濱本	檜田	森本	飯田	山室		1
	メ	X			X		
岐阜		X		メド	X		2
	肥田	石田	下廣	下村	重綱		

徳島 2 - 0 北海道

徳島 1 - 2 岐阜

予選リーグ敗退

第六十一回

全日本東西対抗

剣道大会に出場して

警察支部 吉田茂生

平成二十七年九月六日、熊本市総合体育館で第六十一回全日本東西対抗剣道大会が開催されました。本大会は戦前に始まる由緒ある行事を継承して、全剣連設立以来開催されております。また、熊本県は剣聖宮本武蔵が「五輪の書」を遺し終焉を迎えた地で武道が盛んな土地柄であり、大会前日、武蔵が籠もって五輪の書を書いた場所といわれる霊巖洞(れいがんどう)を訪れ、「氣」をもらい必勝を祈願しました。

試合は三十五人制。女子対抗戦(五人制)に引き続き行われ、私は西軍一五将で出場し、平成三年の全国警察大会準決勝での先鋒戦以来となる金田孝行先生(埼玉県)との対戦となりました。結果は二本負けを喫しました。敗因はいくつか挙げられますが、その中で一つ、自分が描いていた試合がで

きないことで四戒(恐懼疑惑)が生じ、冷静さを失ったことです。試合は「無心」で戦えることが大切ですが、そのためには、日頃の稽古で一〇〇パーセントの力を出し切り自信を付けることと、常からいろいろなタイプの相手と稽古をし、どういう局面においても動じない強い精神力を養うことが必要です。

日々の稽古が真剣勝負。その積み重ねが試合や審査で結果となって表れます。理想と現実の一致を追求しつつ、私の修業は続きます。ありがとうございました。

試合結果

女子の部 三対二で西軍勝利
男子の部 二〇対一五で西軍勝利



第61回
全日本東西対抗
剣道大会

平成27年
日時 **9月6日(日)**

会場 **熊本市総合体育館**
熊本市中央区出水 2-7-1
Tel: 096-385-1010

入場無料

主催：全日本剣道連盟 主管：熊本県剣道連盟

後援：熊本県、熊本県教育委員会、公益財団法人熊本県体育協会、熊本市、熊本市教育委員会、熊本市体育協会、朝日新聞社、熊本日日新聞社、NHK 熊本放送局、熊本放送、テレビ熊本、くまもと県民テレビ、熊本朝日放送・J・COM 熊本

全日本居合道大会

居合道部 吉 岡 修 一

第五十回全日本居合道大会（都道府県対抗優勝試合）が平成二十七年十月十七日（土）午前九時より、福岡県「アクション福岡」で全国四十七都道府県より選手監督個人演武出場者が参加して開催されました。徳島県からは次のメンバーが代表選手として出場しました。

七段の部 森 将夫

六段の部 西本忠司

五段の部 徳山 豊

私が監督、助監督を居合道部長の岸田先生に務めていただきました。

会場は正面に向かって中央が七段の部、右側が六段の部、左側が五段の部の試合場となりました。各段とも抜本数は五本であり、はじめの二本は自流古流（自由）を抜き、後の三本は全日本剣道連盟居合「四本目・柄当て」「七本目・三方切り」「九本目・添え手突き」この三本が試合当

日に指定され、試合時間は、始め後の礼法を含めて六分以内とされました。

〈七段の部〉森選手は一回戦、岡山県の直原選手と対戦し、〇―三で敗退。

〈六段の部〉西本選手は一回戦シードされ、二回戦は広島県の榎原選手と対戦し、〇―三で敗退。

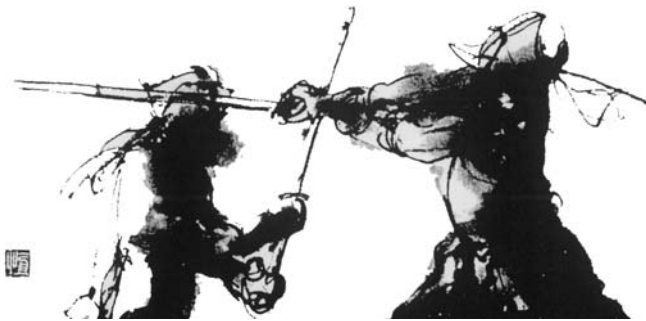
〈五段の部〉徳山選手は一回戦は千葉県の齊木選手と対戦し、〇―三で敗退。

優勝は地元福岡県で全段三―〇の完全優勝でした。個人演武に参加されたのは範士八段原田先生、七段吉岡、岸田先生、坂本先生、福井先生でありました。原田範士は審判員でもあり、第一試合場（七段の部）の主任を務められました。

各試合を拝見いたしました。が、実力は紙一重と思われ、今少し稽古を積みば上位に入れると思われ。また、本大会の出場に際しましては徳島県剣道連盟の先生方にご指導・ご協力を賜りましたこと深くお礼を申し上げます。

出場された選手は春より原田範士の指導のもと強化練習を重ねてこられました。出

場された選手の皆さんのご努力と経験が今後の居合道発展につながると確信いたしております。居合道部員一人ひとりがもう少し積極的な稽古を積みまれましたら、次回は上位に入れると思われ。ます。







後援

福岡県・福岡県教育委員会
 (公財)福岡県体育協会
 福岡市・福岡市教育委員会
 西日本新聞社
 読売新聞社
 NHK福岡放送局
 (株)福岡放送
 九州朝日放送
 RKB毎日放送
 TNCテレビ西日本
 TVQ九州放送

全日本居合道大会

第五十回

都道府県対抗優勝試合



主催：全日本剣道連盟
 主管：福岡県剣道連盟
 日時 平成27年10月17日(土) 開会午前9時
 会場 アクション福岡

全日本剣道選手権大会

名西支部 白 木 恒二郎

平成二十七年十一月三日、この日は私にとって忘れられない一日となった。なぜなら、全日本剣道選手権大会に自分が選手として出場したからである。

幼い頃からテレビを通して観てきた憧れの舞台に自分が出場できることになるとは思ってもいなかった。そのため、出場を決めた時は、喜びはもちろん、同時に今の自分が出て大丈夫なのかという不安もあった。嬉しい気持ちと七割、不安が三割というのがその時の正直な気持ちだ。

あの時抱えていた一番の不安、それは稽古量の問題である。私は昨年まで大学生であり、毎日十分すぎる程稽古ができる環境が整っていた。社会人になれば今まで通りに稽古ができないため、稽古ができる時には積極的に参加し、一回の稽古の質を上げていく必要があるということでは分かっているつもりでいた。しかし、いざそうやって

みると、なかなか思うようにはいかなかった。何かと理由をつけて稽古に行かなかったり、稽古をしても身が入らない時期があった。その時の私は、完全に目標を見失っていた。このままではいけない、そう思っていた時に、全日本選手権大会への切符を手にすることができた。

これをきっかけに、「もうやるしかない」という気持ちに変わった。様々な場所で稽古をさせて頂き、多くの先生方や先輩方に指導をして頂いた。大会が近付くにつれ、楽しみな気持ちと緊張感が膨れ上がっていった。

そして、十一月三日はやってきた。各都道府県の代表が集まり、会場には何とも言えない雰囲気漂っていた。私は、第一試合目に群馬県警の上野選手との試合だ。年齢も同じくらいで初出場同士の対決だった。開会式が終わり、待ち望んだ試合がこれから始まろうとしている。私は、意気込んでしまおうと空回りしてしまつたため、打たれてもいらいから思い切つてやろうという気持ちで試合に臨んだ。「試合開始」の合図と

もに上野選手との試合が始まった。緊張感があったものの、慌てることなく試合を進めることができた。上野選手はオーソドックスな剣道で、私と似たタイプであった。お互いに決定打が無く、勝負は延長戦にもつれ込んだ。試合の展開は悪くなかったが、駆け引きの中でもうひとつ我慢をする必要があった。それから暫く試合が続き、ついにその時がやってきた。面に誘い、ギリギリまで引き付けて返し胴を打ち、それが一本となった。一試合目を終え控室に戻ると、いっになく疲労感があった。それだけ気を張り詰めて試合ができる場所にいるんだ、そう思うと嬉しくなった。

十分に休息をとり迎えた二回戦の相手は、岐阜県警の野田選手だ。野田選手は上段で、迂闊に間合いに入ろうとすると打たれてしまうため、なかなか間を詰めることができなかった。この試合も決定打が無く延長戦に入った。長い試合になったが、最後は間合いを詰めようとして入り過ぎてしまい、「あー」と思った時には面を打たれていた。試合直後は、とても悔しかったという

こともあり、「途中で惜しい打突があったのに、もう半歩間合いを詰めていけば一本にできたかもしれない」などと考えていた。しかし、冷静になってみると、これが今の自分の力なのである。あの時こうしていればとつい考えてしまうが、それができなかったから負けたのである。他にもまだまだ自分には足りないものが多すぎると痛感させられた。

今大会は二回戦敗退となったが、非常に良い勉強となった。ここでの経験を活かし、「次こそは！」という気持ちで日々の稽古に取り組んでいきたい。

最後に、大会に向けて温かいご支援を頂きました皆様方に心からお礼申し上げます。



第六十三回

全日本剣道選手権大会

天皇盃授与

とき 平成27年**11月3日(祝)**
午前9時45分開会 午前10時15分試合開始

ところ **日本武道館** NHK総合テレビ
午後4時~5時30分放映予定

9月1日より発売開始 アリーナ席(仮定額)4,000円(税込)以上の場合、地下1階1階席(仮定額)3,000円(税込)以上、2階席(仮定額)1,000円(税込)以上、小学生入場料半額(仮定額)適用

(社名) 主催 全日本剣道連盟 協賛 文部科学省・読売新聞社・公益財団法人 日本武連盟
 協賛(ネット) http://kendo.jp/ 電話 03-6523-0109 FAX 03-6523-0109 東京都千代田区千代田1-3-12 全日本剣道連盟本部(東京都千代田区千代田)
 協賛(ネット) http://kendo.or.jp/ 電話 03-6523-0109 FAX 03-6523-0109 東京都千代田区千代田1-3-12 全日本剣道連盟本部(東京都千代田区千代田)
 協賛(ネット) http://kendo.or.jp/ 電話 03-6523-0109 FAX 03-6523-0109 東京都千代田区千代田1-3-12 全日本剣道連盟本部(東京都千代田区千代田)

全剣連ホームページ <http://www.kendo.or.jp/>

第五十八回全日本実業団 剣道大会に出場して

日亜化学工業 園 田 慎 吾

平成二十七年九月二十一日 日本武道館
において、全国各地の実業団から三一五チ
ームが参加して第五十八回全日本実業団剣道
大会が開催されました。

前年は三四四チームの参加であったため
若干チーム数が減少しましたが、それでも
日本経済の上向きを背景にして今年も盛大
に開催されました。

今回の第五十八回大会には日亜化学剣道
部から次のメンバーで出場しましたので結
果を報告をさせていただきます。

〈選手〉

先鋒 澤田 俊介

次鋒 玉田 康朗

中堅 鈴木健太郎

副将 舛田 浩一

大将 山本 敬太

〈試合結果〉

一回戦

日亜化学 五―〇 富士通（川崎）

二回戦

日亜化学 〇―四 九州電力（本店）

試合内容としては、一回戦では各自持ち
味を発揮して全勝で幸先の良いスタートを
切ることができました。

今大会の照準は、組み合わせが発表され
てから二回戦の九州電力に合わせて、強化
練習や練習試合を行ってきました。

九州電力は実業団の中でも歴史があり、
部員数も一〇〇名前後と全国屈指の強豪チ
ームです。今回の出場選手の中には全日本選
手権大会に出場する選手もおり、このよう
な相手と日亜剣道部が対戦できることに喜
びを感じながら、各選手は全力で試合に臨
みました。

結果的には〇―四での敗退となりました
が、部員にとっては貴重な経験を得ること
ができましたので、この経験を今後の糧と
したいと思います。

ここ数年は、部員の業務スケジュールの
関係から思うようなチーム編成ができない
状況が続いていますが、厳しい状況下でも
出場した選手が日亜化学の代表として上位
に進出できるようにチーム全体のレベルアッ
プを図れるよう、部員一丸となって日々の
稽古に励んでいきたいと思っています。

また、徳島から同じく出場している大塚
製菓とも切磋琢磨して、実業団剣道部員の
実力向上に向けて両社で取り組んで行きたい
と思います。

二十八年新入社員からも数名の入部希望
者がいますが、「徳島県の実業団で剣道を
するのであれば日亜化学がある」という存
在になれるよう頑張ってお参りますので、今
後ともより一層のご指導をお願い申し上げます。
全日本実業団大会の結果報告とさせていただきます。

四国四県剣道大会結果報告

監督 中 村 稔 裕



平成二十七年五月十七日、第六十七回四国四県剣道大会が高知県立武道館において開催

された。各県から年代別の最強選手一五名（女子三名・男子一二名）により団体戦が行なわれた。私は、徳島県チームの監督として参加した。先輩方から教えられた「剣道は練習でなく稽古である。気迫が剣先に表現され、相手を誘い出して打つ。」

という剣道の奥義を観点に、私の強く印象に残った試合をピックアップしてみます。

対高知県戦

先鋒平野（千）選手、稽古量、試合数も豊富であり、中心をはずさず甲手・面と危なげなく二本勝、さすがと思わせる見事な

勝利。十二将白木（恒）選手、本県若手のホープであり試合度胸もよく胴の一本勝。

十一将村井選手、激しい攻防を展開するも面・甲手の二本負け。六将戦まで終了した時点で二勝三敗と高知県優勢の内に進む、五将から大将まで練度の高い選手が登場、五将玉田選手気合十分に中心をぐいと攻め甲手一本勝。四将青木選手ベテランの風格十分甲手一本勝。三将四国の第一人者である平野（誠）選手、八段の貫禄十分先を掛けるの攻めに相手選手も激しく応戦、双方甲手一本ずつの引分け。副将白木（洋）選手、どっしりとした構えで自分のペースを崩さず攻めるも甲手一本負け。大将近藤八段、持ち前の激しい攻めで相手を崩しかかるも有効打なく引分け。結果四対四（本数差一本）により負け。

対香川県戦

十二将白木（恒）、若手らしい激しい攻防を展開し面二本勝。三将平野（誠）、この試合も中心厳しく先をとり面・甲手と余裕の二本勝。大将近藤、双方共に激しい攻

防を展開するも双方一本ずつの引分け。この結果本県は二対四で負け。

対愛媛県戦

十一将村井選手、激しい攻防となり双方すべてを出し尽すも引分け。今大会一番の好試合であった。十将佐藤、脚力を生かした飛び込み面も一歩及ばず甲手一本負け。八将金野、気力充実し胴・甲手の二本勝。副将白木（洋）、大将近藤共に力を十分に出し切るも引分け。この結果二対四で負け。本県は、三戦三敗となり四位となった。しかし内容については優劣つけがたい好試合が多かったが、何が何でも一本取るという試合運びは他県が一步リードしているという印象を受けた。

来年は、本県が開催県となる。更なる精進をし栄光を勝ち取ってくれる事を期待し結果報告とします。

大会結果

第一試合	県名	順位	先	次	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大	得点
	徳島県	氏名	平野	近藤夏	北村	白木恒	村井	佐藤	六條	金野	前田	山室	玉田	青木	平野	白木洋	近藤亘	△ 6 — 4
		取得部位	メコ			ド							コ	コ	コ			
	高知県	取得部位					メコ				コメ	コ			コ	コ		○ 7 — 4
		氏名	森岡	尾崎垂	大崎真	和田	中澤公	小川	尾崎功	中原	大崎正	小笠原	中澤誠	岡本	西村	中越	中野	

第二試合	県名	順位	先	次	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大	得点
	香川県	氏名	柏本	栞島	諏訪	竹村	松木	藤本	安部	岡西	小野	坂口	笹谷	岩部	西本	玉浦	國重	○ 8 — 4
		取得部位			メ					ドメ				メメ		メメ	メ	
	徳島県	取得部位				メメ									メコ		メ	△ 5 — 2
		氏名	平野	近藤夏	北村	白木恒	村井	佐藤	六條	金野	前田	山室	玉田	青木	平野	白木洋	近藤亘	

第三試合	県名	順位	先	次	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大	得点
	愛媛県	氏名	菊池	馬越	松木	門岡	濱田	白石	大城戸	田邊	佐々木	片山	池内	近藤	青野	菅	俊野	○ 8 — 4
		取得部位		メメ				コ			メド		コ			メ		
	徳島県	取得部位								ドコ					メコ	コ		△ 6 — 2
		氏名	平野	近藤夏	北村	白木恒	村井	佐藤	六條	金野	前田	山室	玉田	青木	平野	白木洋	近藤亘	

出 場 選 手

徳島県	年齢別		女子			20代		30代			40代			50代			60代
	順位	監督	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将
氏名	中村稔裕	平野千尋	近藤夏子	北村環	白木恒二朗	村井僚	佐藤浩	六條勝仁	金野卓司	前田秀一	山室雅幹	玉田晋作	青木博志	平野誠司	白木洋一	近藤巨	
年齢	72	25	39	43	22	25	39	31	39	40	43	49	53	51	54	60	
段位	教八段	五段	五段	五段	四段	四段	六段	六段	六段	教七段	錬七段	教七段	教七段	教八段	教七段	教八段	
職業	無職	警察官	主婦	教員	講師	警察官	教員	警察官	刑務官	刑務官	警察官	教員	警察官	警察職員	教員	警察職員	

第67回 四国四県剣道大会成績表

	徳島	香川	愛媛	高知	勝数	勝者数	取得本数	順位
徳島	△	△ $\frac{5}{2}$	△ $\frac{6}{4}$	△ $\frac{6}{2}$	0	8	17	4
香川	○ $\frac{8}{4}$	△	○ $\frac{10}{5}$	○ $\frac{15}{7}$	3	16	33	1
愛媛	○ $\frac{8}{4}$	△ $\frac{6}{4}$	△	○ $\frac{10}{6}$	2	14	24	2
高知	○ $\frac{7}{4}$	△ $\frac{9}{4}$	△ $\frac{4}{3}$	△	1	11	20	3

優 勝 香 川 県

第 2 位 愛 媛 県

第 3 位 高 知 県

第 4 位 徳 島 県

第六十二回

全国警察剣道大会に参加して

監督 山 室 雅 幹



平成二十七年十月十三日、第六十二回全国警察剣道大会が日本武道館で開催されました。

私が同年四月、徳島県警察剣道特練員監督に就任し、初めての全国大会であります。

本大会は一部一二チーム、二部三部はそれぞれ一八チームで構成されており、徳島県警察は平成二十五年に、三部で三位入賞をし、二部に昇格しました。しかし、翌年三部に降格したことから、特練員全員で力を合わせ、優勝を目標とし、日々稽古を積み重ねてきました。

本大会に向けて、さらに、切り返し面打ちなど基本をしっかりとして体得し、あわせて体力面の強化に努めてまいりました。また、遠征では大阪府警、京都府警、愛知県警、

千葉県警など一部常連チーム及びその他、各県警との対外試合をこなし、諸先生方からは、多大なる御指導を賜り、良い状態で、大会を迎えることができました。

本大会は、三チームのリーグ戦から始まり、対戦相手は、島根県警と栃木県警でした。戦力は拮抗しており、まずは先手を取って流れを掴んでいきたいところですが、団体戦では、先鋒から副将までが、しっかりと大将まで繋ぎ、勝利することが最も重要になってきます。それぞれのポジションでの役目を再確認し試合に臨みました。

しかしながら、二試合ともに苦しい試合展開が続き、島根県警に三―一、栃木県警に四―一で敗れ、二部に昇格することができませんでした。結果は残念ながら二敗となりましたが、それぞれの戦いは僅差でした。しかしその僅差が勝負を分けます。今後、そこをいかに埋めていくかが課題であると痛感した大会でした。

『稽古は試合のごとく、試合は稽古のごとく』

という言葉どおり、平素の稽古を疎かにせ

ず、常に真剣に試合のつもりで取り組むことが大切です。日々の稽古によって理合いを学び、厳しい稽古を積み重ねていくことにより習得するものがあります。稽古の目的を持ち、いかに普段からこのような気持ちで取り組むことが重要であるかということとを改めて感じました。

今回の結果を真摯に受け止め、監督として反省、検討し、来る平成二十八年度全国警察剣道大会に向けて気持ち切り替え、特練員とともに汗を流し、精進して参りたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしく
お願いいたします



中四国学連剣友 剣道大会を終えて

徳島大学剣友会 藤 本 辰 夫

平成二十七年十二月六日愛媛県武道館において開催されました第十七回中四国学連剣友剣道大会に、私達徳島大学剣友会は成年男子の部に一チームと熟年男子の部に二チームで参加いたしました。

この大会の熟年男子の部は参加資格が三人とも五十歳以上との決まりがあり、本年度の徳島大学剣友会Aチームは初参加の先鋒・青野克彦選手が五十六歳、ベテラン中堅・志田守選手が五十九歳、大将の私が六十三歳で、年齢の合計では若い順で数えますと二十八チーム中十七番目とやや高齢の位置にありました。

一昨年の第十五回大会において私達熟年チームは、徳島大学剣友会初の優勝の栄冠を勝ち取ったのですが、今回はやや体力的に落ちてきていますし、初参加の選手もいましたので、まずはベスト八を目標にいた

しました。

初戦はなんとか勝ち抜きましたが、二回戦目は手ごわい日本体育大学Bチームと対戦し、先鋒、中堅がともに引き分けと来て、大将戦での決着となりました。たいへんなプレッシャーでしたが、前半にメンを決め、なんとか粘って一本を守ることができました。

その後、愛媛大学Dチーム、東洋大学チームと勝ち抜き、いよいよ決勝戦で日本体育大学Aチームと対戦することになりました。相手は先鋒・門岡選手五十一歳、中堅・濱田選手五十二歳、大将・安原選手五十二歳と非常に若い勢いのあるチームです。

戦績は、先鋒、中堅と頑張ったのですが、二人とも一本負けとなり、大将戦も前半にメンを取られ、取り返すことができずに結局三人とも一本負けで準優勝という結果に終わってしまいました。しかし、優勝は逃したものの、それぞれの長所を生かして善戦できたことに満足感を覚える大会となりました。

また、この大会の翌週には、大阪市舞洲

アリーナで第二十五回関西学連剣友剣道大会が開催され、男子二部に先鋒倉都滋之、中堅及び大将は同じメンバーで出場しました。本大会の二部においては参加チーム数七十六と大変多かったのですが、私たちのチームは五回戦まで勝ち残りベスト八入りを果たすことができました。

各大学の卒業生で構成される学連剣友会の大会は毎年十二月に行われるため、その年の一年間の稽古の成果を試す良い機会でもあります。そういった意味におきましても平成二十七年は充実した一年を送ることができました。今年も更なる飛躍を求めて、それぞれの地で稽古に精進したいと思えます。



全国健康福祉祭

山口大会に参加して

大将 中村 稔 裕



第二十八回全国

健康福祉祭山口大

会ねんりんピック

おいでませ山口二

〇一五が、十月十

七日から同月二十日まで山口県下一八会場において開催された。高齢者による生涯スポーツの祭典として、全国から六十歳以上の選手一万余名余が雲一つない快晴の山口維新百年記念陸上競技場に整列し総合開会式が行われた。常陸宮ご夫妻、労働大臣、山口県知事、山口市長の祝辞のあと、新設されたスポーツ庁の鈴木大地長官から「思い出に残る大会になるよう願っている」との挨拶があり、会場から大きな拍手が沸き起こった。また、競技場大スクリーンに地元山口県出身の安倍晋三現内閣総理大臣の歓迎メッセージと笑顔が撮し出され地元なら

ではの演出であった。

総合開会式終了後、競技別に各会場に移動し、剣道競技は防府市に移動した。

剣道は十月十八日、十九日の両日、ソフトアリーナ防府において全国から六七チーム（都道府県代表四八チーム・政令指定都市代表一九チーム）が参加し、四試合で熱戦が展開された。

徳島県の第一試合は横浜市と対戦、先鋒乾選手、元氣よく攻撃を続けたが一对一で引分け。次鋒藤本選手、激しい攻防を展開するも一本負け。中堅東選手、落着いた試合運びであったが二対一で負け。副将兵頭選手、懸命に攻撃するも引分け。大将中村選手、常に攻め続けたが終了間近に返し胴により負け。結局〇対三で敗退。

二試合目は札幌市チーム、この日強豪長崎県を破っており流れをつかんだ感じでの選手も動きが良い。先鋒乾選手、先手先手と攻めるも旗は上がりず面の一本負け。次鋒藤本選手、相手の早い動きに少し遅れ面二本負け。中堅東選手相変らず落ち着いた攻め、一本一本の後甲手を決めて勝ち。副

将兵頭選手、激しく攻撃するも面一本負け。

大将中村選手、出甲手二本を決めて勝ち。

結局二対三で敗れ決勝トーナメント進出は出来ませんでした。

各チーム共に各ポジション制限年齢ギリギリの選手編成をしており、勝利に対する強い意欲が感じられた。本大会初出場の先鋒乾選手は元氣一杯先手先手と攻める試合は見応えのあるもので、特筆に値するものであった。本県も次回から選手の強化にもう少し力を入れ上位進出を図りたいと思っている。

〈徳島県選手〉

先鋒	乾	清孝	六二歳	六段
次鋒	藤本	辰夫	六三歳	七段
中堅	東	徳美	六五歳	七段
副将	兵頭	新平	六五歳	七段
大将	中村	稔裕	七三歳	七段

大会結果

団体名	順	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
横浜市	氏名	成瀬英一	有銘政昭	水野良一	波田野志郎	豊村義憲	3	5	○
	試合経過	▲ ド	メ	ドメ	ド				
徳島県	氏名	乾清孝	藤本辰夫	東徳美	兵頭新平	中村稔裕	0	2	△
	試合経過	コ		メ					

団体名	順	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
札幌市	氏名	畠山健二	成田道信	東宣雄	古賀勝男	熊谷健	3	5	○
	試合経過	メ	メメ	ド	メ				
徳島県	氏名	乾清孝	藤本辰夫	東徳美	兵頭新平	中村稔裕	2	4	△
	試合経過		▲	メコ	ココ				



随想

一 高齢剣士の病後雑

麻植支部 出葉成一



私は、若い頃から小兵ながら、健康と体力には、人一倍自信がありました。ところが、実は今から二年程前に前立腺癌になり、既に余命宣告を受けております。

平成二十六年一月十日、私は排泄作用に支障が生じたことから、徳島大学病院泌尿器科において、担当教授の診察を受けたところ、前立腺癌の疑いが強く、しかも相当進行しており、他臓器への転移も窺える為、早急に精密検査をする必要があると診断され、そのまま即緊急入院する羽目となり、約一ヶ月間入院しました。

入院中、私は必要な治療を受けながら、

血液・尿検は勿論、PSA（血液）検査、

CT検査、骨シンチ検査、生検（前立腺組織の一部を採取しての検査）等々、ありとあらゆる検査を受け、本当に検査漬けのようない日々を送りました。

その結果、私は担当医に、妻子と一緒に入院病棟の別室に呼ばれ、「残念ですが、完全な前立腺癌であり、既に癌が直腸や全身骨へ転移しており、グリーンスコア（癌の悪性度）も最悪です。余命は、早ければ数ヶ月、長くても後数年と思われれます。もう仕事も剣道も辞めて、後は好きな事をして、のんびりと余生を過ごされたらどうですか。」と明確に余命宣告を受けました。

その瞬間、私の脳裏に、これで我が人生も終わりかという悲愴感や、これ迄散々苦勞をかけた妻に、また、これ迄以上に多大の迷惑や苦勞をかけることになるのか、職を失うとこれから先の生活は、どうなるのだろうか等と、いろいろな心配や不安が一瞬にして駆け巡り、目の前が真っ暗になると同時に、頭の中は真っ白になって愕然としました。今も、その時のことは、よく覚

えています。

私が罹患した前立腺癌というのは、中年男性に多く発症する癌の一種です。前立腺は、膀胱の直下にあって、男性だけに備わっている生殖器で、主な役割は、前立腺液を作る他、筋肉の収縮によって排尿や射精を調整することです。この癌の特徴は、初期は無症状で発見しにくく、発見した時には、相当進行していることが多い。他臓器への転移よりも、骨転移することが多く、特に骨盤、下部腰椎、大腿骨への転移が多い。他の癌に比べ、進行が比較的に遅い。治療しても再燃再発する可能性が高い等と

言われています。そこで経験者の私から提言したいことの一つに、中高年男性剣士、特に七十歳以上の方は、定期検診と合わせて、是非ともPSA（血液）検査をオプションでも、受けられることをお勧めします。前立腺癌の早期発見につながります。やっぱり、癌治療には、早期発見、早期治療が一番大切です。誰しも同じですが、病気になれば、本人

もつらい思いをしますが、それ以上に周囲の人や家族に多大の迷惑をかけることになりません。剣道修業者は、年齢性別を問わず、平生の心得の一つとして、是非とも自己の健康維持管理を心掛けて頂きたいと思えます。特に剣道依存症の強い中高年剣士の方は、自分の年齢や体調と相談しながら、決して無理をせず、体調不良の時には、休む勇氣も必要であり、見取り稽古をする等、稽古の方法や内容を工夫することも大切かと思えます。

また、私が病気になって、もう一つ感じたことは、当たり前のことが当たり前にできる、普通であることの大切さや有り難さです。

私は、平成十八年三月末に県警を退職しました。その時、平野誠司先生から、退職記念の祝品として、先生が達筆で「無事は貴人」と揮毫して作ってくれた、大谷焼の大皿を頂きました。私は、これを自分の宝物として今も自宅の床の間に飾っています。

この禅語は、臨済宗開祖の臨済禅師の教えの一つで、「無事^{ぶじ}是^{これ}貴人^{きにん}なり。ただ造作^{ぞうさく}

する莫^なれ」と続きます。当たり前の事を当たり前に行く。平々凡々たる日々を恙^{つが}無く生きよという教えです。しかし、本当はこの「普通」が一番難しいことではないでしょうか。

平素、よく無事という言葉を使いますが、これは変わらないこと、健康であること、平穩であることの感謝や願望を表わす挨拶語にもなっています。

この祝品は、平野先生が私に、第二の人生も恙^{つが}無く生きて下さいという願いを込めて贈って下さったものと理解しています。今更ながら平野先生の優しいお心遣いに頭がさがり、深く感謝致しております。

私如き者が生意気なことを申しませんが、人生はローソクと同じだという例え話があります。人間は必ず、いつかは死ぬ。しかし、それがいつかは、自分ではわからない。でもいつ死んでも、人間として恥ずかしくない生き方をしていたら、それでいいのではないか。投げ槍ではなく、静かな覚悟を腹に据えて、いつ死んでもいいと思える位、自分なりに日々努力して、火のついた一本

のように、最後まで燃え尽きて自然に枯れていく。

俗人の私には、このような生き方は、到底できることはありませんが、自分の理想や願望としては、このような心境で余生を過ごしたいと思っております。

三木毅新会長の指揮の下、新体制の徳島県剣道連盟の益々のご発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げます。



生涯剣道

板野東支部 西 堀 和 文



剣道に出会ったのは中学二年の夏でした。中学校に剣道部ができる、ということであるとなく始めました。高校生になり剣道部に入って高校時代は剣道一筋、しかし、教えていただけの先生は週一度程度であまり厳しく指導された記憶がありません。もっぱら先輩後輩同士の交遊会レベルでした。

高校で二段になり、その後社会人（海上自衛官）になりましたが剣道は年一度の小さな剣道競技会に参加する程度で普段はもっぱら野外を走り回りラグビー、サッカーなど色んな運動をしていました。三段を取って、一度四段を受験し失敗、そのころは、剣道は年取ってからやればいい、走れるうちは外を走ろうなんて考えていて剣道はたまにしかしていませんでした。

四十代後半から松茂町の少年サッカーの監督を依頼され、八年くらい少年サッカーをやっていました。

その後自衛隊を退官、東京に単身赴任することになりサッカー監督を辞して「東京では剣道に再挑戦しよう。」と古い防具を取り出して東京に持って行きました。単身生活を始めて剣道ができるところを探していたところ近くの小学校で竹刀の音が聞こえその剣道教室の門をたたきました。

そこで出会ったのが自衛隊のご出身で教士八段工藤先生でした。剣道をする拠点ができ、この先生のお供をさせて頂くことで官公庁の稽古会にも参加することができ、皇宮警察の皇居内道場や国会議院会館の道場、東京都庁、防衛省等々出稽古させて頂くことができました。

在東京時に全剣連主催の月に一度の日本武道館での稽古会があり、この稽古会にも幾度か参加しました。稽古は全国から多くの八段の先生方が参加され、約一時間元立ちに立たれ、稽古をしていただけました。掛かる側は三〇〇名くらいいましたので一

時間でよくて三名くらいの先生に掛かれるのがやっとでしたが待つ間の見取り稽古がたいへん有意義でした。

東京での単身赴任を終えて徳島に帰り剣道が続けたいとあちらこちらの稽古場所を訪ねました。その結果当初は月曜から土曜日まで毎日出稽古をさせて頂くことができました。始めたのは良かったのですがかねてから足の具合が悪く、毎日の稽古に耐えられなくなりましたので一日おきくらいの稽古に減らし今は松茂と鳴門、北島北小学校の三か所にお願ひしています。もちろん高齢剣友会にも入会させて頂きました。高齢剣友会に入会した時は当然ながら最若手でしたがもう六年が過ぎました。今ではあまり若くない層になりましたが、段位が下ですから、新しく入会される先生方を含めすべての先生方が「わが師也」です。こうして沢山の先生方に教えを頂き、稽古して頂ける知人も増え充実した毎日を送っています。

現在川内中学校の部活動のお手伝いをさせて頂いています。中学生には私自身が多

くの先生方に教えて頂いたものを少しでも伝えられたら、と自身も向上心を持ちながら日々稽古に励んでいます。

剣道の良さはいろいろと言われていますが、私なりに思う所は剣道は幾つになっても向上心を失わず進歩し続けるところにあると思います。稽古してたまたま一本取れても次の稽古時にはもう通用しない。当然こちらも新たに工夫してなんとか一本を、の繰り返しで終わりがありません。何度立ち合っても一本も取れない先生方にもなんとか一本、と努力している自分がいます。打たせて頂いてありがとうございます、打っていたいてありがとうございます、の毎日を楽しんでいます。生涯剣道『最高!』

剣道に出会って

丹生谷支部 野村 幸 大



私が剣道をはじめたのは五十七年前、旧日野谷中学校一年生の、昭和三十四年の事です。

現在の相生中学校は、昭和四十年に旧延野中学校、旧相生中学校、旧日野谷中学校が統合してできました。丹生谷地域は昔から剣道の盛んな土地柄です。当時も各中学校をはじめ、鷲敷振武館、木頭錬心館等で竹刀の打ち合う音が絶えませんでした。同級生の男子は二十名でしたが、体育の一部の時間は全員剣道をしました。現在の中学校での体育の時間における武道の実施とよく似た事と記憶しています。部活動は男子の剣道部と女子のバレー部でした。施設設備は十分でなく、女子は日焼けしているほど強いチームと言われていました。体育の時間の剣道は、運動場で、正座して防具のつ

け方や面タオルのつけ方等学びました。主に指導して下さいたのは故西村武夫先生でした。部活動では故新居英男先生や故島田幸美校長先生が指導してくれました。その他故新田密太先生や故新江恒八先生もおいでくれました。練習場所は、体育館や武道場がなかったので放課後教室の机を廊下に出して稽古しました。よく床を踏み破りもしましたが、大工の息子さんではありませんが、結構器用な先輩がいて上手に修理していました。また水拭き掃除の時は指に「もそら」が刺さり、冬の寒い時は感覚が麻痺していて痛くも感じない状態でした。中学二年生の時に川口発電所（ダム式発電所）ができ、校舎横に講堂が建てられ、剣道の稽古もそこで出来るようになりました。故島田幸美校長先生には徳島市内での剣道大会の帰りが遅くなると先生の自宅に泊めて頂き、大変お世話になりました。また、話がそれますが、少子化の現在うらやましい事ですが、先生はよく仲人をされ、社会貢献もされてました。

富岡西高校時代は、故松本一城先生にご

指導頂きました。剣道部の同級生には驚敷出身の人が多く、また一城先生のご息とも一緒によく稽古しました。東京での大学時代は出来て間もない剣道部で部員も少なく、先輩も優しい人ばかりでした。大学では皇宮警察の故佐藤貞雄先生や松永政美先生からご指導いただきました。佐藤先生は小さな体ですが、ガッチリしておられ、特に脹脛ふくらはぎの筋肉は鋼鉄のように堅いものでした。合宿にもご参加下さり、よくマッサー

大きなニンニクを肴に、お酒もよく酌み交わしました。上那賀出身の中川虎男先生が経営されていた徳島の日本旅館も大会前日によく利用させて頂きました。当時、木頭中学校では影山美雄先生が活躍されていました。

で朝稽古をつけて下さり、厳しい中にも思い出深い稽古となりました。

十年前の定年退職の折、相生龍虎館の指導を勧められ、暫く剣道から離れてはいましたが、昔取った杵柄でもあり、お受けすることにしました。現在、自分の体調も整えながら、若い儀宝和仁先生や山本裕子先生、ベテランの山下勝也先生共々指導に当たっております。昔の少年剣道人口に比べると随分少なくなり寂しい感じも致します。

卒業一年後に帰郷し、相生中学校や旧延野小学校で、子どもたちの指導に当たりました。延野小学校では、故川野美和太先生のご指導もありました。この頃は郡市対抗の教職員体育大会が盛んで、私も谷崎正助先生と共に出場し、高島稔之先生に胸をお借り致しました。木頭小学校では子どもたち

の指導後、木頭錬心館で故松本英雄先生や故雄西義春先生、原田勝先生、岡田豊先生にご指導頂き、稽古後高知で買ってきた

後共、ご指導よろしくお願い致します。



剣豪の墓参り

居合道部 徳山 豊



東京に行く機会があると、江戸のころの剣豪の墓をお参りしている。

一人は山岡鉄舟先

生で、墓は台東区谷中の全生庵にある。山岡鉄舟先生は剣・禅・書の達人にして「至誠の人」、かの西郷隆盛が「命もいらぬ、名もいらぬ、官位も、金もいらぬ、なんとも始末に困る人」と評した人物である。江戸城無血開城の立役者としても世に知られる。何度かお参りしたが、墓にはいつも花が供えられ線香の煙が絶えることがない。

もう一人は、高橋泥舟先生である。全生庵からほど近い谷中の大雄寺にその墓がある。ひっそりとした寺で、初めて訪ねたときには花も香もなく、お参りする人もないかのようにあったが、数年後に再度訪ねた

ときには櫛しきみが供えられて以前より手入れもされていた。高橋泥舟先生は槍の名家に生まれ、長兄・山岡静山について槍を修行し、

槍一筋・節義一筋に生きた誠実剛毅な人物である。先生は山岡家から高橋家に養子に出ていたのであるが、兄の静山が若くして急逝したため山岡家を継ぐものがいなくなつた。それで静山の門弟だった小野鉄太郎に山岡家を継ぐように頼み、その願いを入れて山岡家を継いだのがのちの山岡鉄舟である。山岡鉄舟は泥舟の義弟になる。

あと一人が、平山行蔵先生である。その名は先の二人に比べ世に知られていないと思うので、手元の資料を参考にやや詳しく述べたい。先生は、宝暦九（一七五九）年江戸四谷伊賀町稲荷横町の幕府伊賀衆（伊賀忍者）の家に生まれた。幼少から文武に厳しい教育を施こされた。夜の白むのを待たず叩き起こされ、井戸水をかぶり眠気をさませ、板の間に正座して論語をはじめとする漢書の素読、撃剣の稽古、清掃と続き遊ぶ間もなかった。十三・四歳のときには土をつめた米俵を肩まで上げたという。

長ずるにつれて、軍学・剣術・槍術・柔術・居合術・拳法・十手・棒術・砲術など、一流の師について学び、その奥義をきわめた。両親の死後は天涯孤独の身となり、屋敷にひきこもってひたすら文武の研鑽に努めた。朝は四時に起きて水をかぶり、祖先の霊を礼拝し、庭に出て七尺五寸の檉棒けやきの素振り四百回、居合抜きを三百本、弓、槍と続き最後に庭の櫛けやきの幹を木刀で打つ。この立ち木打ちの音があたり一帯にカツカツと反響し、近辺の人はその音を「平山の七ツ」と時計代わりにしたという。

屋敷内に「兵原草蘆（へいげんそうろ）」と名づけた道場を開き、剣術と兵学を教授した。弟子には、剣聖男谷精一郎や勝小吉（勝海舟の父）がいた。その道場の玄閑脇には「他流試合勝手次第、飛道具其他矢玉にても不苦」と墨書されていた。その稽古がどれだけ凄まじいものであったかは想像できない。先生は真冬でも袷あわせ一枚だけで、足袋ははずかず、夜は甲冑を身につけて土間に寝ることもあった。年とってからは薄い木綿の布団を一枚掛けて板間に寝た。夏で

も蚊帳はつらなかつた。食事は玄米の飯に塩水をぶっかけ、味噌をおかずに手早くかきこんだ。いわしなどは、丸ごと塩焼きにして骨までバリバリ噛み砕いて食べる。食後も湯茶の習慣はなく水ですませた。内弟子は、食事の粗末さとひどさに驚いたが、「戦場では、食べ物にぜいたくなど言えぬぞ。常日ごろから、戦場にあるところがけが大事じゃ」と常住戦陣にある心構えを示した。読書する間も膝下に敷いた二尺四方の厚板を拳で叩き、両拳を鉄石のごとく鍛え「敵の胸板を突き破れる」までの武器とし、栗のイガも手のひらでつぶすことができたという。生涯妻をめとることもなく、まさに武術一色に染め上げられた一生であった。戦場で死ぬことを夢見た剣豪は、老いて中風にかかってもなお武士の懦弱を憂い、悲憤慷慨の言葉を吐き続けながら逝った。行年七十歳であった。

辞世の句

「武蔵野の芝生隠れのすみれ草

花の咲くてふ 知るや知らずや」

私は、先生の言葉の「夏の暑さ冬の寒さ

を何かとふ 我を励ます友とし思えば」を壁に貼って、励みにしている。

先生の墓は、東京都杉並区永福の永昌寺にある。「兵原平山先生之墓」と刻字されただけの質素なもので、古い墓石が山積みになった所と墓参り用具を置いた小屋との間の狭い場所にぽつんと置かれている。誰かがお参りしたような痕跡もなく、侘しい感じであるが常住戦陣を生き抜き、戦場に死ぬことを夢見た先生には、ある意味ふさわ

しいように思われた。

墓をきれいに清めたあと、徳島から持参した線香と近くで求めた花を供え、お参りさせていただいた。

平山行蔵先生を主人公にした時代小説

『豪の剣 剣豪平山行蔵』

永井義男 角川春樹事務所

『藩邸始末 剣豪平山行蔵』

永井義男 角川春樹事務所



兵原平山行蔵先生の墓（2015年2月28日）

ぼくは負けれん

南小松島小学校五年

沖野友哉



準決勝まできた。あと二つ試合に勝てば、優勝できる。相手がぼくをにらんでくる。でも、今のぼくは目をそらさない。竹刀をぎゅっとにぎりしめた。(ぼくは負けれん) 心の中でさげんだ。

剣道が始めるまでのぼくは弱虫だった。三歳上の兄は私立の学校に通っている。家から遠い学校へは母が送り迎えをしている。朝は早いし、帰りはおそい。その上、土曜日も学校がある。宿題がいっぱいで、テストばかり。いい成績をとるためにじゅくへも通う。勉強、勉強、勉強がおいかけてくる。それがいやで、ぼくは家に近い公

立の学校を選んだ。一つ下の妹は、兄と同じ私立の学校を選んだ。

母はいそがしくなった。「友哉、おきなよ。」

その声の数分後、車のエンジンの音がきこえる。エンジンの音より大きな母のどなり声。

「忘れ物ないで。」「早うしなさい。」「もう、何をしようん。」

兄たちをおこりながら、学校へ送って行く。

夜おそくなって、母がくれたたになんて帰ってくる。ぼくの顔をみるなり、

「友哉、宿題したん。」

ぼくは知らん顔をする。(それより先に「ただいま」とちがうん。「おかえり」もいえん。) 毎日がこんなくり返し。ぼくの中のトゲトゲがどんどん大きくなっていく。

あの日、ぼくの心がひめいをあげた。

ゲームをして遊んでいるぼくに、祖母が、「友哉、宿題したん。お母さんが帰る前にしとかなあかんよ。」

いつもいわれている事なのに、どうしても

腹が立って、自分がおさえられなかった。「うるさいわ。ばばあ。」

一番の味方のばあちゃんにひどい言葉をぶつけた。祖母の方をむくことができない。

(ぼくの居場所がなくなった。) 悲しかった。だけど、それはちがっていた。祖母はぼくの心のひめいをしっかりと受けとめてくれた。そうして、ぼくは剣道と出合った。

練習試合に勝っただけで大喜びする母。

その話をうれしそうに聞いている父。祖母はうっすら涙をうかべている。

「友哉、すごいなあ。がんばったなあ。」

と応えんしてくれる兄と妹。ぼくの大切な家族。ぼくも、この家族の中にいるんだ。

今までぼくは、いろんなことから逃げだした。都合の悪い事は、だれかのせいにもした。だけど、もう逃げん。ぼくは戦う。(もっともっと、強くなりたい。) そう思った。

この大会が終わったら、心配をかけた祖母と母に謝ろうと決めている。応えんしてくれる大切な家族に「ありがとう」と言おう。

あと二試合、ぼくは全力で戦う。

称号・段位合格者

剣道七段に合格して

阿南支部 須藤 恭宏



平成二十七年四月の京都審査会において、剣道七段に合格させていただきました。私の

七段挑戦は、本当に長い道のりでした。多くの先生方又、剣友の方々にご心配をおかけし、ご指導をいただき長い年月をかけてやっと合格させていただきました。

今回は合格したかと思いましたが何度となくありましたが、貼りだされた合格者の中には自分の番号がありませんでした。自分なりに良い立ち合いができたのではないかと思いつながら、何がいかなかったのか、何をどうすればいいのか思い悩むことがたくさんありました。

今回の審査も立ち合いが終わった後、自分としては良い立ち合いができたのではないかと思う一方、今回もまたダメなんじゃないかとの不安もありましたが、一緒に受審した米田先生が立ち合いを見てくれて、「打突後の態勢が崩れていなかったよ」と言ってくれ、他の人から見ても少しは良い立ち合いができたのかなと少し自信も湧いてきました。

今度こそはと期待しながら、発表された合格者の中の自分の番号を見つけた時は飛び上がりたくらいうれしかったことを今も鮮明に覚えています。同じ審査会場で受審した武田先生も合格したことを知り、一緒に喜びをわかちあいました。

又、合格できたとき、喜びとともに「継続は力なり」という言葉が真っ先に頭に浮かびました。今は亡き、剣道範士清原栄先生がよく言っておられた言葉です。

今まで何度となく不合格となり、その都度思い悩み、もうやめてしまおうかと思っただことも幾度となくありましたが、何くそ今度こそはと思いき直し挑戦してきました。

挑戦し続けることの大変さ、剣道を続けて行くことの大変さを嫌というほど味わってきましたが、しかし、今こうして剣道七段に合格できたことの喜びと、剣道を続けてきたことよって得られる喜びを味わうことができ本当に良かったと心から思っています。

今までご指導いただいた、徳島県剣道連盟の先生方、また阿南支部の先生方、そして剣友達に深く感謝するとともに、永らく心配をかけてきた家族に対しても心からお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。

これからは、自分の持っている段にふさわしい剣道ができるよう、まだまだ精進して行こうと思っています。そして常に「継続は力なり」の言葉を忘れず少しずつでも前に向かって進んで行こうと思います。どうかこれからも、尚一層のご指導を賜りますようお願い致します。

京都に於ける七段審査

板野東支部 武 田 修 典

二〇一五年四月三十日に於ける京都審査にて運良く合格する事が出来ました。七段は初受審でしたが、省みて六段受審回数は十数回と両手で足りないほどであり、京都日帰り審査でやっと合格となりました。今回も『京都の夜』は辛抱し、日帰り審査で望みました。甲斐あって前日のアルコールも残ってなくベストコンディション(?)で望めた気がします。

さて審査の状況ですが、受験番号は【三五五A】と第三審査場五組目のAであり、開始よりあまり待ち時間もなく程よい時間の為気を落ち着かせ、相手に打たせて頂く気持ちで座礼より面を着け始め、自分の出番まで精神統一しながら、先に行われていく審査状況を見ることがもなく無心になることにつとめていました。

順番が来ると係員に促され一番目の位置にて深呼吸(鼻から吸いしばらく溜めて口

からゆっくり出す)を繰り返しながら前の最終組が終わるとイザ出陣!

前組“A”が開始線に戻ると同時に立礼し息を吐きながら進み息を吸いながら蹲踞し、立会者が始めの合図で立ち上がる(ここまでは剣道形の相手を打太刀とみなし仕太刀の心境)、そして相手が発生し終える時に乗る気持ちで声を出す!とここまではイメージ通りでしたがそれからが思い通りに立会出来ませんでした。

立会のイメージは審査時間一分半(九〇秒)により、まず二〇秒程度攻め合いをしそこから初太刀の面を打つ二の太刀から二〇秒間隔で技を出し四〇五の太刀で終了のつもりが、相手が初めての女性であり、なおかつ六段合格以降六年間経過していたためか、記憶が飛んだようになり、初太刀を一〇秒も待たずに面に打って出しましたが不発(剣先がとどいていない?)二の太刀は小手に行きましたがこれも部位に当たっていない!三の太刀で打ち間まで攻め入り面に乗ることが出来ましたが、その後何打したか記憶がありません。

一人目の立会が終わわり、私は“A”ですのでグループの“D”と対戦するまで時間が有るので気持ちを落ち着かせようと複式呼吸をしながら(前者の対戦状況もみていない)我に返るように努めて再出陣の時を待つ!

二人目は男性であり、これまた初太刀を出すのに二〇秒待てなく(一〇秒程度)一足一刀の間合より自分の打ち間に入り面に乗っていきましたが、これがなんとドンピシャと決まってしまう。初太刀が決まったところで少し落ち着いた気持ちになり、二本目も面、三本目は小手、四本目と五本目が小手抜き面、六本目が小手と、ここまで全てタイミングよく決定打となりました。(その後二本ほど打ちましたが、有効打突とはいきませんでした)審査が終了し、落ち着いたところで審査内容を回想してみると、一人目があまり良くなく二人目だけを見ると合格かなあ?とか次はどこで受審しようかなあ?とか勝手に思いながら結果発表を待っていたところに自分の受験番号が載っており、目をこすりながら再確

認し、喜びを体内で感じさせた次第です。

実技が合格したところで次は剣道形ですが、無難にこなすことが出来ました。ここに合格できたことはひとえに諸先生のご指導のたまものであり、感謝にたえません。

この場をかりてですが、今までの受審のための稽古方法を少し述べさせていただきますと思います。私は基本の面打ちしか練習しておらず、相手は同じ板野東支部の原

田進先生です。原田先生とは十年來お互いが交互に打つのみで勝負的なことは一切したことはありません。正しい姿勢・正しい構えより遠間からまたは一足一刀の間合いからあるいは自分の打ち間から面を打つの繰り返しです。どんな時にでも（相手が変則な場合でも）正しい正面打ちができるように自然に考えることなく面技が繰り出せるように練習したつもりです。舞い上がったときでも、気が動転したときでも身体が自然に動くように！（ただ本当に出来ているかはあまり自信はありませんが？）身体の重心は！両膝の曲げ具合は！剣先の高さは！打突姿勢打突後姿勢、打ち抜き姿勢、

残心は！とかいろいろチェックしながら試行錯誤です。甲斐あってこの練習のおかげで合格にこぎつけたのかとは思ってはいません。今は七段の初心者であり、本当の意味での七段となれるよう、精進してまいりますので剣道連盟の諸先生方今後もよろしくご指導お願いいたします。



偶然と必然

徳島支部 長 崎 秀 信

この度、福岡での審査において七段に合格することができましたことは、偏に今までご指導いただいた全ての先生方と交剣諸氏のお陰と深く感謝致しております。この誌面をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

せん越ながら、それは偶然だったのか、必然だったのか、手記を基にこの度の審査の状況を書き綴ってみたいと思います。

第三立ち合い場の入口辺りに、同年代の猛者が受審番号をもらうために群がっている。私もその一人だ。どんな相手だろうか、ドキドキした感じは隠せない。しかし、相手も同じ気持ちだろう。

いきなり、徳島県長崎先生と呼ばれ三五一Aの番号を垂に貼られた。よりによって午後一番しかもAとは、すぐ様面を付けた。一人目の相手は福岡の猛者だった。

始めの合図で、腹の奥底から誰にも負け

ない気合を出した。丹田に力を入れ、息を

止め正眠の構えから拳攻めの構えに変えた。

右足を少し前に出し攻めをみせたが、相手

は動じる様子が見えない。左足を引き付け、

再度右足を少し前に出し、拳を攻めると相

手は身体を後ろに引き止まった。この瞬間

を透かさず面に打ち込み、止めていた息を

一気に「メーレン」と吐き出した。相手も

面を打ってきたが、相手の手元が上がった

時、既に私の竹刀は相手の真正面に当たっ

ていた。丁度相手が居ついたところを偶然に

打てたのだろうと思うが、少し切先が重め

の竹刀で立ち合っていたことから、当たっ

た時の感触も重く自分でもびっくりするほ

どの会心の面だったように思う。この瞬間

から急に心が楽になり、さらに大きく気合

を出し攻め続けた。相手の動きがよく見え

る。打ちたがっている。二本目は、一本目

と同じ攻め方をし、一瞬止まるとそこに相

手が面を打ってきた。透かさず面返し右胴、

右にぬけ残心。三本目、相手はさらにまた

面を打ってきた。面返し右胴、左後方に下

向け残心。四本目、相手の打ちが止った。さらに攻め続け、相手の竹刀に触らない様に間合を詰め止まらずそのまま面を打った。当たった。送り足で前に進み振り返り残心。二人目は宮崎の猛者。三五一Cとの立ち合いを見たが、あまり打ち込んで来る様子が見られなかった。一人目と同じ攻め方を面を打っていくと、両手を頭上にあげ受け流すだけだった。それが二本続き、三本目の面で、相手がすりあげ面の技を出してきたが、元打ちで私の面の左側をかすった。この相手は面を打っても当たらない。四本目、互いに表と裏から攻め合いが続き表から剣先を下げ拳を攻めると、相手の剣先も下った。そこを透かさず相手の竹刀の上から内小手を打つと、少し深かったが小手に当り、近間での残心を示した。五本目、とにかく気合を絶やさずに攻め続け、面を打つぶりを見せ、間合を詰めると、一人目の相手と同じように面を打ってきた。思いどおりになった。面返し右胴、力いっぱい打った。実に小気味よく当り、いい音がした。右にぬけ残心を示す心に余裕があった。間もな

く「ヤメ!!」の声がかかった。

面をはずし、しばらく後の組の立ち合いを見たが、「みんな動きが固いなあ」と思ったくらいで、後はどうでもよかった。

初太刀相手が居ついたとこを打ち、仕掛けて相手を動かし思いどおりに打てたように思うが、果して自分の動きが審査の先生の目にどう映っただろうか。胴と垂れをはずし、「やれるだけの事はやったんだ。」と、なんとなくすっきりした気持ちで発表を待ったが、一抹の不安は隠せなかった。ようやく午後の部の立ち合いが終わり結果発表の紙が貼り出された。「三五一A、あった。」実技は合格した。さっそく形会場に案内され、難なく剣道形も終わり、二度目の挑戦で七段に合格した。

この度の審査は、京都での審査の失敗が非常に参考になった。審査に向かうまい具合に調整できていたが、あまりにも早い段階で仕上がってしまい、二月の審査申し込みあたりからスランプに陥り、そのスランプから抜け出せないままの受審となり、それに輪を掛けるように、変形性膝関節症で

蹲踞がままならなく、挙句の果て風邪を引き、声が嘎れ気合が出ないままでの審査となってしまった。しかし、審査会場で相手が分かった瞬間に「勝てる、一発で合格できる。」と思った。相手の一人は、壁を背

によだれを垂らし居眠りをしていた。あと一人は派手な女剣士。打たれるはずがない。急いで痛む膝を解し、ぎこちないながらもどうにか蹲踞らしき形になった。辛うじて出る声を目一杯出した。いいところを見せてやろうと思いい立ち姿を気にし、竹刀の攻防と溜めに気を取られているうちに時間が過ぎてしまっていた。二人とも、打たれはしなかったが、私にもいい打突はなかった。結果は不合格。成績開示のはがきを書いて京都を後にした。後日「Aのもう一歩です。」のところくらいに印がついて送られてくるだろうと思いいその日を待たがなかなか来ない。忘れていた頃に届いたはがきには「Cの極めて厳しい評価です」の欄に赤ペンで大きく印があった。まさかとは思ったが現実だった。スランプと体調を崩した状態での受審だったことも然る事ながら、

「いいところを見せよう、一発で合格できる。」と思つた心の邪念が全ての結果に繋がっていた。偶然は起きなかつた。

ある先生に「審査は構え立ち姿も見るが攻め合い冴えのある打ちを見る。」と教えていただいた。「攻め合い冴えのある打ち。」確かにその通りだと思う。攻め合い技を出し打たないことには評価されないことは当然のこと、したがって京都での不合格は必然であった。そのことから考えて、この度の福岡での審査は、偶然だったのか必然だったのか。

一、相手を攻め、居つかせ、起こりを打てた。

一、相手を攻め、隙を見せ、打ち込んで来たところに返し技を出せた。

一、相手を攻め、相手の打ちが止ったところに打ち込むことができた。

一、相手を攻め、打突しつつも受け流されることから、咄嗟に打突部位を変える判断ができた。

一、相手を攻め、相手に功を奏する打突を与えなかつた。

剣道七段審査に臨んで

美馬支部 松田久司

この五つの動作が合格に導いてくれたと思う。そして何よりも初立ちを取ったことにより、心が楽になり相手の動きがよく見えたことが、偶然から必然的な打突の動作に変化したように思う。

この度七段に合格したものの、六段と七段どこが違うのだろうか、今も分らないが、これからが七段としての稽古が始まる。日々の稽古の中から生じた小さな偶然の打突が基となり、それを繰り返して稽古することにより徐々に必然的な打突へと進化する。千変万化の打突（技）もここから生ずる。したがって、日々の稽古の意義はここにあると考えることから、偶然と必然が常に絡み合い存在する打突の動作において必然的打突の動作に心が稽古に励みたいと思う。

偶然と必然については、あくまでも私の個人的な感覚に基づくものですので、今後とも諸先生方をはじめ剣友諸氏の皆様に更なるご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。



審査の当日、防具を肩に博多駅を出た途端、大石先生から電話が入りました。「今日は

絶対、酒を飲んだらいけませんよ」と。「自分もそのつもりでおりますけん、御安心なして」と決意を表明して胸を張って答えました。

ホテルの部屋に防具を置き、シャワーを浴びてタバコを喫いながら窓の外を見ると雨模様。天候とはいえ真夏の午後四時、加えてホテルの場所が屋台店で有名な博多天神、このままホテルで籠るのはいかなる修行僧でも無理だろう、「一寸だけ」と心に言い訳しながら外に出てみました。ところがその屋台が唯の一台も見当りません。土地の人に尋ねたところ、「このあたり一帯ですが、この天気なので今日は出ませんわ」

と。「えー、そんな」と一寸落胆しながら向かいを見ると、「そば、うどん」の看板があるではありませんか。盛りそばとキツネずしを注文して、やおら、清水の舞台から下を覗くような気持ちで「姐さん、熱かんで一本頼みます」と言うと、なんと「うちはお酒は出していません」と、けんもほろろの返事に店を変えようかと腰が浮きかけたもののどうやらソバが出来たような気配、それにキツネずしにもすでに喰いついていたため、そうもならず、お茶を飲みながらのソバは近年記憶にありませんでした。

食事を終えて店を出ると妙なもので焼き鳥もビールも酒も欲しくありません。ホテルに帰っても販売機で買う気にもならず、お茶を沸かしてテレビを見て過ごした次第です。面白い番組とてなく九時半には床に就きました。久しぶりに酒も飲まず、タバコもほんの少し喫っただけだったのが幸いしたのかぐっすりよく眠れました。

当日の朝食も旨く、ご飯も継ぎ足して平らげました。十時には審査会場に入り、準備体操も入念にやりましたが、この間、あ

まり周囲も気にならず。気が浮くことも逸ることもなく、割り合い落着いていたように思います。

稽古をやってきた以上のものは出るはずもない、欲をかかずに全てを忘れて立合に臨みました。

今回は、二人と立合ってあまり息切れもなく、ノドがひりひりと痛むこともなく、審査の先生方の存在も気にならず、唯、相手にだけ向かって集中していたと思います。これがプラスに働いたのか、相手が二回、三回と下がったことが印象に残っています。前回の京都よりも良かったとは思いつつも、合否の発表があればすぐハガキをもらって出しておこうと座に戻り、防具を脱いでいたところ、隣りにいた立合ったばかりの「B」さんが（自分は「C」）、「初一刀の出がしら面を決められました。又、入ろうとしてもなかなか入れず、参りました」と言うではありませんか。「ガシャッ」という音が耳に入ったのは覚えていますが、良い面打ちではなかったのでは？」と言うと、「自分の細目で軽目の竹刀が弾かれた音で

す。太い竹刀で真直に打たれましたよ」と。

そこへ、同じ組だった「A」さんが来て、「D」さんにも初一刀の出がしら面が決まりましたね。「コテ」も良い音がしました。合格は間違いないですよ。」と言ってくれるではありませんか。「まさか」から「ひょっとして」に変わり、立合を静かに思い出してみると、今、言ってくれた内容が蘇り、自分が思っている以上に良かったのかもと思えて来ました。又、「D」さんでしたが、面打ちが入らなかつたものの（首を倒したため）よく前に走ったので「捨てきった打ち」と評価されるのではとも思えて来ました。

「559組のC」とあるのを見て、受かった／やった／良かった／と喜びが湧いて来ました。ちなみに「A」さんも合格していました。その「A」さんと剣道形をやり無事に合格となりました。

思い返せば、脇町少剣で永い間剣道に親しんで来ましたが、続けて来て本当に良かった、多分、今の健康は剣道を抜きには考え

られないと思います。「継続は力なり」の格言が自分の骨身に染み込むようで感謝の気持ち湧いて来ます。特に印象に残っているのは、この一年有余の間、脇町少剣の「柴田、中川、大石、藤本(文)」各七段の先生方から適切なアドバイス、御指導を頂きました。又、時折見えられる藤川、藤本(辰)両先生からも懇切なる御指導を頂き感謝の他ありません。まことに有難うございました。受けたアドバイスの内容を自分なりに理解し、消化し身に付けようと努めたことが今回の結果に繋がったものと思っております。

今後は自分の剣道を少しでも高めるべく努めると共に少剣の子供達や後進の方々に多少なりともお役に立つようにと心懸けて行きたいと想っております。

剣道六段昇段審査に合格して

名西支部 松 島 一 成



私は、昨年四月二十九日、京都において剣道六段の審査に合格することができました。

しかし、稽古不足でまだまだ六段の技量はなく、六段に相応しい剣道が出来るよう精進するつもりですのでよろしくお願い致します。

私は、左足の足底腱膜炎と右膝痛のためしばらく剣道から遠ざかっていましたが、六十歳の定年を期に高齢剣友会から入会の誘いがあり、剣道を始めることにしましたが、自分の剣道には自信が無く、先ずは地元の少年剣道教室で週二回、子供達を相手に始めることにしたのです。高齢剣友会への練習会は、ほとんど欠席で、年二回の南部、西部の練習会に出席するくらいでした。一年半くらい経過した昨年の中頃、突然、

名西支部長の大西先生から「四月二十九日に京都で六段の審査があるから六段取りに行ったらは…」と言われ、大人との稽古は皆無に近く、一度は断りましたが「まあ一度行ってきたら」と勧められ受験することにしたのです。

私の剣道は元氣なだけの剣道で、六段受験とはほど遠いものですから、自宅の庭で素振りや打ち込みの姿勢、動作をビデオカメラに納め自分なりに点検することにしました。しかし、今までの練習不足が祟り、一週間もしないうちに、左足太ももの肉離れを起こしてしまったのです。すでに審査まで二ヶ月を切っており、テーピングを施しての稽古も思うようにできません。一ヶ月前の石田範士を招いての練習会にも防具を着けることができない始末で、みんなからは「無理して練習したら受けなくなるよ。稽古せず、治療に専念した方がいい。」とまで言われて焦りは頂点に達しました。

稽古もままならず、どうにか剣道ができるようになったのは、わずか一週間前でした。当日審査会場に行ってみると、審査場の

脇では力強く竹刀を振っている者、ゆとりを持って仲間と談笑している者、どの顔も自信に満ちた堂々とした振る舞いで、「この人達と竹刀を交えるのか」とたじろぎましたが、「自分の剣道をしよう。落ちて元々」と開き直り、数日前に三木県連会長から教えられた「腹に力を入れ、しっかり打て」との言葉を思い出し、手打ちにならず、腹から相手の面を打ち切ることだけを心掛けました。

私の実技の受験番号はA・B・C・Dの「B」で、まずAとB、そしてBとCが対戦するものですから私にとって二人の手の内が全くわからず、逆にそれが功を奏した物と思います。相手の強さを知らなかったので無欲で打てたのです。また、「試合と違う。一本取られても良い。良い技を出そう。」と思ったので二人の相手に思い切った面を連発することができました。今思えば、実力以上の技が発揮できたのです。

対戦したCも合格し、互いに「良い剣道をさせて貰いました。」とお礼を述べるとともに今後の健闘を誓いました。

最後になりましたが、昨年九月二十一日には、徳島県剣道連盟名西支部主催、徳島県剣道連盟後援で「松島一成剣道六段昇段祝賀大会」と銘打ち、第四十三回阿北地区剣道大会を開催していただきました。多数の先生方のご出席を賜り、大変有難うございました。紙上で大変失礼ではございますが御礼申し上げます。



六段審査に合格して

阿南支部 大石 真也



平成二十七年五月、愛知県で行われた剣道六段審査会において合格させて頂きました。

日頃よりご指導頂いている先生方、共に汗を流している鳴門高校剣道部の生徒達に心より感謝申し上げます。

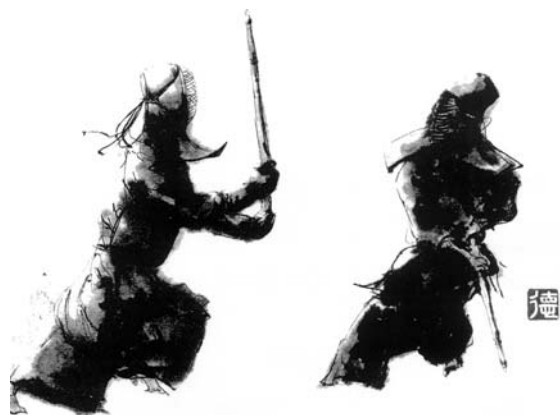
今回が初めての挑戦でしたが、どのように昇段審査に臨めばいいものかと最初の頃は考えすぎていたように思います。稽古をしても姿勢や打ち方などに気が取られてしまい、相手のことが全く見えていませんでした。これで合格することができるとかと不安になりましたが、多くの先生方に稽古をお願いし、アドバイスを頂く中で、今の自分の剣道をそのまま見てもらおうという気持ちになることができました。それからの稽古は審査のことを考えず、相手に

集中して取り組むことができたように思います。

当日は受付から審査開始までの時間が非常に短かったことに驚きましたが、先生方から頂いたアドバイスを思い出し、良い緊張感で審査に臨むことができました。受審するにあたっては、充実した気持ちをつくること、技を打ちきることだけを考えていました。一人目、二人目ともに先をかけて技を打ちきることができましたが、返し技を打たれるところもあり、お互いに有効打突を打ち合うという内容でした。自分の剣道ができたという満足感はありませんでしたが、結果が出るまでは気持ちが落ち着きませんでした。合格という結果が発表された時には、ほっとした気持ちになったことが印象に残っています。

審査を終えて少しずつ自分の剣道に自信が持てるようになってきましたが、課題も感じるようになりました。特に攻めて相手を崩すという部分がこれからの一番大きな課題であると思います。どんな状況であっても堂々と自分の剣道ができる強さを身に

つけるために、日々の生徒との稽古や、先生方に稽古をつけてもらう中で基本から鍛え直し、目標とする大会や七段昇段に向けて精進していきたいと思えます。今後もご指導よろしくお願いいたします。



六段審査立ち合い 師匠に報告できた

麻植支部 日野利之



立ち合いは、臍下丹田に気を入れ、目を見開き背筋を伸ばし堂々と対峙した。掛け声は、

相手より三倍くらい大きく「イヤアー、イヤアー、ウオー」と少し間を空け、剣を交えながら少しずつ攻め入った。すると面の兆しが伺えた。やったと思う瞬間「ドウ」の発声と同時に胴を切り落とした。残心の途中、チラリと審議員殿の表情を伺いながら、観ていただけましたか。と確かめ、更に「イヤアー」と掛け声をかけ、じっくりと攻め続けた。その後の立ち合いは、どう対峙したか記憶にない。ただ自分では、わずかであるが、手ごたえがあった。

このたびの審査は、立ち合った二人とも、同じパターンで攻めきり、初太刀胴を切り

落とすことが出来た。普段の稽古では、これ程集中した攻めや打ち切った記憶は無い。まぐれか神が付いたのか自分でも不思議だ。

審査に先立ち、信頼する師匠から「未完成の技は使わない。」等の戒めを受け極意を授かった。更に、それぞれの師匠から、六段むしり取ってこい。日本刀の真剣で渡り合う気持ち。所作まで細部にわたり色々教えを授かり審査に挑んだ。それらの教えを頭に叩き込み気持ちを固めた。

審査当日、立ち合い直前に、対戦相手二人をよく観察した。私はA、相手はBとDである。Bは、身長一六五センチくらい、中肉、面長、真面目で素直そうな方であった。Dは、身長一八〇センチくらいの大柄中肉で、癖のある方と観察した。二人とも面に来るかな。攻めたら来るかな。と判断した。

この観察と、Dと立ち合う直前のDの立ち合いを観たのが功を奏したのか、二人とも私の気攻め剣攻め等が効いたのか、不思議と面の兆しが伺えた。

合格発表の際、私の番号を確認した折は、

今までお世話になった師匠にやっと報告できる恩返しが出来たと思うと、この年が来ても嬉しさが込み上げ、家族と師匠、剣友に感謝した。

私は、審査四回目、六十七歳でやっと合格させて戴きました。これらは信頼する師匠やこれまで、稽古をつけて戴いた多くの先生方、剣友の皆様、少年剣道教室の剣士の皆様のお陰で、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。

私が剣道を始めたのは、県警察学校に入校してからです。最初は、柔道を専攻しておりましたが、少し強くなった夏の終わりの稽古中に左肘を脱臼しました。医師の指示に逆らいギブスをせず膏薬を貼るだけの治療をした為か、痛みがとれず、引き手が効ないので、柔道師範の承諾も得ず勝手に剣道の稽古をしたことが、教官に見つかり叱られた時からが、剣道稽古の始まりでした。

左肘が曲がったままの素振りでは、右打ちの不細工な振り方しかできず、それを見かねた機動隊の柔道猛者F氏が、私を道場

の畳にうつ伏せに寝かせ、曲がっている左肘を畳の上に置き、無言のまま、両手で私の曲がっている肘関節を畳に力一杯押し付け、押し伸ばすと荒治療をしてくれました。固まっている肘関節の筋を無理矢理伸ばしたので、「バリ、バリ、バリ」と筋が伸びる音がし、その痛みは目から火が飛び出る程の痛みがありました。その荒治療が即効き、そのおかげで肘が伸びるようになり剣道が続けられたのです。

警察学校卒業後は、新米警官として脇町警察署に赴任しました。

私のデビュー戦は、県警が毎年開催する県下警察柔道剣道大会でした。それは、各署の規模に応じてA・Bチームに分けた五人制のリーグ戦でした。脇町署は、規模が小さいBチームでしたが、署長以下署員全員が一丸となり優勝を目指し、カンパを募るなどして、応援にも力をいれてくれました。元氣だけが取り柄の私は、剣道選手の先鋒に選ばれました。稽古は、おおよそ一ヶ月間くらいの短期間でした。私は何の得意技もありませんでしたが、無我夢中で

戦った結果、やっと引き分けたり、負けたりしましたが、チーム力で準優勝することができました。

小松島警察署に転勤した折に、娘三人が剣道を習い始め、小松島少年剣道教室でお世話になりました。それが縁で、私も娘と一緒に稽古するようになり、次第と剣道病にとりつかれました。娘が中学・高校に進むにつれ、私の稽古も遠のいた時期もありましたが、転勤を繰り返したおかげで、多くの剣友や師匠との出会いがあり、稽古をつけて戴きました。

気がつけば、定年退職を迎える年となり、現役最後の試合として、県下警察柔道剣道大会の選手として挑んだ思い出があります。同期生でその試合に参加したのは二人だけで、その対戦を楽しみにしていました。が、成立しませんでした。

退職後は、楽しい剣道が出来たら良いと考え、六段審査については、頭の隅にもなかつたのですが、木曜会、月曜会、徳島県高齢剣友会、麻植支部、上浦剣道教室などで稽古をつけてもらっている内に、周りの

方が次々と昇段していくのに刺激され、私も目標を持って稽古するようになった次第です。

命あれば、更にもう一つ上を目指す覚悟でおりますので、皆様何卒ご指導の程よろしくお願いします。



剣道六段に合格して

名古屋支部 富 永 ますみ

平成二十六年十一月十五日、愛知県名古屋市の昇段審査において、六段の合格を頂きました。これもひとえに普段から何かと気に留めて頂き、指導して下さった先生方のお陰だと感謝しております。この場をおかりして御礼申し上げます。

振り返ってみますと、私が竹刀を握ったのは、小学校四年生。毎朝一山超えて小学校へ登校、下校は家に帰らず今は無き大澤善二郎先生が立ち上げた大和錬心館へ直行。当時はゲーム機など無かった為、稽古に明け暮れていました。当時女子剣士も数名居たのですが、小学校を卒業する頃には私一人になっていました。きつと厳しい稽古に耐えられなかったのでしょうか。現に私も何度「辞めたい」と思ったことか。それを言わさなかったのは厳しい父がいたからです。朝から粗相をしてしまうと、「朝から縁起が悪い。もう飯はいらん！」食事を止め仕

事に出て行く父。稽古を休んだ日は、口も聞いてもらえませんでした。ただ一言「人並みでは人並み。一日休んだら三日人より遅れるぞ！」三八度以下なら「稽古して汗かいたら熱は下る！」が父の口癖。ですから、少々の熱があるうと稽古は休みませんでした。

中学になると、夏休みには水産高校、新野高校等の剣道部の合宿が木頭で始まりません。その中に当時、白木先生や井村先生もいました。私達中学生は当然参加、地獄を何度も見ましたが、その甲斐あって、全中へ出場する事も出来ました。(当時白木先生は笑わない人だと思っていました。)高校は富岡東高校へ進学、親元を離れ寮生活、もちろん部活は剣道部。当時、遠藤先生が剣道部顧問でおられ、授業が終わると何度か先生の車に乗り、二人で阿南工業の稽古にも参加させて頂きました。夏休みには、稽古の合間をぬって今度は父と二人で県外へ出稽古。父がつかつか道場に乗り込み交渉。今思えば、監督さんもよく承諾してくれたなと頭が下がります。そんなこんなで、

あっという間の三年。

その後、就職。「燃え尽き症候群」に陥り剣道から少し離れてしまいましたが、結婚し子どもが出来、息子達が剣道を始めた事を機に、再び竹刀を握る事になりました。息子達には改めて剣道の面白さ、そして指導者としての難しさを考えさせられました。そんな長男も全中を、次男は東京大会入賞を共に目指し、この夏を駆け抜けていきました。

「次はお母さんの番やな。」「六段審査の事?。一度挑戦してみようかな」申込後、審査に向けての稽古を開始。しかし以前からすぐ飛びつき、打ち急ぎ、手元が浮いてしまう癖が抜けず、かと言って辛抱していると居付いてしまう自分に腹が立ち、悶々とした中で稽古がしばらく続き、後に後悔……。不安で不安で時間だけが坦々と過ぎていきました。そんな中、ある先生が、「色々、皆助言してくれるだろ。有難く聞きなさい。でも審査に臨むのは自分自身、後悔だけはするなよ。ただ、一本にならない打ちであっても必ず打ち切れ。」その一

言で気が楽になり、有難かった。

審査前日に出発、剣道着、袴は次男が用意。荷物を長男が玄関先まで運んでくれました。「団体戦、勝者、本数共に対、代表戦一本勝負。代表者はお母さんやで。いい報告してな」子供達が送り出してくれました。審査当日、万全ではありませんでしたが、「これが今の私の剣道です。審査してください。」と言う気持ちで臨みました。立ち会いの中、頭の中は「無」の状態で何をどうしたのか覚えていません。後でビデオを見て反省ばかり。今回、合格を頂けたのは「まだまだですが、精進し、これから頑張りなさい。これからですよ」という意味も込めて頂いたのだと思います。ここまですべて頂いたのも、その節目節目で熱心に指導してくださった先生方や良き友がいつもそばにいて支えてくれたからです。

これからは体が動く限り無理をせず、一日でも長く剣道が続けられる様、稽古に精進していきたいと思えます。今後共、御指導のほど宜しくお願いいたします。

剣道六段に昇段して

阿波支部 吉 田 一 之

平成二十七年十一月十五日、愛知での審査会において六段に合格させていただきました。御指導下さった阿波支部稽古会の先生方をはじめ、多くの方々に支えていただいたお陰と、この機会をお借りして心よりお礼申し上げます。

私にとって今回の審査は初めての挑戦で、様子もあまり分からず、仕事も時間が不規則で思ったように稽古時間が確保できないという焦り、以前から痛めていたアキレス腱が痛みはじめたこと等、迷いや心配な面が自分の中で大きくなった時がありました。そんな気持ちの不安定さが、技にも表れていたのだと思いますが、「そんな面打ちではあかん」と恩師の塩田先生から厳しく御指導いただいた事で、自分を見直すことができました。その日から限られた稽古の機会を大切に、焦りを捨て、今の自分の状態で行えることをしっかりやろうと心がけ

ました。

当日は立ち会いの順番も早かったので、緊張を感じる時間もなく、自然な状態を望めたように思います。一人目一人目ともしっかりと腹に力を溜め、一歩間合いに入りました。いつも打って出してしまう間合いからもう一歩もう一呼吸我慢しようと集中しました。攻めの中で相手が出てくる機会をしっかりと打ちきれたと思いました。

昇段の報告を御指導下さった方にお伝えした時、本当に喜んで下さり、改めて、自分も嬉しさがこみ上げてきました。中学校では中尾先生に、高校では塩田先生に厳しく、そして優しく指導していただき、今日まで剣道が続けてきました。両先生に少しでも御恩返しができる様、これからも精進していきたいと思っております。また今後とも御指導下さいますよう、お願いいたします。

六段審査に合格して

警察支部 松本 慎二



平成二十七年十月十五日に名古屋
市枇杷島スポーツセンターにて行
われました六段審

査に無事合格することができました。これも、日頃からお世話になってます藍住剣道スポーツ少年団をはじめ、これまで熱心に稽古をつけていただいている先生方のおかげであり、心から感謝申し上げます。

この審査を受けるにあたり、前から決めていたことがあります。それは、審査の直前になって急に稽古の量を増やしたりせず、普段どおりの生活リズムで稽古をして審査を受けることでした。そんな考えでよく審査を受けたなあとお叱りを受けるところでしょうがこれはずっと前から決めたことでした。と言いますのも、日頃から私は子どもたちに『普段の稽古や生活が大

切だよ。試合は普段の練習や生活がどれだけできていたかを確かめる場であるから、普段何もしないのに試合直前になって急に稽古してもダメだよ。』と書いています。

普段の稽古を大切にすることが剣道の本質であり、直前にだけことを行うことは所詮はそのときだけしか通用しないと思います。子どもたちには普段の稽古を一生懸命考えて頑張ることで気づく何かを日常生活に生かして欲しい、それは指導者である私自身が行いなくては子どもたちには何も伝わりません。普段の稽古を大切に、例えば、審査直前に稽古ができなかったとしても、真摯に受け止め、そのときに出せる力を一杯出して結果を待ち、出た結果を次に生かそうと考え、審査に挑みました。

ですから、審査前は仕事の都合で十分な稽古ができませんでしたが、焦る気持ちは全くなく、逆にびっくりするくらい落ち着いて審査に挑むことができました。

審査当日、チェックアウトしたにもかかわらず、ホテルの従業員のご厚意で車を駐車場に止めさせていただき、タクシーで会

場に向かうと、会場付近には大勢の受審者でいっぱいでした。階段の下で一人ぼつんと立っていると今回の審査で一緒に合格した阿波支部の吉田一之先生とたまたまお会いし、『この大人数の中でいきなり徳島県人と出会えたとは、今日はツイとるなあ。』と思い、更に気持ちが悪くなりました。

受付を済ませ、私は第三会場の最後から二番目の立ち会いでしたので、大方二時間近く待っていました。体育館の壁に寄りかかって順番を待っている間、他の人の立ち会いを見ていましたが、お互いに気持ちを合わせ、ここだという機会に思い切った技が繰り出さる姿を見るととても清々しい気分になりました。そのすばらしい立ち会いを見ているうちに私がやるべきことがはっきりとし、気持ちもまとまり、良い状態でコートへ入ることができました。

何も考えずに蹲踞をし、立ち上がるとあっという間に立ち会いは終わりました。何がどうなったのかという事は忘れてしまいました。そのときに持てる力を出せたよな気はしました。私が清々しい気持ちに

なったあの立ち会いのような剣道ができたかどうか分かりませんが、全力を尽くしました。ただし、二回とも打たれた後に、『それまで。』と言われ、立ち会いが終わってしまったので、面を外したときに後味が悪かったことは今でもよく覚えています。

その後すぐに実技の合格者が発表されたので見に行こうとすると、近くにいた方から、『おめでとうございます。』と声を掛けられました。『ありがとうございます。』とお礼を言って合格者の一覧を見ると、本当に合格していました。喜ぶ間もなく形審査の会場に移動し、気合を入れつつ、相手と呼吸を合わせて一〇本目を終え、形審査も無事に合格し、何とか六段審査に合格することができました。

こうして、何とか六段に合格することができたわけなのですが、正直、何がよかったのか分かりません。反省点は十分分かっています。ただ、それだけではなく、よかったことが何だったのかを自分自身に発見させることも必要だと思います。また、決して自分勝手な剣道をするのではなく、相手の

気持ちを考えながら剣を交える、つまり、『合気』を大切にし、それを日常生活に生かしていくこともこれからの目標です。今後、一生懸命稽古に励みますので、よろしくご指導お願いします。



剣道六段に合格して

刑務所支部 江口 大祐



平成二十七年十一月十五日、名古屋市中で行われた六段審査に合格することができました。

これまでご指導いただいた諸先生方をはじめ、徳島刑務所剣道部の皆様方のご指導のお陰です。本誌をお借りして御礼申し上げます。今回は、私が審査に臨むにあたって必要だと感じたことを、これから受審される方々に少しでもお伝えできればと考えています。

以前は試合に勝つことを中心に考えて稽古に励んでいましたが、審査に向けて高段者に相応しい剣道ができるよう、理合を意識した稽古を心掛けるようになりました。不用意に手元を上げないことや、懸待一致を心掛けましたが、これらを強く意識するあまり自分の力が発揮できず、稽古で相手

に勝ることができない日々が続きました。そこで、体力やスピードに優れる方と高段者の方との立ち合いで、見取り稽古を行いました。スピードや体力に頼りきらない、攻め勝った後の打突を参考にしようと思いつき、稽古の中に取り入れていきました。

一度目の京都審査では、現段階の自分の剣道を審査していただくとうと臨みましたが、有効打突を取れないままB判定で不合格でした。二度目の福岡審査では、有効打突も手応えもありましたが、A判定で不合格となりました。三度目の名古屋審査は受審を迷いましたが、前回はA判定であったことと、様々な方から「合格への気持ちと途切れさせないためには、受け続けることが大切である。」と助言をいただき、受けることにしました。今回も不合格ならばらく受審を見送ろうと心に決めたことに加えて、六段挑戦を応援してくれていた妻から「今回も不合格だったら、次からは遠征費は出しません。」と言われたことも、かなりの発奮材料となりました。前回の審査で何が足りなかったのかを考えながら稽古を続け、

色々なタイプの方と立ち合っても、自分の剣道を崩さないように稽古に取り組みました。

三度目の名古屋審査は学生時代に試合をしたことがある会場だったので、少しばかり縁を感じました。審査前日には、ありがたいことに、大学の先輩で愛知県警の元特練生の方に稽古をつけていただく機会を得られました。そこには六段審査を受ける方もおり、内容の濃い時間を過ごしました。その時に、先輩から「構えと打突の間の攻めを明確にし、確実に打突につなげるように。」という言葉をいただき、翌日の審査に背中を押していただきました。

当日は会場に到着すると大学時代の先輩後輩の姿が見られ、気負いせずに立ち合いに挑むことができました。一人目の立ち合いで、私よりも頭一つ以上は背の高い相手でした。遠くの間合いから跳んでくるようなら、つられて出されないように気を付けようと思いました。初太刀は間合いが十分詰まっていなかったところから連続技を打ってこられました。大きく崩されることなく、

相面と居付いたところに飛び込み面を打ったところで終了しました。二度目の相手は、

一度目に有効打突が取れておらず、私との立ち合いで積極的に有効打突を取りにくることを予想していました。相手は比較的手元が上がりやすい特徴があったので、虚と実をしっかりと見極めて、初太刀と終了直前に相面を打つことができました。一次の結果発表で自分の番号が確認でき、すぐに形審査の準備に移りましたが、落ち着いた気持ちで行えました。

最終的に合格が決まり、多くの方からお祝いの言葉や記念品をいただき、あらためて多くの方に支えられていたことを実感しました。剣道は他者がいなければできないものであり、今回の合格に慢心せず、周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに今後も稽古に励んでいきたいと思いました。今後は、剣道に育ててもらった恩返しができるよう、指導者としての力量も高めていけるよう鍛錬したいと思います。

居合道六段となつて

居合道部 満 壽 良 史



平成二十七年十一月七日、東京で行われた居合道六段審査によりやうく合格することができました。

思えば長い道のりでした。初めて受験したのがいつだったか記憶にありませんが、合格までに十数年の年月を要しました。六段審査に落ち続けた理由、それは、間違った取り組みをしていることに長い間気付かなかったことにあると考えています。

六段審査を受審し始めた頃、私が最も重視していたのは刀勢でした。刀を強く振ろうとして、大きく振りかぶり、その反動で振り下ろしていました。このため、技が途中で途切れ、刀を止めるために大きな力が必要でした。長い間こうした居合を抜き、審査に落ち続けました。私は、普段ひとり

で稽古していましたので、指導を受けられる機会は県内の講習会や四国の合同稽古会に限られていました。このため、これらの講習会や稽古会にはできるだけ都合をつけて参加しました。

講習会では、徳島県剣道連盟副会長で居合道範士の原田 勝先生が「柄に手をかけるときは浅くかけ、振りかぶった時はできるだけ力を抜け」と指導されていました。そこで、力を入れて刀を振るのを止め、振りかぶりと同時に手の内を緩め、手の内を締めながら腰を入れて物打ちを走らせるよう心がけました。すると、力任せに振っていた時よりも楽に刀を扱うことができ、切り下ろした刀も臍前に収まるようになりました。

この頃から、講習会等で何人かの先生から「大分よくなってきた」と声をかけていただけのようになりました。

ほんの二・三年前のことです。

平成二十六年十一月、東京での審査会では落ち着いて演武でき、自分の力は出せたと思いました。しかし、結果は不合格。審

査員をされていた原田先生からは、「刀を振りかぶった後で剣先が一度下がり、二度かぶりになっていた」とのご指摘をいただきました。

翌二十七年七月の昇段審査に向け、稽古を重ねていましたが、審査直前、入院していた母の容体が急変し、受審は断念せざるを得ませんでした。母の葬儀を終え、秋の審査に向けて稽古を再開しましたが、右股関節に炎症を起こし、激痛で熟睡できない夜が連続しました。症状が改善せず、まともな稽古ができないまま九月となり、一時は十一月の受審もあきらめかけましたが、九月二十日に行われた全日本剣道連盟居合の伝達講習会には足をかばいながら参加いたしました。

翌月、お誘いいただいて参加した他道場の講習会で講師として来られていた原田先生から「遠慮せずに稽古に來い」と声をかけていただき、お言葉に甘えてご自宅まで押しかけ、稽古をつけていただきました。

原田先生からは、いくつもの欠点をご指摘いただき、審査上の留意点についても丁

寧に教えていただきましたが、最も注意されたのは「振りかぶりから切り下ろしまでよどみなく切れ」ということでした。

居合は実際に相手がいるわけでありませんが、自分で自分勝手な理合で行いがちですが、武道である以上、仮想敵を常に意識し、体と刀の動きを連動させた無駄のない動きのなかで、振りかぶりから切り下ろしまで一挙動で行わなければなりません。「気剣体の一致」、「刀の下に身を入れよ」、「一拍子の切り」、これまで何度も耳にした言葉ばかりですが、こんな基本的なことさえ私はできていませんでした。

このため、六段審査に人の何倍もの時間を費やしましたが、この間、昨秋亡くなられた居合道部長の岸田光博先生をはじめ、県内の先生方には長年にわたってご指導いただき、励ましていただきました。

恩師である故高橋憲司先生に入門してから、やがて三〇年になろうとしています。入門当時は、高橋先生も居合道錬士六段でしたので、自分もようやく同じ段位となり、感慨深いものがあります。

六段審査に合格した後、「徳島の居合道発展に尽力せよ」と激励して下さった県外の先生もいらっしやいます。

私も六段審査に向けて自分なりに努力してきたつもりですが、受審する度に思い知らされたのは自分の未熟さでした。今回の受審でも、原田先生をはじめ諸先生方から指摘された欠点の半分も修正できず、本当に申し訳なく思っています。

そんな私に本県の居合道発展に寄与できるはずありませんが、今回の昇段を契機として基本に立ち返り、これまで以上に創意工夫しながら、剣の理法に沿った居合を求めていきたいと思えます。

教士称号審査に合格して

刑務所支部 片山尊史



平成二十七年四月に受審した、教士の審査に無事合格することができました。これで私

の剣道人生のゴールテープを切れたように思います。今後は、体調に合わせて剣道を楽しむことともに少年剣道の指導等、自分にできることを精一杯頑張りたいと思っています。

ところで、教士の称号の受審について、巷の噂で、「高額な資料を集め、それをしっかり覚えないと受からない。大変である。」等と聞いたことがあり、勤務等の都合及び記憶力の不安から気後れし、七段合格後四年目にして今回やっと受審を決意しました。自分の今回の経験が、今後、教士を受審する先生方に少しでも参考になればと思いき、本文を書かせていただきます。

まず、教士受審のためには、県剣道連盟の受審要領に従い、講習会を受講の上、県内の称号審査会において実技及び剣道形を実施します。その後は、筆記試験に向けての準備及び勉強ですが、試験問題は県剣道連盟から郵送されますので、インターネットで「剣道教士称号筆記試験対策」等で検索すれば同問題の回答（資料）を調べることがができます。

今回の試験問題は、一限目が選択問題四十問前後及び〇×式問題が五問、二限目が選択問題四十問前後及び記述問題が一問、三限目は、「剣道指導者としてのあり方」と題する論文でした。

試験対策ですが、インターネットから資料をプリントアウトし、私も最初は頑張っで覚えていましたが、覚えた先から忘れていくの繰り返しで到底覚えられるものではありませんでした。しかし、実際に試験を受けてみると、選択問題は語句の選択であり、余分な語句や引っ掛け等がないため、資料を丸暗記するまでもなく、資料を熟読することで対応できると感じました。

また、論文ですが、試験前に試験官から、「自分の経験や、感想を書いてダメです。課題について論じてください。」との注意がありました。そのため、予め課題について資料等を参考に論文を作成し、試験当日までしっかり暗記して書けるように準備しておく必要があります。論文だけの再試験を受験している方もおりましたので注意してください。

以上が今回受審して感じたことです。教士を受審する先生方の年令を考えると、仕事及び私生活等において一番多忙な時期であり、勉強する時間もままならない状況だと思えます。少しでも参考になればと思います。

最後に、今後とも県剣道連盟の先生方及び剣士の皆さん、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

錬士号合格に思うこと

徳島支部 岩 木 淳 子

平成二十三年四月、京都にて、三度目の挑戦で剣道六段を拝受し、この度京都での錬士称号審査において、無事合格をいただきました。

錬士号では、剣道の技術的力量に加え、指導力や識見優良なるもの、つまり、日本剣道形、審判法、指導法等の知識や実技についての能力の認定を受けている者…とあります。

錬士号受験の小論文の課題においては「平成十九年三月十四日制定の『剣道指導の心構え』の要点を記し、それをふまえたうえであなたの剣道修行について述べなさい。」でありました。この論文を思索するとき、私の剣道観を踏まえ剣道を始めたところから振り返ってみました。

中学校一年生で竹刀を握った私は、剣道仲間や周囲の環境のお蔭もあり、高校時代は、恩師の指導のもと、正しい剣道を基本

とした「勝利至上主義」の剣道を目指してきました。その結果、一応私なりの満足のいく結果を残すことが出来ました。

時は移り、結婚、出産、育児と約十年間のブランクを経て、我が子が通う少年剣道教室で私も剣道を再開し、指導のお手伝いをさせていただきながら、改めて剣道の指導の難しさ、剣道の奥深さを体感すると同時に、剣道の楽しさを再認識することが出来ました。

剣道はこうあるべきだ、また、こうでなければならぬ等、堅苦しいものではなく剣道が日常生活の基本（根本）であり、私生活に通じる前向きな精神を養うことが出来れば十分ではないかということでした。

私が高校時代に培った剣道観をもとに工夫して指導に取り組み、子供たちの成長を見たときに、私の喜びにかわるもので、これを子供達に伝承できれば十分です。

文献を紐解くと剣道は簡潔に、

○竹刀という剣の正しい扱い方、礼節は道場だけではなく日常生活においても節度ある生活態度を身につけること

○勝ちにこだわる技の稽古でなく基本を忠実に、お互いを尊重した稽古であること

○技能の向上と精神の鍛練に努めること等々、相手の年齢、能力、体力、技能に応じて指導の内容も多少は違ってきますが、基本はぶれることはありません。

錬士号をいただき、今後の私の課題は、
・生涯剣道を目指すため、常に正しいぶれない剣道を求め、自己の修練に努める。

・「技」を通じて「道」を求める実践者として、より良い剣道を伝承していく。
・体力の低下を技法、心法で養い、女性らしく、自分の年齢に合った剣道を追求していく。

等、目標を掲げ更なる精進を重ねてまいりたいと思います。

これまでご指導くださった先生方、先輩方、剣友の皆様に紙面をお借りしてお礼を申し上げますとともに、今後変わらぬ暖かいご指導を頂けますようよろしくお願いいたします。

平成二十七年年度

称号・段位合格者一覽

— 剣道 —

【錬士】

【教士】

五月六日

片山 尊史

十一月二十六日

山名 信行

前田 秀一

園田 慎吾

大石 雅生

原 多三夫

矢武 秀生

大野 祐吉

久次米 繁興

北村 仁志

五月六日
岩木 淳子

十一月二十六日
日和田 慈海

原田 敏也

井川 理之

松本 日出夫

【七段】

四月三十日

須藤 恭宏

武田 修典

八月二十九日

河野 寿仁

長崎 秀信

松田 久司

【六段】

四月二十九日

松島 一成

五月十七日

大石 真也

前田 奈々枝

十一月十五日

江口 大祐

松本 慎二

吉田 一之

日野 利之

富永 ますみ

【五段】

九月十三日

谷口 真央

村井 僚

山本 義征

玉田 赳大

近藤 徹

善家 純一

鳴滝 朝希

日和田 朗子

十一月二十二日

小松 祐樹

綾部 文明

阿井 恵子

平成二十八年

二月二十一日

佐藤 勝哉

林 明史

住友 香織

【四段】

五月三十一日

高橋 陽介

九月十三日

岡田 宣孝

森 建介

山田 明

篠 昭光

上田 祥平

蔵本 浩一

長戸 健吉

西沢 知也

井口 あすか

十一月二十二日

森 悠晋

益田 駿志

高橋 善朗

宮田 健太郎

平成二十八年
二月二十一日

新居 航平

田中 湧大

梶原 拓磨

武市 一樹

東内 茂

儀宝彩乃 前田拓真 新開未玖 鳥澤克之 川崎萌恵 岩本隆紀 古川まこ 佐藤一磨 松下愛実 嶋藤瞭人 松山真由 今治愛貴 蔭山真由 今治愛貴 大久保紅葉 豊田耕平 吉岡未歩 深澤聖人 西淵光 富田亮 森田花梨 米倉裕之 一宮琴音 原英三 藤岡和楽 甲谷英三 金子祐香 田村眞尋 原田悠理 川田実央 三宅諄紀 濱本芽倭 岩原憂汰 近藤鈴夏 遠藤陽太 大城明裕奈 鳥井寛世 岩本一沙 井本巨星 楠本沙耶 吉岡卓真 堀本麗央奈 吉本嵐丸

前田拓真 鳥澤克之 岩本隆紀 佐藤一磨 嶋藤瞭人 今治愛貴 今治愛貴 豊田耕平 深澤聖人 富田亮 米倉裕之 原英三 甲谷英三 田村眞尋 川田実央 藤岡真奈 橋本こころ 濱本芽倭 近藤鈴夏 大城明裕奈 岩本一沙 楠本沙耶 堀本麗央奈

平成二十八年 二月二十一日 添木昂大 湯浅高聖 上月信裕 上大西准史 根ヶ山和穂 一楽泰志 藤川稜介 受川樹 近藤雄介 阿部太遥 中山直一郎 鏡量俊 高瀬桃 金田真波 新見晃子 佐野健太 東谷崇志 山下直人 西岡直人 桶川将子 榎山浩子

【初段】 四月二十九日 末光春樹 植村太陽 名田風翔 石川樂人 儀宝聖大 中谷虎太郎 中川一樹 林正隆 正瑞大斗 河野寛之 熊橋知晃 和田大樹 和山慎介 小山田亮太郎 上条亮太郎 田上歩夢 梅本優希 伊井雅哉 青井涼介 前山拓光 大坂悠馬 新田憲治 稲葉京祐

田岡正義 原健太郎 木村隼 松山知樹 小笠伊織 岩佐祐誠 早岡翔太郎 後藤高志 吉田晴哉 飯田翔太 安本勇輝 齋幸佑 萩田将史 土井隆誠 野田康介 仁木聡一郎 西村遼馬 梅本優希 伊井雅哉 青井涼介 前山拓光 大坂悠馬 新田憲治 森田洸太

荒井祐人 桶川純聖 山口雅也 西谷伊織 加藤慎也 田村誠 谷本遼太郎 黒田圭介 阿地進之介 後藤真大 今田充昭 藤田芽生 青木風香 和田津凜紅 玉置樹里 藤原優 堀内梨乃 斎藤愛子 檜田胡桃 藤澤結菜 馬見恵理子 朝田萌香 齋和佳奈

六月二十八日 古川麗美 堀川菜々穂 吉村伊吹 清原真由子 玉岡真由子 安宅風花 川人佑奈 春藤泉水 奥村公香 川端ひめか 永井萌花 真鍋あい 宮下紗矢香 三原由幾 川崎千聖 小松悠子 吉川みかげ 仁木悠人 北林翔 武岡大蓮 榎丸智也

渡辺敬介	河村敬太	福島真生	山添龍也	天羽陽斗	後藤昂介	井藤想真	江口弘純	八月三十日	岩崎妙香	中村優花	乃一晴海	北林葵	三好優果利	柏原颯	高橋孝輔	村上琉晟	撫中隆一	川真田浩志	播磨佑哉	リンツケン聖士	井上望己	
増金奎徳	山崎愛矢	大和泰生	前田士龍	日野拓海	金子颯真	桜井大輔	手塚成一	桂林太郎	磯田光	正久太一	佐野辰徳	中尾倅久	披田好誠	木村勇太	今津礼登	林幸輝	遠藤亘稀	池森堪史	板東彦也	豊崎玲音	中川起世彦	上原憂晟
鈴木馨	瀧本水結	篠原若葉	瀬之口綾音	今田海音	龍水詩乃	日浦昌子	村本歩美佳	谷綾乃	明石柚希	峰慶乃	蔭山愛	渡辺裕奈	三宅輝	寺野由莉	西岡卓馬	細川大介	工藤雄希	栗林亮平	佐藤匡史	正木伸佳	泉知希	大久保雄世
川端天人	近藤稔晃	高根大和	上村雄虹	森内風斗	森本快晴	富永龍矢	土壁直仁	上村裕	椎橋海斗	津山幸也	岡本凌	丸山雄大	石川好誠	十月十八日	桑田景子	宮北優希	貴田凪海子	満岡美思	岡本志織	堀井乃々花	中平葵衣	
佐野国子	宮田千代	藤澤美貴	藤澤真貴	樋口知鈴	笠井知捺	種浦そら	猪籠香奈	後藤玲香	檜原勝志	半田雅貴	堂岡拓馬	中西智輝	里見拓磨	佐藤大翔	米山潤太	尾形康太	吉岡凌太朗	前田和志	矢野夏基	近藤翼	増田陶生	堂岡俊介
赤川優太	原田和佳	小笠原大己	森下航	増田夏大	筒井雅也	松本喜起	松田匠輝	北条智士	住友由記哉	川口新太	富田哲平	福田建	長尾遼	眞貝晴樹	山尾鍊輝	村上純平	満壽太毅	大空航己	飯尾陽祐	山本泰生	一月三十一日	平成二十八年
馬場教晃	井上礼漠	長副礼誉	高瀬裕太	板東主税	長家由記	三居知暉	梶野泰史	木竜一翔	河野隆二	脇坂風音	原村直也	岡田卓也	東内元気	檜葉龍空	岩佐瑞樹	竹内裕登	山下広輝	上田広輝	石本裕	橋本麟太郎	谷尚貴	佐藤快成

加美風花 桑村美妃 細川珠里 上田智美 大和理菜 増井樺乃 今治美咲 宮崎彩由 福井深珠 佐藤萌結 賀上沙由里 高橋花加 浪花櫻子 藤井千風 田邊望恵瑠 福山花純 山本美翔 大空正義 加藤一誠 浪花孝一 川口浩一朗 北村航一 野木將志

張未波
佐藤佳香

—居合道—

【六段】

十一月七日

満壽良史

【四段】

平成二十八年

二月二十八日

山田師正

【三段】

五月十七日

内藤靖二

十一月八日

近藤亮哉

【二段】

十一月八日

松本涼楓

平成二十八年

二月二十八日

根ヶ山和穂

山口あずさ

【初段】

十一月八日

井上伸英

平成二十八年

二月二十八日

安田勝裕



がんばろう徳島

専門部報告

事業部より

事業部長 佐賀博史

事業部では、剣道連盟主催の大会及び講習会などの開催・運営を主な業務としており、各大会などが有意義かつ安全に開催されることを目的として活動しています。

平成二十七年年度の役員の改選などにより、事業部のスタッフは、

事業部長 佐賀博史

理事 平尾満紀

理事 玉田真理

理事 切中克樹

理事(高体連) 玉田晋作

(本誌発刊時には改選予定)

理事(中体連) 佐藤浩

理事(中央ブロック) 柳本巖

理事(中央ブロック) 中井英樹
理事(南部ブロック) 中西実
理事(南部ブロック) 有松伸也

委員 武田修典

委員 月岡陽市

委員 池田洋一

委員 岩本一彦

委員 隅田憲男

委員 岸野訓子

委員 熊橋史

委員 前田奈々枝

の一八名で運営しています。

平成二十七年年度の活動状況は、三者対抗剣道大会も復活し、一般男子の大会・予選会を五回、一般女子の大会・予選会を四回、少年の大会・予選会を二回開催(各大会の結果は後記「大会記録」のとおりです)いたしました。

また、講習会については、五月に藤川和秋先生、柴田宗忠先生を講師として剣道中央講習伝達講習会を開催し、十月には鈴木康功先生(兵庫県・範士八段)を講師にお招きして、秋季講習会を開催いたしました。この年二回の講習会は、指導法や日本剣道

形の習得、審判技術の向上などに大変役立つ講習であります。是非ともこれまで以上に先生方のご参加をお勧めします。

その他、「稽古始め」「土用稽古」「寒稽古」などを開催いたしました。

これらの大会や講習会などについては、事業部員だけで開催できるはずがなく、審判長をはじめ審判員としてお手伝いをしていただいた先生方や、社会人剣道大会においては、女子部のみなさん、少年剣道錬成大会においては、各道場・剣道教室の保護者の方々のご協力をいただき、まさしく剣道連盟をあげて、すばらしい大会などが開催されたと思っております。皆様方のご協力に感謝するとともに、本誌面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

今年度も、各大会及び講習会・稽古会へたくさんの先生方に参加していただき、有意義な大会などが行えるよう事業部員一同精一杯頑張っていきたいと思っております。先生方、関係者の方々におかれましては、これまで以上のご協力をいただきますようお願い申し上げます。事業部からの報告とさせていただきます。

審査部より

審査部長 佐藤 佳宏

平成二十七年年度の行事につきましては、
剣道の部では、初段以下審査会（五回）、
二段以上審査会（四回）、四・五段講習会
（二回）、日本剣道形講習会（二日間）、居
合道の部では、五段以下審査会（四回）等
全て無事終えることができました。審査員
の先生方をはじめ、剣道連盟の関係者の方々
に多大なるご協力を頂きまして心よりお礼
を申し上げます。

今年度の審査会の結果につきましては、
居合道の部、受審者一名、合格者二名、
合格率一〇〇%、剣道初段以下の部、受審
者一六二五名、合格者一五七〇名、合格率
九七%、剣道二～五段の部、受審者二九〇
名、合格者二三六名、合格率八一%となり
ました。

また、六段以上の高段位合格者について
は、居合道六段一名、剣道六段八名、剣道
七段五名、剣道錬士四名、剣道教士二〇名

という結果でありました。合格の先生方は
下記のとおりです。

〈居合道六段〉

満壽 良史

〈剣道六段〉

松島 一成（名西支部）

大石 真也（阿南支部）

前田奈々枝（阿波支部）

江口 大祐（刑務所支部）

松本 慎二（警察支部）

吉田 一之（阿波支部）

日野 利之（麻植支部）

富永ますみ（名西支部）

〈剣道七段〉

須藤 恭宏（阿南支部）

武田 修典（板野東支部）

河野 寿仁（阿波支部）

長崎 秀信（徳島支部）

松田 久司（美馬支部）

〈剣道錬士〉

岩木 淳子（徳島支部）

日和田慈海（麻植支部）

原田 敏也（麻植支部）

井川 理之（板野東支部）

〈剣道教士〉

片山 尊史（刑務所支部）

山名 信行（警察支部）

前田 秀一（刑務所支部）

園田 慎吾（小松島支部）

大石 雅生（美馬支部）

原 多三夫（板野西支部）

矢武 秀生（徳島支部）

大野 祐吉（徳島支部）

久次米繁興（板野西支部）

北村 仁志（阿波支部）



強化部より

強化部長 平野 誠司

一 平成二十七年度実施結果

(一) 剣道連盟稽古会

一月八日(木)～十二月二十六日(土)
五十三回

毎水曜日 午後七時～午後八時

中央武道館

毎土曜日 午前九時三十分～午後十二時

警察学校等

(二) 地区交流稽古会(年二回実施)

○南部稽古会

三月二十七日(阿南市武道館)

四月二十五日(鷺敷B&G体育館)

十一月六日(阿南スポーツセンター)

○西武交流稽古会

四月十七日(阿波中学校)

十月三十日(脇町小学校)

(三) 長期育成強化訓練

○第十五回長期育成強化訓練

平成二十七年二月一日実施

於…那賀川スポーツセンター

参加…一二三名

○第十六回長期育成強化訓練

平成二十七年八月三十日実施

於…那賀川スポーツセンター

参加…一一八名

第十七回長期育成強化訓練

平成二十八年一月三十一日実施

講師…石田洋二先生、

石田真理子先生

於…那賀川スポーツセンター

(四) 強化遠征訓練

○都道府県選手強化

京都遠征 四月三日～四日

○都道府県女子選手強化

京都遠征 六月二十日～二十一日

○国体女子選手強化

岐阜遠征 七月十一日～十二日

○国体男女選手強化

京都遠征 八月一日～二日

二 大会結果

○西日本勤労者剣道大会

ベスト一六(県警A)

○全日本都道府県対抗剣道優勝大会

一回戦敗退(徳島〇―五兵庫)

○全日本女子都道府県対抗剣道優勝大会

ベスト八

○四国四県剣道大会

第四位(三敗)

○国体(ブロック大会)

少年男子三位・女子二位・成年女子

四位

○国体(本大会)

ベスト八(五位入賞)

三 平成二十八年度強化計画

(一) 強化の基本方針

● 試合・審査と指導を連携させ、本県剣

道力の向上を図るとともに、伝承され

るべき剣道の本體(神髄)に迫る取り

組みを展開する。

● 交剣知愛の剣心を育み、生涯剣道を通

して剣道理念を高揚させる。

～共導、共習する稽古場の創造

(文化性、競技性、社会性) ～

～武に向かう心の醸成

(魅力ある剣道) ～

(二) 剣道連盟強化稽古会

●木曜日の中央武道館使用時間が延長されることによって、稽古の対象区分を設定する。(二十八年四月より)

●毎月第一木曜日に剣道形の稽古を取り入れる

一九時～二〇時 剣道形

二〇時～二二時 相互稽古、指導稽古

○毎週木曜日 中央武道館

一九時〇〇分～一九時一五分

(体操・素振り)

一九時一五分～一九時三〇分

(小・中・高・一般/基本稽古)

一九時三〇分～二〇時〇〇分

(小・中/指導稽古)

二〇時〇〇分～二二時〇〇分

(高校・一般/合同稽古)

○毎週土曜日 強化計画のとおり随時実

強化日程…ホームページで公開

(三) 地区交流稽古会

●開催時期と日時・場所の調整

西部…四月十五日(川島中体育館)

十月二十八日(脇町小体育館)

南部…四月二十三日(鷺敷B&G体育館)

館)

十一月四日(阿南スポーツセン

ター・サブ)

三月二十四日(阿南市武道館)

(四) 長期育成強化訓練

小・中・高を一貫した強化・育成プロジェクト。合同錬成によって将来に向けた基礎作りを目的に行う。

た基礎作りを目的に行う。

た基礎作りを目的に行う。

夏期…八月二十八日(日) 九時三〇分

那賀川スポーツセンター

冬期…一月二十九日(日) 九時三〇分

那賀川スポーツセンター



少年部より

少年部長 松村 和宏

少年部は、例年通り毎月一度、強化錬成を行っております。活動内容として、四月には米倉先生講師の元、審判講習及び木刀による基本稽古法の指導が行われ約六十名の指導者が参加しました。

六月の強化錬成には、国際社会人剣道クラブ近畿の先生方を交えて少年剣士の指導稽古にご尽力頂きました。

七月末には、兵庫県の印南道場へ十五名の選抜された剣士を遠征に、八月には、岡山県剣道連盟強化委員会主催の錬成会にも参加しました。遠征の経験が剣士達の技術の向上と自信に繋がるいい経験になったと思われまます。中でも優秀な剣士を五名選考し、毎年九月に大阪で行われる全国大会に参加しました。試合内容は、紙一重の差でリーグを勝ち上る事が出来ず残念でした。今回の十回目が最後の大会と当初は言われておりましたが、来期も続行する運びと

なり、リーグ突破を目標に邁進したいと思っております。

また、来期は印南道場の創立記念大会にも参加を予定しております。

最後になりましたが、少年部にご協力頂いている先生方には心から感謝申し上げます。これからも、剣道を通して子供たちの健全育成に努めてまいりたいと思っております。来期もまた少年部により一層のご協力ならびにご指導を宜しくお願い致します。

平成二十七年皆勤者

徳島少年剣道教室

塚田 志緒 (六・女子)

山室 愛子 (六・女子)

茨木 一博 (五・男子)

かもな少年剣道教室

貴島 琴音 (六・女子)

入田錬成会

河野 稜也 (五・男子)

住友 亮太 (五・男子)

赤川 真唯 (五・女子)

篠原 紗也 (五・女子)

北井上剣道教室

宮田 滉太 (六・男子)

富田将太郎 (五・男子)

斉藤 佳亮 (五・男子)

佐古剣道クラブ

谷本 英 (五・男子)

谷口 星矢 (五・男子)

沖野 友哉 (五・男子)

鳴門少年剣道教室

柳田 藍 (六・女子)

北島少年剣道教室

宮田 猛 (五・男子)

松茂少年剣道教室

鈴木 夢乃 (六・女子)

藍住剣道スポーツ少年団

松本 尊灯 (六・男子)

永浜 幹大 (六・男子)

大前 誠也 (六・男子)

谷口 航 (六・男子)

和田島少年剣道クラブ

岩谷 愛夢 (五・男子)

海部川剣道教室

佐藤 晴海 (六・男子)

上浦剣道教室

高田 迅人 (六・男子)

谷 壮一郎 (六・男子)

花川 裕基 (六・男子)

三好 健太 (五・男子)

佐藤 亨祐 (五・男子)

鴨島少年剣道教室

三宅 明伸 (六・男子)

土成スポーツ少年団

坂東 星夢 (五・女子)

市場少年剣道教室

日浅 恵太 (六・男子)

脇町少年剣道教室

三宅 袖衣 (六・女子)

野崎まひろ (六・女子)

女子部より

女子部長 竹 内 佳代子

女子大会の結果

県内行事

①徳島県女子剣道大会

(九月六日) 中央武道館

団体戦 参加 九チーム

優勝 東悠会 B (青木万里子・金野

裕美・近藤夏子)

準優勝 川島剣友会 A (北村 環・玉

田真理・岩木淳子)

第三位 東悠会 A、川島剣友会 B

個人戦 区分一 (二九歳未満) 参加一〇

名

優勝 平野 千尋 (鳴門支部)

準優勝 福田沙也加 (小松島支部)

第三位 青木万里子 (小松島支部)

酒井 奈々 (小松島支部)

個人戦 区分二 (三〇歳以上) 参加五名

優勝 奈木 裕美 (鳴門支部)

準優勝 福田美知子 (徳島支部)

県外行事

①全国都道府県剣道大会

(七月十八日) 日本武道館

一回戦 徳島 二一〇 秋田

二回戦 徳島 二一一 滋賀

三回戦 徳島 〇一二 広島

ベスト8

優秀選手賞 近藤 夏子

②宮本武蔵顕彰 お通杯剣道大会

(十月二十五日) 武蔵武道館

個人 (五十歳代の部)

準優勝 富永ますみ

第三位 平野 悦子

女子部稽古会について

毎月 1回 土曜日に実施

前年度までは第一日曜日、一八時から、

中央武道館と決めていたが、日曜日は行事

などが入る関係で、参加者が極端に少ない

時もあった。そこで今年度からは、稽古会

を実施する一か月前までに、その月の稽古

会を実施する日にちを決め、連絡網で回すようにした。連絡網は、五人の女子部理事が中心となり、各支部の女性の代表の方に連絡を回し、各支部に所属している女性の方全員に伝わるように心がけた。

(もし、連絡が回っていない方がおいでましたら、剣道連盟か竹内まで連絡をいだけたら、対処するのでよろしくお願いしませす。)

その結果、今年度は今までよりたくさんの方の方と一緒に稽古会を行うことができました。

①参加状況と実施内容について

強化部長の平野先生のご指導をいただきながら、素振りからはじまり、基本を中心とした稽古を行っている。

女子の参加状況

* () 内の人数は女性の参加者のみ

○四月十八日 警察学校(一九名)

山室先生のご指導のもと、基本稽古とまわり稽古を実施。

○五月二日 中央武道館(二五名)

平野先生のご指導のもと基本、さらに

地稽古では白木先生、雉鳥先生(香川県)、北村先生、近藤先生も参加してくださり指導をいただいた。

○六月六日 那賀川スポーツセンター(八名)

平野先生のご指導のもと基本、地稽古を実施。

○七月四日 警察学校(二〇名)
一般の男性の方の稽古と合わせて実施。

女子だけで基本稽古をした後、自由稽古。

○八月八日 中央武道館(一五人)
基本をしたあと、稽古。

○九月六日 中央武道館
女子剣道大会終了後、審判・役員の先生方と自由稽古。

○十月十日 中央武道館(一四名)
平野先生のご指導のもと基本稽古、地稽古。

○十一月十四日 松茂武道館(一五名)
平野先生のご指導のもと基本稽古、地稽古。

○十二月(中止)

○一月十日 北島フラワードーム
剣道連盟の稽古始めに参加。

②成果

○各種大会での活躍

都道府県女子大会でベスト八と健闘
お通杯剣道大会で個人五十歳以上の部

で富永ますみさんが準優勝

平野悦子さんが三位に入賞

○六段昇段

五月 前田奈々枝さん

十一月 富永ますみさん

毎年、六段に昇段される女性がでてくる。

○剣道再開のきっかけ

剣道を再開したいなと思っても、「何年も剣道をしていないので不安」と感じられている方が、女性ばかりの稽古会では、自分の体力に応じて練習

をすることができると、剣道を始めるきっかけになっている。

来年度の活動と目標

○女子部の稽古会の充実

○県下女子大会の活性化、各種大会、県外の錬成会への積極的な参加のよびかけ。

○全国大会での活躍。

目標は、国体出場、全国大会での上位入賞。

○「女子指導者講習会」について

平成二十八年三月二十六日～二十七日全

剣連主催で「第一回女子指導者講習会」

が東京のぶんぶスポーツ文化館で実施。

各県一名程度参加ということで、竹内が

参加。その講習会内容については、四月

の女子稽古会で報告する予定。また、希

望に応じ、審判研修などの実施を検討。

女子部の活動に今後ともご指導・ご支援

よろしく願います。

居合道部より

居合道部長 福井 勝

平成二十七年居合道部の事業について、

簡潔に報告いたします。

大会等

☆五月二日(土)

第一一回全日本剣道演武大会

於…京都武徳殿

参加者 七名

☆五月三十一日(日)

第三十九回東北日本居合道大会

於…三条市総合体育館

参加者 四名

特別優秀賞 坂本憲一

敢闘賞 内海直弥

☆八月一日(土)

第四十四回香川居合道大会

於…高松市香川総合体育館

参加者 一般 十九名 少年 二名

女子五段の部 三位 林 由美

☆十月四日(日)

第五十三回高知居合道大会、第二十八回女子大会

於…南国市立スポーツセンター

参加者 十五名

五段の部 三位 徳山 豊

☆十月十二日(祝月)

水鷗流古伝武道大会

於…藤枝市民体育館

優秀賞 内海直弥

☆十月十七日(土)

第五十回全日本居合道大会

於…アクシオン福岡(福岡県)

監督 吉岡修一 七段 森 将夫

六段 西本忠司 五段 徳山 豊

☆十二月六日(日)

第五十七回大阪居合道大会

於…府民共済スーパーアリーナ

(旧舞洲アリーナ)

参加者 十三名

七段の部 優秀演武賞 坂本憲一

☆二月二十八日(日)

県下居合道大会

於…松茂町第二体育館

参加者三十名

〈段別優秀賞〉

少年の部 松本琉希

段外の部 安田勝裕

初段の部 山口あずさ

二段の部 松本涼風

三段の部 山田師正

四段の部 三木恭子

五段の部 内海直弥

六段の部 一村昌和

☆三月二十日(日)

第四十二回北九州居合道大会

於：北九州市立体育館

参加者 五名

審査会・講習会等

☆五月十七日(日)

春季講習会・審査会

於：松茂町第二体育館

講師 岸田光博

参加者 二十一名 受審者 二名

☆七月十一日(土)、十二日(日)

全剣連主催 地区講習会

於：鳥取県立武道館

参加者 十二名

☆九月五日(土)、六日(日)

全剣連主催 中央講習会

於：京都市武道センター

参加者 原田 勝、森 将夫

☆九月二十日(日)

伝達講習会・審査会

於：松茂町第二体育館

講師 原田 勝、森 将夫

参加者 二十八名 受審者 〇名

☆十一月八日(日)

秋季講習会・審査会

於：松茂町第二体育館

講師 原田 勝

参加者 二十八名 受審者 四名

☆二月二十八日(日)

審査会 受審者 五名

於：松茂町第二体育館

☆三月十五日(日)

四国四県居合道合同稽古会(香川県)

於：大野原会館

参加者 八名

全日本居合道大会選手強化練習

☆大会直前まで、各道場において稽古を重ねた。七月二十二日(土)に徹心道場において原田先生のご指導の下、合同稽古を実施した。

を実施した。

中央審査

☆五月三日(土)

八段審査会

於：京都市

☆七月十日(金)

六・七段審査会

於：鳥取県

☆十一月七日(土)

六・七段審査会

於：東京都

六段合格者 満壽良史

中体連より

中体連部長 兼 松佳史

○平成二十七年県内各種大会成績表

性別	男子				女子			
	大会名	選手権	県総体	新人戦	強化錬成	選手権	県総体	新人戦
期日	27.5.30	27.7.11	27.11.7	28.1.24	27.5.30	27.7.11	27.11.7	28.1.24
会場	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館
参加校	40校	26校	42校	18校	30校	22校	23校	12校
優勝	鳴門一	徳島	徳島	徳島	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川
準優勝	石井	石井	那賀川	那賀川	北島	坂野	阿南一	坂野
3位	徳島	鳴門一	市立川島	阿波	阿南一	藍住	城東	鳴門一
3位	那賀川	那賀川	阿波	徳島文理	鳴門一	石井	石井	城東

○県総体個人戦

平成二十七年七月十二日

男子

優勝 山室 和士(石井)

準優勝 森本 直希(石井)

第三位 飯田 翔太(那賀川)

坂野 修造(北島)

女子

優勝 檜田 胡桃(那賀川)

準優勝 濱本 芽倭(那賀川)

第三位 大城明裕奈(那賀川)

堺 麗美(那賀川)

○四国総体

平成二十七年八月二日(日)

愛媛県武道館(愛媛県)

〈団体戦 男子〉

徳島中学校 第三位

(準決勝 徳島 一―三 今治南)

石井中学校 第三位

(準決勝 石井 一―四 龍雲)

〈団体戦 女子〉

那賀川中学校 予選リーグ第三位

(予選敗退)

坂野中学校 予選リーグ四位

(予選敗退)

〈個人戦 男子〉

山室 和士(石井)

森本 直希(石井)

飯田 翔太(那賀川)

坂野 修造(北島)

熊橋 知晃(徳島)

榎丸 翔太(阿波)

吉本 嵐丸(北島)

前田 龍志(鷺敷)

〈個人戦 女子〉

檜田 胡桃(那賀川)

濱本 芽倭(那賀川)

大城明裕奈(那賀川)

堺 麗美(小松島)

杉山 夏海(北島)

堀出 瞳(鷺敷)

齋 和佳奈(那賀川)

朝田 萌香(那賀川)

○全国中学校大会

平成二十七年八月二十二日～二十四日

秋田県立武道館（秋田県）

〈団体戦 男子〉

徳島中学校

予選リーグ敗退（二勝一敗）

〈団体戦 女子〉

那賀川中学校

決勝トーナメント（一回戦敗退）

〈個人戦 男子〉

山室 和士（石井） ベスト八（敢闘賞）

森本 直希（石井） 三回戦敗退

〈個人戦 女子〉

檜田 胡桃（那賀川） 一回戦敗退

濱本 芽倭（那賀川） 四回戦敗退

○全国都道府県対抗少年剣道大会

監督 齋 浩市（那賀川中学校）

コーチ 松本 真治（鷲敷中学校）

先鋒 濱本 芽倭（那賀川中）

次鋒 檜田 胡桃（那賀川中）

中堅 森本 直希（石井中）

副将 飯田 翔太（徳島中）

大将 山室 和士（石井中）

〈予選リーグ〉

徳島 二 ー 〇 北海道

徳島 一 ー 二 岐阜（予選敗退）

○県内行事

・県下三地域（中部・西部・南部）で指導者講習会実施

・八月二十二日 第十五回県中夏季錬成会：県内中学校三四校、延べ人数二八九名参加

・徳島県中学校剣道一年生大会

十月三日（土）実施

男子

団体 優勝 徳島中学校 A

個人 優勝 大城 穂高（那賀川）

女子

団体 優勝 那賀川中学校

個人 優勝 福田 優那（那賀川）

女子

団体 優勝 那賀川中学校

個人 優勝 福田 優那（那賀川）

・剣道連盟稽古始め参加

・第十一回四国中学校新人剣道大会

平成二十八年三月六日（日）

阿波中体育館

○優秀選手

男子二一名、女子二名（新聞発表済み）

○平成二十七年度中学校剣道部員数

（ ）は昨年度

	1年生	2年生	3年生	合計
男子	127人 (183人)	160人 (139人)	115人 (162人)	402人 (484人)
女子	77人 (89人)	75人 (82人)	75人 (67人)	227人 (238人)
合計	204人 (272人)	235人 (221人)	190人 (229人)	629人 (722人)

高体連専門部より

高体連専門部長

上 田 宏 司

一、平成二十七年大会記録(抜粋)

○全国高等学校剣道選抜大会

平成二十七年三月二十七日・二十八日

於 愛知県春日井市

男子団体 富岡西(予選リーグ一勝一分)

予選リーグ敗退

富岡西(本数勝) 一―一甲府商(山梨)

富岡西 〇―〇 鹿児島実(鹿児島)

女子団体 富岡東(予選リーグ一勝一分)

富岡東 〇―〇 淑徳巣鴨(東京)

富岡東 二―〇 盛岡南(岩手)

決勝トーナメント1回戦

富岡東 一―二

八代白百合学園(熊本)

○徳島県剣道連盟会長杯争奪高等学校剣道大会

平成二十七年四月十九日

於 ソイジョイ武道館

男子団体(一六チーム)

優勝 富岡西

準優勝 阿南工

三位 城北・徳島文理

女子団体(一一チーム)

優勝 富岡東

準優勝 城北

三位 川 島・富岡西

○徳島県高等学校総合体育大会

平成二十七年六月六日・七日

於 那賀川スポーツセンター

男子団体(一九チーム)

優勝 阿南工

準優勝 富岡西

三位 城北・徳島文理

女子団体(一二チーム)

優勝 富岡東

準優勝 城北

三位 川 島・富岡西

男子個人(二七九人)

優勝 田中(阿南工)

準優勝 熊橋(城北)

三位 庄野(富岡西)

湯浅(阿南工)

女子個人(七六人)

優勝 玉田(徳島文理)

準優勝 太田(城北)

三位 野村(富岡東)

田渕(城北)

○四国高等学校剣道選手権大会

平成二十七年六月二十日・二十一日

於 ソイジョイ武道館

男子団体

三位 富岡西

女子団体

準優勝 富岡東

男子個人

ベスト八 田中(阿南工)

女子個人

ベスト八 玉田(徳島文理)

野村(富岡東)

田渕(城北)

○全国高等学校総合体育大会

平成二十七年八月四日・五日

於 和歌山ビッグホエール

男子団体 阿南工(予選リーグ二敗)

阿南工 一―四 和歌山東(和歌山)

阿南工 二―三 安房(千葉)

女子団体 富岡東(予選リーグ二敗)

富岡東 〇―一 盛岡南(岩手)

富岡東 〇―一 本庄第一(埼玉)

男子個人

一回戦

熊橋(城北) 一メ

東(鹿児島実・鹿児島)

田中(阿南工) 一メ

安村(鹿児島工・鹿児島)

女子個人

一回戦

玉田(徳島文理) 一メ

山田(佐伯鶴城・大分)

太田(城北) 一メ

宮本(日吉ヶ丘・京都)

○国体四国ブロック大会

平成二十七年八月十六日

於 香川総合体育館

少年女子(本大会出場ならず)

選手 谷・深見・丸岡(富岡東) 玉田

(徳島文理) 田淵(城北)

補員 野村(富岡東) 長谷川(富岡西)

少年男子(本大会出場ならず)

選手 田中・古川・湯浅(阿南工) 南

谷(城北) 庄野(富岡西)

補員 谷本(徳島文理) 熊橋(城北)

○徳島県高等学校剣道選手権大会

平成二十七年十一月八日

於 ソイジョイ武道館

男子個人(一二五人)

優勝 鳴川(城北)

準優勝 竹森(阿南工)

三位 美馬(城北)

女子個人(四三人)

優勝 丸岡(富岡東)

準優勝 猪野(富岡東)

三位 堤(城北)

片岡(富岡東)

○徳島県高校剣道新人大会兼全国選抜大会

県予選会

平成二十八年一月十七日

於 ソイジョイ武道館

男子団体(一六チーム)

優勝 城北

優勝 城北

準優勝 徳島文理

三位 富岡西・阿南工

女子団体(六チーム)

優勝 富岡東

準優勝 城北

三位 富岡西・川島

○四国高等学校剣道新人大会

平成二十八年二月六・七日

於 愛媛県武道館

女子団体

優勝 富岡東(五年ぶり五回目)

男子個人

優勝 鳴川(城北)

女子個人

優勝 丸岡(富岡東二年連続)

三位 長谷川(富岡西)

ベスト八 東條(城北)

○全国高等学校剣道選抜大会

平成二十八年三月二十七・二十八日

於 愛知県春日井市

出場校 男子団体 城北

女子団体 富岡東

二、高体連強化錬成会

○徳島県高等学校剣道強化錬成会

参加者 約三〇〇人

平成二十七年十二月二十八日・二十九日

於 徳島北高校

招待高等学校 長崎県島原高等学校

東海大浦安高等学校

興讓館高等学校等

○徳島県高等学校春季強化錬成会

参加者 約三〇〇人

平成二十八年三月十九日・二十日

於 阿南スポーツセンター

招待高等学校 筑紫台高等学校

桜ヶ丘高等学校

育英高等学校等

三、県下高校剣道部員数の動向について

年 度	性別	1年生	2年生	3年生	合 計	男女合計
平成10年度	男	122	83	91	296	444
	女	64	54	30	148	
平成18年度	男	95	76	88	259	368
	女	31	34	44	109	
平成19年度	男	83	95	68	246	344
	女	40	28	30	98	
平成20年度	男	71	65	85	221	322
	女	32	39	30	101	
平成21年度	男	88	65	50	203	299
	女	32	30	34	96	
平成22年度	男	86	70	54	210	294
	女	28	27	29	84	
平成23年度	男	59	69	68	196	273
	女	28	22	27	77	
平成24年度	男	70	58	68	196	255
	女	25	20	14	59	
平成25年度	男	64	64	52	180	265
	女	31	30	24	85	
平成26年度	男	60	61	59	180	273
	女	31	33	29	93	
平成27年度	男	73	54	55	182	261
	女	24	25	30	79	

四、総評

今年度総体の男子団体戦は、阿南工と富岡西の決勝となった。両チーム力が均衡し、すべての試合が延長にもつれ込む熱戦となった。代表戦を制した阿南工が二年ぶり一二回目の優勝を決めた。女子団体戦は、富岡東と城北の決勝となった。先鋒、次鋒と連取した富岡東が二年連続三〇回目の優勝を決めた。個人戦は、男子が阿南工の田中選手、女子は徳島文理の玉田選手が優勝した。

四国大会では女子団体で決勝で帝京第五と大熱戦の末敗れたが富岡東が準優勝した。男子団体は準決勝で、後の全国総体三位となり実力のある帝京第五に善戦及ばず富岡西が第三位に入った。

全国総体は団体戦、個人戦とも上位に進出できなかった。

十一月の選手権大会は、男子は城北の鳴川選手、女子は富岡東の丸岡選手が優勝した。鳴川選手は四月の都道府県大会の梶代表として出場することが決まった。

四国新人大会では女子団体で富岡東が昨年の雪辱を果たし、五年ぶり五回目の優勝

をした。個人戦では、男女ともに徳島県勢の活躍がすばらしく、男子は鳴川（城北）が優勝、女子は丸岡（富岡東）が優勝で第三位に長谷川（富岡西）が入る大健闘であった。

来年度も混戦が予想されます。互いに切磋琢磨し、徳島県全体の競技力の向上につ

ながることを期待しています。

また、年々部員数の減少が深刻ですので、関係各機関と連携して長期的な選手の育成を図り、継続して専門部の協力体制の強化と個人の競技力の向上に努めていきたいと思えます。



大学連より

大学連部長 木原資裕

一、第六十二回中四国学生剣道選手権大会
(平成二十七年五月十七日)への出場

(松山)

○一回戦敗退

・中崎正章(鳴教大)・益田駿志(徳大)・藤本優(四国大)・井上和希(四国大)・森悠晋(徳大)

○二回戦敗退

・岸野賢太(徳大)・中西正和(徳大)

二、第四十七回中四国女子学生剣道選手権大会
(平成二十七年五月十七日)への出場

場(松山)

○一回戦敗退

・藤井理央(文理大)・矢野あすか(文理大)・楠本由美菜(鳴教大)・栗野安香音(鳴教大)

三、第六十二回中四国学生剣道優勝大会
(平成二十七年九月六日)への出場(岡山)

○予選リーグ

・徳島大 ○勝二敗

四、第四十二回中四国女子学生剣道優勝大会
(平成二十七年九月六日)への出場

(岡山)

○予選リーグ

・徳島文理大 ○勝二敗

・鳴門教育大 一勝一敗

五、第三十四回眉山杯剣道大会(徳島県学生剣道選手権大会)ならびに第十回徳島県学生剣道東西対抗試合の実施

日時：平成二十七年十一月二十一日(土)

場所：徳島文理大学体育館

参加者数：五四名(選手三七名・役員審判一六名)

○選手権大会成績

男子 優勝 中川拓弥(徳大常三島)

二位 岸野賢太(徳大常三島)

三位 藤田翔(徳大常三島)

益田駿志(徳大常三島)

女子 優勝 園山由華(鳴教院)

二位 青木真理子(文理)

三位 栗野安香音(鳴教)

○東西対抗優秀選手

男子

藤田翔(徳大常三島) 四人抜き

中川拓弥(徳大常三島) 二人抜き

山田明(徳大常三島) 二人抜き

是枝祐徳(鳴教院) 大将・一人抜き

女子

野々上懂子(徳大常三島) 六人抜き

栗野安香音(鳴教) 二人抜き

園山由華(鳴教院) 大将・引分

青木真理子(文理) 大将・引分

六、神崎浩先生(大阪体育大学)を迎えての大学連講習会

日時：平成二十八年五月七日(土)・八日(日)

日(日)

場所：鳴門教育大体育館

*今回は諸般の事情で年度を越えての実施となります。

阿部 美月(文理)

部活だより

部活便り

城ノ内中学・高等学校教諭

大石哲生



城ノ内中学・高等学校は徳島市の

中心部に位置し、

中学生一学年一二

〇名、高校生一学

年二四〇名で合計一〇〇〇名以上の学生が共に学校生活を送っています。高等学校は毎日七時間授業、中学生は週三日七時間授業であり、学校全体としての雰囲気は勉学を重視する傾向にあります。運動部・文化部ともに部活動数が多く、登山部、百人一首部などが各大会で入賞するなど活発に活動しています。生徒は徳島市に加え、鳴門市、石井町、小松島市などから通学し、出身中学校・小学校は多様です。

高等学校剣道部は現在男子十二名、女子三名、中学校剣道部は男子四名、女子二名で活動しています。高校生は原則週六日、中学生は個人の状況に合わせての参加で、日々一時間程度の練習に取り組んでいます。初心者、高校から剣道を再開する者、小学校から継続して取り組んでいる者など剣道経験は様々で、部員間の実力差は非常に大きいですが、お互いに学ぶ姿勢を持ち、日々切磋琢磨しています。

男女とも県内ベスト四入り、四国大会出場を目標に稽古に励んでいます。現在のところ一歩及ばず、という状況です。過去を振り返ってみると、平成四年度から平成六年度にかけて三年連続の全国高等学校総合体育大会（インターハイ）出場をはじめ、先輩方は非常にすばらしい戦績を残されており。そのような先輩方の存在は部員たちにとって励みであり、OB会でご指導いただいたり、試合会場で声をかけていただけるとは非常にありがたいことです。

私自身、指導者としての経験は浅く、また選手として活躍してきたわけではありま

せん。日々の学校生活に追われる生徒を前にし、剣道のおもしろさ、厳しさを伝え、将来も剣道を続けてほしいと願いながら、日々の稽古に取り組んでいます。どのような練習が効果的なのか、短時間で集中して取り組める内容はないか、部員たちにどのような声をかけるべきなのか、など日々の悩みはつきませんが、たくさんの先生方にご指導やご助言をいただき、何とか監督を続けられています。

過去には団体戦に出られるだけの部員数になるか心配な時期もありましたが、ありがたいことに現在は部員数に恵まれ、部員たちは文武両道を目指して努力しています。今後感謝の気持ちをお忘れず、剣道部に入学してくれる生徒が増えることを願いながら日々の練習に励みたいと思います。



高校剣道部



少年部よりの作文集

※第十回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会

先鋒 小山田 亮 太

(小松島少剣クラブ)

ぼくは、人生初の全国大会に行き、いろいろなことを学びました。それとともに、今の自分の剣道の力のレベルも学び、すごくたくさんのことをしりました。同じ小学生にもこんなに強い子がいるんだなと思い、負けてはいられないなとあらためて、自分の心の中で思いました。

ぼくが、一番心に残っているのは、北海道との対戦のときです。相手は、すごく強そうだったけど、同じ小学生だし、思いつきりやろうと思いました。でも、試合ではなかなか自分のペースにもっていかず、相手のペースにのっ

てしまい、ふせぐばかりになってしまいました。そして、集中がとぎれて

しまい自分の得意技である思いきった

面を相手にとられてしまい、そのあと

も、出すことができずに、一本とられたま

ま、終わってしまいました。くやし

しかったです。福井の試合のときでも、

もう打てるまあいで、足がいつしゅん

止まってしまい、面を一本とられてし

まいました。今、あと試合を見てみる

と、すごくたくさん反省するところが

あり、それもそれで良かったと思いま

す。中学校の決勝戦を見ていると、迫

力が見えんせんちがい、相手におそいか

かるような、剣道をしていて、おどろ

きました。これが、中学生の試合なの

かと思うと、ウズウズしてきました。

なぜかは、ぼくも中学生になったら、

あのぶ台に立って、みんなのあこがれ

の選手になりたいと思いました。

最後に、このような大きい大会に出

場できてすごくうれしかったです。反

省することもたくさんあるけど、これ

からは、全国大会に出場できたという

ことをほこりに思い堂々と剣道をして

いきたいです。あと、大阪まで送って

くれた先生方、応援にきてくれた、

お母さん方や、お父さん方、本当に、

ありがとうございます。

次鋒 河野 菜々子

(那賀川剣道教室わかあゆ会)

平成二十七年九月二十日、舞洲アリー

ナで全日本都道府県対抗少年剣道優勝

大会が行われ徳島県代表として出場さ

せていただきました。三年前、剣道の

全国大会が大阪で行われると聞き父に

見学に連れて行ってもらいました。そ

して、いつかこの大会に出たいと思っ

信を持って行け」と言われていました
が、大きな大会でいつものように打つ
ことができませんでした。

しかし、こんな素晴らしい大会に出
場できたこと、素晴らしいチームの一員
になれたことは私にとって最高の経験
になりました。

私たちがこの大会に出場するために
多くの先生方に指導していただき、応
援していただいたことに感謝の気持ち
でいっぱいです。徳島代表の選手のみ
なさん、先生方、保護者の方々、本当
にありがとうございました。そして中
学校でもう一度この大会に出場できる
よう努力していきます。

中堅 岡 崎 理

(鳴門市光武館)

平成二十七年九月二十日大阪の舞洲
アリーナで、第十回全日本都道府県対
抗少年剣道優勝大会が行われ、徳島県
代表の中堅として出場させていただきました

ました。

予選リーグの初戦は、福井県でした。

チームが一本負けで回ってきたので、
私は、「最低でも一本勝ちをして、次
につなげよう。」という気持ちで試合
にのぞみました。しかし、結果は引き
分けでした。無我夢中でやったつもり
でしたが、ふり返ってみると、打ち急
いでしまったりするなど、間合いが十
分につめ切れていないままで、試合が
終わってしまいました。結果チームは、
二対〇で負けました。

二試合目は、北海道と対戦しました。
また一本負けで回ってきました。二試
合目だったので、あまり緊張せずのに
ぞむことができました。一試合目の反
省から、あせらず打ち急がないことを
意識しましたが、自分の思うような剣
道ができませんでした。この試合も引
き分けてしまいました。チームも、そ
のまま引き分けが続き、一対〇で負け
てしまいました。この二試合で、中堅
の「流れを変える」という役割を果た

すことができず、とてもやさしかった
です。

私にとって、この大会は、目標であ
り、あこがれでした。月一度の強化訓
練での試合練習で、Aチームに残れる
ことを目標に精一杯がんばりました。
そして、印南遠征に参加できること
になり、一つ目標が達成できたと思いま
した。しかし、これで終わりたくない
という気持ちがありました。次の岡山
の練習試合では、他の県の選抜のチー
ムとたくさん試合しました。県外のチー
ムはとても強くて、もっとがんばろう
と思いました。でも、それは、参加し
たみんなが感じていたと思います。

今回、このような大舞台で試合がで
きたことは、今後、私の自信になると
思います。先生方をはじめ、保護者の
方々、そして共に戦った仲間へ感謝を
忘れず、これからもこの経験をいかし、
頑張っていきたいです。

副将 宮 田 滉 大

(北井上剣道教室)

ぼくが、都道府県大会に出れたのは、去年この大会に出た友達や、家族や先生方が教えてくれたり、はげましてくれたりしたおかげでここまでこれたのです。お母さんはこれなかったけど、おじいちゃんが応えんに来てくれました。

大阪の体育館は、徳島市体育館の二倍ぐらい大きかったです。ぼくは、大阪の体育館を見て、「大阪は都会だな。」と思いました。都会は、建物が大きかったです。

サブアリーナで練習していても、きん張するぐらいでした。試合練習をしないまま、回りげいこをしていたら、こけてしまい、頭に近い所をうちました。だがすぐに直りました。練習のあと、ホテルに行き、夜ご飯をおなかいっぱい食べ、おふろやはみがきをすませ、テレビを見てねました。

次の日、五時十分におき、みじたくをして朝ごはんを食べました。その後、大会のある舞洲アリーナへ行きました。入場行進の時、すごくきん張しました。しかも、一回でも勝つという気持ちで、ぐんぐん上がってきました。

福井県と北海道として負けましたが、けっこういい勝負をしていたのではないかと思っと思っていますが、負けたことにかわりはないので、もっともっと練習して、中学の都道府県大会に出て勝ちまくりたいと思います。

この試合で学んだことを後はいに伝えて、もっと強く、たくましいチームになればいいんじゃないかなと思っています。

大将 塚 田 志 緒

(徳島少年剣道教室)

この大会で、私が一番感じた事は、試合の流れを止めないということです。

開会式後に、世界剣道選手権大会で活

躍された方や監督として優勝に導いた方の演武を間近で見て、打つタイミングや、中心をとらえる打ち方、声の大きさ、足の運び、全てが一本の竹刀に集中して、すごい連鎖で空中で交差していました。演武なのに、試合をするような感じで、白熱していました。

いよいよ、私たちの試合の予選リーグが始まりました。どのチームも、とても強そうで気迫が感じられました。

まず、福井県との試合が始まりました。緊張はしませんでした。これからは県代表として戦うんだという意気込みで、五人並び礼をしました。先鋒から順番におちついた試合運びでした。私は、何が何でも一本をとらなければいけない立場でしたが、なかなかの強者で危ない場面もあり、引き分けに終わってしまいました。

次の相手は北海道でした。メンバーを見ると、同じチームの同じ小学校出身の人たちで結成されていて、まとまりがあるんだなと思いました。私たち

のチームもチームワークはあるんだぞ
という思いで挑みました。どこのチー
ムも県代表の応援を受けてきているの
で、なかなか勝たせてもらえず、試合
のむずかしさを感じました。

県代表になるのも大変ですが、その
中でこの大会で入賞する事は、どんな
にすごい事がよく分かりました。苦
しい大変な練習をしてきたんだと思
いながら決勝戦を見ました。

この大会に参加できただけでも、私
にとって、大きな財産となりました。
もっと勝てたらよかったという反省は
たくさんありますが、これからの練習
のふみ台にしたいです。

支えてくださった先生がたに、感謝
します。お世話になりました。



※印南道場（兵庫） 遠征に参加して

佐藤 廉之助

（徳島少年剣道教室）

いつも強化で顔を合わせ、一緒に練習をしているみんなと合宿に行けることが楽しみだったけど、みんなと仲良くやっていけるか少し不安もあった。

でもそんな不安は、バスが発射してすぐ消えた。道着を着ていないみんなは、すぐくおしゃべりで、すぐくおもしろい人ばかりだった。

楽しかったバスの中も終わり、印南道場に着いた。あまりの暑さにびっくりした。印南道場の人は、動きが速く、声も大きく、飛びこみ面がとても上手だった。自分が試合をしていない時に、印南の人の足さばきや打ち込み方を見ていたが、それに対応できる力がぼくにはまだ無いと思うので、どんな剣道をする相手でも対応できる力を練習で

つけていきたいと強く思った。そして、いつか印南の人と互角に戦ってみたいと思った。

今回一番楽しかったことが、みんなと一緒にお風呂に入ったことかもしれない。二つしかないシャワーを取りあい、大きなクモをみんなで倒し、小さな湯船にみんなが入りお湯のかけあいをして、大さわぎした。まるで、修学旅行の気分だった。

寝るまでみんなで、話やトランプをしていたのでなかなか眠れなかった。次の日、眠くて仕方がなかった。

二日目の試合がい古で先生に、「右肩が上がっている。」「足がしずんでいる。」と言われたので、今後これらに注意して練習していきたい。

帰り、野島断層保存館に連れてってもらった。地震によるおそろしさが、断層を見ることによって感じられた。

今回合宿に参加させてもらったことで、沢山の経験と楽しい思い出が出来ました。大変お世話になりました。

ありがとうございました。

山室 愛子

（徳島少年剣道教室）

八月一日、二日に印南道場への遠征に参加させてもらいました。とても暑いなか、初めて他の教室の人達と遠征に行ったので、最初は少し緊張しました。

印南道場に到着すると、まず合宿所での生活の仕方を教えてもらいました。とても気持ち引きしまり、がんばろうと思いました。

試合が始まると、印南道場の選手は、とても大きな声が出て強気で、応えも全員が一生懸命で、チームワークがすごく良いなあと感じました。

私は、全力で思いきって色んなことを試してみました。良かったところは、絶対に気持ちで負けないように、相手よりも大きな声を出して、しっかり足を動かしてがんばったところです。悪

かったところは、自分がぐずれて打ってしまい、相手に打たれてしまったところでは、悪かったところは、これから意識して、しっかり練習していきま

す。
帰りに、みんなで野島断層に行きました。新妻体験で震度七のゆれを体験しましたが、立ってられないほどこわかったです。地震のこわさをすごく感じたので、色々と備えたいと思いました。

二日間、とても暑くて大変だったけど、たくさん試合ができてすごく勉強になりました。また、みんなと一緒に生活をして楽しかったし、友達がたくさんできて良かったです。これからも、もっと剣道をがんばります。

添 木 陽 仁

(徳島少年剣道教室)

八月一日、二日に、兵庫県の印南剣道のところに行きました。つくと始め

にアップをしてから印南の人たちと練習試合をしました。一回目はふくしゅうでした。さきにコテで一本とりまして。でも気持ちが悪く、だんだんさがってきつばぜりからわかれるときにメンをうたれて勝負になりました。すると時間がきてひきわけでした。先生方には、とったときはいいペースでせめたりしていたけどだんだんペースがおちてきてそこをメンでうたれたといっていました。なのでペースをずっといっしょでせめたりすればいいんだなと思いました。

二回目はちゅうけんできました。印南のBみたいなところとやりました。さっき先生方にいわれたことをいかそうと思ったら手もとをあげてしまいコテをうたれてしまいました。そのあとあいての手もとがあがったから、こんどはぼくがコテをとりました。でもさっきといっしょのコテでとられました。

先生方には手もとをあげるなといわれました。印南とぼくでながちがうか

考えて見ました。するとたんばつじゃなくて一本はいらなかったら、せめて次々にせめるところや、まあいなどのつかいかたがきちんとできているなどのところがちがうんだなと思いました。

二日目は、印南の人たちがいないので徳島せんばつだけで練習試合をやりました。最初に岩谷くんとやりました。まずひきどうをとりました。そこからまた気持ち悪さがあってしまいました。

そこがぼくのいけないところです。二回目はとみ田くんとやってガツガツせめていったけど、かえされてメンをうたれました。二本目はあいめんをとられました。終わったあと、他の子の試合を見たりしてどがちがうかなどをみていました。中心をころしてうっていました。そこも見ないたいです。

全体の練習が終わったあと、岡山にいく人が発表されたとき男子六年生で行くといわれたときはショックでした。

でもそのぶん来年こそがんばってえらばれたいという夢ができてよかったです。

す。印南えんせいに選ばつてくれた先生方がとうございました。

岩原千佳

(小松島少剣クラブ)

私は徳島県の代表の十六人の中に選ばれて印南台宿に行きました。そして、印南剣道場の子たちと試合をしました。最初は引き分けばかりだったけどちょっとずつ調子が良くなってきて勝ててきました。

試合が終わった後、先生方のけい古を見ました。見ていて分かったことがあります。私は面ばかりであり一本にはならなかったけど先生たちは面、小手、胴などいろいろなわざを使っていました。だから私は、「面ばかりだったらだめなんだ。」「明日からは、小手も胴も使おう。」と思いつながら先生方のけい古を見ていました。

そして一日目のけい古が終わり、女子みんなでふろに入りました。そのあ

と、みんなでごはんを食べに行きました。

その帰り道、松村先生が、「この座席動くよ。」と言って車の座席を動かしてくれ、みんなで遊びやすくなりました。するとあつという間に宿舎にきました。「なんかみんなと友達になって仲良くなってチームが良くなったな。」と思いました。その後男子の部屋に行つて、マクラ投げをしたり、トランプをしたり、人狼ゲームをしたりして遊びました。そして、11時過ぎにねました。

二日目の朝は五時五十分ごろに起きました。朝ごはんをくばったり、つくえをならべたりしてからごはんを食べました。食べる前は「多いな。」と思つたけどごはんとしてフルーツは全部食べれました。ごちそうさまをした後、道ぎはかまを着て道場に行きました。

二日目は、印南剣道場の子たちが試合に行つたのでいませんでした。だから、徳島県同士で試合をしました。

きのう、分かったことをそのまま試合でやると勝てました。一人二〜三試合しました。

帰り道淡路防災センターに行きました。今から二十年前。私たちが生まれていない時に淡路で大きな地震がおきたそうです。その大きな地震の名前は阪神淡路大震災です。道路がわれたり、ひびがはいったりして大変だったそうです。

一番にトイレを運んだのが松村先生で、徳島県で一番速く行ったのが青木先生で、臼木先生は高知でつりをしておこられたそうです。

そして徳島についてから、岡山遠せに行けるメンバーの発表がありました。その中に私の名前が入っていました。だから、都道府県にも行けるようにならうと思いました。

松山若樹

(小松島少剣クラブ)

印南道場に行ってみたことは、ふりが速くて、打ちが強いことです。わたしは、どうしても速く打とうとしたら、打ちが弱くなるのでこれからは、速く強く打てるように、練習して試合で、打てるようにしたいです。あと、足の動きが、止まっていけないので、いったところや、足が止まったところを打たれないので、すごいと思いました。だからわたしも、足が止まらないように、気をつけたいです。試合をしてわたしは、しっかりせめてメンを打つたつもりだったのに、相手にかえされて負けてしまいました。なので自分か思った以上にせめて打たなければいけないと思いました。自分でよかったです。思ったところは相手がメンを打ってきたところをおさえてメンがうてたところ。よかったです。思った理由は、相手をしっかり見て打てたからです。な

ので、これからも、もっともったいいところをふやしていきたいです。この印南での経験をかして、ふだんからふりを速くすることや、うちを強くすることを、気をつけて、したいです。

試合で気をつけたいことはあたったうちを一本にすることです。それと、この子から、一本、二本もぎとると言う強い気持ちです。最後の体そうのときに、阿部先生が「日本一になる人は、日本一の体そうをしとる」と言っていました。これからは、正座のしかたも、体そうのしかたも気をつけていこうと思います。

帰りに、野島断層に行きました。ここでは地しんの体験や地割れを見ることができました。まず、中に入ったら、車がひっくりかえていたモケイがありました。それから地割れを見ました。すごくこわかったです。次に、地しんの体験をしました。しん度七としん度四と、阪神淡路大震災のゆれです。物が、ちかくにあったら、すごくあぶな

いと思いました。とてもゆれて、こわかったです。地しんの体験が終わったら、ビデオを見ました。徳島県は、三十年の間に地しんがおこるかくりつは、六十〜七十%でした。ほぼ百%なので、こわいです。なので地しんがきてもすぐに、にげられるように、準備しておきたいです。

この二日間貴重な体験をさせていだいてありがとうございました。とてもいい勉強になりました。

松田宙大

(小松島少剣クラブ)

八月一日・二日に印南道場に行きました。一日目の最初のしあいは、一本をとられました。自分のペースになり二本とりかえせました。二試合目から四試合目は相手のペースになり、相手をみすぎて負けてしまいました。印南の人たちのいいところは、相手がさがるとすぐに追いこんで一本をとりにいく

かまえてきています。それは、ぼくのたりないことと、思いました。

二日目の朝食で阿部先生が大切なことを教えてくれました。それは、命をいただいているということがわかりました。それに親が働いてくれたからこのように食事ができるということを教えてくれ、とてもいい勉強になりました。

試合では、一日目よりは、がんばろうとしました。結果は、一日目と比べてみると、相手のペースには、そんなにならなかつたけど、いい所と悪い所があるのでとても苦しかったです。徳島選抜のいい所は、相手の動きを見ているのがいいと思いました。

次に、防災センターに行きました。災害後、そのままありました。地震の体験では、震度七弱など体験しました。体験している時は、こわくありませんが実際におきると、とてもこわいと思えました。次にDVDを見ました。二〇一一年では、十七兆円の被害があっ

たということがわかりました。これからは、災害などに気をつけたいと思えました。

松本尊灯

(藍住剣道スポーツ少年団)

八月一日、兵庫遠征一日目です。緊張しながらバスに防具をのせました。そして、五分ぐらいして、皆が集合すると一列に並び、おねがいますと言って、バスに乗り込みました。僕は、一番後ろの四人一列の席に座りました。

いよいよ出発。保護者の方々も乗り、兵庫県印南剣道場に向けて出発しました。まずは淡路のパークンギエリアに向かいました。その途中の一時間程度、皆でしりとりの話をしました。その時、宮田君のすぐ横に、小さな蛾がいました。その事を伝えると、リアクションがおもしろかったです。後で聞いて見ると、虫嫌いだそうです。松田君に苦手なものを聞くと、おもしろい答え

が返ってきて、ETCの開く棒が怖いそうです。

淡路のパークンギエリアではトイレをすませ、五分ぐらい中っていると、バスへ戻って、すぐに出発しました。

それから、二時間程バスで走ると、高速道路を下りて、走りしました。信号を待っていると、ガソリンスタンドの人が、野球のエア素振りをしていて、皆にそれを言うのと、バスの中がにぎやかになりました。しばらく走って、昼食にうどんを食べました。

印南の道場に着くと、胴着に着替え、防具をつけるとまずは、アップをして、おたがいに礼をした後、すぐに試合をしました。

第一試合目、増田さんとして負けました。僕は、正直岡山遠征メンバーは、はずれたと思いました。第二試合目も、あっけなく負けてしまいました。僕はもう絶対はずれたと思いつながら、第三試合目をする、やはり負けてしまいました。そして最後の試合で、やりた

い人、と言った時、どうせしたって、どうせ負けるし、これ以上不要な試合をして負けるのはいやと思って、僕は手を挙げられませんでした。そのまま一日目が終わり、夕飯は、近くの中華料理店で食べました。そこでは、皆なで楽しい話をして、さっき心にあった情けないみじめな気持ちが少し、和らいできました。宿舎に帰ると、明日は絶対勝つぞと思いつながら疲れていたせいかいつのまにか眠ってしまいました。八月二日、二日目も三試合して、一回勝ち、二回引き分けて、僕は県内では多少通用しても県外では全く相手にならない自分でした。

最後に寄った、淡路の地震センターでは、地震による揺れの体験や、地震に合った人の辛さを学び帰りました。終えてみて僕の剣道は真剣に一からやり直さないとダメだと痛感しました。一生懸命がんばります。

岩谷 愛 夢

(和田島少年剣道クラブ)

ぼくは八月一日と二日兵庫県印南道場遠征合宿に行きました。まず一日目は、道場に到着してから、練習試合をしました。ぼくは、四試合しました。結果は、一勝二敗一引き分けでした。一試合目は、先ぼうで負けてきたので、流れを作れず自分の役目をはたすことができず、思うような剣道ができませんでした。その後の試合も、声がでず、相手のペースにのみこまれてしまいました。

二日目は、印南道場の方に、朝ご飯を作っていただきはいぜんの用意をみんな協力してしました。その後、道場で徳島県せんばつメンバーの子と練習試合をしました。結果は一敗一引き分けでした。一勝もできずくやしかったです。印南道場を出発して、帰りにみんなで北淡震災記念公園に行きました。東日本大震災の時に起きた震度七

強のゆれを、体験しました。地震や津波が来た時にそなえて、日ごろから心がけます。

最後にこの印南遠征で、学んだことは、れいぎを正しくすること、何でも自分ですということを学びました。来年も印南道場遠征に行けるように練習をがんばりたいです。

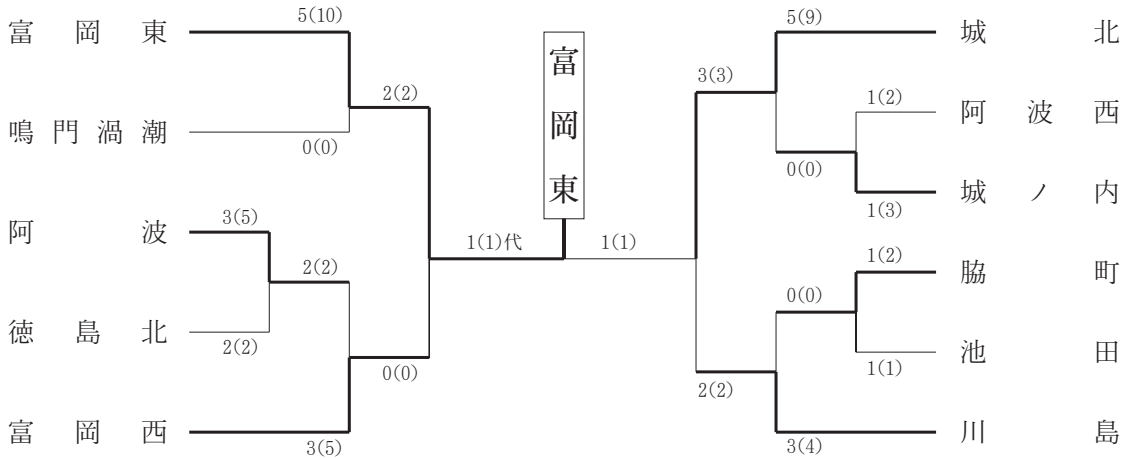


平成27年度 大会 記録

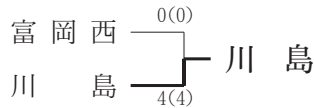
第40回徳島県剣道連盟会長杯争奪高等学校剣道大会

日時 平成27年4月19日(日)
会場 鳴門ソイジョイ武道館

〈女子の部〉



順位決定戦



〈女子の部〉

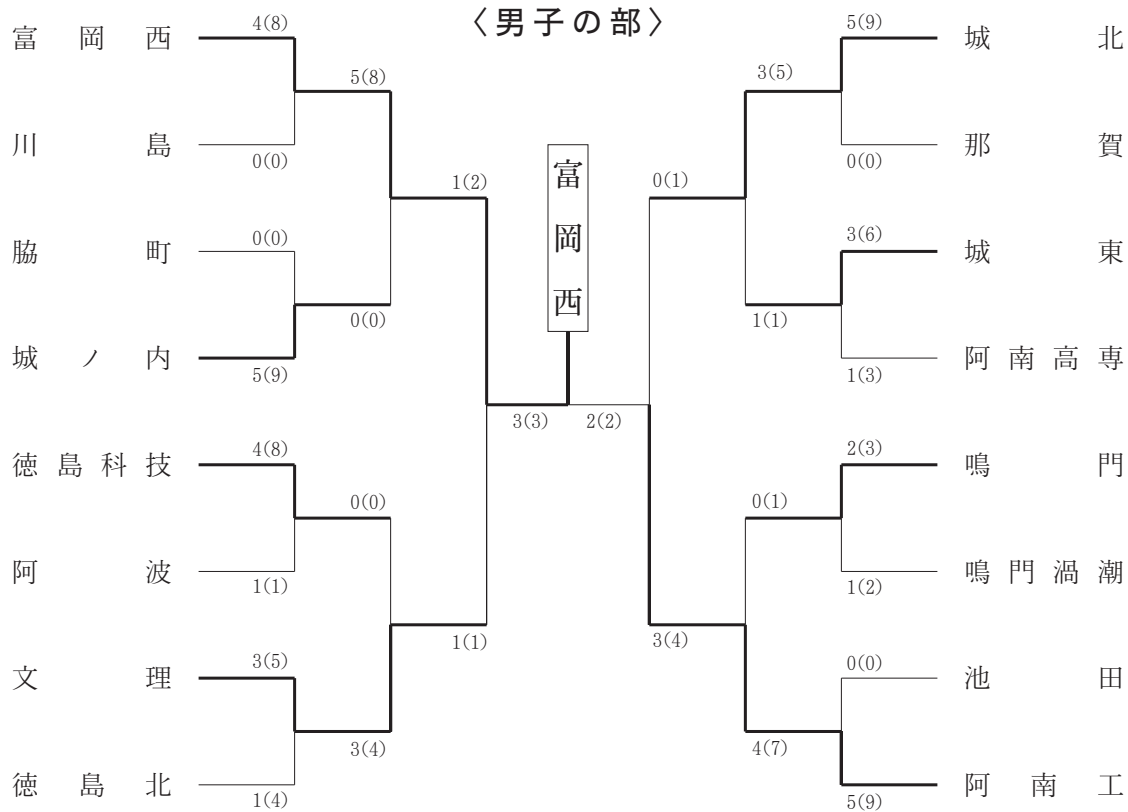
決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	谷	津田	野村	清水	丸岡	1	1	丸岡
	▲	延長	延長	⑤一本勝	延長			⊗
城北	▲	⊗	延長		▲	1	1	太田
	延長	延長	延長		延長			

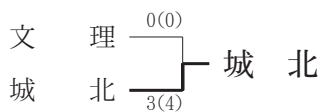
順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	石田	油津	湯浅	武蔵	長谷川	0	0	
	延長	延長	延長	延長				
川島	▲	⊗	延長	延長	一本勝	4	4	
	延長	一本勝	延長	延長	一本勝			
	森永	岩崎	民	丸山	竹原			

〈男子の部〉



順位決定戦



〈男子の部〉

決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	住友	福田	濱田	庄野	大松本	3	3	
	▲	⊗一本勝	⊗一本勝	⊖延長				
阿南工業	湯浅	坪井	古川	竹森	田中	2	2	
	⊗一本勝				⊗一本勝			

順位決定戦

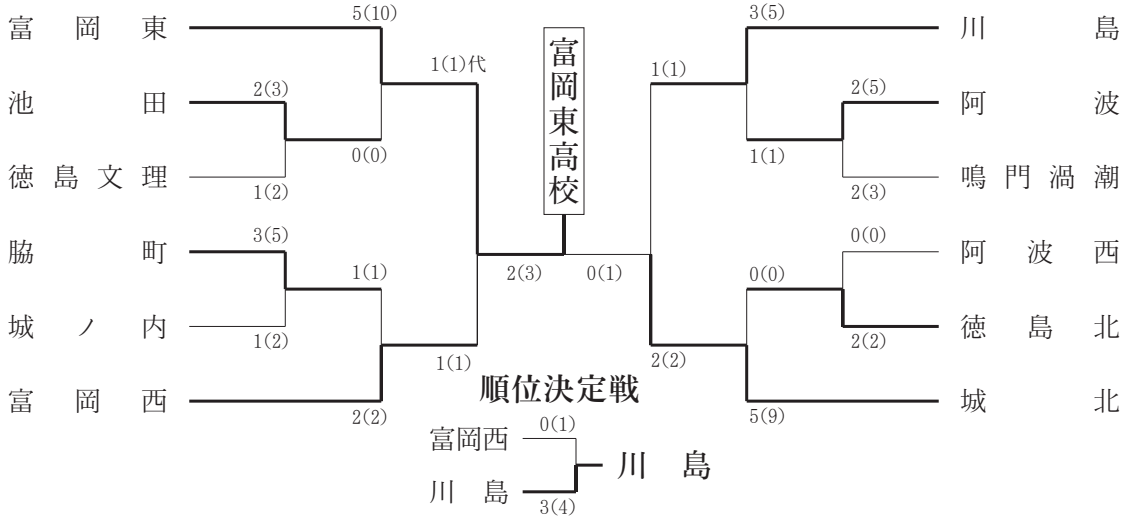
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	谷本	矢代	川田	副森	大藤本	0	0	
	▲		▲延長					
城北	熊橋	鳴川	美馬	吉田	南谷	3	4	
	⊗	⊗一本勝	⊗一本勝					

徳島県高等学校総合体育大会 剣道競技

日時 平成27年6月6日(土)～7日(日)

会場 那賀川スポーツセンター

〈女子団体戦〉



〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	谷	深見	野村	清水	丸岡	1	1	野村
		延長	一本勝	延長	延長			
富岡西	石田	堀内	湯浅	武蔵	長谷川	1	1	長谷川
		一本勝						

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
川島	森永	丸山	民	上田	竹原	1	1	
	▲	延長	延長	延長	一本勝			
城北	太田	堤	田	東	行	2	2	譜
		一本勝	延長	延長	延長			

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	石田	堀内	湯浅	武蔵	長谷川	0	1	
		延長	延長					
川島	森永	丸山	民	上田	竹原	3	4	
		一本勝	延長	延長	一本勝			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	谷	深見	野村	清水	丸岡	2	3	
	延長	延長	延長	延長	延長			
城北	太田	堤	田	東	行	0	1	譜
		延長	延長	延長	延長			

〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	住友	福田睦	濱田	庄野	松本	3	3	
	▲	延長	一本勝	延長	一本勝			
徳島文理	谷本	矢代	川田	森	藤本	0	0	
			▲					

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	鳴川	美馬	熊橋和	吉田	南谷	1	1	
	一本勝			延長				
阿南工業	湯浅	坪井	古川	竹森	田中	3	3	
		一本勝	一本勝	延長	一本勝			

3 位決定戦

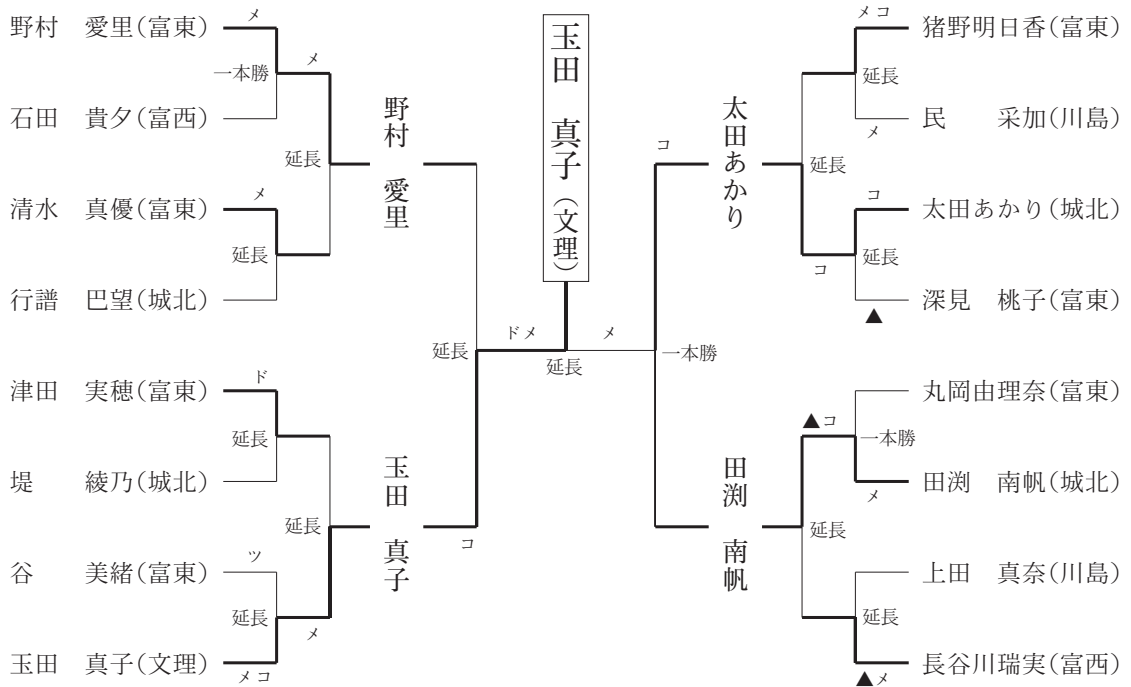
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	谷本	矢代	川田	森	藤本	1	2	
		延長	延長	一本勝	延長			
城北	鳴川	美馬	熊橋和	吉田	南谷	2	3	
		一本勝	延長	延長	延長			

決 勝

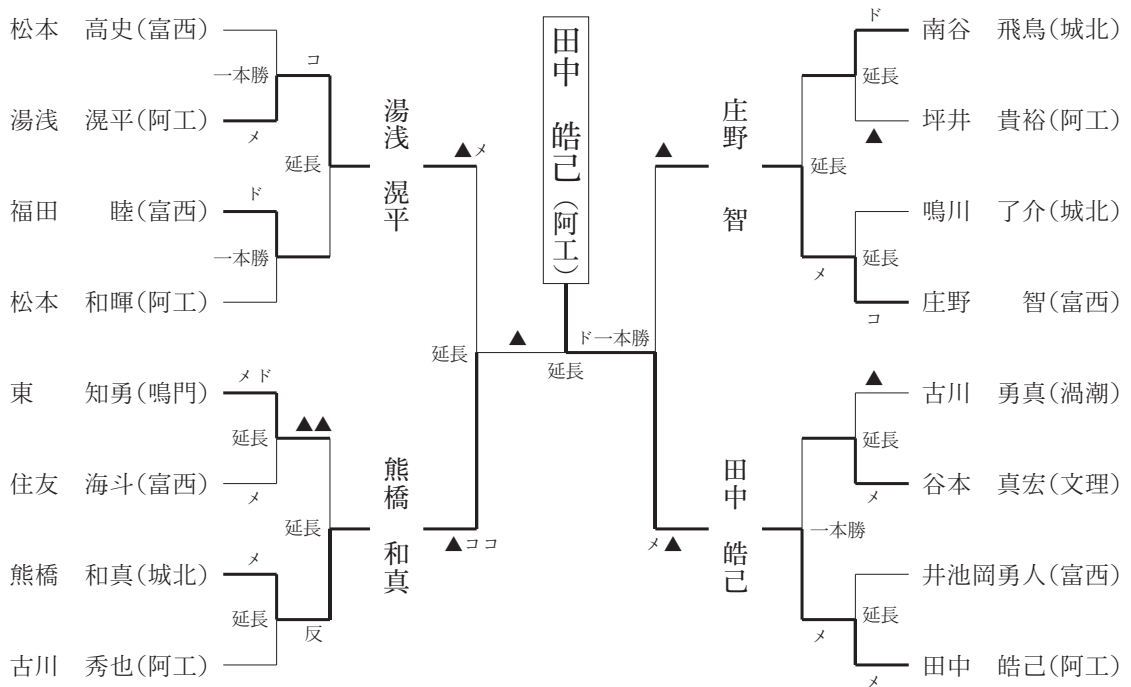
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	住友	福田睦	濱田	庄野	松本	1	1	松本
	延長	延長	延長	延長	延長			
阿南工業	湯浅	坪井	古川	竹森	田中	1	1	田中
		延長	延長	延長	延長			

ベスト 16

〈女子個人戦〉



〈男子個人戦〉



第69回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

【 団 体 戦 】

日 時 平成27年 7月11日(土) 午前 9 時30分開会

場 所 鳴 門 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

順 位	男 子	女 子
優 勝	徳 島 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	石 井 中 学 校	坂 野 中 学 校
第 3 位	鳴 門 第 一 中 学 校	藍 住 中 学 校
第 3 位	那 賀 川 中 学 校	石 井 中 学 校

[男子決勝]

学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
徳 島	熊 橋	村 田	小 島	井 原	片 岡	小 島	2 (2) 代表勝
		▲ ⊗一本勝	延長	⊗一本勝		⊗	
石 井	⊖一本勝		延長		⊗一本勝		2 (2)
	富 永	披 田	森 本	中 山	山 室	山 室	

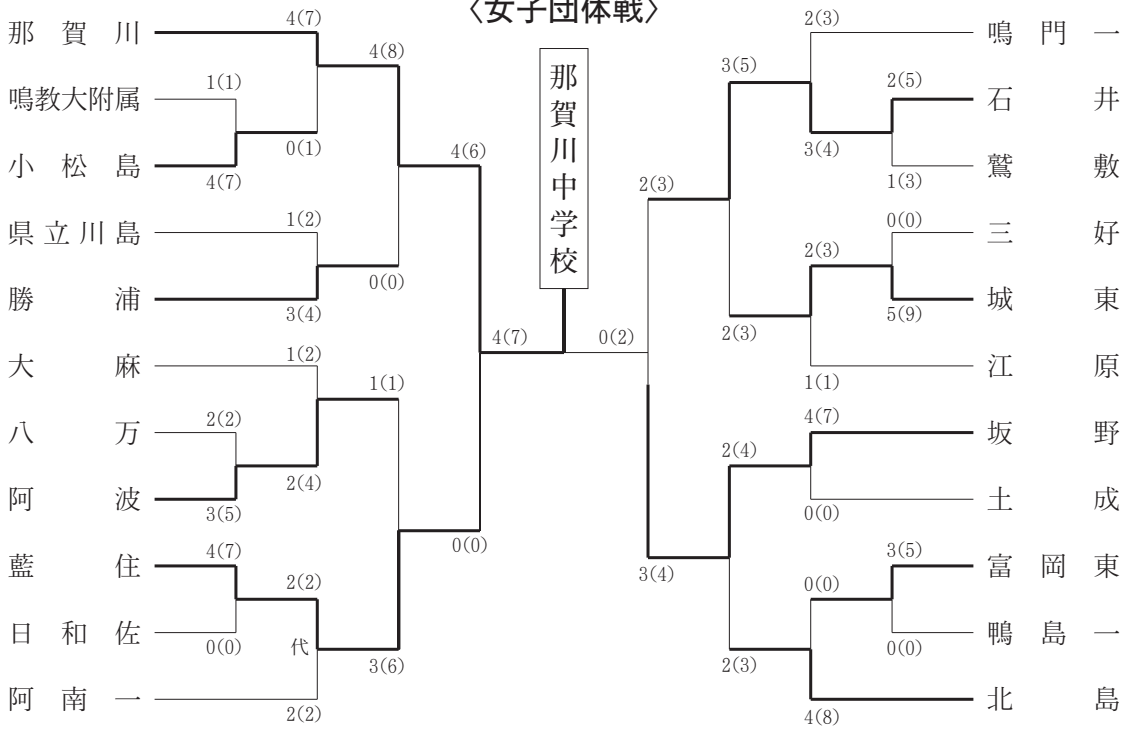
[女子決勝]

学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
那 賀 川	朝 田	橋 本	濱 本	大 城	檜 田		4 (7)
	⊗一本勝	▲▲ ⊖⊖ 延長	⊖⊗ 延長	⊗⊗			
坂 野	▲	▲ ⊖	▲ ⊗		▲		0 (2)
	武 藏	石 原	田 村	大 和	吉 原		

〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉



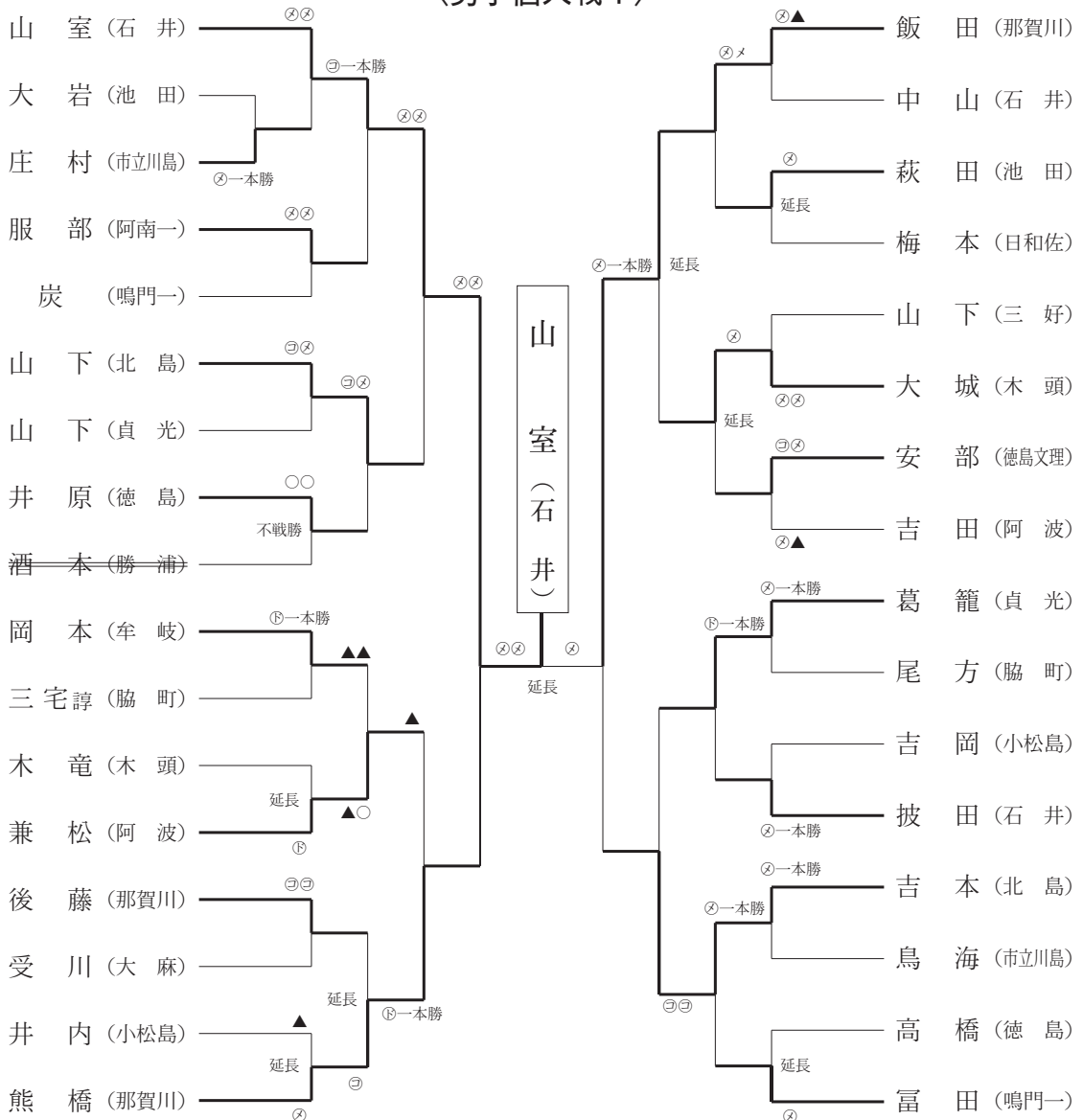
第69回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

【 個人戦 】

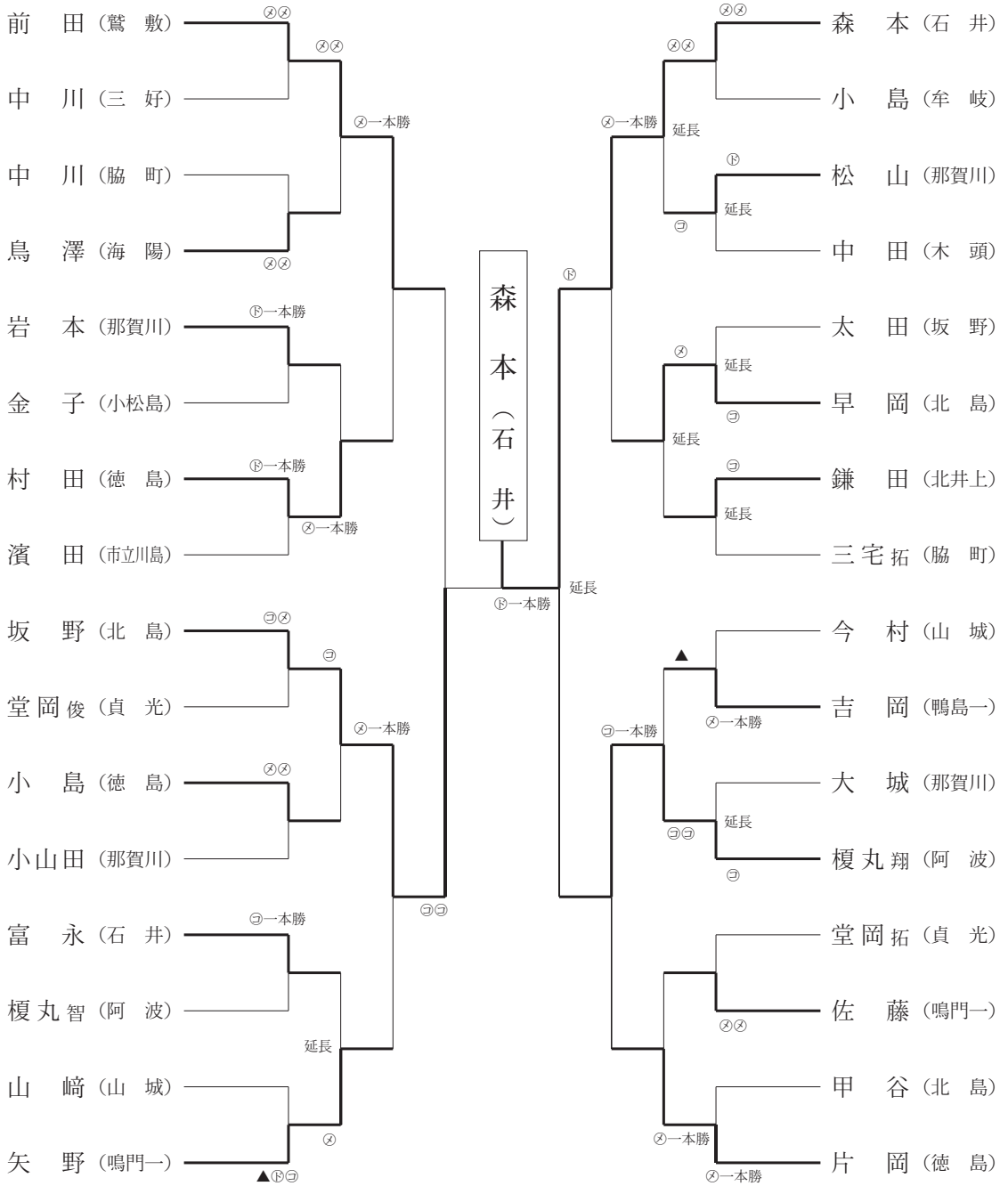
日時 平成27年7月12日(日) 午前9時20分開会
場所 鳴門ソイジョイ武道館

順位	男子	学校名	順位	女子	学校名
優勝	山室和士	石井	優勝	檜田胡桃	那賀川
準優勝	森本直希	石井	準優勝	濱本芽倭	那賀川
第3位	飯田翔太	那賀川	第3位	大城明裕奈	那賀川
第3位	坂野修造	北島	第4位	堺麗美	小松島

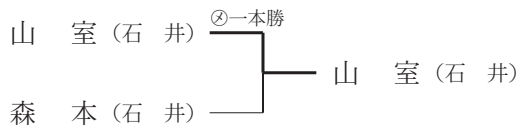
〈男子個人戦1〉



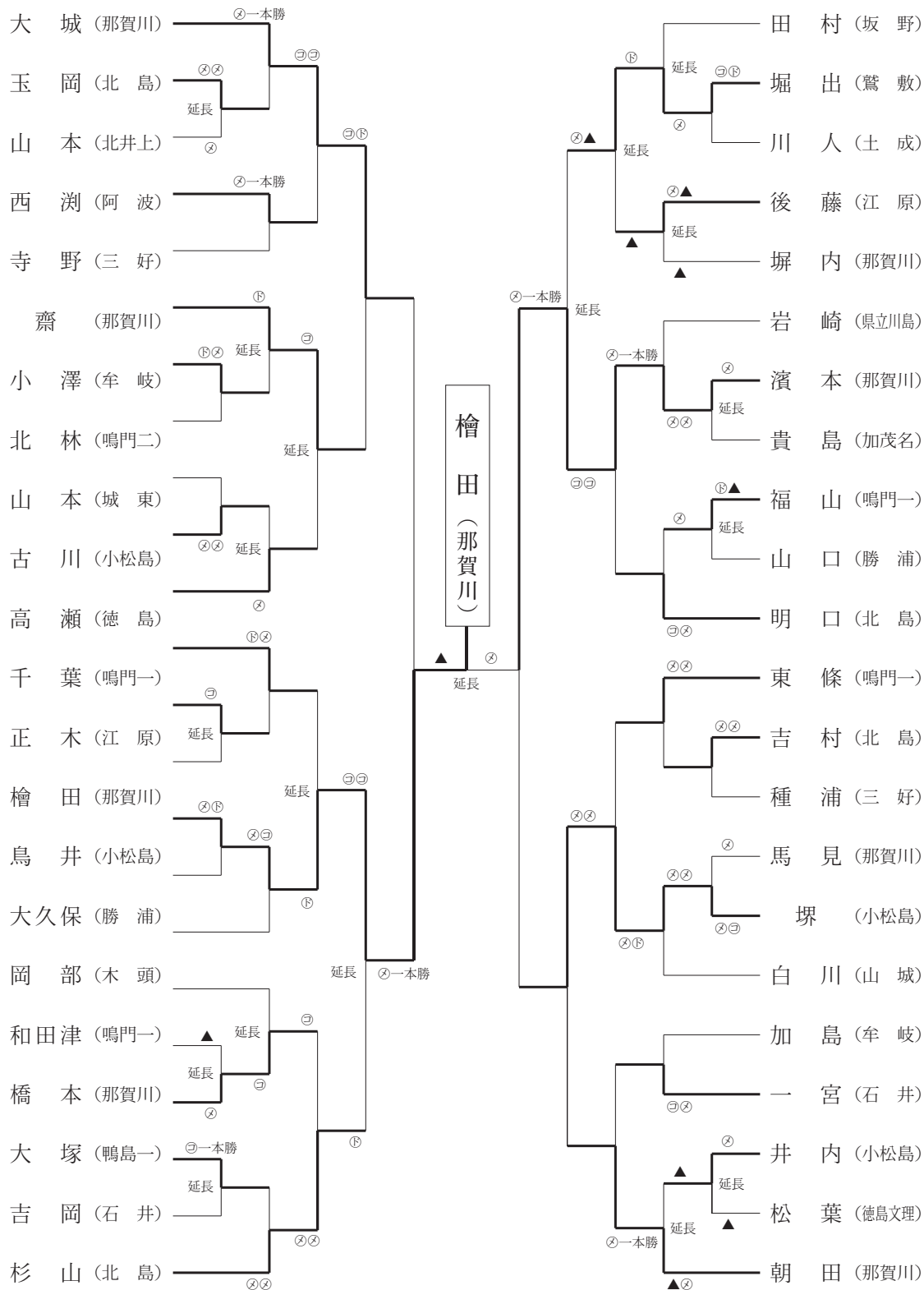
〈男子個人戦2〉



男子個人決勝

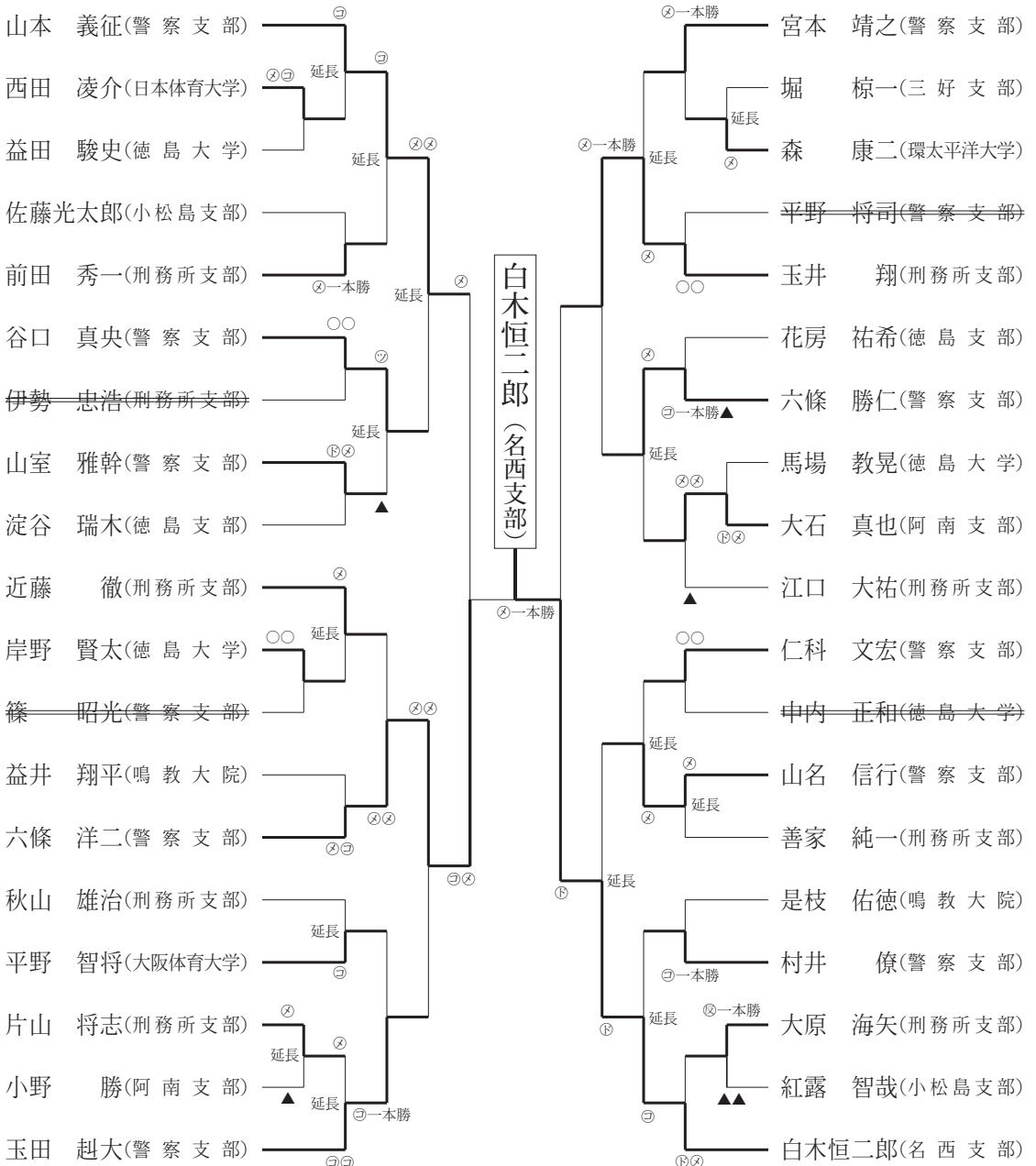


〈女子個人戦〉



第27回 徳島県剣道選手権大会並びに 第63回 全日本剣道選手権大会県予選会

優勝 白木 恒二郎 (名西支部)	日時 平成27年7月5日(日) 午前10時開会
準優勝 六條 洋二 (警察支部)	場所 鳴門ソイジョイ武道館
第三位 山本 義征 (警察支部)	
第三位 玉井 翔 (刑務所支部)	



第36回 国民体育大会四国ブロック大会

日 時 平成 27 年 8 月 16 日 (日)
場 所 高松市香川総合体育館

〈少年女子〉

〈少年男子〉

第 1 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	田 淵	谷	玉 田	丸 岡	深 見	3	4
	▲㊟	㊞	㊞一本勝	▲	㊞		
香川	延長	延長		一本勝㊞	延長	2	3
	氏部	㊞ ㊞ 西	須田	福田	谷口		

第 1 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	湯 浅	南 谷	古 川	庄 野	田 中	2	2
	延長		延長	㊞	㊞		
高知	㊞	一本勝㊞	㊞	延長	延長	3	3
	唐岩	今西	山本	平田	弘瀬		

第 2 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
愛媛	杉 野	近 藤	安 見	河 寄	前 田	3	4
	㊞	㊞			㊞ ㊞		
徳島	延長	延長	延長	㊞ ㊞		2	3
	▲野村	谷	玉 田	丸 岡	深 見		

第 2 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
香川	竹 下	東 河	堀 川	山 下	三 好	3	3
	延長	延長	㊞一本勝	㊞			
徳島	㊞			▲	㊞	2	2
	湯 浅	南 谷	古 川	庄 野	田 中		

第 3 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
高知	酒 井	福 家	矢 野	森 岡	兵 等	3	3
	延長	▲㊞	延長	▲㊞	㊞		
徳島	▲㊞	延長	延長	▲		2	2
	野村	▲長谷川	玉 田	丸 岡	深 見		

第 3 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
愛媛	杉 田	上 野	橋 本	菅	河 寄	2	4
	延長		㊞ ㊞		㊞ ㊞		
徳島	㊞	㊞一本勝		▲㊞	㊞	3	3
	湯 浅	谷 本	熊 橋	庄 野	田 中		

〈少年男子〉

	徳島	高知	愛媛	香川	勝数	勝者数	取得本数	順位
徳島		$\frac{2}{2}$	$\frac{3}{3}$	$\frac{2}{2}$	1	7	7	3
高知	$\frac{3}{3}$		$\frac{2}{2}$	$\frac{5}{4}$	2	9	10	1
愛媛	$\frac{4}{2}$	$\frac{3}{3}$		$\frac{5}{3}$	2	8	12	2
香川	$\frac{3}{3}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{2}$		1	6	7	4

〈成年女子〉

第1試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
香川	竹内	谷本	谷本	2	3
	⊖一本勝	▲⊗延長	⊖延長		
徳島	玉田	⊕⊗▲前田	北村	1	2

〈少年女子〉

	徳島	高知	愛媛	香川	勝数	勝者数	取得本数	順位
徳島		$\frac{2}{2}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{4}{3}$	1	7	9	2
高知	$\frac{3}{3}$		$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{2}$	1	6	6	4
愛媛	$\frac{4}{3}$	$\frac{4}{4}$		$\frac{4}{3}$	3	10	12	1
香川	$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{3}$	$\frac{3}{2}$		1	7	9	3

第2試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
徳島	玉田	前田	北村	2	3
	▲延長		延長		
高知	▲⊕甲田	⊖一本勝平	⊗松田	1	1

〈成年女子〉

	愛媛	香川	徳島	高知	勝数	勝者数	取得本数	順位
愛媛		$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	0	1	2	4
香川	$\frac{3}{3}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{2}$	2	5	5	2
徳島	$\frac{5}{3}$	$\frac{4}{3}$		$\frac{4}{2}$	3	8	13	1
高知	$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$		1	4	6	3

第3試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
徳島	玉田	前田	北村	0	0
		▲			
愛媛	⊗⊖平野	⊖⊖前田	⊖北村	3	5

第36回 徳島県女子剣道大会

団体戦

日時 平成27年 9月 6日(日) 午前10時
場所 中央 武 道 館

優勝 東 悠 会 B

準決勝

準優勝 川島高校剣友会 A

第3位 東 悠 会 A

第3位 川島高校剣友会 B

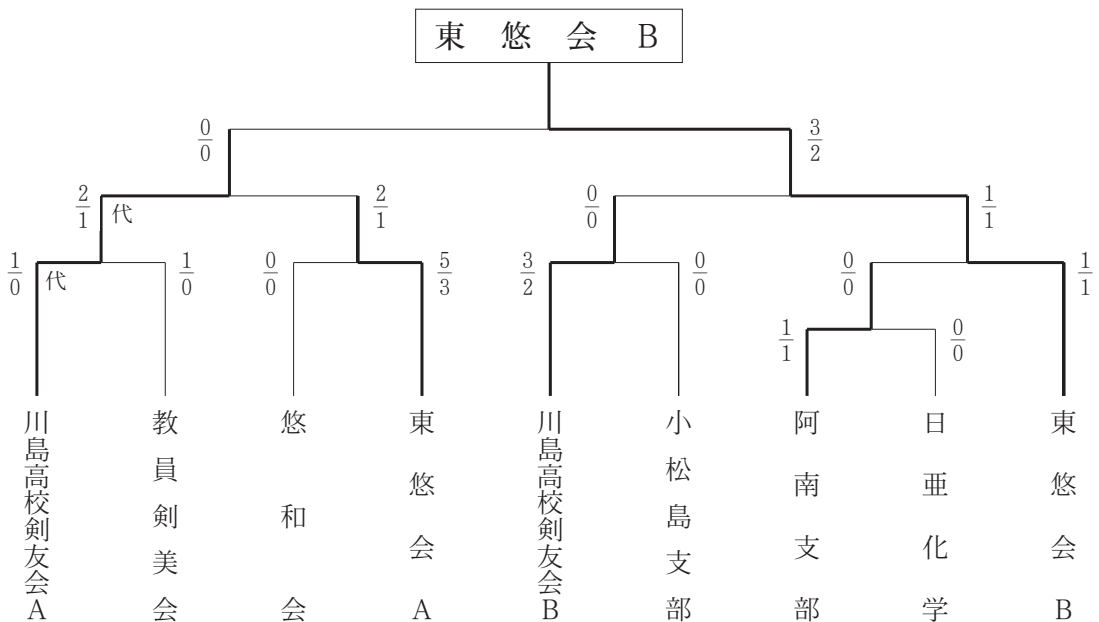
チーム名	先鋒	中堅	大将	代表	
川島高校 剣友会 A	北村	玉田	岩木	北村	2(代) 1
	メ メ			メ	
東悠会 A	ド	コ			2 1
	明石	山田	富永	山田	

決勝

チーム名	先鋒	中堅	大将	代表	
川島高校 剣友会 A	北村	玉田	岩木		0 0
東悠会 B	メ ⊖		⊗		3 2
	青木	金野	近藤		

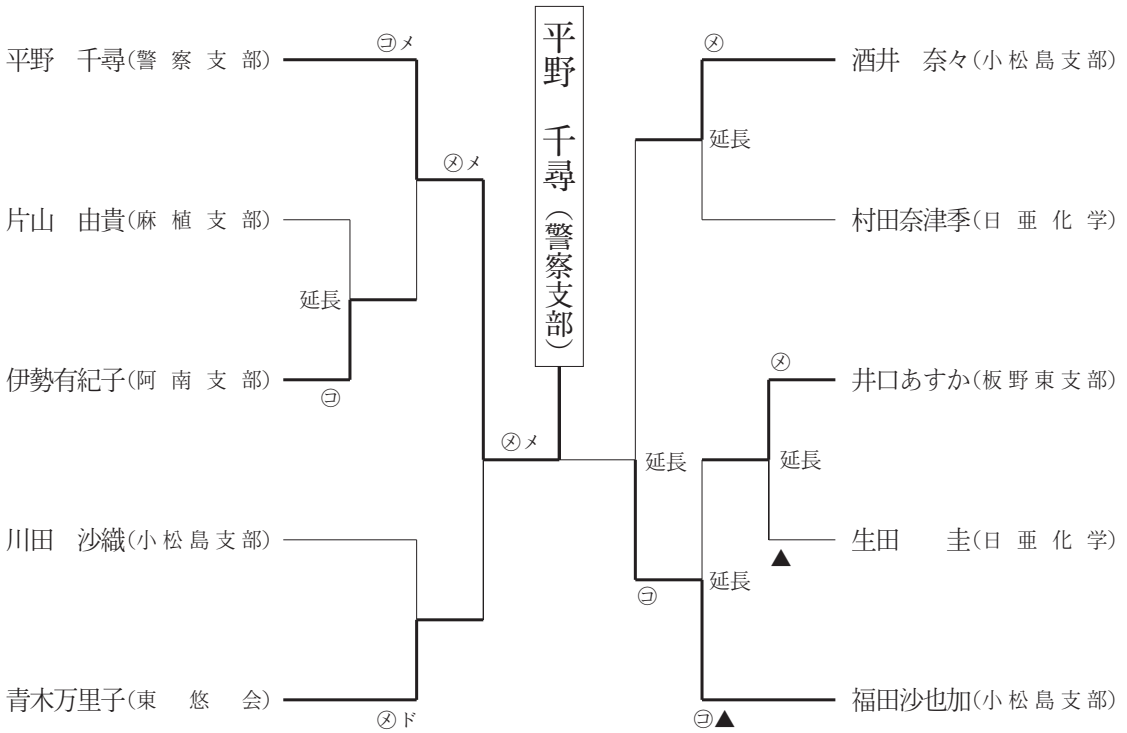
チーム名	先鋒	中堅	大将	代表	
川島高校 剣友会 B	前田	井若	熊橋		0 0
東悠会 B		▲	メ		1 1
	青木	金野	近藤		

決勝トーナメント



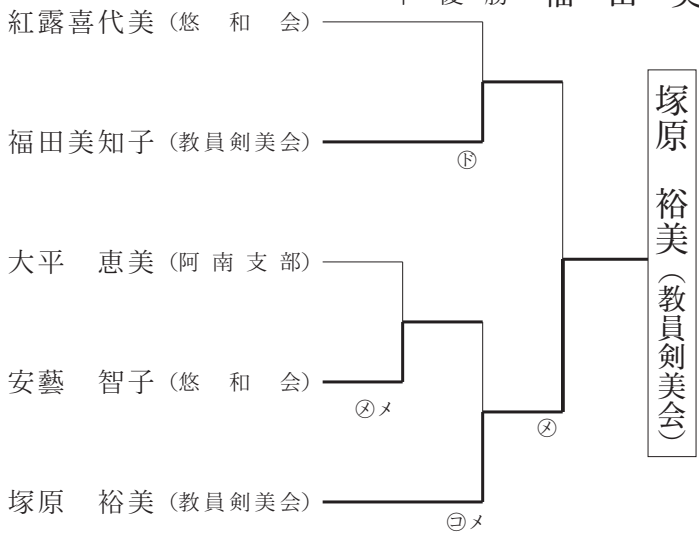
個人戦 <区分1>

優勝 平野千尋 (警察支部)
 準優勝 福田沙也加 (小松島支部)
 第三位 青木万里子 (東悠会)
 第三位 酒井奈々 (小松島支部)



個人戦 <区分2>

優勝 塚原裕美 (教員剣美会)
 準優勝 福田美知子 (教員剣美会)



第44回 徳島県社会人剣道大会

予選リーグ

日 時 平成27年 9月27日(日) 午前10時

場 所 鳴門ソイジョイ武道館

A	徳島支部 A	阿南支部大野	小松島支部 C	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
徳島支部 A		(3/2)	(8/4)	2	6	11	2.0	1
阿南支部大野	(1/1)		(2/2)	0	3	4	0.0	3
小松島支部 C	(2/2)	(4/2)		1	4	6	1.0	2

B	板野西 B	美馬支部 D	麻植支部 B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
板野西 B		(8/4)	(5/3)	2	7	13	2.0	1
美馬支部 D	(1/0)		(1/1)	0	1	3	0.0	3
麻植支部 B	(0/0)	(3/2)		1	2	3	1.0	2

C	鳴門支部	名西支部 B	月曜会 A	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
鳴門支部		(3/2)	(1/1)	1	3	7	1.0	1
名西支部 B	(1/1)		(4/2)	1	3	5	1.0	3
月曜会 A	(7/3)	(0/0)		1	3	7	1.0	1

D	月曜会 D	阿南支部那賀川	大塚製菓 B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
月曜会 D		(1/1)	(1/1)	0	2	3	0.0	3
阿南支部那賀川	(3/2)		(5/3)	2	5	8	2.0	1
大塚製菓 B	(5/3)	(1/1)		1	4	9	1.0	2

E	三好支部 A	上八万剣道倶楽部絆	海部支部 A	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
三好支部 A		(3/2)	(5/2)	2	4	8	2.0	1
上八万剣道倶楽部絆	(1/1)		(1/0)	0	1	2	0.0	3
海部支部 A	(2/2)	(8/4)		1	6	12	1.0	2

F	阿波支部 A	板野東	徳島支部 B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
阿波支部 A		(5/3)	(3/2)	2	5	8	2.0	1
板野東	(0/0)		(1/1)	0	1	3	0.0	3
徳島支部 B	(1/1)	(8/4)		1	5	9	1.0	2

予選リーグ

G	小松島支部 A	美馬支部 C	木頭錬心館	勝者数	勝者数	得本数	点数	順位
	小松島支部 A		$\frac{8}{4}$	$\frac{7}{3}$	2	7	15	2.0
美馬支部 C	$\frac{3}{1}$		$\frac{0}{0}$	0	1	3	0.0	3
木頭錬心館	$\frac{2}{0}$	$\frac{4}{2}$		1	2	6	1.0	2

H	名西支部 A	月曜会 B	三好支部 B	勝者数	勝者数	得本数	点数	順位
	名西支部 A		$\frac{6}{4}$	$\frac{10}{5}$	2	9	16	2.0
月曜会 B	$\frac{0}{0}$		$\frac{5}{2}$	0	2	5	0.5	2
三好支部 B	$\frac{0}{0}$	$\frac{5}{2}$		0	2	5	0.5	2

I	北井上剣道教室	阿波支部 B	美馬支部 B	勝者数	勝者数	得本数	点数	順位
	北井上剣道教室		$\frac{4}{3}$	$\frac{6}{2}$	2	5	10	2.0
阿波支部 B	$\frac{2}{1}$		$\frac{6}{4}$	1	5	8	1.0	2
美馬支部 B	$\frac{2}{0}$	$\frac{0}{0}$		0	0	2	0.0	3

J	阿南支部 A	小松島支部 D	麻植支部 A	勝者数	勝者数	得本数	点数	順位
	阿南支部 A		$\frac{5}{3}$	$\frac{5}{3}$	2	6	10	2.0
小松島支部 D	$\frac{0}{0}$		$\frac{1}{1}$	0	1	1	0.0	3
麻植支部 A	$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{3}$		1	3	4	1.0	2

K	大塚製薬 A	徳島支部 C	小松島支部 B	勝者数	勝者数	得本数	点数	順位
	大塚製薬 A		$\frac{6}{3}$	$\frac{2}{1}$	1	4	8	1.0
徳島支部 C	$\frac{0}{0}$		$\frac{3}{1}$	0	1	3	0.0	3
小松島支部 B	$\frac{4}{2}$	$\frac{6}{4}$		2	6	10	2.0	1

L	鷲敷振武館	月曜会 C	板野西 A	勝者数	勝者数	得本数	点数	順位
	鷲敷振武館		$\frac{5}{2}$	$\frac{7}{5}$	2	7	12	2.0
月曜会 C	$\frac{4}{2}$		$\frac{7}{2}$	1	4	11	1.0	2
板野西 A	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$		0	1	5	0.0	3

準決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
月曜会 A	西本	岸野	花房	井村	東		4 2
	☉ ⊗			⊗ ⊗			
三好支部 A							0 0
	堀	湯岑	庄嶋	藤本	増田		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
名西支部 A	白木	林	近藤	白木	久保		5 2
	⊗ ⊕	⊗ ⊗	⊗				
鷲敷振武館							1 0
	舛田	儀宝	蛇目	井村	富田		

優勝 名西支部 A
 準優勝 月曜会 A
 第3位 三好支部 A
 第3位 鷲敷振武館

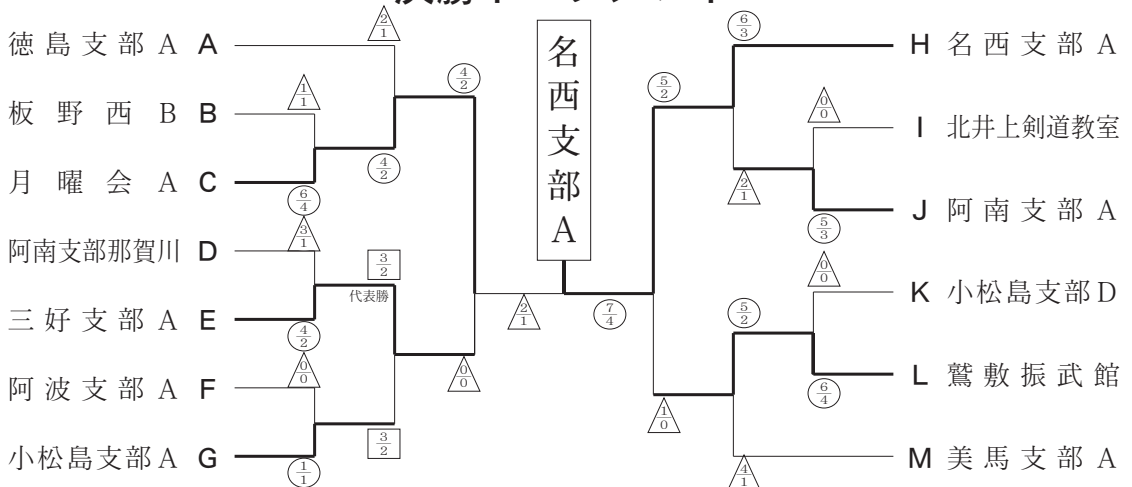
予選リーグ

M	徳島刑務所	海部支部 B	美馬支部 A	勝	勝	得	点	順
				数	数	本	数	位
	徳島刑務所	海部支部 B	美馬支部 A	1	7	11	1.5	2
	海部支部 B	海部支部 B	美馬支部 A	0	6	3	0	3
	美馬支部 A	海部支部 B	美馬支部 A	1	7	12	1.5	1

決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
月曜会 A	西本	岸野	花房	井村	東		2 1
		☉		一本勝 ⊗			
名西支部 A	⊗ ⊗	⊗ ⊕	一本勝 ⊕		⊗ ⊗		7 4
	白木	林	近藤	白木	久保		

決勝トーナメント



第46回 徳島県少年剣道錬成大会

予選リーグ (団体戦)

日 時 平成27年11月15日(日) 午前9時30分
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

A	徳島少年剣道教室	那賀川少年剣道クラブ	松茂少年剣道教室	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
徳島少年剣道教室		(4/1)	(8/4)	2	5	12	2	1
那賀川少年剣道クラブ	(3/1)		(7/4)	1	5	10	1	2
松茂少年剣道教室	(1/0)	(0/0)		0	0	1	0	3

B	鳴門少年剣道教室	東みよし淳志館	吉野川少年剣道教室	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
鳴門少年剣道教室		(7/4)	(2/0)	1	4	9	1	2
東みよし淳志館	(1/0)		(1/0)	0	0	1	0	3
吉野川少年剣道教室	(8/4)	(9/5)		2	9	17	2	1

C	羽ノ浦少年剣道教室	藍住剣道スポーツ少年団	市場剣道教室	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
羽ノ浦少年剣道教室		(0/0)	(0/0)	0	0	0	0	3
藍住剣道スポーツ少年団	(8/4)		(5/3)	2	7	13	2	1
市場剣道教室	(2/2)	(1/0)		1	2	3	1	2

D	誠武館道場	大野小学校剣道部	渭東少年剣道教室	山川スポーツ少年団修錬館	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
誠武館道場		(0/0)	(1/1)	(3/2)	1	3	4	1	3
大野小学校剣道部	(7/4)		(2/2)	(5/3)	3	9	14	3	1
渭東少年剣道教室	(8/4)	(1/1)		(7/4)	2	9	16	2	2
山川スポーツ少年団修錬館	(0/0)	(1/1)	(1/1)		0	2	3	0	4

E	小松島少剣クラブ	海部川剣道教室	加茂名少年剣道教室	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
小松島少剣クラブ		(7/4)	(6/4)	2	8	13	2	1
海部川剣道教室	(2/1)		(3/2)	1	3	5	1	2
加茂名少年剣道教室	(0/0)	(2/1)		0	1	2	0	3

F	鳴門市光武館	脇町少年剣道教室	佐古剣道クラブ	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
鳴門市光武館		(7/4)	(7/4)	2	8	14	2	1
脇町少年剣道教室	(1/0)		(1/2)	0	2	5	0	3
佐古剣道クラブ	(1/0)	(5/3)		1	3	6	1	2

予選リーグ (団体戦)

G	北島少年剣道教室	上浦少年剣道教室	養武館	新野少年剣道教室	勝者数	勝者数	得本数	点	順位
	北島少年剣道教室	△ 1 1	△ 1 1	△ 1 1	1	3	4	1	3
上浦少年剣道教室	△ 0	△ 1	△ 1	0	2	4	0	4	
養武館	△ 4 2	△ 6 4	△ 3 2	3	8	13	3	1	
新野少年剣道教室	△ 4 2	△ 2 2	△ 0	2	4	6	2	2	

H	蔵本少年剣道クラブ	土成スポーツ少年団	那賀川剣道教室わかあゆ会	勝者数	勝者数	得本数	点	順位
	蔵本少年剣道クラブ	△ 5 3	△ 0	△ 0	1	3	5	1
土成スポーツ少年団	△ 2	△ 0	△ 0	0	2	4	0	3
那賀川剣道教室わかあゆ会	△ 8 4	△ 9 5	△ 0	2	9	11	2	1

I	鴨島少年剣道教室	北井上剣道教室	牟岐剣道クラブ	勝者数	勝者数	得本数	点	順位
	鴨島少年剣道教室	△ 2 1	△ 3 3	△ 1	1	4	5	1
北井上剣道教室	△ 4 3	△ 7 4	△ 1	2	7	11	2	1
牟岐剣道クラブ	△ 1	△ 1	△ 1	0	2	4	0	3

J	徳島至誠館	相生龍虎館	大麻錬成館	勝者数	勝者数	得本数	点	順位
	徳島至誠館	△ 3 3	△ 10 5	△ 1	2	8	13	2
相生龍虎館	△ 1	△ 8 4	△ 0	1	5	9	1	2
大麻錬成館	△ 0	△ 0	△ 0	0	0	0	0	3

準決勝戦 (団体戦)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
徳島少年剣道教室	古川	添木	山室	佐藤	塚田		3 2
	⊙一本勝	⊙					
小松島少剣クラブ	小山田	桂	松山	岩原	松田		2 2
			一本勝⊙	一本勝⊙			

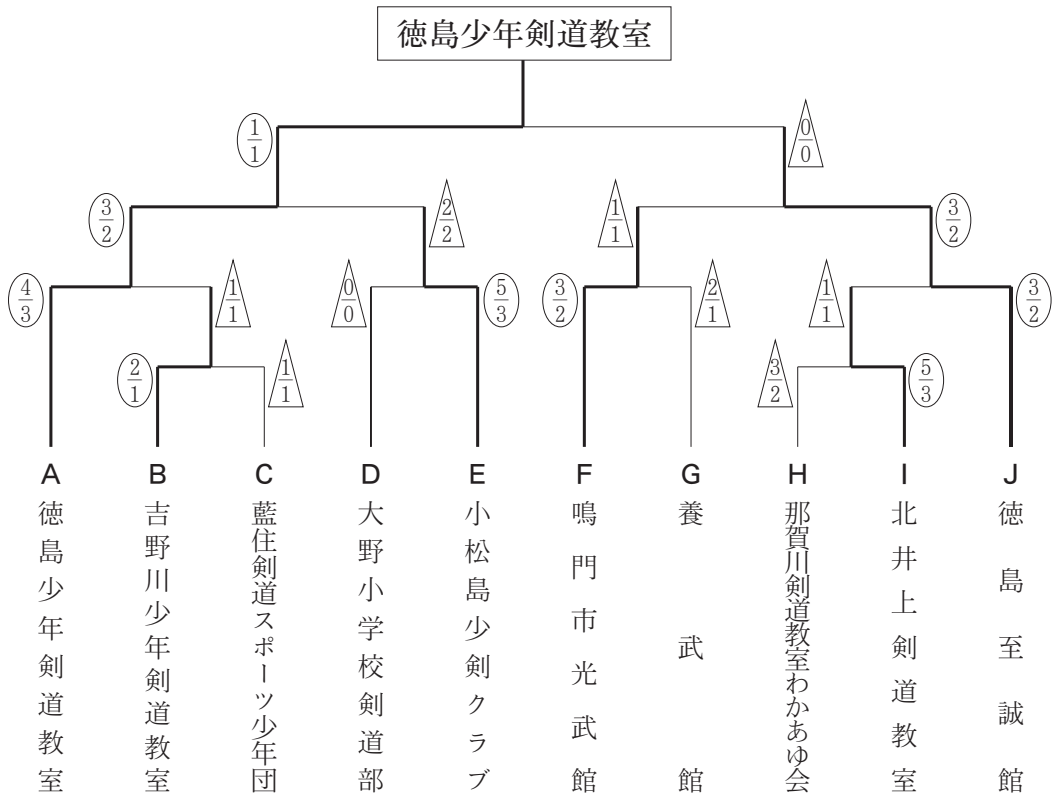
チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
鳴門市光武館	秋山	千葉	岡崎	千葉	炭		1 1
				⊙一本勝			
徳島至誠館	⊙ 後藤	一本勝⊙ 武蔵					3 2

決勝戦 (団体戦)

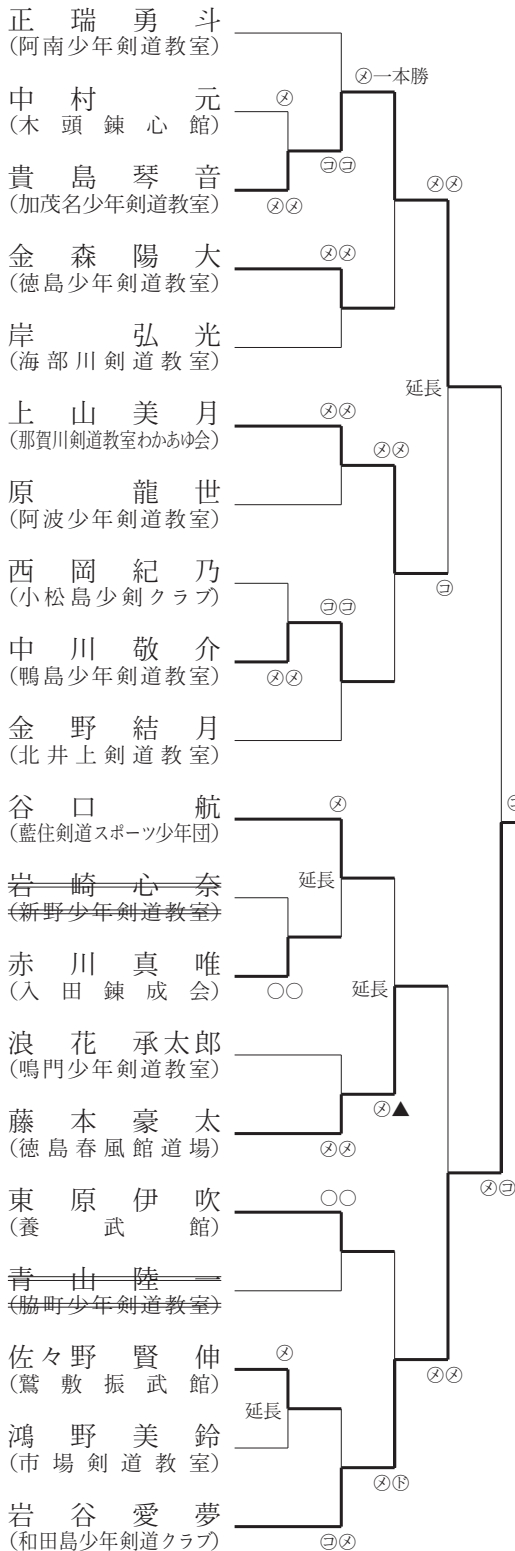
チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島少年剣道教室	古川	添木	山室	佐藤	塚田		1 1
			⊗一本勝				
徳島至誠館							0 0
	後藤	武蔵	岩本	山田	松葉		

優勝 徳島少年剣道教室
 準優勝 徳島至誠館
 第3位 小松島少剣クラブ
 第3位 鳴門市光武館

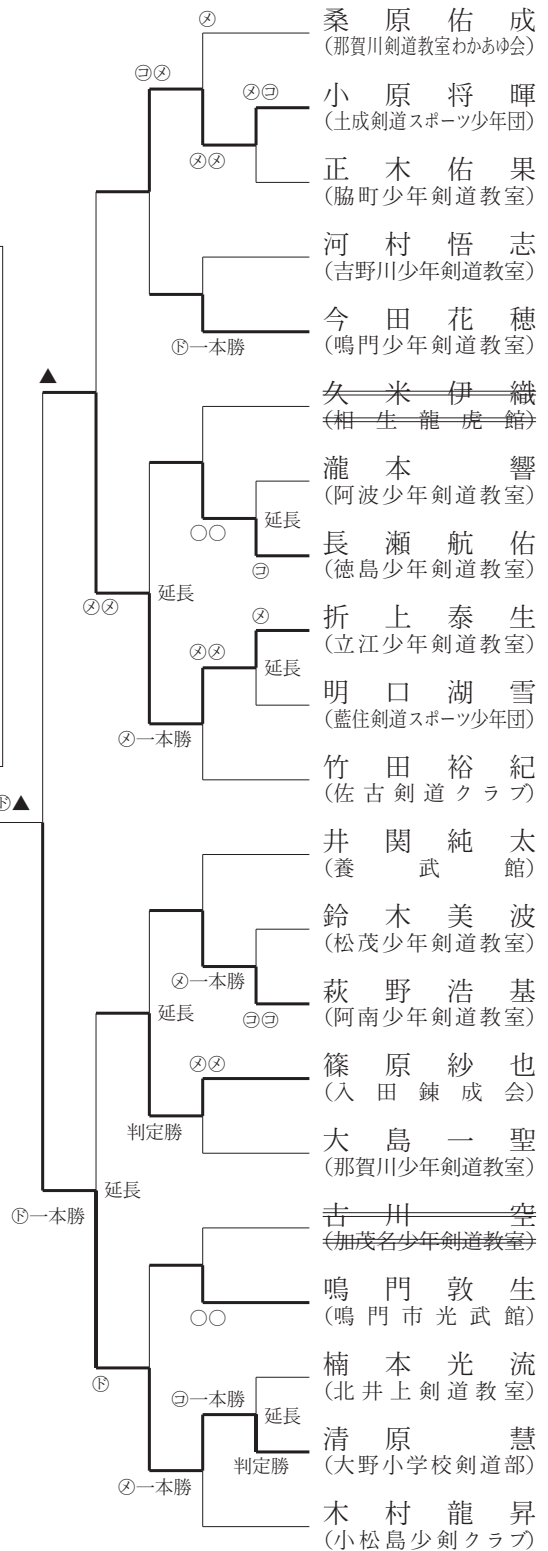
決勝トーナメント



〈個人戦B組〉

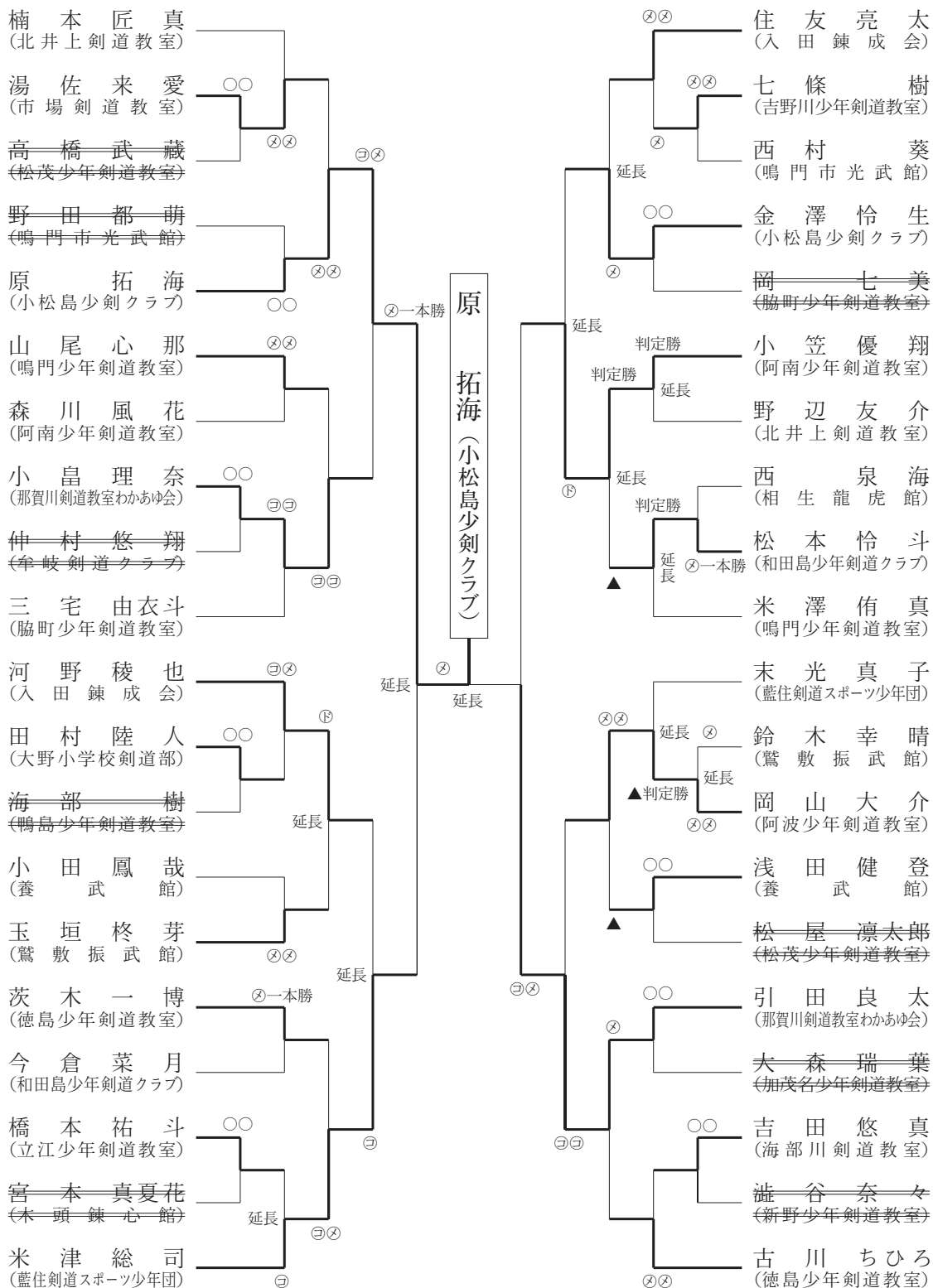


〈個人戦A組〉

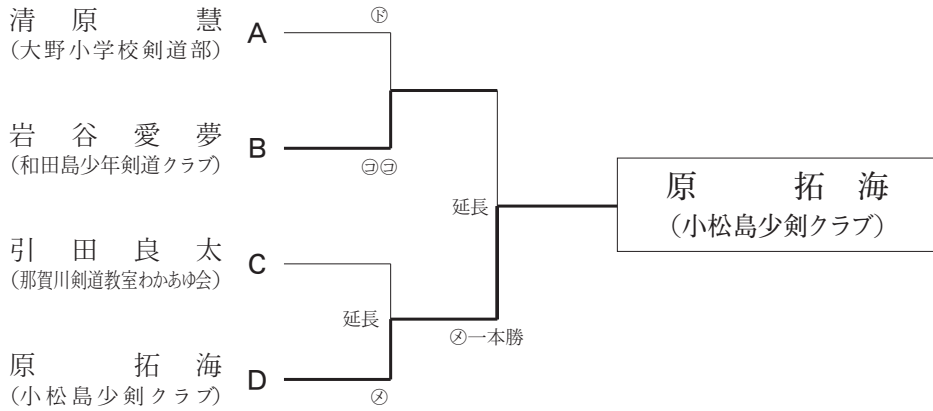


〈個人戦D組〉

〈個人戦C組〉



決勝戦（個人戦）



- 優勝 原 拓海 (小松島少剣クラブ)
- 準優勝 岩谷 愛夢 (和田島少年剣道クラブ)
- 第三位 引田 良太 (那賀川剣道教室わかあゆ会)
- 第三位 清原 慧 (大野小学校剣道部)

第1回 徳島県三者対抗剣道大会

日 時 平成27年11月28日(土) 午後1時開会
場 所 中 央 武 道 館

実業団	監督	先鋒	次鋒	士将	士将	十将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	選出審判員		
	米倉滋	山口あずさ	福田沙也加	玉井翔	片山将志	花房祐希	善家純一	原知永	金野卓司	前田秀一	生田浩章	熊澤信行	久保隆司	森直行	長崎秀信	中村稔裕	北条憲治	松村和宏	臼木崇
年齢構成			26	26	28	32	38	39	40	52	56	58	59	61	72				

警察	監督	先鋒	次鋒	士将	士将	十将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	選出審判員		
	平野誠司	平野千尋	林里沙	山本義征	玉田起大	六條勝仁	六條洋二	松本慎二	山室雅幹	富田圭介	平尾満紀	武岡勝美	乾清隆	大貝美治	美馬勝行	中尾正輝	吉田茂生	佐賀博史	吉田昌彦
年齢構成			26	27	31	34	40	41	44	53	57	62	64	69	72				

教員	監督	先鋒	次鋒	士将	士将	十将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	選出審判員		
	西谷肇一	前田奈々枝	伊藤奈津子	白木恒二郎	林義真	山本義裕	大石真也	佐藤浩	磯部健治	兼松佳史	白木洋一	福多雅英	木原資裕	富田正	立川信彦	沢井勝之	山田浩史	佐々木和人	上田宏司
年齢構成			23	27	29	30	39	41	45	54	56	60	61	61	73				

試 合 結 果

チーム名	実業団	警察	教員	勝数	勝者数	総本数	順位
実業団		$\frac{8}{5}$	$\frac{10}{5}$	0	10	18	3
警察	$\frac{8}{5}$		$\frac{14}{6}$	1	11	22	1
教員	$\frac{10}{6}$	$\frac{10}{4}$		1	10	20	2

優勝 警察
準優勝 教員
第3位 実業団

	先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
実業団	山口	福田	玉井	片山	花房	善家	原	金野	前田	生田	熊澤	久保	森	長崎	中村	5	8
		⊗一本勝	⊗一本勝	⊗			⊗ ⊗				⊖一本勝		⊖一本勝	⊗			
警察				⊗		一本勝 ⊗		⊗ ⊗	一本勝 ⊖	一本勝 ⊗		▲		⊗ ⊖		5	8
	平野	林	山本	玉田	六條勝	六條洋	松本	山室	富田	平尾	武岡	乾	大貝	美馬	中尾		

	先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
教員	前田	伊藤	白木恒	林	山本	大石	佐藤	磯部	兼松	白木洋	福多	木原	富田	立川	沢井	4	10
		⊗ ⊗		⊗						⊗ ⊖	⊖ ⊖	⊖ ⊖	⊗				
警察				⊗	⊖ ⊗	⊖ ⊗	⊗ ⊖	一本勝 ⊗	⊖ ⊗	⊗			⊗	⊗ ⊖		6	14
	平野	林	山本	玉田	六條勝	六條洋	松本	山室	富田	平尾	武岡	乾	大貝	美馬	中尾		

	先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
教員	前田	伊藤	白木恒	林	山本	大石	佐藤	磯部	兼松	白木洋	福多	木原	富田	立川	沢井	6	10
	⊗一本勝	⊖一本勝	⊖一本勝				⊗			⊗ ⊗		⊖ ⊖		⊖ ⊖			
実業団					一本勝 ⊗	⊖ ⊗	⊗	⊖ ⊖	⊗ ⊗	⊖			一本勝 ⊗			5	10
	山口	福田	玉井	片山	花房	善家	原	金野	前田	生田	熊澤	久保	森	長崎	中村		

第33回 徳島県スポーツ少年団剣道交流大会 第38回 全国スポーツ少年団剣道交流大会

小学生の部 団体予選リーグ

日時 平成27年12月6日(日) 午前10時開会
場所 鳴門ソイジョイ武道館

A	小松島	麻植B	徳島C	海部	得点	勝者数	総本数	順位
小松島		(8/4)	(6/3)	(6/4)	3	11	20	1
麻植B	(0/0)		(0/0)	(3/2)	0	2	3	4
徳島C	(1/0)	(3/2)		(6/4)	2	6	10	2
海部	(0/0)	(5/3)	(1/1)		1	4	6	3

C	麻植A	丹生谷	徳島A	阿波	得点	勝者数	総本数	順位
麻植A		(4/1)	(0/0)	(3/1)	1	2	7	4
丹生谷	(3/1)		(0/0)	(5/2)	1	3	8	3
徳島A	(5/4)	(4/2)		(5/3)	3	9	14	1
阿波	(5/2)	(3/2)	(0/0)		1	4	8	2

B	板野A	鳴門	阿南B	徳島D	得点	勝者数	総本数	順位
板野A		(2/1)	(0/0)	(5/2)	0	3	7	4
鳴門	(6/3)		(0/0)	(5/3)	2	6	11	2
阿南B	(8/4)	(7/4)		(6/4)	3	12	21	1
徳島D	(5/3)	(2/1)	(1/1)		1	5	8	3

D	阿南A	板野B	徳島B	得点	勝者数	総本数	順位
阿南A		(8/4)	(6/3)	2	7	14	1
板野B	(3/1)		(4/3)	1	4	7	2
徳島B	(0/0)	(2/2)		0	2	2	3

準決勝

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将		代表
徳島A	長尾	山室	古川	塚田	佐藤	4	古川
		(⊗)	(⊗)	(⊗)	(⊗)	1	(⊗)
阿南A	(⊗)	(⊗)		(⊗)	(⊗)	4	
	栗田	岩本	和泉	河野	後藤	1	和泉

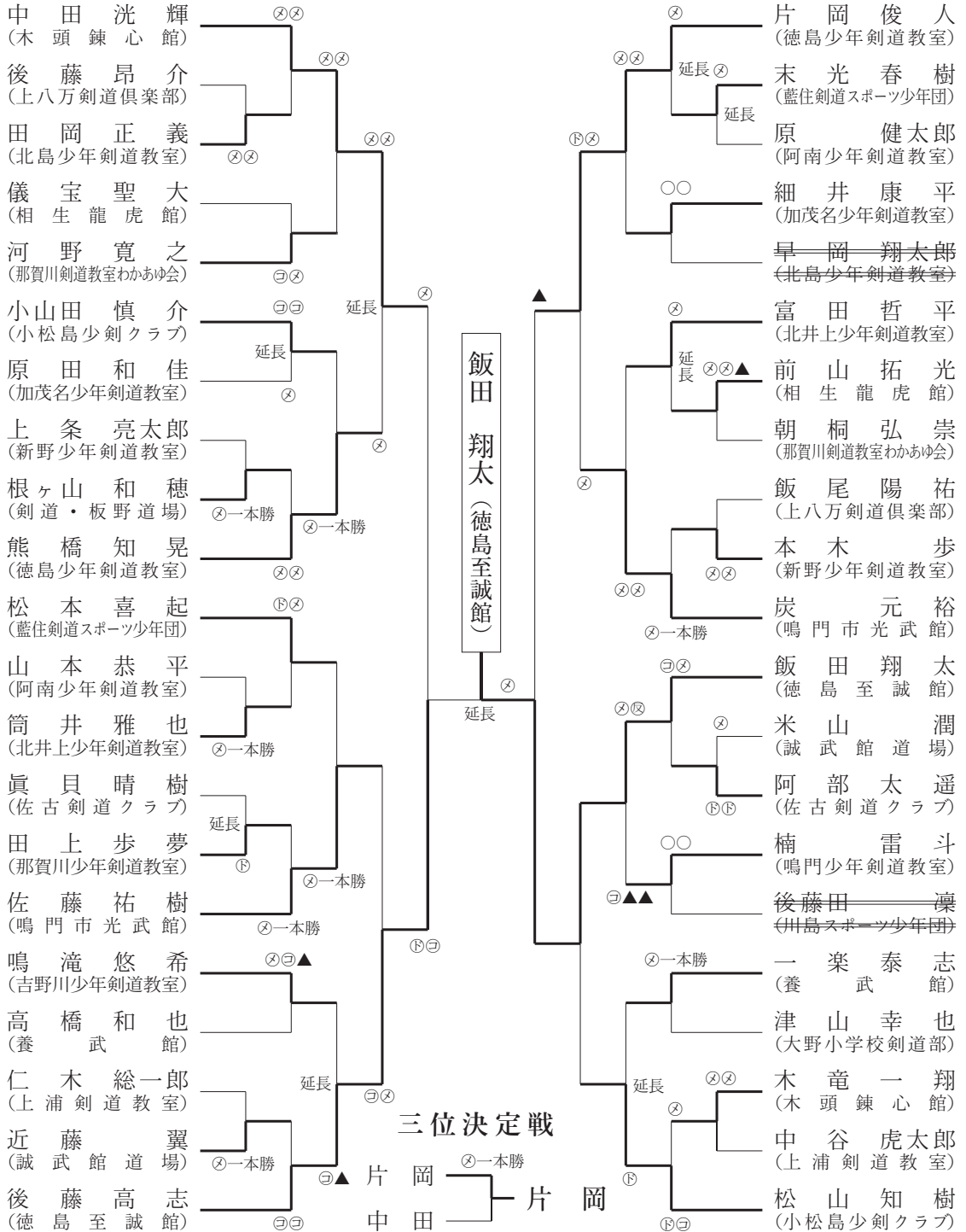
	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将		代表
小松島	小山田奈	松山	小山田亮	岩原	松田	3	
		(⊗)	(⊗)		(⊗)	1	
阿南B	延長	延長		一本勝	(⊗)	3	
	倉橋	松葉	尾畑	山田	田上	2	

決勝

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将		代表
阿南B	倉橋	松葉	尾畑	山田	田上	6	
	(⊗)	(⊗)	(⊗)		(⊗)	3	
徳島A		延長		一本勝	(⊗)	3	
	長尾	山室	古川	塚田	佐藤	2	

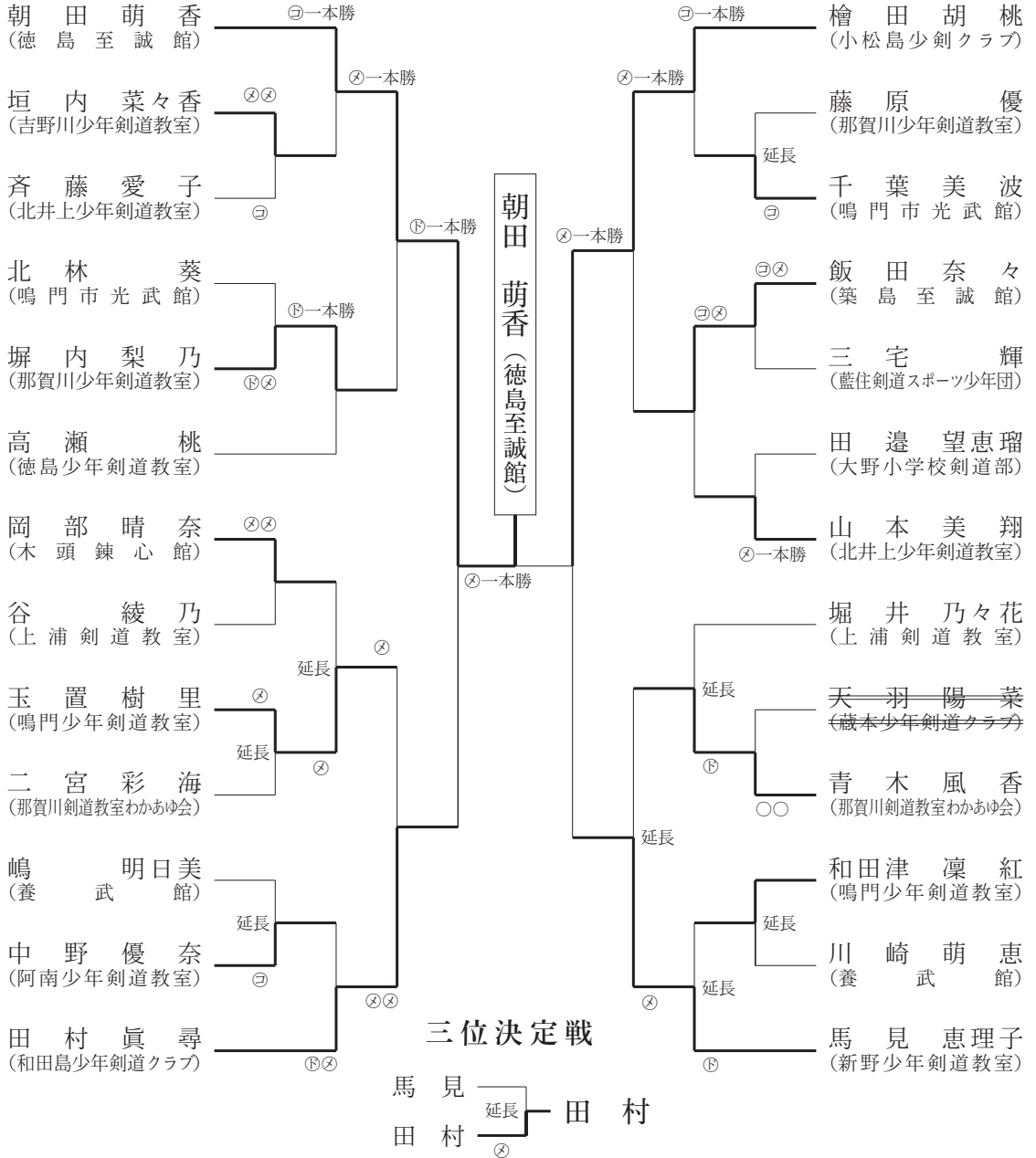
中学生男子 (個人戦)

優勝 飯田 翔太 (徳島至誠館)
 準優勝 後藤 昂介 (徳島至誠館)
 第三位 片岡 俊人 (徳島少年剣道教室)
 第三位 中 田 晃 (木頭錬心館)



中学生女子 (個人戦)

優勝 朝田 萌香 (徳島至誠館)
 準優勝 檜田 胡桃 (小松島少剣クラブ)
 第三位 田村 眞尋 (和田島少年剣道クラブ)
 第四位 馬見 恵理子 (新野少年剣道教室)



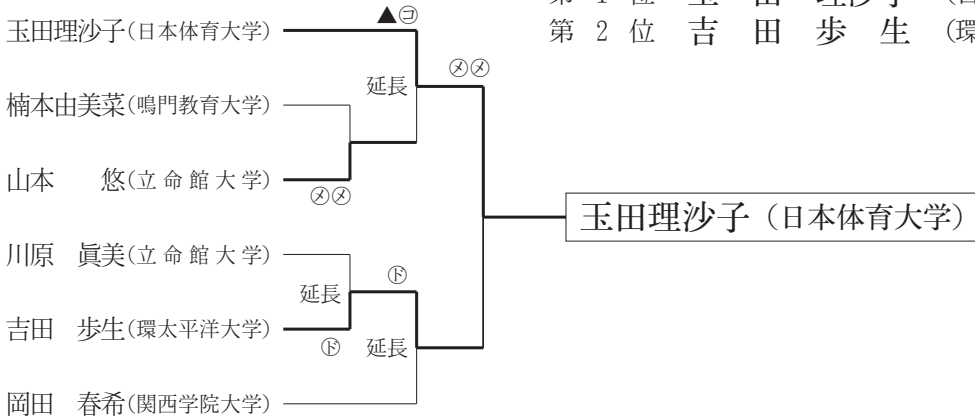
第64回 全日本都道府県対抗剣道優勝大会 第8回 全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

【女子】

日時 平成27年12月20日(日) 午前10時開会
場所 鳴門ソイジョイ武道館

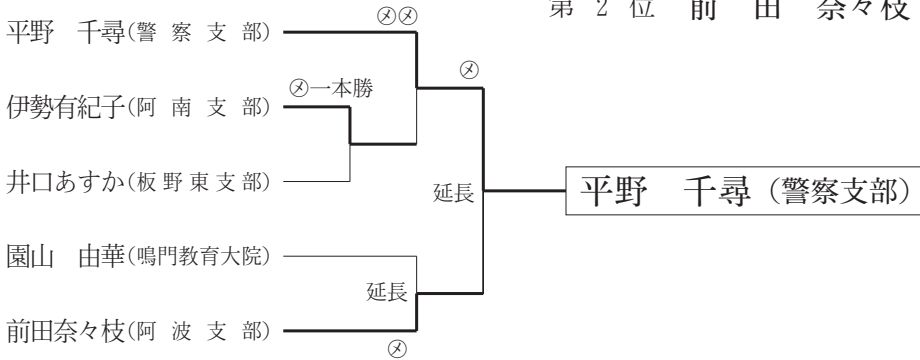
〈次鋒〉

第1位 玉田 理沙子 (日本体育大学)
第2位 吉田 歩生 (環太平洋大学)



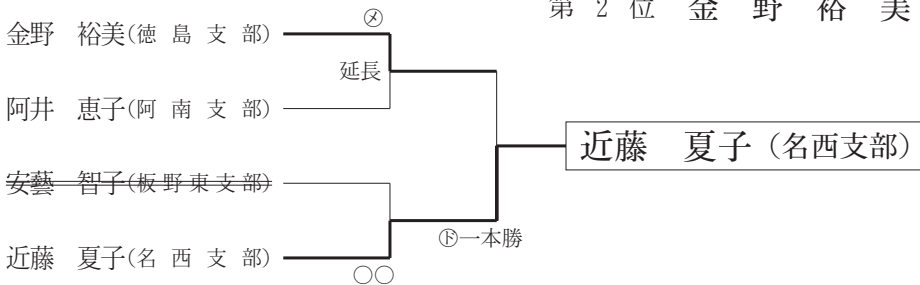
〈中堅〉

第1位 平野 千尋 (警察支部)
第2位 前田 奈々枝 (阿波支部)



〈副将〉

第1位 近藤 夏子 (名西支部)
第2位 金野 裕美 (徳島支部)



〈大将〉

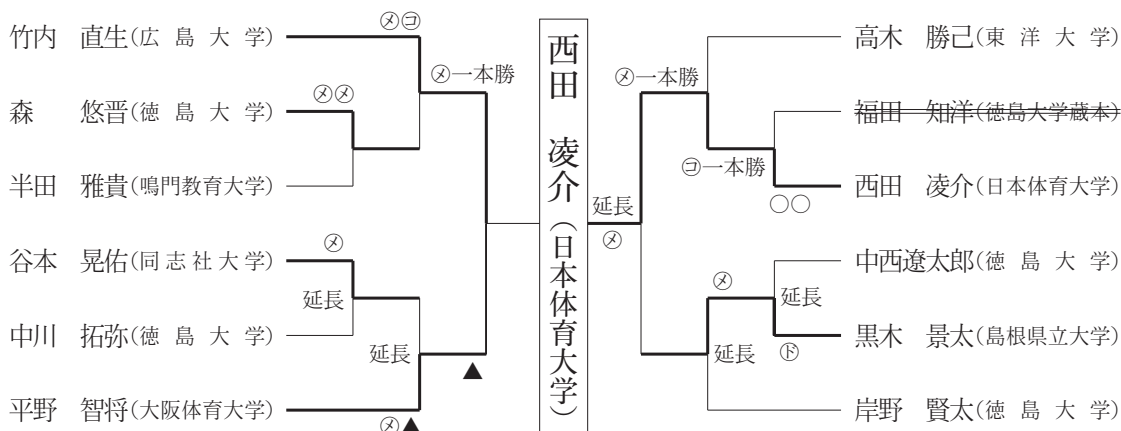
第1位 北村 環 (阿波支部)



【 男子 】

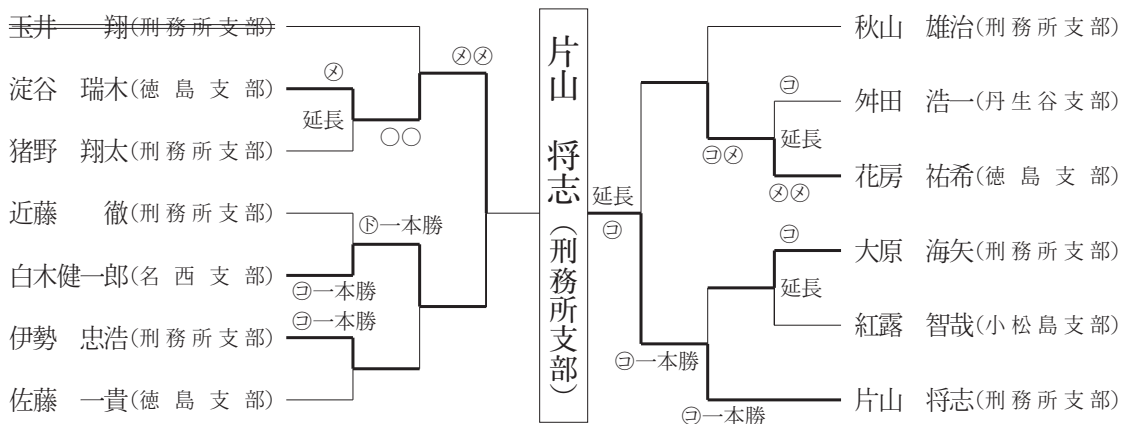
〈次鋒〉

第 1 位 西 田 凌 介 (日本体育大学)
 第 2 位 竹 内 直 生 (広島大学)



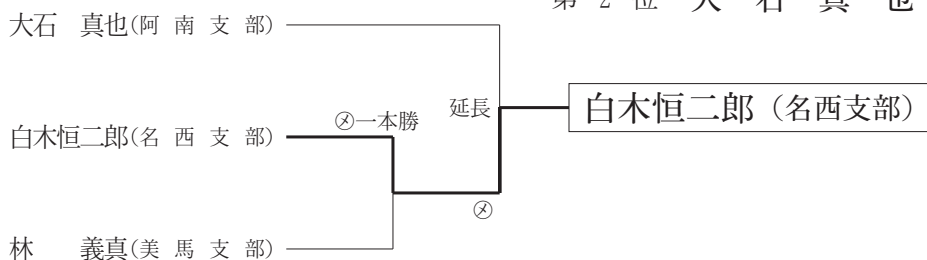
〈5将〉

第 1 位 片 山 将 志 (刑務所支部)
 第 2 位 淀 谷 瑞 木 (徳島支部)



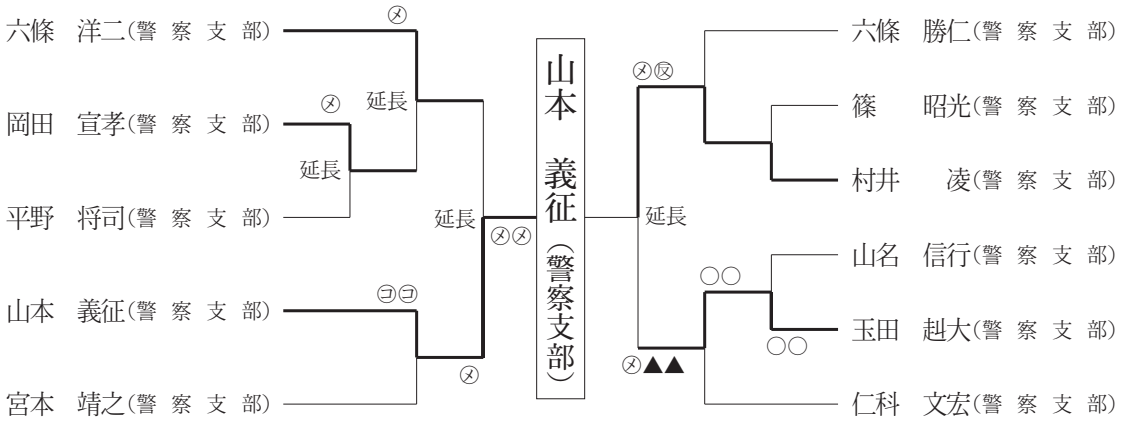
〈中堅〉

第 1 位 白 木 恒 二 郎 (名西支部)
 第 2 位 大 石 真 也 (阿南支部)



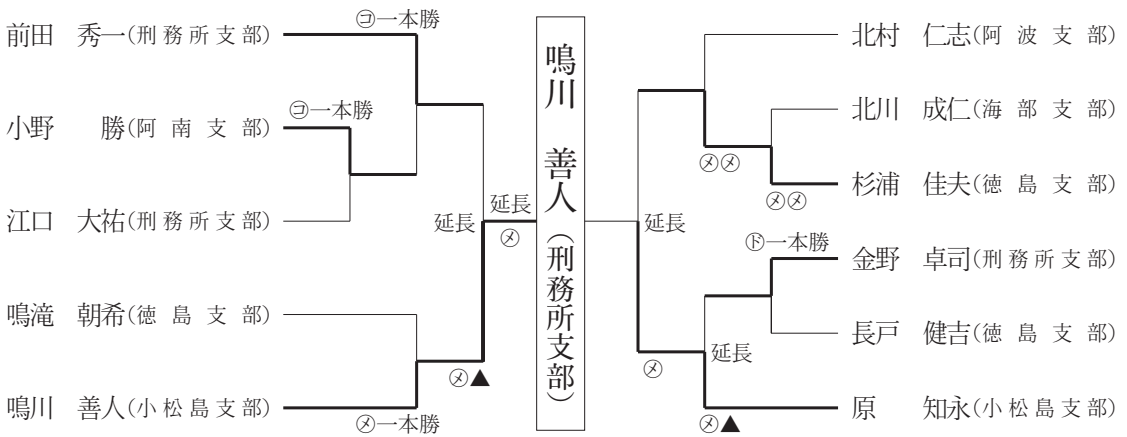
〈3将〉

第1位 山本 義征 (警察支部)
 第2位 村井 凌 (警察支部)



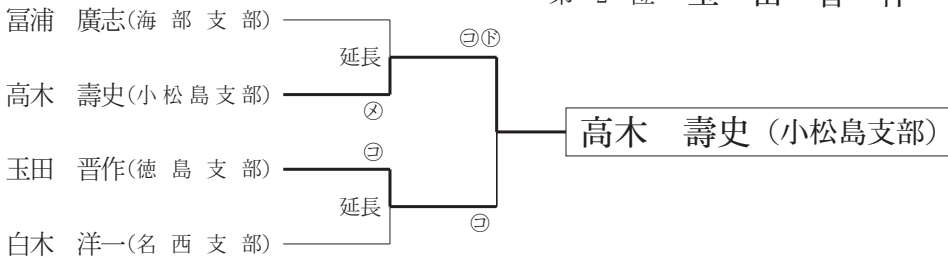
〈副将〉

第1位 鳴川 善人 (刑務所支部)
 第2位 原 知永 (小松島支部)



〈大将〉

第1位 高木 壽史 (小松島支部)
 第2位 玉田 晋作 (徳島支部)



徳島新聞に見る戦いの跡

富岡東女子2位

2月29日

剣道

四国高校新人大会

剣道の四国高校新人大会最終日は8日、高知県立武道館で男女の団体戦が行われ、徳島県勢は決勝に進出した女子の富岡東が代表戦の末、松山北に敗れて2位となった。他の県勢は男女とも予選リーグで敗退した。

△徳島県勢と決勝

【男子】予選リーグA組の富岡西2勝1敗▽B組の徳島北3敗▽C組の城北1勝1分け1敗D組

△阿南工勝敗

▽決勝トナメント決勝 高知小津2(代表勝ち)2帝京養五

高知小津は優勝。

【女子】予選リーグA組の富岡西3敗▽B組の富岡東3勝C組

④川島3敗▽D組の城北1分け2

敗

▽決勝トナメント準決勝

富岡東2-1 明徳義塾(高知)

清水 1 浅野

深見 1 寒川

野村 1 福家

谷 1 矢野

丸岡 1 森岡

松山北 1-1 代表勝

橋本 1 清見

山根 1 野村

近藤 1 丸岡

△代表戦

近藤 1 丸岡

△初優勝

松山北は初優勝。

2月12日

2月8日

丸岡(富岡)が優勝 女子個人

剣道

四国高校新人大会

剣道の四国高校新人大会第1日は7日、高知県立武道館で男女個人戦を行った。徳島県勢は女子で丸岡由理奈(富岡東)が優勝し、玉田真子(徳島文理)は3位に入った。

△決勝と徳島県勢の上位

【男子】個人準々決勝 菅(愛媛・帝京養五)ト 田(阿南)

工▽決勝 菅1 三好(香川)

【女子】個人準々決勝 丸岡(富岡東)ト 野村(富岡)

東・玉田(徳島文理)ト 矢野(高知・明徳義塾)ト 前田(愛

媛・帝京養五)ト 狩野(富岡東)ト 兵等(高知)ト 長角(富岡西)▽準決勝 丸岡ト 玉田

▽決勝 丸岡ト 兵 等

富岡西V城北 男子

剣道

県高校大会

剣道の第36回徳島県高校大会は11日、板野町の田園パーク健康の館で男女の団体戦を行い、17チームが参加した男子は富岡西が4年ぶり12度目、

城北が初の栄冠に輝いた。

【男子】1回戦 富岡東・鳴門

高潮・新野3-1阿波▽2回戦

富岡西2-1富岡東・鳴門高潮

新野・山崎(不戦勝)那賀・徳島

科技2-1城東 徳島北5-0阿

波西・徳島市立 城北4-0板

野、城ノ内4-1小松島・徳島

商、鳴門4-0脇町、阿南5-1

○池田準々決勝 富岡西4-0

川島 徳島科技2-0徳島北、城

北4-1城ノ内、阿南3-0鳴

門準決勝 富岡西4-0徳島科

技 城北1-0阿南

▽決勝

富岡西 0-0 城北

富岡西 代表勝

住友 1 鳴川

福田 1 美馬

庄田 1 熊馬

松本 1 南谷

△代表戦

松本 1 南谷

○行 諸

東 1 福崎

田 1 津田

太 1 猪野

堀 1 清水

【女子】1回戦 脇町3-0城北

東・徳島市立、阿波4-0鳴門高

潮・富岡東5-0池田、阿波西

・城ノ内3-1徳島北▽準々決

勝 富岡東4-0脇町、富岡西

3-1阿波、城北2-1富岡東

B、川島4-0阿波西、城ノ内

▽準決勝 富岡東A2(全教勝ち)

2富岡西、城北3-1山島

▽決勝

城北 4-1 富岡東A

堀 1 清水

太 1 猪野

田 1 清水

堀 1 猪野

田 1 猪野

堀 1 猪野

堀 1 猪野

鳴門市光武館が制覇

小学低学年
団体



平尾杯争奪県少年鴨島大会(11月1日・吉野川市鴨島体育館)は団体戦に小学校低学年15チーム、高学年18チーム、中学校13チーム、個人戦には小学生132人が参加。団体の小学校低学年は鳴門市光武館、高学年は小松島少剣クラブ、中学校は石井中が制した。

【団体】小学校低学年の鳴門市光武館(先鋒Ⅱ秋山颯汰、次鋒Ⅱ鳴門敦生、中堅Ⅱ千葉翔太、副将Ⅱ岡崎進平、大将Ⅱ千葉陸登)②小松島少剣③上浦教室③藍住又ボツ少年団▽高学年の小松島少剣①(先鋒Ⅱ松田甲、次鋒Ⅱ山田亮太、中堅Ⅱ松田匠輝、副将Ⅱ福本哲郎、大将Ⅱ岩原潤哉)②藍住ボツ少年団③清東少年教室③徳島少年教室



平尾杯争奪県少年鴨島大会の団体小学生低学年の部を制した鳴門市光武館

2月8日

2月16日

徳島少年教室 団体戦で栄冠

個人戦は後藤田V



第45回徳島県少年錬成大会(11月16日・鳴門ソイシヨイ武道館)が行われ、団体戦は徳島少年教室、個人戦は後藤田凜(川島スポーツ少年団)が優勝した。

【団体】準々決勝 徳島至誠館1-0北井上教室、鳴門市光武館2-1那賀川教室わかあゆ会、徳島少年教室4-0藍住スポーツ少年団、小松島少剣4-0養武館▽準決勝 徳島至誠館2-0鳴門市光武館、徳島少年教室2-1小



県少年錬成大会の団体の部を制した徳島少年教室

松島少剣①▽決勝 徳島少年教室2(大空航巳、引き分け、大城穂高、北條琢己、引き分け、武蔵千咲、山室愛子)1-0住友太洋、北條智士、×1飯田泰々、塚田志緒、×1福田優那、1徳島至誠館
【個人】準々決勝 佐藤廉之助(徳島少年教室)×1村上純平(上八万俱樂部)、後藤田凜(川島スポーツ少年団)×1小田田亮太(小松島少剣)、栗田空輝(那賀川教室わかあゆ会)1-0橋本竜馬(小松島少剣)×1、島海空(川島スポーツ少年団)×1、山田利子(徳島至誠館)▽準決勝 後藤田凜×1-0佐藤、島海、×1栗田▽決勝 後藤田凜×1、島海



男子決勝トーナメント・徳島対三間代表戦で攻め込む徳島の小島⑤＝阿波中体育館（秋月悠撮影）

男子徳島3位那賀川女子

剣道

剣道の第10回四国中学校新人大会は1日、阿波中体育館に4県から男女各4校が参加して団体戦を行い、徳島県勢は男子の徳島、女子の那賀川が3位に入った。（宮本真）

△徳島関係優勝
 【男子】予選リーグA組那賀川勝敗、組別対戦勝敗
 △C組徳島3勝、D組鳴門1勝2敗
 △3位トーナメント1回戦 高知4-0鳴門、2位トーナメント1回戦 那賀川2-1土庄、決勝 城辺勝 那賀川3-0西条北（愛媛）
 △1位トーナメント1回戦
 愛媛 2-2 徳島
 三間 2-2 北島
 △1位トーナメント1回戦
 高知 3-0 那賀川
 ○水野、梅川、川田、松村、朝田、井口、榎田、寺村、大城、佐竹、濱本
 △決勝 高知2-1東予東愛媛
 △決勝 龍雲（香川）3-1三間
 【女子】予選リーグB組那賀川3勝、下組の北島1勝、上げ1敗、G組鳴門1勝2敗、H組小松島2分け1敗
 △3位トーナメント1回戦 小松島2-0鳴門、2位トーナメント1回戦 高知3-0那賀川

3月2日

で敗れた石井を上回る成績に村田主将は「みんな力を合わせて戦った。体幹の強化と基礎練習が実った」と稽古の成果を強調した。

決勝トーナメント1回戦では、愛媛県1位の三間を相手に互角の戦いを演じた。惜しくも敗れ3位に終わったものの、代表戦でも善戦した中堅・小島は「強い相手に気後れすることなく向かっていった。次へのステップになった」と手応えを口にした。

稽古の成果強調

○男子の徳島が目標の1位トーナメント進出を果たした。県大会決勝

小松島市制す小学生団体



県スポーツ少年団交流大会兼全国交流大会県予選会の小学生団体の部を制した小松島市



第32回徳島県スポーツ少年団交流大会（12月7日・鳴門ソイジョイ武道

館）は第37回全国スポーツ少年団交流大会県予選会を兼ねて行われた。郡市選抜14チームで争った小学生団体戦は小松島市が制し、中学生7人が参加した個人戦の男子は山室和士（徳島少年教室）、女子は田村眞尋（和田島少年クラブ）が優勝した。

団体、個人の1位は全国大会（3月27、28日・埼玉県）に出場する。【団体】小学生①小松島市（先鋒・岩谷愛夢、副将・久次鋒・松山若樹）小松島少年、中堅・松田輝二、副将・岩原佳二、大将・岩瀬浩二、阿南市A、阿南市B、鳴門こまき（小松島少年）

市【個人】中学生 男子 山室和士（徳島少年教室）の小島拓也（北井上教室）岩本隆紀（徳島至誠館）鎌田樹季（北井上教室）
 △女子 田村眞尋（和田島少年）の杉山夏海（誠武館道場）川原央（那賀川少年）古川こまき（小松島少年）

3月16日

4月21日

全国高校選抜大会

全国高校選抜大会は27日、金沢市など各地で行われた。徳島県勢は8競技に出場し、重量挙げ男子53キ級の東野凌大(徳島科技)がスナッチ83キ、ジャーク98キのトータル181キを挙げ、スナッチで優勝、トータルで3位に入った。ライフル射撃のエアライフル女子個人で清水英恵(城ノ内)が5位に入賞した。剣道女子団体の富岡東は1次リーグで2勝を挙げ、6年ぶりの決勝トーナメント進出を決めた。

剣道

(春日井市総合体育館)
【男子】1次リーグ「B組」
 富岡西 1-1 甲府商
 本教勝 山梨梨
 鹿兒島実 0-0 富岡西
 鹿兒島 引き分
【女子】1次リーグ「D組」
 富岡東 0-0 淑徳巣鴨
 引き分 (東京)
 富岡東 2-0 盛岡南
 岩手

剣道

(春日井市総合体育館)
【男子】決勝
 九州学院 麗澤瑞浪
 熊本 4-0 岐阜
 九州学院は3年連続7度目の優勝。
【女子】決勝トーナメント1回戦
 八代白百合 2-1 富岡東
 学園 熊本 徳島
 中村学園女 3-0 東奥義塾
 福岡 青森
 中村学園女は3年ぶり3度目の優勝。

男子富岡西 V 女子富岡東

県会長杯高校剣道 剣道の第40回徳島県連盟会長杯争奪高校大会は19日、鳴門ソノジヨイ武道館に男子16校、女子11校が参加して行われ、男子は富岡西が4年ぶり11年度目、女子は富岡東が2年連続29年度目の優勝を飾った。

【男子】1回戦 富岡西4-0 川島、城ノ内5-0 脇町、徳島科 技4-1 阿波、徳島文理3-1 徳島北、城北5-0 那賀、城東3-1 阿南高専、鳴門2-1 鳴門渦潮、阿南工5-0 池田、準々決勝 富岡東2-0 富岡西、城北3-1 徳島科、城北3-1 城東、阿南工4-0 鳴門、準決勝 富岡西1(本教勝ち) 徳島文理、阿南工3-0 城北、3位決定戦 城北3-0 徳島文理

【女子】1回戦 阿波3-2 徳島北、城ノ内1(本教勝ち) 阿波西、脇町1(本教勝ち) 池田、準々決勝 富岡東5-0 鳴門渦潮、富岡西3-2 阿波、城北5-0 城ノ内、川島3-0 脇町、準決勝 富岡東2-0 富岡西、城北3-1 川島、3位決定戦 川島4-0 富岡西

△決勝
 富岡東 1-1 城北
 谷 太田北
 津田 堀
 野村 田
 清水 ド 東條
 丸岡 行譜
 丸岡 代表勝ち
 太田

3月23日

那賀川教室が3位 小学生低学年



第34回川之江少年錬成大会(11月30日・愛媛県四国中央市川之江体育



川之江少年錬成大会小学生低学年の部3位的那賀川教室わかあゆ会

館)は四国4県から小学生低学年42チーム、高学年46チーム、中学生34チームが参加して行われた。徳島県勢は那賀川教室わかあゆ会(先鋒住友、次鋒羽坂、中堅引田、副将小島、大将尾畑)が小学生低学年の部で3位入賞した。

5月10日

大人顔負けの剣さばき

読んで学ぼう

阿波市市場町八幡の八幡神社で9日、剣道の奉納演武大会が開かれ、市内外の少年剣



気合のこもった声を出しながら竹刀を交える選手 阿波市の八幡神社

阿波市で奉納演武大会

士らが県内では珍しい「野試合」を繰り広げた。

阿波、吉野川、美馬、徳島の4市から、小中学生の男女162人が出場し、学年別など5部門のトーナメント戦で

競った。

境内に設けられた試合場では、胴着にスニーカー姿の選手たちが気合のこもった声を発しながら、竹刀を交えた。見事な剣さばきで「胴」「面」などを決めると、詰め掛けた観客約300人から、盛大な拍手が送られていた。

中学生女子の部で優勝した阿波中3年の西淵光さん(14)は「屋内の試合とは違って開放感があり、すがすがしい。昨年は準優勝だったので、雪辱を果たせた」と喜んだ。

奉納演武は戦前、神社にあった道場の練習生が境内で行ったことが始まり。戦後は長く途絶えていたが、地元有志でつくる「八幡神社剣道同志会」が2003年に復活させ、毎年開いている。今年で13回目。(藤川佳宏)

男子 石井 女子 北島V 中学団体



第40回県西部少年大会の中学男子団体を制した石井中

第40回徳島県西部少年大会(2月15日・阿波中体育館)は小中学生の1学校が鳴門市光武館、

中学校は男子・石井、女子・北島が王座に就いた。

【団体】小学生①鳴門市光武館②入田・川島③藍住スポーツ少年団③鳴門少年教室

▽中学男子①石井②市立川島③貞光③北島▽女子①北島②石井③藍住③県立川島・藍住

【個人】小学3年①香川柁吾(上浦)②野尻壮馬(山川)③佐野煌季(北島)③佐藤愛結花(上浦)▽4年①秋山颯汰(光武館)②宮田孟(北島)③大塚未流依(鴨島)③千葉陸登(光武館)▽5年①富永涼介(吉野川)②閉口湖雪(藍住)③岡崎理(光武館)③柳田藍(鳴門)▽6年①松本喜起(藍住)②福山花純(光武館)③山口樹太(ふくら)③北林翔(光武館)

▽中学1年男子①庄村凌(市立川島)②島海匠(同)③稲葉京祐(山川)③坂田好誠(石井)▽同女子①堀井乃々花(石井)②峰慶

乃(同)③瀬之口綾音(板野)③後藤玲香(江原)▽中学2年男子①山室和士(石井)②坂野修造(北島)③森本直希(石井)③三宅拓磨(江原)▽同女子①西瀬光(阿波)②皇商美奈美(北島)③一宮舜音(石井)③木村結衣(藍住)

○大野小▽決勝 徳島至誠館A○(代表勝ち)○徳島至誠館B

【個人】1年①仁尾徳之進(わかあゆ会)②大和優星(徳島至誠館)③山本実加子(阿南教室)③尾畑涼月(わかあゆ会)▽2年①原孝太郎(阿南教室)②桑原康輔(わかあゆ会)③青木謙真(同)③四宮愛椰(阿南教室)▽3年①武藏小春(徳島至誠館)②栗田星舞(わかあゆ会)③倉橋秀汰(同)③羽坂颯真(同)▽4年①尾畑翔(わかあゆ会)②小島理奈(同)③津山裕也(大野小)③青木日菜(わかあゆ会)▽5年①河野菜々子(わかあゆ会)②和泉敬沙(同)③倉橋美妃(同)③松葉佳香(徳島至誠館)▽6年①住友太洋(徳島至誠館)②大城穂高(同)③飯田奈々(同)③武蔵千咲(同)

◆阿南支部少年大会・6年生を送る会 (2月22日・阿南市武道館)

【団体】準決勝 徳島至誠館B 2-0 那賀川、徳島至誠館A-1

徳島少年教室A 頂点 高学年

低学年は北井上教室制す

小学生団体

【上】徳島市スポーツ少年団交流大会の団体高学年優勝の徳島少年教室



【下】団体低学年を制した北井上教室



第20回徳島市スポーツ少年団交流大会(2月15日・市B&G海洋センター・市育趣)は小学生の団体戦と小・中学生の個人戦が行われた。団体は低学年が北井上教室、高学年は徳島少年教室Aが制した。

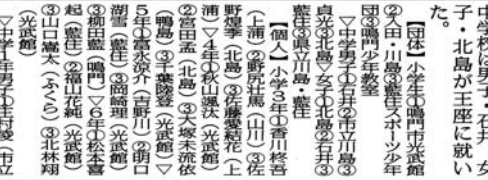
男子 石井 女子 北島V 中学団体

第40回徳島県西部少年大会(2月15日・阿波戦が行われ、団体は小中学生の学校が鳴門市光武館、

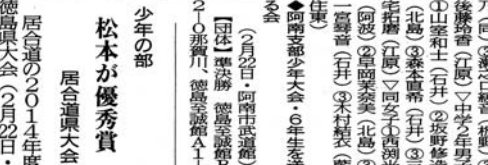


第40回県西部少年大会の中学男子団体を制した石井中

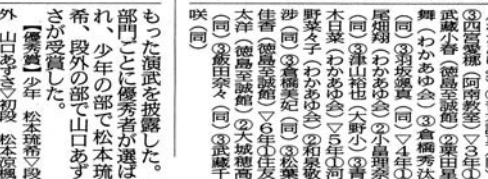
中学校は男・石井、女子・北島が王座に就いた。



松本が優秀賞 居合道県大会



もった演武を披露した。部門ごとに優秀者は選ばれ、少年の部で松本琉希、段外の部で山口あすさが受賞した。



徳島少年教室A(徳島少年教室A)が制した。徳島少年教室A(徳島少年教室A)が制した。徳島少年教室A(徳島少年教室A)が制した。

北條智士(同)③吉川真(同)②二養志(同)③中園賢(同)④大野小・勝(徳島少年教室B)⑤徳島少年教室B(同)⑥徳島少年教室B(同)⑦徳島少年教室B(同)⑧徳島少年教室B(同)⑨徳島少年教室B(同)⑩徳島少年教室B(同)⑪徳島少年教室B(同)⑫徳島少年教室B(同)⑬徳島少年教室B(同)⑭徳島少年教室B(同)⑮徳島少年教室B(同)⑯徳島少年教室B(同)⑰徳島少年教室B(同)⑱徳島少年教室B(同)⑲徳島少年教室B(同)⑳徳島少年教室B(同)㉑徳島少年教室B(同)㉒徳島少年教室B(同)㉓徳島少年教室B(同)㉔徳島少年教室B(同)㉕徳島少年教室B(同)㉖徳島少年教室B(同)㉗徳島少年教室B(同)㉘徳島少年教室B(同)㉙徳島少年教室B(同)㉚徳島少年教室B(同)㉛徳島少年教室B(同)㉜徳島少年教室B(同)㉝徳島少年教室B(同)㉞徳島少年教室B(同)㉟徳島少年教室B(同)㊱徳島少年教室B(同)㊲徳島少年教室B(同)㊳徳島少年教室B(同)㊴徳島少年教室B(同)㊵徳島少年教室B(同)㊶徳島少年教室B(同)㊷徳島少年教室B(同)㊸徳島少年教室B(同)㊹徳島少年教室B(同)㊺徳島少年教室B(同)㊻徳島少年教室B(同)㊼徳島少年教室B(同)㊽徳島少年教室B(同)㊾徳島少年教室B(同)㊿徳島少年教室B(同)

○大野小・勝(徳島少年教室B)⑤徳島少年教室B(同)⑥徳島少年教室B(同)⑦徳島少年教室B(同)⑧徳島少年教室B(同)⑨徳島少年教室B(同)⑩徳島少年教室B(同)⑪徳島少年教室B(同)⑫徳島少年教室B(同)⑬徳島少年教室B(同)⑭徳島少年教室B(同)⑮徳島少年教室B(同)⑯徳島少年教室B(同)⑰徳島少年教室B(同)⑱徳島少年教室B(同)⑲徳島少年教室B(同)⑳徳島少年教室B(同)㉑徳島少年教室B(同)㉒徳島少年教室B(同)㉓徳島少年教室B(同)㉔徳島少年教室B(同)㉕徳島少年教室B(同)㉖徳島少年教室B(同)㉗徳島少年教室B(同)㉘徳島少年教室B(同)㉙徳島少年教室B(同)㉚徳島少年教室B(同)㉛徳島少年教室B(同)㉜徳島少年教室B(同)㉝徳島少年教室B(同)㉞徳島少年教室B(同)㉟徳島少年教室B(同)㊱徳島少年教室B(同)㊲徳島少年教室B(同)㊳徳島少年教室B(同)㊴徳島少年教室B(同)㊵徳島少年教室B(同)㊶徳島少年教室B(同)㊷徳島少年教室B(同)㊸徳島少年教室B(同)㊹徳島少年教室B(同)㊺徳島少年教室B(同)㊻徳島少年教室B(同)㊼徳島少年教室B(同)㊽徳島少年教室B(同)㊾徳島少年教室B(同)㊿徳島少年教室B(同)

5月18日



◆第21回藤花旗争奪少年大会

(3月1日・石井中)

【団体】①藍住の北井上教室③吉野川教室④上八万

【個人】小学1年の谷本真智子



藤花旗争奪少年大会の団体に頂点に立った藍住剣道スポーツ少年団①と個人の優勝者

(佐古) ②四宮真一郎(鴨島教室) ③富田真吾(北島教室) ④岩崎有蓮(山川修練館) ⑤2年の蔵本望海(山川修練館) ⑥株田隆之介(上浦教室) ⑦青川夕渚(土成少年団) ⑧篠原嵩也(入田錬成会) ⑨3年の佐藤治郎(加茂名教室) ⑩撫養原唯(北島教室) ⑪香川格吾(上浦教室) ⑫佐藤愛結花(同) ⑬4年の安井大成(吉野川教室) ⑭富田将太郎(北井上教室) ⑮斎藤修平(みなと) ⑯撫養

5月25日

北島 男女とも制す 中学団体



徳島城西剣友会少年錬成大会で中学男女団体を制した北島

◆第33回徳島城西剣友会少年錬成大会

(3月21日・松茂町総合体育館)

【団体】小学①徳島至誠館徳島少年教室②藍住、小松島少剣▽中学男子①北島②石井③徳島少年教室 賢敷・木更女子①北島徳島立理・徳島・北島

【個人】小学1年の岩本徳輝(徳島至誠館) ②吉岡隼(小松島少剣) ③鈴木葉一(清東少年教室) ④大和優暁(徳島至誠館) ⑤2年の橋本和馬(小松島少剣) ⑥山下悠人(木頭練心館) ⑦蔵本望海(山川修練館) ⑧徳島嵩也(入田錬成会) ⑨3年の水尻駿良(藍住) ⑩青川格吾(上浦少年教室) ⑪長尾紗弥(徳島少年教室) ⑫長尾春(徳島至誠館) ⑬4年の松山若樹(小松島少剣) ⑭若手佳(小松島少剣) ⑮添木陽仁(徳島少年教室) ⑯富田将太郎(北井上教室) ⑰5年の後藤也(徳島至誠館) ⑱佐藤勇之助(徳島少年教室) ⑲片山真一(同) ⑳松田大(小松島少剣) ㉑6年の島海空(小松島) ㉒長尾遥(徳島少年教室) ㉓西岡隼人(同) ㉔後藤田隼

7月5日

境内に剣道場開館

北辰一刀流

(じかい)副住職(37)＝市職員、剣道6段＝が北辰一刀流の門下という縁から、同流派の四国唯一の指南所に認定されており、坂本龍馬ら幕末の志士が学んだ同流派の教えも伝えていく。

吉野川市・醫光寺

吉野川市山川町久宗の醫光(いこう)寺に4日、剣道場「寶壽(ほうじゅ)館」が開館した。住民に無料開放し、心技体を鍛錬してもらうとともに多目的に集える場所を目指す。日和田慈海

四国唯一の指南所

地域の集いの場に

剣道場は木造平屋約41平方メートルで境内の中庭に設けた。床には銘木として知られる奈良県産の吉野杉を使用。弾力性があり、運動時の足腰への負担を和らげるといふ。壁には縦1・7メートル、幅2.5メートルの大鏡があり、型の確認ができる。既に社会人中心に10人ほどが道場に通う意向を示している。剣道歴30年の日和田副住職は、子どもや住民らに剣道に親しんでもらう場を提供できないかと長年、道場づくりを模索。檀家の了解

を得て今年1月、念願の着工にこぎつけた。



完成を祝って剣道の稽古が披露された寶壽館
||吉野川市の醫光寺

床を造る際は、幕末頼。合わせて北辰一刀の剣客千葉周作が開いた北辰一刀流の千葉家場は同流派の四国本部正伝第7代宗家で、道場建設を手掛けている名さんが月1回程度足を運び、指導する。普

椎名市衛さん(62) || 茨段は慈海副住職や妻朗子さん(35) || 剣道4段 || が、子どもや住民と一緒に竹刀を振るう。落成式には住民や県内の剣道愛好家ら約60人が出席。落慶法要では、剣道具に使われた動物を弔う「剣道具供養」も営んだ。慈海さんの父で館長の慈泉住職(68)や県剣道連盟の三木毅会長らがあいさつ。居合や剣道の初稽古なども行って、道場開きを祝った。慈海副住職は「この道場から剣道の裾野を広げ、地域住民の交流にも役立てたい」と話した。(藤川佳宏)



女子決勝・富岡東対帝京五 果敢に攻めて1勝を挙げた富岡東の先鋒・谷⑤
〓鳴門ソイジョイ武道館(家段良匡撮影)

富岡東女子準優勝

剣道

(鳴門ソイジョイ武道館)

【男子】団体予選リーグA組①富岡西3勝▽B組①帝京五3勝③城北1勝1敗1分け▽C組①琴平3勝③阿南1勝2敗▽D組①済美2勝1分け④徳島文理3敗
▽決勝トナメント1回戦 帝京五3-0富岡西▽決勝 帝京五3-0琴平

帝京五は2年連続8度目の優勝。

【女子】団体予選リーグA組①富岡東3勝▽B組①済美2勝1分け④富岡西3敗▽C組①帝京五2勝1分け②城北1勝1敗1分け▽D組①松山北2勝1敗③川島1勝2敗
▽決勝トナメント1回戦 富岡東2-0済美

▽決勝
帝京五 2-1 富岡東
菅能 1-0 谷

安田 深見
久保 野村
河崎 メイ 清水
前田 コー 丸岡

〇：6年ぶりの優勝を

目指した富岡東女子は先鋒(せんぼつ)の谷が気を吐いた。動きが鈍い相手に片手突きを繰り返して、積極的に仕掛けた。

「後ろに強い選手が控えていたので先に流れをつかんでおきたい一心だった」と谷。延長の末、小手で一本勝ちし「のびのびできた」と役目を果たしたことは納得の表情を見せた。

しかし、そこから引き分けが続き、副将と大将が敗れて1-2と涙をの

んだ。それでも帝京五には5月の練習試合で0-14と完敗していただけに「チームの成長を感じる」と清水主将。一人一人が後ろにつながる意識を貫き、全国総体では8強以上を目指す。

6月22日

四国高校選手権 前期第3日

小松島少剣夕、高学年制す



◆第15回堀金旗争奪大会(5月31日・小松島市立体育館)



【上】堀金旗争奪大会高学年団体の部で優勝した小松島少剣クラブ
【下】低学年団体の部を制した藍住剣道スポーツ少年団



【団体】低学年の藍住(先鋒Ⅱ 田串大)②徳島室誠館③藍住③徳島教室

谷口真、次鋒Ⅱ住友晴帆、中堅Ⅱ山名菜実、副将Ⅱ三宅澄、大将Ⅱ永浜聡良)②徳島教室③鴨島教室③那賀川教室わかあゆ会④高学年①小松島少剣(先鋒Ⅱ小山田亮太、次鋒Ⅱ岩原千佳、中堅Ⅱ松山若樹、副将Ⅱ桂大二郎、大将Ⅱ松田有紗(養武館)、大和優星

【個人】1・2年の仁尾徳之進(那賀川教室わかあゆ会)②鈴木葉二(清東教室)③桑原光希(坂野)④渡辺日期(和田島)▽敢闘賞 岩本輝輝(徳島室誠館)

松本喜(藍住)に栄冠 小学生は松本尊(藍住)



板野防犯少年大会の入賞者

第22回板野防犯少年大会(6月21日・板野町体育センター)は板野署管内の小学5年生から中学2年生の教室、剣道部に所属する45人が参加して行われた。小学生の部は松本尊灯(藍住スポーツ少年団)、中学生の部は

(徳島室誠館)、榎まのん(佐古)▽3年①山下悠人、木頭錬心館)②桑原康輔、那賀川教室わかあゆ会)③佐藤輝和(徳島教室)③篠原高也(入田錬成会)▽敢闘賞 三宅遼(藍住)、青木謙真(那賀川教室わかあゆ会)、四宮愛那(阿南教室)、西岡優太、木頭錬心館)▽4年①撫原唯北(和田島)③茨木一博(徳島教室)、富田孟(北島教室)、住友孝之輔(那賀川教室わかあゆ会)▽敢闘賞 佐野輝季(北島教室)、新居芳浩(同)、仁尾徳孝(那賀川教室わかあゆ会)、吉岡健心(驚敷振武館)▽5年①岩谷愛夢(和田島)②篠原紗也(入田錬成会)③小島理奈(那賀川教室わかあゆ会)③赤川真唯(入田錬成会)▽敢闘賞 萩野浩基(阿南教室)、今倉菜月(和田島)、木村龍昇(小松島少剣)④切中寛子(小松島少剣)④福良優孝(芝田直心館)▽敢闘賞 金森陽大(徳島教室)

所属はいずれも藍住スポーツ少年団。
▽中学生①松本喜起(藍住スポーツ少年団)②上村雄虹(藍住中)③根ヶ山和穂(板野中)

7月6日

第69回徳島県中学校総合体育大会(県中体連、県教委、徳島新聞社主催)が11日開幕し、県内各地で3競技が行われた。剣道男子は徳島が2年ぶり7度目、女子是那賀川が4年連続15度目の栄冠に



第 1 日

輝いた。サッカーは1回戦7試合があり、江原、三加茂などが2回戦に進出。軟式野球も7試合が行われ、鴨島一、坂野などが勝った。第2日の12日は剣道の男女個人と軟式野球が行われる。

徳島 2年ぶり優勝

女子是那賀川 4年連続



男子決勝・徳島対石井 中堅戦で攻め込む徳島の小島(鳴門ソシヨイ武道館(家段良臣撮影))

徳島 代表戦制す 中配的采

男子決勝は人の戦いでは決着がつかず、代表戦にもつれこんだ。徳島の代表指名されたのは小島。スピードがあり、個人の優勝候補に挙げられている山室(石井)と戦うことになった。

昨年12月の全国スゴッソ少年団交流大会原予選では敗れているが、「引き技を使えば何とか戦える」と小島は考えた。激しいはざり合いから山室の体勢が崩れた。その瞬間、小島の鮮やかなメンが決まった。

徳島は高いレベルの選手がそろそろ。しかし、代表戦に迷わず送り出せる絶対的なエースはいなかった。剣道部を率いて9年目の豊田監督は「小島は3年生で経験があり、勝負強い。表情にやる気が見み出ている」と起用の理由を明かす。采配が勝手に当たり、予想を覆した。

「狙っていた通りの試合ができて、とてもうれしい」と白い歯を見せる小島。剣道を始めて9年目になるが、全国大会の出場は初めて。「徳島代表として恥ずかしくない戦いをしたい」と表情を引き締めた。(宮本真)

剣道

【男子団体】徳島 羽ノ瀬2、鴨島1、小松島2、1日和1、佐木頭3、阿南1、北島1、山城 八分4、相生 卓弥3、主成、徳島文通5、江原1、中川亭1、森崎、坂野3、1

【男子個人】徳島 羽ノ瀬2、鴨島1、小松島2、1日和1、佐木頭3、阿南1、北島1、山城 八分4、相生 卓弥3、主成、徳島文通5、江原1、中川亭1、森崎、坂野3、1

【女子個人】那賀川4、鳴門1、石井2、代表勝ち2、小島 代表勝ち、山室

【女子団体】那賀川4、鳴門1、石井2、代表勝ち2、小島 代表勝ち、山室

新天地下でも活躍
○：女子的那賀川は前評判通りの強さを見せた。決勝ではノーシード(本数勝ち)北徳準決勝から勝ち上がり、決勝で、先鋒(せんぼつ)、次鋒、中堅が白星を重ねると決着をつけた。大城主将は「絶対に市に行くんだという気持ちで、一チームに貢献できてうれしい。」と満足の表情が浮かんだ。

昨年、明徳義塾中で全中に出場した実力者だが、新天地で結果を出せるか不安だった。延長戦の末に優勝を決め、「チームに貢献できてうれしい。練習の成果を出し切れた」と満足そうだった。



中堅の濱本「写真」は昨年9月に高知県から転校してきた3年生。

7月13日

3地区代表決まる



第28回徳島県防犯少年大会の予選となる大会が県内各地で行われ、いずれも入賞した小学生4人と中学生3人が代表に決まった。7選手はチームを組み、地区代表として県大会(7月30日・鳴門ソレイヨイ武道館)に臨む。

徳島西署防犯大会の入賞者



▽小学①富田将太郎(北井上教室)②宮岡大(同)③豊島舜(加茂名教室)④河野穂也(田錬成会)
▽中学生①鳴滝悠希(城ノ内

中)②長田由哉(入田中)③阿部太遥(佐古クラブ)
▽第18回徳島県防犯少年大会(6月27日・県警察学校体育館)
▽小学生の部①塚田浩緒(徳島教室)②武知樹生(養徳館)③湯浅和真(同)④山室愛子(徳島教室)
▽中学生の部①片岡俊人(徳島中)②高橋和也(養徳館)③渡辺敬介(城東中)
▽第6回「好支部少年大会」(6月21日・山城中)
▽小学4年以下①庄崎晴の西村史都②野光寛③5年①庄崎蓮の寺野仁美③近藤島樹④6年①平尾文博②喜多寛③中7聖輝(男子)④中学1・2年①森岡月輝②山下雄大③豊崎玲音④3年①大岩和也②萩田将史③今村陸(女子)④中学①寺野由莉②種浦そら③片岡芽

阿南の児童ら 剣道で交流

九州のチーム招く

九州を代表する名門剣道部「今宿少年剣道部」(福岡県)を招いた剣道教室が、阿南市那賀川町的那賀川スポーツセンターで開かれ、市内の小生らが剣道の基本技術を学んだ。



那賀川剣道教室わかあゆ会の河野菜々子さ

県内選抜の選手と指導者らを含め約150人が参加。今宿少年剣道部の山内正幸師範からメンやコテなどのこつを教わった。山内さんは「打つ時には、一歩踏み込んでから打つて」などとアドバイスした。

山内さんによる指導者を対象にした少年剣道の稽古に関する講演もあった。

7月31日

は「今まで知らなかった打ち方やこつを教えてもらい、勉強になった」と話していた。教室は市スポーツ少年団のトップアスリート招致事業として開かれた。(岡田麻衣)

剣道の稽古をする子どもら。阿南市那賀川町的那賀川スポーツセンター

剣道の楽しさ広める

吉野川市山川町久宗の一刀流の千葉家正伝宗家、
 醫光寺に剣道場「寶壽」に弟子入りした経歴もあ
 館」を開いた副任職の曰る。
 和田慈海さん(37)市職 剣道経験者が仕事など
 員、写真Ⅱは「剣道の楽しさを広めたい」と意気
 しさを広めたい」と意気 残念だといひ「諦めない
 込む。道場名は自身が修 行した高野山大本山「寶
 壽院」にちなんだ。「精 神の鍛錬の場」との思
 いからだ。

剣道は小学1年時に始
 め、6段の腕前。国体出
 場や全日本官公庁大会準
 優勝などの実績を持ち、
 幕末の剣客が開いた北辰



(藤川佳宏)

でほしい」と訴える。剣
 道場は無料開放してお
 り、住民が気兼ねなく通
 うことができる場にする
 つもりだ。「いろんな人
 たちが集うことで、新た
 な縁が生まれればうれ
 しい」。

ぴーぷる ピープル

徳島少年Aが 高学年の部3位



植田平太郎範士杯争奪大会で3
 位入賞した徳島少年剣道教室A



第47回植田平太郎範士
 杯争奪少年大会(7月20
 日・高松市総合体育館)
 は中・四国、関西から1
 96チームが参加して行
 われた。徳島県勢は小学

生低学年の部
 で那賀川剣道
 教室わかあゆ
 会Aが、高学
 年の部では徳
 島少年剣道教
 室Aがそれぞ
 れ3位入賞し
 た。
 ◇徳島県関係の上
 位
 ▼小学生低学年
 ③那賀川わかあゆ
 会A(先鋒Ⅱ倉橋
 秀汰、次鋒Ⅱ山崎
 光月、中堅Ⅱ羽坂
 颯真、副将Ⅱ岩佐
 ほか、大将Ⅱ栗

田星舞)
 ▼高学年③徳島教A(先鋒Ⅱ
 吉川真一、次鋒Ⅱ添木陽仁、中堅
 Ⅱ山室愛子、副将Ⅱ佐藤廉之助、
 大将Ⅱ塚田志緒)▼敢闘賞Ⅱ小松
 島少剣(先鋒Ⅱ小山亮太、次鋒
 Ⅱ原平佳、中堅Ⅱ松山若樹、副
 将Ⅱ原拓海、大将Ⅱ田東大)
 ▼中学生敢闘賞Ⅱ鳴門一A(先
 鋒Ⅱ炭元裕、次鋒Ⅱ柳田有作、中
 堅Ⅱ矢野郁、副将Ⅱ佐藤祐樹、大
 将Ⅱ富田孔明)

8月12日

全国中学校体育大会第7日は23日、山形県総合運動公園などで行われた。徳島県勢は、剣道女子団体の那賀川が予選リーグで2勝し決勝トーナメントに進出。1回戦で敗れたものの、16強に入った。

全国中学校体育大会

第7日

剣道 那賀川 ソフトテニス 市場16強 女子

剣道

【男子】団体1次リーグB組 (秋田県立武道館)

徳島(徳島県) 熊橋、村田、小島、井原、片岡、2-1 島原(長崎)、黒瀬(広島) 3-0 徳島

【女子】団体1次リーグC組 那賀(徳島) 朝田、川田、濱本、大城、楡田、3-0 湖東(島根)、那賀川(朝田)、橋本、濱本、大城、楡田、4-0 甲子園学院



那賀川女子は、個人戦でも16強入りした中堅の濱本(写真)の活躍が光った。1次リーグ1回戦の湖東戦ではメンとコテで二本勝ち。2回戦の強敵・甲子園学院戦でも一本勝ちを収め、「齋先生に教えてもらった相手の弱点を突いていた」と声を弾ませた。

安浦との決勝トーナメントでは代表戦に臨んだが、一瞬の隙を突かれてコテを奪われ試合終了。「油断していた」と唇を

9月7日

東悠会Bが初優勝 団体

剣道

県女子大会

剣道の第36回徳島県女子大会は6日、県立中央武道館で開かれた。9チームで争った団体戦は東悠会Bが初優勝。個人戦には15人が出場し、29歳未満は平野千尋(警察支部)、30歳以上は塚原裕美(教員剣美会)が制した。(平尾貴宏)

【団体】1回戦 阿南支部1-0 日里化等2回戦 川高剣美会A 0(代表勝ち) 0 教員剣美会 東悠会A 3-0 悠和会、川高友会B 2-0 小松島支部、東悠会B 1-0 阿南支部 準決勝 川高剣友会A 1(代表勝ち) 1 東悠会A、東悠会B 1-0 川高剣友会B

△決勝
東悠会B 2-0 川高剣友会A
青木メコ 北村
金野 玉田
近藤 メー 岩木



団体決勝・東悠会B対川高剣友会A 大将戦で積極的に攻める東悠会Bの近藤(左) 県立中央武道館

【個人】29歳未満々決勝 平野(警察支部)メコ 伊勢(阿南支部)青木(東悠会)ドメー

▽決勝
野メメー 福田
川田(小松島支部)、酒井(小松島支部)メー 村田(日里化) 平野メメー 福田
△30歳以上準決勝 福田(教員剣美会)ドメー 紅露(悠和会)、

塚原(教員剣美会)メコ 安藝(悠和会)

▽決勝
塚原 メー 福田

〇：富岡東高のOGで積極的攻め実る

つくる東悠会Bが初出場で初優勝を果たした。大将の近藤は7月の全国都道府県対抗大会で8強入りした徳島の副将を務めた実力者で、この日も安定感のある戦いぶりであり、決勝の相手は県連盟の合同練習などで一緒に稽古する経験豊かな選手たち。手の内の知れた間柄だけにやりづらさもなかった。先鋒(せんぽう)青木が勝った後、次鋒金野が引き分け。引き分けでも優勝が決まったが、近藤は積極的に前に出て得意のメンで1本勝ちを収めた。「胸を借りるつもりで思い切り攻めたのが良かった」と満面の笑顔で汗を拭いた。

第70回国民体育大会「紀の国わかやま国体」第10日は5日、和歌山県などで行われた。徳島県勢は2競技に出場し、剣道成年男子の徳島が5位入賞した。成年男子の入賞は、1993年の東西国体での1部3位、2部優勝以来22年ぶり。また、陸上の成年女子1万5000歩で湖瀬真

第10日
2015 紀の国 わかやま 国体

寿美(大塚製薬)が4位に入った。開催地の和歌山は、最終日の6日を残して4年ぶり2度目の男女総合優勝(天皇杯獲得)を決めた。東京の3年連続20度目の女子総合優勝(皇后杯獲得)も確定した。天皇杯と皇后杯を別々の都道府県が獲得するのは2年連続となった。

成年男子 5位入賞

剣道

【那智勝浦体育文化会館】
【成年男子】2回戦

徳島3-2山	徳島3-2福	徳島3-2山	徳島3-2福
白木1-0柴田	白木1-0福	白木1-0柴田	白木1-0福
大石1-0大石	大石1-0福	大石1-0大石	大石1-0福
山室1-0福	山室1-0福	山室1-0福	山室1-0福
平野1-0福	平野1-0福	平野1-0福	平野1-0福
福多1-0福	福多1-0福	福多1-0福	福多1-0福
福多1-0福	福多1-0福	福多1-0福	福多1-0福

○登原メコ
○杉山ド
○田中ヨ
○福多
○山室
○平野
○徳島

▽決勝
和歌山3-0愛媛
和歌山は初優勝。

兄弟対決が実現
○成年男子2回戦の

チームワークで 22年ぶりの快挙

8強入りを決めると、ワークで勝てた。と汗を流した徳島の成年男子の選手たち。初戦の回戦を爆発させた。福岡を相手に2-1で迎えた大將戦。福多(城北高教)は上段の構えから攻め続けた。開場直々に一本を奪ったが追い付かれて決着がつかず、延長10分、相手の隙を突いて鋭いコテを決めた。「死に物狂いで戦った。たまたま僕が最後を決めたけど、チーム

平野(徳島県警)は、崖っぷちから大將戦に挑んだ。それだけの試合で選手がカバールし合い、勝利に貢献した。

地元和歌山との準々決勝で敗退したものの、入賞は本県開催の東西国体以来、以後、ベスト16まで進むことはあっても入賞には届かなかった。週2回の練習会を開くなど、地道に続けてきた強化策が実り、22年ぶりの快挙につながった。

西谷隆監督は「この数年で最強のチーム。各選手が持っている力を出し切った結果」と5人をたたえた。(宮本真、写真も)



成年男子3回戦・徳島対福岡。大將戦を制し5位入賞を決めた徳島の福多(右)那智勝浦町体育文化会館

徳島少年剣道教室がV7

剣道



徳島市少年錬成大会
団体の部を制した徳
島少年剣道教室

第22回徳島市少年錬成大会(9月6日・徳島文理中高剣道場)は徳島市

内の道場の小学生剣士が参加して行われ、団体の部では徳島少年剣道教室が7連覇を達成した。

- 【団体】①徳島教室(先鋒 片岡恭二朗、次鋒 長尾紗珠、中堅 添木陽、副将 佐藤廉之助、大将 塚田海稀)②養武館③井上教室▽敢闘賞 潤東教室
- 【個人】1・2年の①谷本真智子(佐吉)②鈴木葵二(潤東教室)③榎本まのん(佐吉)▽敢闘賞 中山小春(加茂名教室)▽3・4年の①佐藤和(徳島教室)②島田輝(徳島教室)③前野稔介(北井上教室)▽敢闘賞 楠本悠太(徳島教室)▽5・6年の①川真一(徳島教室)②高岡大輝(潤東教室)③山室愛子(徳島教室)▽敢闘賞 金森剛大(徳島教室)

10月12日

剣道

◆第43回阿北会(9月21日・右井中)

- 【男子】中学①徳島A(先鋒 熊橋知晃、次鋒 高橋和也、中堅 井原拓、副将 大空航、大将 片岡俊人)②徳島B③阿波A

10月26日



【上】阿北大会で1位になった高校男子の城北A
④と女子の城北【下】中学を制した男子の徳島A
⑤と女子の石井A

- ③藤井 高校①城北A(先鋒 西條賢太、次鋒 村本悠太、中堅 鳴川 介、副将 熊橋啓司、大将 川島州)②徳島科技③徳島北A④川島
- 【女子】中学①石井A(先鋒 藤原若葉、次鋒 井直子、中堅 井行譜翼、大将 木田あかり)②川島③阿波西・池田・脇町
- ④村本步美佳、副将 峰慶乃、大将 堀井乃々花)の徳島・徳島文理⑤城東⑥県立川島・鴨島東⑦高校⑧城北(先鋒 堀井乃々、次鋒 東條愛果、中堅 田淵南帆、副将 井行譜翼、大将 木田あかり)

弊社取締役会長
徳島県剣道連盟常任理事 居合道教士七段
父岸田光博儀 十月二十七日六十七歳にて
急逝いたしました。ここに生前のご厚誼を深謝し
謹んでご通知申し上げます。

なお通夜・告別式は左記の通り仏式にて執り
行います

記

一 通夜 十月三十一日 午後六時～
二 告別式 十一月一日 午前十時～正午(出棺)
二場 所 石井ベルベ玉鳳院(名西郡石井町石井)
平成二十七年十月三十一日

名西郡石井町石井字石井四〇七一六
徳島県剣道連盟会長
葬儀委員長 三木 毅
喪主(長女) 川田 博代
親戚一同
岸田工業株式会社

11月10日

男子 鳴川(城北) V
女子 丸岡(富岡)

剣道 県高校選手権
剣道の第49回徳島県高校選手権は8日、鳴門イシヨイ武道館で男子125人、女子43人が参加して個人戦が行われた。男子は鳴川一介(城北)、女子は丸岡由理奈(富岡東)が優勝した。男女の上位8人が四国大会(来



「相手の突きを驚

年2月6、7日・愛媛県武道館)に出場する。
(藤島慶祐)
【男子】準々決勝 美馬(城北)メー1 山田(徳島文理)、鳴川(城北)メー1 中村(阿南工)、竹森(阿南工)ツ1 秋田(徳島)野(徳島)メー1 菅原(鳴門)準決勝 鳴川メー1 美馬、竹森メー1 坂野
▽決勝
鳴川メー1 竹森
【女子】準々決勝 片岡(富岡東)メー1 山崎(富岡東)、猪野(富岡東)ツ1 東條(城北)、丸岡(富岡東)ツ1 長谷川(高岡西)堤(城北)メー1 田川(城北)▽準決勝 猪野、片岡、丸岡メー1 堤
城北・鳴川一介(男子)猪野(女子)が昨年準々決勝で敗れた。猪野にリベンジを果たした。「立ち上がりから足を使って攻めることができた。自分のペースで試合を進められた」と丸岡は興奮。高校では初となる個人戦での県大会制覇



女子決勝 メンを決めて優勝した富岡東の丸岡(左)鳴門イシヨイ武道館

戒しながら最後まで集中力を保てたのが良かった。もちろ強く打ち込めるように練習する」リベンジ果たす

○富岡東勢の対決となった女子決勝は、丸岡が昨年準々決勝で敗れた猪野にリベンジを果たした。「立ち上がりから足を使って攻めることができた。自分のペースで試合を進められた」と丸岡は興奮。高校では初となる個人戦での県大会制覇



反省を踏まえ、試合開始から

に、ほとんどした様子だった。昨年は猪野の緩急をつけた攻めにリズムをつかめなかった。その

心はない。丸岡は「1試合ずつ丁寧で戦うだけ」と表情を引き締めた。



剣道の全日本選手権で初優勝した

にしむら ひでひさ
西村 英久さん



苦しいことを乗り越えた経験が出た

2度目の挑戦で念願の日本一に輝いた。社会人5年目の26歳の剣士は「多くの方に支えられてきたおかげでここまで来られた。夢の言葉を繰り返した。」と感謝の言葉を繰り返した。大分県中津市出身。両親に連れられて知人の道場を訪れたのをきっかけに、小学3年で剣道を始めた。「初めは先生や両親に頼られたくてやっていた」。中学では3年間とも全国大会を経験したが、タイトルには無縁だった。取り組みに変化が表れたのは高校の進学先を考えた時だった。自分が破ったことのある選手が中学1位になった姿を見て「やっと日本一を目指したい」と思うようになった。強豪の熊本・九州学院高を経て筑波大に進み、才能を磨いた。大学3年時には学生王者に輝いた。熊本県警入り後の3年間は全日本選手権に出られず「弱くなったと言われていたのを感じていた」と焦りを募らせた。心身両面で自らを変えるために取り組んだのは減量。独身でコンビニ調達が当たり前だった食事をサラッととプロテイン中心の生活に改め、100キロ以上あった体重をことし5月ごろには87キロまで落とした。「純粹に足さばきが軽いし、苦しいことを乗り越えた経験も効果に出た」と胸を張る。趣味とする海外サッカーのテレビ観戦を通して「勝負には俺が俺がというずぶとときが大切」と感じながらも、武道で頂点に立つ重みを大切にしている。「武士道を大切にして、彼が日本一で良かったと思える人間になりたい」と謙虚さを忘れな

11月14日

11月14日

剣術通じ国際交流

幕末の剣客・千葉周作が開き、坂本龍馬らも修業した北辰一刀流の四国本部道場に認定されている「寶壽館」（吉野川市山川町久宗）に、同流派ラスベガス支部から米国人門下生2人が訪れ、日本の門下生と稽古で親睦を深めた。千葉家正伝第7代宗家の椎名市衛さん(62)「茨城真龍ヶ崎市」を通じて実現。日米の門下生は、交流を続けることを約束した。

訪れたのは、いずれ古に汗を流した。もラスベガス市在住の同剣道クラブは20ジャック・キーンさん 08年に設立。指導者(41)「セラピスト、剣として招かれた椎名さん道場」と、スタニラさんが、道場建築を多くス・インタルトさん 手掛けていることから(38)「建築家、剣道」 龍ヶ峯道場の建設の依段。北辰一刀流のラスベガス支部「龍ヶ峯道場」で活動するラスベガス支部になった。15年7月に四国本部道場ができたことを知ったキーンさんとインタルトさんが「稽古に生口人と一緒に椎名さん訪れたい」と椎名さんらから基本動作や発声を通して申し込み、快声方法、型を学び、稽諾された。

北辰一刀流道場・寶壽館(吉野川市)

米支部の門下生2人来日



稽古をする(右から)インタルトさんとキーンさん。椎名さん(左端から2人目)と日和田さん(左)が指導した。吉野川市の寶壽館

寶壽館の日和田慈海さん(37)「吉野川市職員の、醫光寺副住職、剣と語った。2人は稽古道6段」は「剣術を通じた国際交流ができる」と思わなかった。新たな。(藤川佳宏)

なつなかりを大切にしたい」と話す。キーンさんは「寶壽館での稽古はレベルが高く、学ぶことが多い。互いに行き来で

徳島が初優勝



国際親善大会の地区対抗で優勝した
近畿代表の徳島

剣道

第12回国際親善大会
(10月31日、11月1日・
徳島市立体育館)は台湾
や韓国などから144人
が参加して行われた。近
畿代表の徳島(先鋒Ⅱ敦
賀晋平、次鋒Ⅱ磯部健

治、中堅Ⅱ山本泰史、副
将Ⅱ山田耕司、大将Ⅱ米
倉滋)は地区対抗決勝で
関東Aを3-2で下し初
優勝した。

◇徳島県関係

▽団体準々決勝 徳島3-0台
湾△準決勝 徳島2-1関東B

▽決勝 徳島3-2関東A

【男子】個人準々決勝 田頭
(関東)×1 磯部健治

◆徳島山ライオンズクラブ第45
回徳島県小・中学生大会
(9月22日・徳島市立体育館)
▽団体小学生低学年①那賀川教
室わかあゆ会②藍住スポーツ少年
団③徳島教室④小松島少剣Ⅱ高学
年⑤徳島教室⑥鳴門市光武館③藍
住スポーツ少年団④小松島少剣
【男子】中学団体①那賀川②小
松島③市立川島④木頭▽個人小学
生低学年①栗田星舞(那賀川教室
わかあゆ会)②野尻壮馬(山川修
錬館)③近藤正輝(石井)④山本
優光(徳島教室)▽高学年①富田

将太郎(北井上教室)②松田車大
(小松島少剣)③佐藤廉之助(徳
島)④美馬雄大(酒東教室)▽中
学①吉田晴哉(阿波)②大城穂高
(那賀川)③一楽泰志(徳島文
理)④桂林太郎(小松島)
【女子】中学団体①那賀川②阿
南③石井④城東▽個人小学生低
学年①武蔵小春(徳島至誠館)②
長尾紗弥(徳島教室)③小山田奈
央(小松島少剣)④田窪飛奈(海
部川教室)▽高学年①河野菜々子
(那賀川教室わかあゆ会)②塚田
志緒(徳島教室)③岡崎理(鳴門



徳島県小・中学生大会
の入賞者

市光武館)③山室愛子(徳島教
室)▽中学①田村真尋(坂野)②
檜田胡桃(那賀川)③井本萌香
(徳島文理)④和田津凜紅(鳴門
二)

阿南市Bが優勝 小学団体

個人は徳島至誠館勢V

剣道

女①朝田萌香(徳室誠館)②
檜曾胡桃(小松島少剣)③田村眞
尋(和田馬)④馬見理子(新野
教室)

第33回徳島県スポーツ少年団交流大会兼第38回全国スポーツ少年団交流大会徳島県予選(12月6日・鳴門ソイジョイ武道館)が行われた。団体は阿南市B(先鋒Ⅱ倉橋秀汰、次鋒Ⅱ松葉佳香、中堅Ⅱ尾畑翔、副将Ⅱ山田莉子、大将Ⅱ田上力)が優勝。個人男子は飯田翔太、女子は朝田萌香の徳島至誠館勢がそれぞれ1位となった。団体と個人男女各1位は全国大会(来年3月26、29日・鹿児島市)に出場する。

12月21日

男女9部門 代表決まる

12月21日



男子大将の部決勝でコテを打ち込む高木④
=鳴門ソイジョイ武道館

剣道 都道府県対優勝大会予選 剣道の全日本都道府県対抗優勝大会徳島県予選は20日、鳴門ソイジョイ武道館に男女58人が参加して個人戦が行われ、男子5部門、女子4部門の県代表が決まった。

男子は次鋒Ⅱ(ぼろ)が西田凌介(日体大)、5将・片山将志(刑務所支部)、中堅Ⅱ白木恒(匿名刑務所支部)、副将・鳴川善人(刑務所支部)、大将・高木壽史(小松島支部)となつた。先鋒は11月の

県高校選手権で頂点に立つた鳴川了介(城北)が務める。3将の予選は25日に県警察学校で行つた。女子は次鋒・玉田理沙(日体大)、中堅・平野千尋(警察支部)、副将・近藤夏子(名西支部)、大将は出場1人で北村環(阿波支部)に決まった。先鋒は来夏の県高校総体個人戦の優勝者が出場する。

全日本大会は男子が来年4月29日に大阪市中央体育館、女子が7月16日に日本武道館で行われる。(宮本真)

【男子次鋒次生準決勝 野(警察支部)メー 伊勢 阿

女子次鋒・玉田(決勝)は、自分の大学(日体大)は普段通り練習しているので自信はあった」

女子副将・近藤(3度目の全日本)は、昨年の全日本大会で自分が出て準決勝進出を逃し悔しかった。今年、今度の代表は、強い選手が多いので頑張りたい」

西村初の頂点

剣道

全日本選手権

63回全日本選手権は3日、東京・日本武道館で64人によるトーナメント

決勝で勝見⑤に2本目の面を決め初優勝した西村⑥日本武道館



で争われ、西村英久5段(熊本県警)が初優勝した。勝見洋介5段(神奈川県警)との決勝は中盤で続けざまに2本の面を決め、頂点に立った。昨年、史上最年少優勝

3段(中大)は準決勝で西村に屈した。	▽準々決勝	西村⑥ 反	安藤④
		熊本県警	北海道警
		梅ヶ谷③	高見⑤
		中 太	神奈川県警
		竹下⑤	正代⑥
		天分県警	警視庁
		勝見⑥	佐賀県警
		神奈川県警	
▽準決勝		西 村 反	梅ヶ谷
		勝 見 メー	竹 下
▽決勝		西 村 メー	勝 見

日本一に上り詰めた。26歳の西村は準決勝止まりだった昨年の悔しさを晴らした。「テレビで見ると勝ててうれしいし、ほんとに勝っている」と顔をくしゃくしゃにした。竹ノ内の連覇を阻んで勝ち上がった勝見が決勝の相手。開始4分すぎ、間合いの探り合いから一瞬の隙を逃さず飛び込んで面を先取した。そして再開の声が掛かった瞬間「ここで飛び込んだら虚を突ける」とひらめき、再び面を決めた。「今までやってきたことを無心で出せた」と誇らしげに話した。

徳島県少年錬成大会を制した徳島少年剣道教室



徳島少年剣道教室V



記録・情報は本社運動部まで
早めにお届けください。

電話 088 (655) 7231
FAX (0120) 333414
メール awaspo@topics.or.jp

剣道

第46回徳島県少年錬成大会(11月15日・鳴門イシヨイ武道館)は32チーム、68人が参加して行われ、団体は徳島少年剣道教室(先鋒Ⅱ古川、次鋒Ⅱ添木、中堅Ⅱ山室、副将Ⅱ佐藤、大将Ⅱ塚田)が頂点に立った。

【団体】決勝トナメント準々決勝 徳島教室3-1吉野川教室、小松島少剣3-0大野小、鳴門市光武館2-1養武館、徳島室誠館2-1北井上教等▽準決勝 徳島教室2(本教勝)2-小松島少剣、徳島室誠館2-鳴門市光武館▽決勝 徳島教室1-0徳島室誠館

豊崎音(加茂教等)、引田良太(那賀川教等わかあゆ会)コヌ | 小笠原翔(阿南教等)、原拓海(小松島少剣)メー | 米津橋高(龍住)▽準決勝 岩谷コト▽清原、原メー | 引田▽決勝 原メー | 岩谷

◆第62回丹生谷大会 (11月21日・相小)

【団体】小学校①相生龍虎館A②木頭錬心館A③鷲敷武館A▽中学校①②木頭③勝必木頭B②勝1敗③鷲敷1勝3敗④相生3敗

【個人】小学1・2年①松本奏利(木頭錬心館)②西村洸人(鷲敷武館)③米田有輝(相生龍虎館)▽3・4年①山下悠人(木頭錬心館)②米田安里(相生龍虎館)③吉岡健心(鷲敷武館)▽5・6年①中村元(木頭錬心館)②鹿谷誠(相生龍虎館)③米田賢司(相生龍虎館)▽中学校1・2年①中田洗輝②木電1期③岡部晴泰 | 以上未頭



坂本龍馬旗全国少年錬成大会で3位に入った那賀川剣道教室わかあゆ会の(左から)和泉、倉橋、栗田、二宮、河野

那賀川わかあゆ会3位

小学校
団体の部

剣道

第11回坂本龍馬旗全国少年錬成大会(12月20日・高知県香南市)は145チームが参加して行われた。徳島県勢は那賀川剣道教室わかあゆ会(先鋒Ⅱ和泉敬渉、次鋒Ⅱ倉橋美妃、中堅Ⅱ栗田空舞、副将Ⅱ二宮寛将、大将Ⅱ河野菜々子)が小学校団体の部で3位入賞を果たした。

剣道

◆選抜競争第32回新野少年錬成大会 (12月23日・新野中)

新野少年錬成大会団体でアベック優勝した那賀川剣道教室わかあゆ会

- 【団体】男子の那賀川教室わかあゆ会(先鋒Ⅱ和泉敬渉、中堅Ⅱ二宮寛将、大将Ⅱ栗田空舞)②鳴門市光武館③小松島少剣A③相生龍虎館④女子の那賀川教室わかあゆ会(先鋒Ⅱ倉橋美妃、中堅Ⅱ上山美月、大将Ⅱ河野菜々子)②徳島至誠館③小松島少剣③牟岐
- 【個人】小学1年の松本泰利(木頭)②大塚仁葉(光武館)③中川通等(鴨島)③藤原空(和田島)▽2年の岩本響(至誠館)②渡辺日期(和田島)③仁尾徳之進(わかあゆ)③吉岡隼(小松島)▽3年の本庄創(大野)②橋本和馬(小松島)③山下悠人(木頭)③桑原康輔(わかあゆ)▽4年の栗田星舞(わかあゆ)②羽坂颯真(わかあゆ)③仁尾徳孝(わかあゆ)③米田安里(龍虎館)▽5年の尾畑翔(わかあゆ)②岩台愛夢(和田島)③千葉陸登(光武館)③小島理奈(わかあゆ)

- ゆ▽6年の後藤浩也(至誠館)②中村元(木頭)③小澤日向(牟岐)③谷音(吉野川)



2月1日

海外剣士育成に一役

県警・山室警部補 フランスに派遣へ



派遣中は主にパリに滞在し、フランス代表チームのコーチとして素振りや足さばきなどの基本動作のほか、間合いの取り方といった実戦的な指導も行う。国内各地の道場に向いて少年剣士や愛好家の育成にも携わる。

フランスに派遣される山室警部補—徳島市の県警察学校

代表チームや「少年らを指導 魅力伝えたい」

徳島県警機動隊に所属し、県警の剣道特別訓練員の監督を務める山室雅幹警部補(41)―北島町鯛浜―が2月8日から3カ月間、フランスに指導者として派遣される。剣道の普及を目指す全日本剣道連盟(東京)の講師派遣事業の一環で、剣道七段の腕前を生かして同国代表チームの指導や少年剣士らの育成に当たる。山室さんは「選手らの競技力はもちろん、自らの指導力向上にも役立てたい」と意気込んでいる。

み、2015年4月に県警の剣道特別訓練員の監督に就任。これまでに全国警察剣道大会優勝や国民体育大会入賞の実績がある。1963年ごろから講師派遣事業を続けている全剣連にフランス剣道連盟から要請があり、大会での成績や指導力などから山室警部補が選ばれた。徳島県警からの講師派遣は、98年のフィンランドに次いで2人目。山室警部補は「言葉の壁はあるが、剣道の魅力や礼儀作法の大切さを伝えたい。早く現地の選手を見てみたい」と意欲を燃やしている。(富士佳輝)

剣道

徳島至誠館制す 1・2年 5・6年



【左】有賀秀敏先生追悼大会団体1・2年と5・6年を制した徳島至誠館【右】3・4年生1位の大野小剣道部

有賀秀敏先生追悼大会
 (1月11日・阿南市武道館)は県内64チームが参加して団体戦を行い、小

2月29日

学1・2年は徳島至誠館(先鋒II大和優星、大将II岩本響輝)、3・4年は大野小剣道部(先鋒II村橋烈、中堅II本庄創思、大将II天羽勇翔)、5・6年は徳島至誠館A(先鋒II後藤浩也、中堅II岩本楓華、大将II松葉佳香)が制した。
 ▽小学・2年の徳島至誠館の吉野川教室の那賀川教室わかあゆ会Aの阿南教室A▽3・4年の大野小の那賀川教室わかあゆ会A③小松島少剣A③那賀川教室わかあゆ会C▽5・6年の徳島至誠館Aの那賀川教室わかあゆ会A③吉野川教室A③北井上教室



平成二十八年年度

剣道・居合道昇段審査 学科試験問題・解答例

※平成二十八年年度は、以下の問題より各段二問
出題されます。

この試験問題と解答例は、あくまで自分の
剣道修行の参考のために記述したものである。
名称等、正確に記憶しておかねばならない事
柄もあるが、試験問題の多くは、今の自分の
レベルで考え、自分の言葉で表現することを
求めている。決して、試験のためだけに丸暗
記して、こと足りえたと思わないでもらいた
い。

学科問題においても、正々堂々、真剣勝負
の気迫で取り組み、今の自分のありのままを
表現すべきである。また、そのことが採点者
の高い評価を受けることにつながることも付
記しておく。

【剣 道】

※ 初段の部

① 中段の構えの姿勢で注意することを書きなさい。

- (1) 肩を落として背筋を伸ばす。
- (2) 首筋を立てて顎を引く。
- (3) 腰を入れて下腹部にやや力を入れる。
- (4) 両膝を軽く伸ばして、重心を両足の中間にかけて立つ。
- (5) 目は全体を見つめる。

② 三つの間合を説明しなさい。

間合とは自分と相手の距離をいう。間合には、一足一刀の間合、遠い間合、近い間合の三つがある。

(1) 一足一刀の間合⇨剣道の基本となる間合で、一歩踏み込めば相手を打突することが出来る距離であり、一歩さがれば相手の打突をかわすことが出来る距離である。

(2) 遠い間合(遠間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より遠い間合で、相手が打ち込んできてもとどかないが、同時に自分の打突もとどかない距離である。

(3) 近い間合(近間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より近い間合で、自分の打ちが容易にとどくかわりに、相手の打突もとどく距離である。

③ 基本打突や技の稽古で気をつけることを書きなさい。

- (1) 正しい姿勢で、気を充実させ、互いの攻め合いから打突する。
- (2) 適切な間合をとって、確実に気剣体一致の有効打突となるようにする。
- (3) はじめは「ゆっくり、大きく、正確に」を主眼とし、習熟するにしたがって「速く、強く、より正確に」打突できるようにする。

④ 日本剣道形で使われている「五つの構え」について書きなさい。

- (1) 中段の構え⇨すべての構えの基礎となる構えで、攻防に最も適した構えである。
- (2) 上段の構え⇨太刀を頭上に振りかぶり、相手の気を圧して、捨て身で攻撃する性格をもつ構えで、諸手左上段・諸手右上段がある。
- (3) 下段の構え⇨剣先をさげて自分の身を守りながら、相手の変化に応じて攻撃に転ずる構えである。
- (4) 八相の構え⇨太刀を大きく右肩にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方によって攻撃にでる構えである。
- (5) 脇構え⇨半身になりながら太刀を右脇にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方に応じて臨機応変に攻撃に転ずる構えである。

⑤ 「切り返しの目的」を述べなさい。

切り返しは、正面打ちと連続左右打ちを組み合せ、基本動作を総合的に練習するためのものである。姿勢や構え、打ちの刃筋や手の内の作用、足さばき、間合いの取り方、呼吸法、さらに強靱な体力や旺盛な気力を養い、気剣体一致の打突の習得を目的とする。

※ 二段の部

① 「剣道で礼儀を大切に理由」について述べなさい。

剣道を修練する上で、互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くためのよき協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんのこと、終始、正しい心、慎みの心といった礼の本体を離れることなく、素晴らしい剣道を創造していくうえで、礼儀は大切な要素である。

② 「打突の好機」について説明しなさい。

打突の好機はたくさんあるが基本的には次のとおりである。

- (1) 相手の動作の起り頭(出ばな)
- (2) 技の尽きたところ(動作や技が終わったと

ころ)

- (3) 居ついたところ(身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき)
- (4) 引き端(退がるところ)
- (5) 受け止めたところ(受け止めた時に隙が生じる)
- (6) 息を深く吸うところ(息を吸うときは、相手の動作が止まる)

③ 「稽古で心掛けなければならないこと」とは、どのようなことか述べなさい。

- (1) 竹刀の点検、準備運動、整理運動をはじめとした安全面に留意する。
- (2) 大きな目標や研究心をもって取り組む。
- (3) 礼儀作法を重んじる。
- (4) 立会いの「初太刀」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な気力で、精魂を込めて稽古をする。
- (5) 基本に忠実に稽古をする。
- (6) しかけていく技を積極的に使って稽古をする。
- (7) 稽古後は反省し、工夫・研究を怠らない。

④ 剣道形を実施するときの「足さばき」で気をつけることを書きなさい。

足さばきとは、相手を打突したり、相手の攻撃をかわしたりするための足の運び方である。日本剣道形では、歩み足、送り足、開き足が使われるが、注意点は次のとおりである。

- (1) 足さばきは、すべて「すり足」で行い、踏み込み足は使わない。重心を上下動させず、滑らかに行うことが大切である。
 - (2) 足の運びは、原則として前進するときは前足から、後退するときは後ろ足から動作を起す。
 - (3) 足さばきは、原則として一方の足に他方の足が伴う。特に打突時の後ろ足は残さずに、前足に伴って引き付ける。
- ⑤ 「正しい鍔せり合いと注意点」を説明しなさい。

鍔せり合いとは、相手を攻撃したり相手が攻撃してきたときに間合いが接近して鍔と鍔がせり合った状態をいう。自分の竹刀を少し右斜めにして手元をさげ、下腹に力を入れて自分の体の中心を確実に保つようにする。お互いの鍔と鍔がせり合う中で手元の変化や体勢の崩れから打突の機会をつくる。

- 注意点
- (1) 手元をさげ、下腹に力を入れて腰を十分伸ばす。
 - (2) 首を真っ直ぐに保って相手と丈くらべをする気持ちで相対し、身体が前傾しないようにする。
 - (3) お互いの鍔と鍔がせり合うようにする。
 - (4) 相手の肩に竹刀をかけたり、刃部を身体にかけたりしない。
 - (5) 必要以上に力んだり、気を抜いて休んだりしない。
 - (6) 積極的に技を出すか、分かれるようにする。

※ 三段の部

① 「平常心」について説明しなさい。

物事(事象)の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常心の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たなければならないことを強く求めている。

② 「三殺法」について説明しなさい。

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ずる。

- (1) 剣を殺す⇨相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。
- (2) 技を殺す⇨先手先手と攻め、相手に技をしかける余裕を与えない。
- (3) 気を殺す⇨気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

③ 互格稽古で注意することを書きなさい。

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行く。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行う。

- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突する。

- (4) 間合のとおり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をする。

④ 剣道形の必要な理由と効果について述べなさい。

剣道形は剣道の技術の中でもっとも基礎となるものを選んで定められたもので、剣道形を繰り返し修練することによって、剣道の基本的な礼儀作法や技術、剣の理合を修得することができ、さらに内面的な気の働きの気位といった剣道の原理原則をも心得できる。修練の効果としては次のようなことがあげられる。

- (1) 礼儀が正しく、落ち着いた態度が得られる。
- (2) 姿勢が正しくなり、冷静な判断力が得られる。
- (3) 間合を知り、機敏な動作が修得できる。
- (4) 技について自分の悪い癖がとれる。
- (5) 気合が練られ、充実した気合が得られる。
- (6) 剣道の気位が高まり、風格が備わる。

⑤ 「手の内」について説明しなさい。

剣道でいう、手の内とは、竹刀の柄を持った両手の持ち方を言い、竹刀の握り方、打突したり応じたりするときの両手の力の入れ方、緩め方、釣り合いなどを総合した掌中の作用である。(竹刀の持ち方は、左手は柄頭から小指が出な

いように一ばいに持ち、右手は鏝にふれない程度に持つ、左右両手とも親指と小指と薬指とで握ります。肘は伸びすぎず、両腕の肘関節を柔らかくして軽く柄を握り、ぬれ手拭をしぼる気持ちで両手首をしめ入れるようにし、左右の親指と人差し指の割れ目が竹刀と弦と一直線になるようにします。)竹刀を強く握りしめないで、正しく保持し、手首をリラックスさせることにより、肩、肘、手首、掌へと運動が伝道し、効率のよい鋭い打突が可能となる。(打突に際しては緊張と解緊をたくみに行き、手の内のさえを生み出すよう努力しなければなりません。)

※ 四段の部

① 有効打突について説明しなさい。

有効打突は、剣道試合・審判規則第十二条に、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。言いかえれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機合・体さばき・手の内の作用・強さと冴えが含まれる。要件には、姿勢・氣勢(発声)・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

② 剣道の四戒について説明しなさい。

四戒とは、驚、懼、疑、惑の四つをいい、剣道修業中に、この中の一つでも、心中に起こしてはならないという戒めである。驚は「おどろく」であり、懼は「気づかい」「恐れる」、疑は「あやぶむ」「あやしむ」、惑は「心が乱れる」「思いあやまる」です。

驚⇨予期しない事態に驚いて、心身の活動が乱れ、正常な判断と適切な処置がとれず、為す術のない状態になる。

懼(恐)⇨恐怖のことで、相手を恐れて、精神の活動が停滞し、四肢が震えて自由な動きを失う。

疑⇨相手の気持ちや行動をあれこれと疑い、平静的な判断を下せず、決断がつかない状態である。

惑⇨心の迷いである。心が迷うときは精神昏迷、敏速な判断や軽快な動作をなすことができない。

③ 残心の重要性について述べなさい。

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えになっていなければならぬ。もし、打突した後に油断していたならば、逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後には心を残そうとすれば、かえって残

そうとするとところに心が止まってしまおうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

④ 剣道形を行うときの「木刀の正しい操作」について説明しなさい。

木刀の操作と身体の移動を合理的に行うとともに、充実した氣勢で気剣体を一致させて行うことが要諦である。特に打突をより有効にするためには、次のように刀を正しく操作することが大切である。

(1) 握り方が正しく「切り手」になっている。
 (2) 握りを変えないで、正中線に沿って振り上げて振り下ろす。特に「萎やす」「すり上げる」「支える」「押さえる」ときは、左こぶしを正中線から外さないように注意する。

(3) 振りかぶりと振り下ろしは、一連の動作(一拍子)で行い、刃筋正しく行う。

(4) 打突する瞬間は、小指、薬指、拇指球で軽く握り締め、物打ちで打突部位を正確に打突する。

(5) 振りかぶりや抜き技は、左小指の握りを緩めず、剣先が両こぶしよりさがらないように注意する。

(6) すり上げは、鎧の効用を使って、半円を描く心持ちで行う。

⑤ 熱中症の症状と処置について述べなさい。

高温環境下で発生する障害の総称で、熱疲労、熱痙攣、熱射病の3型に分類される。

熱痙攣は大量の発汗により、汗とともに塩分が失われ塩分不足のために、筋肉の痙攣を起こす。

処置としては、涼しい場所に寝かせ、水分の補給(食塩水、スポーツドリンク等)を行う。

熱疲労は大量に汗をかきすぎることからくる、脱水症状で、全身の脱力感、めまい、血圧低下、ひどい場合は失神する。処置としては、涼しい場所に運び、頭を低くして寝かせる。水や薄い食塩水を飲ませる。

熱射病は熱中症の中でも最も重症で、体温が異常に上昇して、意識障害をおこす。ひどい場合は死亡することもある。処置としては体温をすみやかに低下させることである。冷却法として、涼しい場所に移動、水で身体を濡らし、うちわなどで送風する。また、水水で体表を冷却する、などを行い、意識がはっきりしない場合は救急隊へ連絡する。

※ 五段の部

① 審判員の心得について述べなさい。

剣道試合の審判とは、公正に両者の勝敗を裁決することである。剣道の試合は、剣道発展のための方法であり手段である。従ってその審判は、剣道の正しい発展に沿ったものであり、その発展に役立つように実施されなければならない。

一般的要件

- (1) 公正無私であること。
- (2) 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- (3) 剣道に精通していること。
- (4) 審判技術に熟達していること。
- (5) 健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

- (1) 服装を端正にすること。
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- (3) 言語が明晰であること。
- (4) 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- (5) よい審判を見て学ぶこと。

② 「気位」について述べなさい。

気位とは、自信から生ずる気品、威厳である。技術が円熟し、精神が鍛錬された結果、自然に

備わるものである。竹刀を構え合わせた時、驚懼疑惑の念を生じて恐れちごこまり、戦わないうちに負けた気持ちになるのは、相手の気位に押されて、位負けした結果である。このような気位を故意に真似しようとしても技術、精神が円熟していない限り、かえって隙を生じて、打ち込まれることになり、見苦しい結果になる。技術の進歩、精神の鍛錬の度合いは、自然と気位に現れるので、一朝一夕に備わるものではない。なお自信と慢心とは大いに違うもので、慢心は剣道で最も戒むべきものである。

③ 互格稽古について説明し、指導上の留意点を述べなさい。

技能や気力が同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。指導上の留意点

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行わせる。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。
- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突させる。

- (4) 間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくりかた、技の出し方などを工夫させる。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をさせる。

④ 剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするため、お互いが寸分の緩みのない気の働きのもって行わなければならない。

- (1) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。
- (2) 五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。
- (3) 目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した氣勢、気迫をもって合気で行う。

- (4) 打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。
- (5) 「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。

- (6) 打太刀は一足一刀の間合から打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。
- (7) 振りかぶりは、剣先が両こぶしよりさがないようにし、一拍子で打つ。
- (8) 足さばきはすり足で行い、打突するとき後ろ足を前足に引き付ける。
- (9) 残心は十分な気位をもって行う。

⑤ 剣道における熱中症の予防と対処について述べなさい。

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うつ熱（体熱の放散が妨げられた状態）によっ

て、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害された状態を総称したもので、熱失神・熱疲労・熱痙攣・熱射病などに大別される。剣道では夏場に発生しやすい。最も致命率の高い熱射病では、体温上昇、意識障害、痙攣、血圧低下、発汗停止などの症状をきたす。

予防するには体感温度に注目して剣道場の換気に配慮し、休息を数多くとり、水分、塩分の補給を考慮する。頭痛、めまいなどを訴える者が続発するときは、練習のペースダウンや中止など早めの対応が必要である。

対処方法は、全身の冷却、水分補給、電解質の補給を行うことであるが、応急処置としては、

(1) 全身の冷却

涼しい場所に移動し、衣服を脱がせる。水で身体をぬらし、送風する。

水で体表を冷却したり、頸部、わきの下、脚のつけね、膝のうしろを冷却することも有効である。

(2) 水分の補給

水分や薄い食塩水、またはスポーツドリンクを補給する。

意識障害のあるときは危険なので、体温を下げる応急処置を行いながら救急車を呼んで病院にて治療を行う。

【居合道】

※ 初段の部

① 居合道を習おうとした動機を記せ。

(例は示さない、自分の考えで述べよ。)

② 居合道と礼儀について記せ。

礼儀は人間として、また平和な社会生活をすすめる上で大切であり、ことに武道では昔から「礼に始まり礼に終わる」といわれ、きわめて大切なものとされてきた。技が上達しても、品位や人格が欠けているようでは、ほんとうの居合を習ったとはいえない。居合は日本刀を使っている運動である関係上、万が一にもその使用方法をあやまるようなことがあってはならず、道場だけでなく、日常生活の中でも常に礼儀正しく立派な人格と精神を養う心が必要である。

③ 刀を安全に取り扱うための「目釘」について記せ。

目釘は、刀身と柄を固定する重要な働きをするものである。目釘の素材は、竹・角・生鉄などがあるが、通常は堅い三年を経過した古竹(真竹)材が使用される。目釘は、目釘穴と同

じ太さに削り、頭部分をやや大きくする。目釘の竹の表面側(表)を柄頭方向とし、ガタつきがないよう強く挿入する。練習前には、必ず目釘が抜け落ちたりゆるみがないかを点検して安全を確認しなければならない。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』作法における、

「(一) 携刀姿勢」・「(二) 出場」・「(三) 神座への礼」より穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

※ 二段の部

① 居合道修行の目的について記せ。

居合は初め一種の刀法として始まったが、その目的は精神の鍛錬が第一で、第二に身体の内磨、第三に術技の訓練という順になる。心身の錬磨は剣道と同じだが、その技術は剣道の根本となるものである。つまり刀の運用や礼儀など、すべてが剣居一体のものであり、この修行をするには、自分自身の心身の錬磨、人格の向上につながるものである。

② 柄の握り方について記せ。

柄の握りは、右手は人差し指が柄巻きの一文字にかかるようにし、左手は柄頭を余し親指に

人差し指を付けて握る。両手の握りの間は指二本位(約三〜四セ)で、握る力は小指、薬指、中指の順で強く握り、人指し指と親指には力を入れず切る瞬間、前にぐっと握りしめる。いわゆる茶巾絞りの要領である。

③ 居合道の目付について記せ。

座ったときの着眼は四から五釐先の床とし、立ったときの着眼は、自分の目の高さの前方、一点を見つめるのでなく、遠くの山全体を眺める気持ちで八方に心眼を開き、目は半眼、動作中の着眼は仮想敵の面、又は顔の中心部とする。切り下ろしたときは切先のとを追うようにして倒れた仮想敵を見越した所とする。目はいつも平静でまばたきしたり、目を凝らしたりしてはいけない。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から三本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

※ 三段の部

① 居合道の流派を自己の流派を含め五派以上記せ。

無双直伝英信流、夢想神伝流、伯耆流、無外流、水鷗流、関口流、貫心流、心形刀流、新蔭流、長谷川英信流、大森流、田宮流

② 残心について記せ。

常に油断しない心のことで、敵を斬突したあとも敵に心を残して、次の攻撃に備えて直ちに対応・制圧できるような姿勢・態度・構えをくずさないことをいう。納刀にさいしても、「納刀すなわち抜刀の心」という言葉があるように一動作ごとに気も心も充実させ隙を見せないことが大事である。

③ 自信と慢心について記せ。

修練を重ねた結果、正しく立派な居合が出来るようになること、おのずから自信が湧いてくる。自信をもつことにより平常心を保つことが出来、如何なる場合に於いても心の落ちつきと確かな技前を発揮することが出来、そこには気位も備わってくるものである。しかし心の修業が不十分な者が軽々しく自信をもつことは、これが自負心となり、いわゆる慢心となる。慢心は修業の過程でもっとも戒めるべきものである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から五本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

※ 四段の部

① 居合道の呼吸について記せ。

静かに腹式呼吸する。通常は、一つの技を終えて次の技に移るときは、ゆっくりと二回呼吸して息を整え、三回目の息を吸いおわる頃に刀を抜き始める。そして吸い込んだ息を一気に吐き出し抜刀する。納刀してから軽く吐く。長い技のときは、息継ぎの必要がでてくるが、息を継いだかわからないようにする。呼吸法には個人差があることからそれぞれに工夫が必要である。

② 序破急について記せ。

一般的には「序」はものごとの始まりで、静かなことを現し、「破」とはやぶれること、「急」は激しくなることである。これを居合の術技では刀の運速を表現する用語として用いたもので、刀の運行を三段階に分析し、わかり易く表現したことはよい。抜刀について説明すると、鯉口を切って静かに刀を抜き始めることが序で、しだいに抜刀速度を速めることは破、抜き付けの瞬間を急という。序破急は抜刀ばかり

でなく。すべての術技に序破急の動きを生かさなければならぬ。

③ 気剣体の一致について記せ。

「気」とは、意志とか心の精神作用をいうのであって、心の判断によって動作を起こそうとする決心を指す。「剣」とは、刀の働く作用を指す。「体」とは、体勢で、身体の力、手足の動きを指す。気剣体の三つが一致して腰が不動のものとなり、初めて有効適切に正確な技を出すことができるのである。居合は腰で抜き、腰で切るとまで言われるように腰の安定がもっとも重要であり、常に気剣体を一致させ腰の安定を心がけ修業することが肝心である。心気力の一致、心形刀の一致、心眼足の一致と言われる言葉は皆、同意語で大切な教えの一つである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から七本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(五カ所)による問題を二問出題する。

※ 五段の部

① 真剣の取り扱いについて留意する点を記せ。

居合道において、所有もしくは使用する真剣は、まず登録証が交付されている「登録刀」でなくてはならず、練習時や各種大会の参加時には、必ず登録証(コピーは不可)を携行し、登録刀を譲り受け、もしくは相続、購入した場合は登録証発行の都道府県教育委員会に「二十日」以内に所有者変更届けを提出しなければならぬ。また、体格に合わせて、刀身を短くしたり、樋の無い刀に樋を彫る場合は、都道府県の教育委員会に許可申請等の手続きを終了したのち改造を行い、新たな登録証の交付を受けなければならない。真剣を扱う居合人は少なくとも過失による事故を起こさぬよう、人前での刀の運行は勿論のこと平素から目釘や鯉口の点検、使用後の手入れや保管場所に注意して、常に安全を確保しなければならない。

② 守破離について記せ。

居合道における修業の段階を示したもので、「守」とは修業がある程度に上達するまでは、師の教えを忠実に守り、稽古に励み、理合や技術を修行し、決して他に迷わないこと。「破」とは、修業を積み、学んだ流派の教えを自分のものにし、更に進んで他の流派を学び、長所を採り入れ守の段階では得られなかった新しい分野を開拓すること。「離」とは苦心研究し破の段階を越えて、遂に独自の境地を見出し、自己

の流派をみ出し剣の奥義を極めることであり、守破離の教えは人生の生き方にも同じことがいえる。

③ 居合道と剣道の関係について述べよ。

居合道は日本刀を用いてその刀法、手の内を修練するものであり、仮想する前後、左右ないし斜方の敵に対して鞘放れの一瞬に抜き打ち、又受け流した後、切り下ろして勝ちを納めるもので、いわゆる、そこに居て敵に合わすものである。しかるに居合道と剣道は古来より一流派の中に双方があって表裏一体、車の両輪の如くその理合、目的とするところは一つであって、両道を併せ修行する事によって相乗的にその効果が高められるのである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』における一本目から十二本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(各五カ所)による問題を二問出題する。

平成28年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事				
月	日	曜日	行事	主催
4	3	日	第71回国体一次予選会	9:30~ ソイジョイ武道館 県剣連
	10	日	少年剣道教室指導者講習会	9:30~ ソイジョイ武道館 〃
	15	金	西部交流稽古会	19:00~ 市立川島中学校 〃
	17	日	第41回会長杯争奪高等学校剣道大会	9:30~ ソイジョイ武道館 〃
	23	土	南部交流稽古会	16:00~ 鷺敷B&G体育館 〃
	29	祝金	第1回審査会(剣道 初段以下)	10:00~ ソイジョイ武道館他 〃
5	8	日	剣道中央講習伝達講習会	9:30~ ソイジョイ武道館 〃
	15	日	第68回四国四県剣道大会	9:00~ ソイジョイ武道館 四国連盟
			居合道春季講習会、審査会	9:00~ 松茂町第二体育館 県剣連
	28	土	第45回中学校剣道選手権大会	9:30~ ソイジョイ武道館 中体連
	29	日	第1回剣道 審査会(二段以上)	10:00~ ソイジョイ武道館 県剣連
未	未	国体第二次予選会(女子)	9:30~ 警察学校体育館 〃	
6	4~5	土~日	第56回徳島県高等学校総合体育大会	9:00~ 那賀川スポーツセンター 高体連
	26	日	第2回審査会(剣道 初段以下)	10:00~ ソイジョイ武道館他 県剣連
	未	未	国体第二次予選会(男子)、国体第三次予選会(女子)	9:30~ 警察学校体育館 〃
7	9~10	土~日	第70回徳島県中学校総合体育大会	9:30~ ソイジョイ武道館 中体連
	21~23	木~土	剣道土用稽古	19:00~ 中央武道館他 県剣連
	24	日	第64回全日本剣道選手権大会県予選会 第55回全日本女子剣道選手権大会県予選会	9:30~ ソイジョイ武道館 県剣連
	29	金	第29回徳島県防犯少年柔道・剣道大会	9:30~ ソイジョイ武道館 警察本部
8	6~7	土~日	日本剣道形講習会	9:30~ 中央武道館 県剣連
	20~21	土~日	西日本医科学生体育大会(剣道)	9:00~ アミノリ्यूホール 大学連
	28	日	第3回審査会(剣道 初段以下)	10:00~ ソイジョイ武道館他 県剣連
			剣道 四、五段受審者講習会	9:30~ 中央武道館 〃
			長期育成強化訓練	9:30~ 那賀川スポーツセンター 〃
未	未	国体第三次予選会(男子)	9:30~ 警察学校体育館 〃	
9	4	日	第37回女子剣道大会	9:30~ 中央武道館 〃
	11	日	第2回剣道審査会(二段以上・称号)	10:00~ ソイジョイ武道館 〃
	18	日	居合道伝達講習会、審査会	9:00~ 松茂町第二体育館 〃
	22	祝木	眉山ライオンズ剣道大会	9:00~ 徳島市立体育館 眉山ライオンズ
10	25	日	第22回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	9:00~ 松茂第二体育館 高齢者友会
	1	土	第8回三者対抗剣道大会	13:00~ 池田高校体育館 県剣連
	8	土	第13回徳島県中学校剣道1年生大会	9:00~ ソイジョイ武道館 中体連
	16	日	第4回審査会(剣道 初段以下)	10:00~ ソイジョイ武道館他 県剣連
	23	日	秋季講習会(全剣連後援)	9:30~ ソイジョイ武道館 〃
28	金	西部交流稽古会	19:00~ 脇町小学校 〃	
11	4	金	南部交流稽古会	19:00~ 阿南スポーツセンター 県剣連
	5	土	第40回中学校剣道新人大会	9:30~ ソイジョイ武道館 中体連
	6	日	第50回高等学校剣道選手権大会	9:30~ ソイジョイ武道館 高体連
	13	日	居合道秋季講習会、審査会	9:00~ 松茂町第二体育館 県剣連
			第46回県下少年剣道錬成大会	9:30~ ソイジョイ武道館 〃
	19	土	眉山杯大学剣道大会	9:30~ 徳島文理大学 大学連
	20	日	第3回剣道審査会(二段以上)	10:00~ ソイジョイ武道館 県剣連
27	日	第45回徳島県社会人剣道大会	9:30~ ソイジョイ武道館 〃	
12	3	土	中四国地区剣道合同稽古会	14:00~ 脇町うだつアリーナ 後援全剣連
	4	日	第39回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	9:30~ ソイジョイ武道館 県体協
	10	土	常任理事会	13:00~ 未 県剣連
	18	日	第65回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会 第9回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	9:30~ ソイジョイ武道館 〃
1	7	土	新年役員会、互礼会	14:00~ 未 〃
	8	日	平成29年 稽古始め	9:30~ 松茂町第一体育館 県剣連
	15	日	第60回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	9:30~ ソイジョイ武道館 高体連
	22	日	第27回県下中学校剣道強化錬成大会	9:30~ ソイジョイ武道館 中体連
	26~28	木~土	剣道寒稽古	19:00~ 中央武道館 県剣連
	29	日	第5回審査会(剣道 初段以下) 長期育成強化訓練	10:00~ ソイジョイ武道館 〃 9:30~ 那賀川スポーツセンター 〃
2	5	日	剣道四、五段受審者講習会	9:30~ 中央武道館 〃
	11	祝土	第38回県下高等学校剣道大会	9:00~ 田園パーク (財)落穂園 〃
	12	日	平成28年度理事会	13:00~ 未 県剣連
	19	日	第4回剣道審査会(二段以上、称号) 居合道県下大会、審査会	10:00~ ソイジョイ武道館 〃 9:00~ 松茂町第二体育館 〃
3	4~5	土~日	第11回四国中学校剣道新人大会	9:00~ 阿波中学校 四国学剣連
	12	日	平成28年度 総会	13:30~ 未 県剣連
	19	日	高段位受審者研修会	9:30~ ソイジョイ武道館 〃
	24	金	南部交流稽古会	19:00~ 阿南武道館 〃
	26	日	平成29年度審査員講習会	9:30~ ソイジョイ武道館 〃

月	日	曜日	《全剣連 居合道審査会》	場所	主催
4	9	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	全剣連
5	3	祝火	八段審査会	京都市	〃
			称号(範士・教士・錬士)		
6	10	金	七・六段審査会	三重県	〃
7	8	金	七・六段審査会	香川県	〃
11	12	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	〃
	19	土	七・六審査会	東京都	〃
	22	火	称号(教士・錬士)	〃	〃

月	日	曜日	《全剣連 剣道審査会》	場所	主催
4	9	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	全剣連
	29	祝金	六段審査会	京都市	〃
	30	土	七段審査会	〃	〃
5	1~2	日~月	八段審査会	〃	〃
	6	金	称号(範士・教士・錬士)	〃	〃
	14	土	七段審査会	名古屋	〃
	15	日	六段審査会	〃	〃
8	20	土	七段審査会	富山県	〃
	21	日	六段審査会	〃	〃
			六段審査会	北海道	〃
	27	土	七段審査会	山口県	〃
	28	日	六段審査会	〃	〃
11	12	土	教士称号筆記試験 七段審査会	兵庫県他 名古屋	〃 〃
	13	日	六段審査会	〃	〃
	21~22	月~火	八段審査会(日本武道館)	東京都	〃
11	23	水	称号(教士・錬士)	〃	〃
	23~24	水~木	七段審査会(東京武道館)	〃	〃
	25	金	六段審査会	八王子市	〃

月	日	曜日	《県外行事》	場所	主催
4	2~3	土~日	第51回西日本中央講習会	兵庫県	全剣連
	9	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
	17	日	第14回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋市	全剣連
	29	祝金	第64回全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	全剣連
5	2~5	月~木	第112回全日本剣道演武大会	京都市	全剣連
	28~29	土~日	第21回女子審判講習会	勝浦市	全剣連
6	6	月	第38回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	12	日	第55回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
	8~12	水~日	第54回中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
	18~19	土~日	四国高等学校総合体育大会	高知県	高体連
	18	土	中、四国地区剣道合同稽古会	松山市	後援 全剣連
7	2~3	土~日	第64回全日本学生剣道選手権大会 第50回全日本女子学生剣道選手権大会	東京都	学剣連 後援 全剣連
	9~10	土~日	居合道地区講習会	香川県	全剣連
	16	土	第8回全日本都道府県女子剣道優勝大会	東京都	全剣連
			中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
	23~24	土~日	平成28年度 全日本少年少女武道錬成大会	東京都	共催 全剣連
	24~29	日~金	平成28年度 玉竜旗高校剣道大会	福岡市	後援 全剣連
26~27	火~水	第51回全日本少年剣道錬成大会(道場)	東京都	後援 全剣連	
8	3~5	水~金	第63回全国高等学校総合体育大会	岡山市	共催 全剣連
	7	日	第53回四国中学校総合体育大会	香川県	中体連
	9	火	第58回全国教職員剣道大会	那覇市	共催 全剣連
	19~21	金~日	第46回全国中学校剣道大会	長野市	共催 全剣連
9	21	日	国体四国ブロック大会	愛媛県	四国連合会
	3	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高松市	後援 全剣連
	3~4	土~日	第43回居合道中央講習会	京都府	全剣連
9	11	日	第55回全日本女子剣道選手権大会	長野市	全剣連
	18	日	第62回全日本東西対抗剣道	福島県	全剣連
			第11回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会	大阪市	後援 全剣連
10	8~10	土~月	第71回国民体育大会剣道大会	岩手県	主管 全剣連
	15~17	土~月	第29回全国健康福祉祭剣道交流大会	長崎県	後援 全剣連
	22	土	第51回全日本居合道大会	東京都	全剣連
	29	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
11	3	祝木	第64回全日本剣道選手権大会	東京都	全剣連
	12~13	土~日	第65回全国青年剣道大会	東京都	主管 全剣連
12	2~4	金~日	第111回剣道社会体育指導員養成講習会(初級)	高知市	全剣連
	4~5	土~日	第17回四国高等学校剣道新人大会	香川県	四国学剣連
	18	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
2	25~26	土~日	第2回女子剣道指導法講習会	兵庫県	共催 全剣連
	18	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高知県	後援 全剣連
	3	25~27	土~月	第39回全国スポーツ少年団剣道交流大会	名古屋市
27~28		月~火	第26回全国高等学校剣道選抜大会	春日井市	共催 全剣連

☆徳島県剣道連盟 稽古会《中央武道館》
 木曜日 19:00~ 小・中・高・一般 基本/指導稽古 20:00~20:45 高・一般 合同稽古
 (第一木曜日 19:00~日本剣道形 20:00~21:00 高・一般 合同稽古)
 *稽古会休みのお問合わせは、事務局またはホームページでご確認ください。

徳島県剣道連盟 (執務時間 平日午前10時~午後4時)
 〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106号 TEL 088-652-2337・FAX088-652-2360

平成 28 年度 級位・段位 審査会実施計画表

《 剣 道 》 初段以下一覽表

審査日	申込み 締切日	中 部	西 部	南 部
4/29 (祝金)	4/15迄 (金)	ソノゾイ 武道館	美郷ふるさと センター 体育館	阿南武道館
6/26 (日)	6/12迄 (日)	ソノゾイ 武道館	市場 ふれあい センター	美波町日和佐 総合体育館
8/28 (日)	8/14迄 (日)	ソノゾイ 武道館	穴吹スポーツ センター	小松島 市立武道館
10/16 (日)	10/2迄 (日)	ソノゾイ 武道館	三野体育館	相生体育館
1/29 (日)	1/15迄 (日)	ソノゾイ武道館 ★注意 審査申込書は中部の連盟事務局宛		
		中 部	西 部	南 部
		〒770-0861 徳果徳 島本島 市住吉 道連盟 3丁目 3番10 号	〒777-0002 加 大 美 石 馬 0 雅 市 8 生 六 吹 町 3 宛 町 3 番 号	〒775-0203 加 丸 海 岡 部 0 偉 郡 8 人 海 陽 町 4 宛 町 大 里 3 番 号
		申 込 先		
		8:45～9:30 受付 9:25～9:45 受審者稽古 9:50～ 開会式 *初段学科、木刀基本技(3～1級)同時開始 上記終了後、5級より実技開始		

《 剣 道 》 二段以上・称号一覽表

《 居 合 道 》 級・段位・称号一覽表

- 審査受験申込書記入上の注意
- 審査受験申込書に全ての項目、特に現在有する級位、段位を受領した年月日は確認して、氏名のフリガナ、下等を正確に記入し、審査料を添えて申込書に、合格後全剣連への登録の基となりますので全て明記すること。
 - 現在の級位、段位の合格後に姓名が変わった者は、氏名の下に旧姓名を書くこと。
 - 現段位を県外で登録受領した者は、その県名を記入すること。
 - 審査受験申込書の締切日は、一覽表の申込締切日とする。
審査受験申込書の場合、早めに郵送し書留等で郵送する場合は、早めに郵送し締切日までに届くようにすること。
※ 上、日、祝日は、事務所は休務です。(期日厳守)
 - 審査受験申込書の取扱責任者については、一般の受審者は、支部に所属し県剣道連盟会員である事とし、取扱責任者は所属支部長が署名、捺印する事、また大学生については、県内大学剣道部に所属する者は、剣道部責任者、県外の大学に所属する者は、出身地区の支部長の署名、捺印とする。
小・中・高の受審者は、各所属の教室(道場)または、学校の責任者が署名、捺印する事。
 - 剣道四、五段の受審者は、一覽表の指定講習会を必ず受講すること。
 - 申込み締切後においては、審査会欠席時の審査料の返金は、行わないこととする。
- 以上の項目が守れない場合は受審出来ませんのでご注意ください。

剣 道				居 合 道			
審査日	申込み 締切日	審 査 段 位	審 査 会 場	審査日	申込み 締切日	審 査 会 場	
5/29 (日)	5/15迄 (日)	二段～ 五段	ソノゾイ 武道館	四、五段 講習会場 日時、会場	5/15 (日)	5/1迄 (日)	松茂町 第二体育館
9/11 (日)	8/28迄 (日)	二段～ 五段 (称号)	ソノゾイ 武道館 中央武道館	8/28(日)	9/18 (日)	9/4 (日)	松茂町 第二体育館
11/20 (日)	11/6迄 (日)	二段～ 五段	ソノゾイ 武道館	11/13 (日)	10/25 (日)	松茂町 第二体育館	
2/19 (日)	2/5迄 (日)	二段～ 五段 (称号)	ソノゾイ 武道館 中央武道館	2/5(日)	2/19 (日)	2/5迄 (日)	松茂町 第二体育館
<ol style="list-style-type: none"> 称号審査については、行事予定表の伝達講習会(5月)または、夏期講習会(10月)を受講の上上記審査会において受審する事。 四、五段受審予定者は、上記の講習会又は、伝達講習会、秋季講習会を受講することとする。 1. 2. 共、有効期限として受講から1年以内を受審することとする。 							
《 剣道審査申込先 》				《 居合道 審査申込先 》			
申 込 先	〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本ソノゾイ106号 徳島県剣道連盟 事務局内 藤川 和 宛	TEL 088-652-2337 FAX 088-652-2360		〒776-0004 吉野川市鴨島町中島381-3 居合道部事務局 徳山 豊 宛	TEL 0883-24-2457		
日程予定	8:45～9:30 受付 9:25～9:45 受審者稽古 9:50～ 開会式 *学科試験、実技、形の順で実施			8:30～9:25 剣道連盟稽古会 9:25～9:45 受審者稽古 9:50～ 開会式 *学科試験、実技、形の順で実施		13:00～ 開会式	

徳島県剣道連盟 審査資格

平成28年4月1日現在

級・段位	資 格
6～8級	小学1年～3年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
5 級	小学4年生以上は、5級より受審できる。
4 級	中学生以上は、4級より受審できる。
3 級	高校生（相当年齢）以上は、3級より受審できる。
2 級	大学生、一般（大学生相当年齢以上）は、2級より受審できる。
1 級	小学6年生以上を受審資格とする。
初 段	13歳以上を受審資格とする。（年齢基準 審査日） 居合道受審者一般（高校生相当年齢以下を除く）については、2級及び1級を認定とし初段から受審できる。
二 段	初段を1年以上経過した者。
三 段	二段を2年以上経過した者。
四 段	三段を3年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
五 段	四段を4年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
六 段	五段を5年以上経過した者。
七 段	六段を6年以上経過した者。
八 段	満46歳以上で七段を10年以上経過した者。
錬 士	六段取得日より1年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教 士	七段取得日より2年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

*級位は、経過日数を必要とせず毎回受審可能。

審査料・登録料（消費税含）一覧表

平成28年4月現在

〈単位＝円〉

	入 会 金 (徳島県で初めて受審する者)	審 査 料 (消費税8%含)	再 審 査 料	登 録 料 (消費税8%含)
3級以下	1,000	1,000	—	2,500
2 級	"	1,500	—	3,500
1 級	"	2,000	—	3,500
初 段	"	3,000	3,000	6,900
二 段	"	4,000	4,000	9,060
三 段	"	5,000	5,000	12,300
四 段	"	6,000	6,000	17,700
五 段	"	8,000	8,000	23,100
六 段	"	10,800	—	45,200
七 段	"	15,120	—	56,000
八 段	"	19,440	—	77,600
錬 士	"	18,360	—	45,200
教 士	"	27,000	—	77,600
範 士	"	—	—	164,000

剣道連盟事務局だより

事務局次長 熊澤 信行



平成二十七年四月に三木毅会長の就任により、半強制的に事業部より事務局次長の任に付くことになりました。

平成二十七年の事務局からの業務内容報告とお願いについて列挙致します。

一、審査について

各支部長及び各学校と各道場の責任者は、申請者に自分で申請書を記入させた後、前回受審日などすべての項目に間違いがないことを確認し、捺印と審査料を添えて、期日を守り申請してください。その後に審査部の役員が受験者名簿を審査会場ごとに、作成しておりますので、誤記入や記載漏れがありましたら、効率的な運営ができません。各支部長及び各学校と各道場の責任者は、昇級・昇段に妥当な受審者か判断し、申請手続きをしてください。また、昇級の免状は、事務局で全剣連に申請内容をフロッピーディスクに入力し、送付後、約一カ月半後に全剣連より事務局に届きます。個別に送付はしておりませんので、各種大会での配布か、事務局に確認後取りに来てください。

高段昇段者と称号合格者の方も、免状は県内審査と同様です。また、登録料は期日までに、徳島県剣道連盟が、一括して入金しておりますのでご理解ください。

二、徳島県剣道連盟主催の大会と講習会について

各支部長及び各学校と各道場の責任者は、大会および講習会の要項を各参加希望者に周知徹底して下さい。個別に事務局へ確認や大会要項の送付依頼などは効率的運営に支障をきたす為に、各内容の周知方法の確立をお願いします。並びに、会員の多数の参加者を期待しておりますが、審査会同様に期日厳守と参加費徴収を御守りください。試合抽選やプログラム作成、参加者名簿作成には準備が必要な為、ご協力をお願いします。

また、会長の指示のもとで、各大会メダルや表彰盾は、相見積もりをとり、前年同等経費が、平成二十七年は15%削減いたします。

三、販売書籍について

十年前『徳島の剣道二十三号』の編集後記に編集者が、毎年新たに自分の子どもが誕生したような感慨と記載しています。編集者のボランティア精神とたゆまぬ努力の上に発行することができます。今年発行の『徳島の剣道三十二号』は会員皆様のご理解の上、すべて完売できるようにご協力お願いします。

全剣連より送付されてくる全剣連カレンダー(一部千円)は、二

十七年分は完売しました。毎年三十部送付されてきますので、十一月の少年練成大会で販売予定です。また、全剣連発行の『剣窓』の購読数は全国でワースト三ですので、汚名挽回の程、よろしくお願ひします。

『剣道指導要領』『剣道授業の展開』及び『木刀による基本稽古法』など、書籍の販売も行っております。(全剣連のホームページでも注文可(手数料必要あり))

四、徳島県剣道連盟ホームページ掲載について

各種大会・講習会・県外審査会等と試合結果及び写真を掲載しております。不慣れなうえ、技術力のなさで、不適切な表現等があれば、ご容赦の上、ご指摘いただければ幸いです。(徳島県剣道連盟強化稽古日程は、強化委員長が作成しております。)

五、役割分担について

全責任者は会長と理事長が担いますが、基本的業務を次のように分担し、活動を進めています。

- ・全剣連関係の交渉窓口は理事長
- ・徳島県関係・体協関係・スポーツ振興財団等の関係交渉と各補助金申請等交渉の窓口は事務局長
- ・県内各会議の資料作成並びに、県内行事予定の場所申請・使用料支払いと役員・審判員の出欠最終確認及び昼食手配(人員確定は経費節約に不可欠な為)事務局次長と専従職

員

今後、経費の節約に努めて執行役員全員が協力し運営していきます。

六、役員等の計報の手配と連絡について

連盟関係者の計報の確認が取れ次第、事務局に報告依頼と関係者に連絡をお願いします。

七、今後の徳島県人口減少が確実な現状について

剣道人口も減少が推察されます。徳島県剣道連盟会員一人一人が多くの人に声をかけ、少なくとも現状維持に、オール徳島で取り組んで行きたいものです。そのため事務局の取り組みとともに、会員皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

支部会員の皆さんからの情報提供のお願い

会員の表彰や訃報・ニュース等々、事務局が把握できていないと思われる事柄について、電話連絡でもかまいませんが、以下をコピーし、ファックスでお送り下さい。

徳島県剣道連盟 事務局 TEL 088-652-2337 FAX 088-682-2360 (24時間OK)

会 長	副会長	理事長	事務局長		
賞揚、報告	(支部行事予定、行事結果、会員の表彰、訃報、怪我等、ニュース 支部役員変更報告等、その他)				
件 名					
年 月 日	平成	年	月	日	
支 部 名	支部				
支 部 長 名					
役員名・会員名					
添 付 資 料	有 ・ 無				
内 容					

徳島県剣道稽古場所一覧（平成28年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 (少年・一般の区別明記のこと)
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-664-1971	徳島県立中央武道館	少年（水・木・土）17:00-19:00
	蔵本少年剣道クラブ	福永 徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年（火・金）19:00-21:00 少年（日）18:00-21:00
	加茂名少年剣道教室	鈴江俊和 088-631-4753	加茂名小（木） 加茂名中（土） 加茂名南小（日）	少年（木・土）18:00-19:45 少年（日）17:20-19:30
	東内道場	東内 勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年（木・土）18:00-20:00
	上八万剣道倶楽部	川人 護 088-668-1384	上八万小学校体育館	少年（水・土）17:00-19:00 一般（水・土）19:00-21:00
	宅宮（えのみや） 剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年（土）19:00-21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年（火・土）19:30-21:30 一般（火・土）21:30-22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年（土・日）17:00-19:00
	養武館	米倉 滋 088-668-6650	八万中剣道場（火） 養武館道場（木・土）	少年（火）19:00-21:00 少年（木・土）19:30-21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年（火・金）19:00-20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年（火・木）17:00-19:00 少年（日）9:00-12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年（火・木・金）19:00-21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般（火・木・土）19:00-20:00
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年（火・木）18:30-20:30 少年（土）17:30-19:30
	鳴門市少年剣道教室	元木 武 088-685-3705	鳴門ソイジョイ武道館	少年（月・水）18:00-20:00 少年（土）9:00-11:00 一般（月）20:00-21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年（火・土）18:30-20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島北小学校体育館	少年（月・木）19:00-20:30 一般（月）20:45-22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年（木・土）19:00-20:30 一般（木・土）20:30-21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 （武道館）	少年・一般（火・金） 19:00-22:00

徳島の剣道

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般(火・木・土) 21:00-22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	原 多三夫 088-692-5780	藍住町武道館	少年(火・木・土) 19:00-20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年(火・水) 19:30-21:00 少年(日) 9:00-11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般(月・木) 19:00-21:00
阿波支部	阿波少年剣道教室	桑原啓治 090-2789-1801	林小学校体育館(火) 阿波中学校体育館(木)	少年(火・木) 19:00-21:00
	土成町 剣道スポーツ少年団	出口正春 088-695-3606	土成農業者 トレーニングセンター	少年(火・金) 19:30-21:00
	市場剣道教室	井内勝則 0883-36-2686	市場武道館	少年(火・木・土) 19:30-21:00
	阿波支部稽古会	塩田善治 0883-35-2894	市場武道館	少年・一般(月) 20:00-21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年(火・金) 19:00-21:00 一般は8:30-22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般(月・木・土) 19:30-21:00
	半田剣道教室	大川功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般(月・木) 19:00-21:00
	美馬市体協剣道部	中川 正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般(月・水・土) 19:00-22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般(月・木) 19:00-21:00
	佐馬地少年剣道クラブ	笠井憲次郎 0883-74-0036	馬路小学校体育館	少年・一般(水) 19:30-21:30
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年(土) 18:00-20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾眞且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年・一般(水・土) 19:30-21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石 昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年(火・金) 19:30-21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年(水) 20:00-21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	出葉成一 0883-24-7433	川島中学校体育館	少年・一般(20:00-21:30)
	上浦剣道教室	出葉成一 0883-24-7433	上浦小学校体育館	少年(水・土) 18:30-20:00
	鴨島少年剣道教室	三木 毅 0883-24-1934	鴨島第一中学校武道館	少年(火・木・土) 19:15-21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年(火・木・土) 19:00-21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年(水・土) 19:00-21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年(火・水・金・土) 20:00-22:00

阿南支部	阿南少年剣道教室	須藤恭宏 0884-22-6402	阿南市武道館（火・金） 阿南第一中武道館（木）	少年（火・木・金）19:00-21:00 一般（火・金）21:00-22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年（火・木・土）18:30-20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年（月・水・木）18:30-20:30 一般（水）21:00-22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年（火・木・土）19:00-21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館（火） 那賀川B&G体育館（水・金）	少年（火・水・金）19:00-21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年（月・水・金）19:00-21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森 眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年（火・金）19:00-21:00 一般（水）19:30-21:00
丹生谷支部	振 武 館	奥田博志 0884-62-1134	那賀町B&G 海洋センター武道場	少年（水・金）19:00-21:00 一般（水・金）21:00-22:00
	相生龍虎館	山下勝也 0884-62-0834	相生小体育館	少年（火・木・土）16:00-18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884-68-2242	木頭中柔剣道場	少年・一般（月・水・金） 18:00-20:00
	北川小学校剣道クラブ	谷 次郎 0884-69-2430	那賀町北川体育館	少年（月・水）18:00-19:30 （金）18:00-20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般（木）19:30-21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251（梅山）	北小松島小学校体育館（月金） 小松島小学校体育館（水）	少年（月・水・金）19:00-21:30
	和田島少年剣道クラブ	篠原誠一 0885-37-2030	和田島小学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00
	坂野少年剣道クラブ	櫻木鉄也 0885-38-2302	坂野小学校体育館	少年（月・木）19:00-21:00
	立江剣道教室	原 知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年（火・土・日）18:30-20:00
	芝田剣道クラブ直心館	岩田善則 0885-32-3319	芝田小学校体育館	少年（月・金）19:00-21:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-20:45
	牟岐剣道クラブ	谷口順二 0884-72-0490	牟岐町民センター	少年・一般（月・水）19:00-21:00 少年・一般（土）18:30-20:00
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年（月・木）16:30-18:00 一般（水・第2金・第4金） 18:00-20:00
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般 木 19:00-20:30
			警察学校体育館	一般 土 9:30-12:00
	女子部稽古会	中央武道館	一般 第1日曜 18:00-19:00	

居合道 道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
大和錬心館	六段・西本 忠司 自宅 0884-69-2120 携帯 090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日 19:00～21:00 木曜日 19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 (少年) 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30
大和養心館	範士八段・原田 勝 自宅 0885-33-0222 携帯 090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日 18:00～21:00 水曜日 18:00～21:00 金曜日 18:00～21:00
阿波洗心館	代表 五段・村井 恒治 090-3789-7846	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	教士七段・前田 健志 自宅 088-622-8559	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士八段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	錬士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門洗心館	六段・満壽 良史 自宅 088-686-7115 携帯 090-9778-2350	鳴門ソイジョイ武道館 サブ道場	木曜日 18:30～20:00
		鳴門市勤労青少年ホーム 軽運動室	日曜日 9:00～12:00* ※耐震工事のため使用不可の時期あり。 要確認のこと。
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
居合北島道場	五段・伊賀 雅人 自宅 088-698-4528	居合北島道場 (北島町北村)	水曜日 19:00～20:30 土曜日 19:00～20:30
剣道・板野道場	五段・岡田 良人 自宅・FAX 088-672-2436 携帯 090-4787-1998	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00

編集後記

本号には、特筆すべき原稿として、体調のお悪い中、寄稿いただきました出葉成一先生の随筆があります。しかも、原稿締め切り日に遅れたとのことで、ご自身がわざわざ編集担当の拙宅まで原稿を届けに来てくれました。以前より体調を崩されていると伺っていましたので、大変申し訳なく、出葉先生の誠実さに感服しつつ、原稿を受け取った次第であります。

また、昨年三月に富岡西高校を定年退職された大石正志先生の原稿があり、そのご子息三名の方の原稿も本号に収録されています。ご子息三名とも正志先生の後を継ぎ、徳島県学校剣道の指導者として、ご活躍中であります。

この「徳島の剣道」をみれば、徳島の次代を担う指導者が陸続と誕生していることが伺えます。剣道は人によって伝わることを実感しつつ、さらに「徳島の剣道」を充実させたいと念じています。

『徳島の剣道』第三十二号

編集委員会

井	柴	久	加	別	笠	中	熊	藤	三	木
内	田	保	藤	宮	井	村	澤	川	木	原
勝	宗	隆	哲	憲		稔	信	和		資
則	忠	司	裕	治	勝	裕	行	秋	毅	裕

『徳島の剣道』第32号

平成28年 6月15日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 三 木 毅

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360

表紙題字
さし絵
堀江幸夫
村嶋恒徳